

大正五年	535,768	大正八年	1,413,043
大正六年	788,613	大正九年	774,200
大正七年	960,685	大正十年	598,806

一、牛皮ノ種類

(イ)牛皮ノ品種ニ依ル分類 滿蒙産牛皮ヲ分類スルニ先立チ其前提トシテ知ラント欲スルハ該地ノ飼育牛畜ノ品種及種類テアル通常稱スル蒙古牛ナルモノハ蒙古牛ノ血液ヲ含有スルト雖概シテ生産地方名ヨリ發端シテ居ル。即チ朝鮮ヲ境トスル奉天吉林黑龍江ノ三省産出牛ノ朝鮮牛ト稱シ山東省産牛ノ山東牛ト稱スルカ如ク西北部一帶ノ蒙古地方産ハ即チ蒙古牛ト稱スルノテアル。然シ一面是等蒙古牛ヲ形態學上ヨリ分類スレハ二種類トナス事カ出來ル。即チ一ハ有角種テ他ハ無角種テアル。然レトモ各々遺傳學上血液固定シテ居レハ或一種類ト稱シテモ大差ハナイ。更ニ滿蒙所在牛中ニハ極小數ノ「エシア、ホルスタイン」ノ洋種及前記各種ノ混血種モ居、ツテ其雜然タル有様ハ一見分別ニ苦シムヲ以テ通稱地方名ヲ稱スルニ至ツタノテアル。

(ロ)年齢及大小ニヨル分類 牛畜皮ノ成熟セルモノヨリ大牛皮、二牛皮、三牛皮ト稱シ、二三歳牛ノ如キモノヲ犢牛皮ト稱ス。

(ハ)牲ニヨル分類 乳牛皮、芒牛皮ハ牝牡ノ區別ニシテ其他犍牛皮ト稱スルハ去勢牛ヲ剝脱シタルモノテアル。

(ニ)原皮手入ノ差異ニ依ル分類 剝皮後手入ヲ加ハサル物ノ中生皮ヲ水皮ト稱シ、單ニ遼光ニ曝シテ乾燥シタルモノヲ乾皮、鹽漬ニセルモノヲ鹹鹽皮、更ニ乾燥シタルモノヲ鹽乾皮ト稱ス。而シテ滿蒙産牛原皮ノ大部分ハ乾皮ニシテ其他ハ殆ト市場ニ現ハルル事ナシ。

(ホ)飼養管理ノ差異及品質ニヨル分類 此分類ハ當業者間ニ於テ最モ多ク使用サルル分類法ニシテ牛畜ノ品種竝ニ產地別モ加味シ之ニ依レハ蒙古地方ノ特ニ粗放ナル飼養管理ノ下ニ育成セラレタル畜牛ノ皮ヲ達牛皮ト稱シ、更ニ之ニ稍手入ヲ加ヘタル畜牛ノ剝皮ハ架皮、家畜牛ヲ餒牛皮、放牧セル畜牛皮ヲ草牛皮ト稱ス。皆產地及管理ノ如何ヲ多少加味シテ品種ヲモ區別シテ分類セララルモノテアル。

二、牛皮ノ產地及産額

滿洲蒙古ノ牛畜頭數ハ統計區々ニシテ信憑スルニ足ラス且ツ最近ノ調査統計未了ナレハ大正六年ノ關東廳調査ニ依ツテ見ルト東北部蒙古一體及中部蒙古ノ當時ノ實在頭牛數ハ百二十四萬四千頭ニシテ外蒙所謂興安嶺以北一帶ハ右計頭數ニ含有サレ居ラヌカ、外蒙古産牛數モ殆ント内蒙古産牛數ハ同一ノ頭數ヲ有スト稱ヘラレテ居ル。或ハ外蒙古産牛數ノ方内蒙古産牛數ヨリ多シト稱スル者モアレト大體ニ於テ内外蒙古同一額ト見テ大差カナイ。更ニ滿洲内所謂奉天吉林黑龍江三省内畜牛頭數ハ民國三年北京農商部調査當時ニハ合計九十八萬三千餘頭ト稱ヘラレ、其後ノ調査ハ未了ナルモ同數ヨリ多クトモ少ナキ事ハナイト信シテ之ヲ詳別スレハ下ノ如シ。

省 別	畜 牛 頭 數
滿 洲 奉 天 省	437,875
同 吉 林 省	323,440
同 黑 龍 江 省	222,141
合 計	983,456

如上ノ畜牛頭數ハ其數ノ多數ナルニ伴ヒ原皮産額モ之ニ應スルモノテアル最近ノ統計未調査ナルヲ以テ滿鐵會社大正六年度調査ニ從ヒ之レヲ見レハ左ノ如クテアル。

滿洲産牛皮	産 額	蒙 古 産 牛 皮	産 額
奉 天 省	47,400 ^枚	東 蒙 古	134,600
吉 林 省	34,300	外 蒙 古	200,000
黑 龍 江 省	29,500		
合 計	111,200	合 計	334,600

上記ノ外張家口方面ヨリ南行スルモノモアレト之ハ算入セス。外蒙古産二十萬枚ハ殆ト露領方面ニ搬出セラルヲ以テ滿洲市場ニハ出テス結局滿洲市場ニ現ハルルモノハ二十四、五萬枚テアル。

三、馬皮及驢皮、驢皮ノ種類

(イ)滿蒙産馬種ノ殆ト全部ハ所謂蒙古馬ト呼稱サルルモノニシテ其間多少ノ特徴ヲ異ニスルモノアレトモ品種ニ依テ皮質ヲ區分スル程度ノ差異ヲ認メナイ。從テ支那馬ナルモノモ所謂蒙古馬系ノ一種テアル

(ロ)驢馬ハ大驢、小驢ノ區別アリテ兩者ハ著シク異ナル。

(ハ)騾馬ハ露國牝馬及大驢ノ交配種テアツテ品種可良ナレハ品質モ優秀ナルモノヲ産ス、其他支那牝馬トノ交配種モアル。

(ホ)馬皮ヲ更ニ大小ニヨリテ區別スレハ左ノ四種ニ分ツ事カ出來ル。

- 奎皮—最大皮
- 頭皮—大皮
- 二路皮—中皮
- 三路皮—小皮

四、馬皮ノ產地及種類

蒙古馬頭數ノ多キハ周知ノ事實ニシテ滿洲産即チ奉天吉林黑龍江三省産馬頭數ハ支那全頭數ノ二分ノ一弱ヲ占メテ居ルト稱ヘラル。今大正六年度關東廳調査ニヨル同年度ノ東部蒙古ノ馬頭數ハ百三萬六千頭ト言ハレ、又北京農商部民國三年ノ調査ニ依ルト滿洲三省ノ産馬及騾馬頭數ハ二百三十四萬餘頭、驢頭數ハ四十八萬餘頭ト稱ヘラレテ居ル。即チ下ノ如クテアル。

東蒙北部地方(旗名)		馬頭數	東蒙中部地方(旗名)		馬頭數
東 部 蒙 古	南部爾羅斯旗	23,000	達爾罕王旗	115,000	
	圖什業國旗	6,000	賓國博王旗	50,000	
	達爾罕旗(新河以北)	80,000	庫倫喇嘛王旗	58,000	
	東札魯特旗	2,000	東西札魯特旗	11,000	
	西札魯特旗	3,000	東土默特王旗	20,000	
	阿爾科爾沁旗	13,000	奈員王旗	48,000	
	大巴林旗	3,000	西哈拉哈王旗	1,000	
	小巴林旗	2,000	敖漢海力王旗	33,000	
	東烏珠穆沙旗	109,000			
	西烏珠穆沙旗	292,000			
其他各旗	167,000				
合計		1,036,000			
省別		馬及騾頭數	驢頭數		
滿 洲	奉天省	733,199	333,070		
	吉林省	783,318	112,368		
	黑龍江省	828,395	43,521		
	計	2,344,912	488,959		

滿洲及東部蒙古ノ合計畜馬頭數ハ約三百三十八萬餘頭ニ達シ之ヲ牛畜ニ比スレハ約百十五萬頭多キ事ヲ知ル。故ニ一箇年ノ生産數モ押シ

テシルヘキテアル。

然シナカラ之等馬騾乃至ハ驢ノ飼育目的ハ騎馬、挽馱、農耕及動力用等ニ主トシテ使用スルカ故ニ屠殺數ハ他ノ家畜類ニ比シ尠イ。從テ馬皮ノ殆ト全部ハ死馬乃至ハ病廢馬皮テアル。故ニ市場ニ出廻ル皮革モ從テ少ク大正六年ニ直接滿洲ニ出タル實數ハ馬皮及騾皮産額三十三萬九千七百枚、驢皮三萬四千六百枚ト言ハレテ居ル。

五、羊皮ノ種類

(イ)羊皮 山羊皮ノ原皮モ他ノ獸類ノ原皮ト同シク滿蒙産原皮ハ殆ト真乾皮ニシテ他ハ一小部分ノ生皮ト少數ノ鹽乾皮トアルノミテ、唯羊類ノ皮ハ比較的剥皮ニ容易ニシテ而モ賣買ハ山羊皮中ノ或者ヲ除ク他ハ皆枚建取引ナルカ故ニ附著物等ヲ以テ增量スル事ハナイ。

(ロ)山羊皮ノ種類

(A)山羊皮 滿洲ニ於テ山羊皮ト稱ヘラルル原皮ハ山羊皮ノ全部ノ總稱ニ非スシテ各々其呼稱ヲ持ツテ居ル。普通舊十月ヨリ翌春三月迄ノ間ニ剥皮セラルルモノヲ山羊皮ト言フ。故ニ此時期ニ剥皮シタ山羊皮ハ毛長ク粗毛ノ基部乃チ皮膚ニ接シテ絨毛密生シ、從テ軍衣大襖、山羊褥子等防寒用及ヒ敷物ノ原料ノ毛皮トシテ重用セラル。

(B)山羊板子 山羊板子ハ夏物即普通舊四月ヨリ九月頃マテ剥皮サレタル山羊皮テ毛粗ニシテ絨毛ナシ、建値ハ山羊皮ノ枚建ナルニ比シ牛皮ノ如ク斤建テアル。其事由ハ主トシテ毛ノ長短絨毛ノ有無ニ依リ皮ノ利用ノ途ヲ異ニスルカ爲テアツテ山羊板子ハ毛皮用トシテ滿洲ニ於テ消費セラルル事極メテ僅少テアツテ大部分ハ「キツト」其他ノ用途ニ向ケラレ海外ニ輸出セラルルノテアル。

(C)山羊猾子 山羊猾子ハ單ニ猾子皮トモ言ヒ山羊ノ胎仔又ハ生後間モ無キ幼畜ノ皮ニシテ支那中流社會ノ馬掛其他皮囊等ニ愛用セラル又海外ニモ輸出セラレ、賣買ハ枚建テアル。

(ハ)綿羊皮ノ種類

(A)綿羊皮 普通綿羊皮ト稱スルハ山羊皮ト同シク綿羊皮ノ中冬期剥皮シタルモノノミヲ言フ。

(B)剪查皮^{チエンチナヒ} 剪查皮ト云フハ緬羊皮ノ特ニ春期剔毛後ノ夏物ヲ言フ。

(C)羔子皮^{カオフビ} 緬羊皮中ノ特ニ優秀ナルモノニシテ、價從テ高ク同皮ハ緬羊ノ胎仔及ヒ生後間モナキ幼畜ノ皮ヲ言フ。

六、羊皮ノ產地及産額

滿洲ニ於ケル畜羊頭數ハ約百萬頭、東部蒙古ハ約二百萬頭ニシテ合計三百萬頭ヲ有スト稱セラレテ居ル。中六十萬頭乃至ハ九十萬頭ハ山羊テアル。又滿洲ニハ山羊多ク蒙古ニハ緬羊カ多イト言ハレテ居ル。

滿蒙産山羊皮ノ滿洲直接出廻高ハ大正六年當時ハ山羊皮十二萬枚、山羊皮板子十八萬枚、山羊猾子五萬枚テアツテ山羊皮ノ總計ハ三十五萬枚テアル。又緬羊皮ハ總計四十七萬枚テアツテ中七萬枚弱ハ羔子皮テアル。尙其ノ他ニ外商ノ手ニヨリ滿洲ヲ經由セスシテ蒙古ヨリ直接上海、天津方面ニ出荷サルモノモ尠クナイ。

七、豚皮ノ種類

滿洲産豚皮ハ總テ在來種ニシテ羊種及雜種ハ殆ント稀ニシテ唯在來種ノ中ニモ大形小形ノ二種及中形ヲ加ヘテ三品種ニ分類スル事ヲ得ルニ止マツテ別段品種上ノ分類ハナイ。

八、豚皮ノ產地及産額

豚ハ滿洲各地ニ飼育セラレ、多クハ肉食用テ製革用トシテハ甚タ尠少テアル。之レ支那ハ養豚數ノ多數ナル割合、豚皮ノ尠少ナル所以テアル。從テ養豚頭數モ生怵年限短キヲ以テ統計蒐集ニ困難ナルモノナルカ奉天、吉林、黑龍江三省ノ大正六年當時ノ養豚數ハ一千六百七十二萬八千頭ト稱セラレテ居ル。而シテ豚皮ノ實在額ハ現在幾何ナルカ殆ント不明ニテ豚皮トシテ市場ニ出ツル數量ハ誠ニ寥寥タルモノテアル。

九、原皮ノ集散狀況

原皮ノ集散狀況ヲ述フレハ原皮ノ種類ニヨリ又ハ各地夫レ夫レノ事情ニ關聯シテ趣キヲ異ニシテ居ル。即チ馬、騾、驢ノ如キハ屠殺剥皮ノ時季多少異ナレトモ殆ト年中間斷ナク生産セラレ、出廻モ亦之ニ從フ牛ハ冬期ノ食料トシテ屠殺セシムルヲ通例トスルヲ以テ冬季出廻額比較的多額ヲ占メテ居ル羊及山羊等ハ反之シテ夏季屠殺ヲ主トスルカ

故ニ出廻モ牛皮ト殆ント其軌ヲ異ニシテ居ルカ特種ノ事情ニ依テ多少其増減ニ差異ヲ來ス事カアル。例ヘハ蒙古地方ニ於ケル家畜病死多キ場合、夏季ノ氣象不良ノ結果、冬季食糧ノ缺亡シタル場合或ハ冬季降雪過少ノ爲メ採水不能トナリ、養畜斃死ノ如キ際ハ自ラ又出廻ニモ影響スルノテアル。又運輸上ノ關係ニヨツテモ至大ノ影響ヲ與ヘ出廻増減ヲ來ス事甚タ多イ。例之河川ノ便ニ依ツテ出廻リ最盛況ヲ來ス地方ハ春季開河後ヲ恰モ好時季トシ陸路交通ノ地方ニハ冬季結氷期間ヲ以テ其輸送ニ甚大ナル便利トナス所等アリテ、氣候ノ如何ニヨリ自カラ出廻リ季節ニモ長短ノ別カアル。

乍然各市場ノ出廻季節ヲ概括シ一般的ニ述フレハ牛皮ハ陰曆十月ヨリ翌年三月迄ヲ最盛期トシテ馬皮ハ四季間斷ナク出廻ルト雖モ舊九月以降翌春四月ヲ盛期トシテ居ル羊皮及山羊皮ハ夏季屠殺盛ナルヲ以テ之ニ從フト雖モ又冬季結氷期ニモ搬出セラル。

十、原皮ノ集散經路

蒙古産原皮ハ種々ナル經路ヲ取リテ滿蒙境界ニ近キ集散市場ニ入市スルカ、第一ハ蒙古人自ラ携帶搬出スルモノ、第二ハ蒙古地帶支那行商人ノ手ニ依リ入市スルモノ、第三ハ跑三行ト稱スル店舗ヲ有セサル仲買人カ前記出廻品ヲ途中ニ擁シテ買集メ更ニ轉送販賣スルモノ等、其他各地ノ事情ニ依リ幾多區別セラルルカ大部分ハ支那商人ノ手ニヨリテ行ハレ、最後ニ外國人ノ手ニ歸スルモノテアル。殊ニ東支沿線方面ヨリ蒙地貿易ニ進入スルモノニハ韃靼人、猶太人〔スラブ〕人等ノ大規模ノ蒐集方法ハ一種ノ行商人ト同様テアル。尙天津、上海方面ノ英、米、佛商ノ直接蒙地ニ入り買付ルモノモ尠クナイ。

十一、原皮ノ集散市場

前記集散經過ト關係シ滿蒙各市場ハ之ヲ三部ニ大別スル事カ出來ル。即チ(一)ヲ南部地方トシテ南部蒙古地帶即チ多倫諾爾(二)ヲ中部地方トシテ西方ニ遠ク經棚、林西、東方ニ開魯、小庫倫、白無太來、更ニ白音太來、鄭家屯、三ヲ北部地方トシテ洮南、伯都訥及南滿線ニ近キ農安、興安嶺ヲ越テ北方東支沿線ノ海拉爾、滿洲里ノ此三部ニ分ケル。

次ニ滿洲ニ於ケル牛馬皮其他獸皮ノ集散市場トシテハ奉天營口錦州鄭家屯長春吉林海拉爾滿洲里等主要ナルモノアツテ就中奉天ハ南北滿洲ニ於ケル獸皮取引ノ中心市場テアル。年々此地ニ集ル獸皮ノ數量巨額ニ達シ之カ取扱ヒヲ業トスル問屋ノ如キモ又規模宏大信用大ナル老舗尠カラス。從テ是等老舗ハ能ク各市場トノ聯絡ヲ計リ努メテ顧客ノ便宜ニ應スルヲ以テ滿洲各市場ニ於ケル獸皮問屋ハ特殊ノ事情アル鄭家屯及北滿洲一二ノ地ヲ除キタル以外ハ多クハ範ヲ此地ニ則リ仲介及取扱方法其他ノ商習慣ニ至ル迄殆ト大同小異テアル故ニ滿洲各市場ニ於ケル取引相場ノ如キモ常ニ奉天市價ノ高低ニ從ヒ之ヲ標準トシテ取引サル状態テアル。

十二、牛皮ノ輸入

滿洲ハ叙述ノ如ク原皮ノ生産夥多テハアルカ尙供給ハ需要ヲ充タス能ハス、山東直隸方面ヨリ移入セラルル状態テアル。殊ニ滿蒙産牛皮ハ品質劣等ニシテ牛蠅穴ノ缺點ノ爲輸出皆無ノ状態ナレハ今尙山東直隸方面ヨリ原皮ト更ニ朝鮮産牛皮ヲ若干輸入シテ居ル有様テアル。

十三、馬皮ノ輸出

滿蒙産馬皮ノ多額ナルハ東部蒙古ノ馬畜頭數ノミニテモ牛畜ノ夫ニ比シ百餘萬頭多キヲ見テモ知ル事カ出來ル。尙皮質ニ於テハ東洋産中唯一ノ良質ト言ハレテアル。而シテ滿洲馬皮消費額ハ牛皮ニ比シ少額ナレハ其大部分ハ輸移出サルルモノテアル。仕向地トシテハ日本中部支那及諸外國テ殊ニ歐洲戰亂當時ニハ馬皮ノ輸出著シク激増シ上海ニ仕向ラレタル後更ニ歐洲方面ニ轉送サレタノテアル。

十四、緬羊皮及ヒ山羊皮ノ輸出

各種緬羊皮ハ滿洲各市場ニ出廻リ大半ハ毛皮用ニ消費セラルルカ又輸出サルモノモ尠クナイ。仕向先ハ天津ヲ第一トスル滿洲各市場及張家口多倫諾爾赤峰等ヨリ天津ニ輸出サルモノ多額ニ上ルカ是等ハ天津ヨリ更ニ海外ニ輸出セラルルノテアル。尙朝鮮向緬羊皮ノ輸出モ相當ニアル。

山羊皮ノ輸出額ハ緬羊皮ヨリモ更ニ多ク殊ニ滿洲内需要額尠ナル

關係上殆ント全額輸出セラルトイフモ過言テナイ。仕向地トシテハ緬羊皮同様天津方面ヲ主トシ、更ニ海外ヘモ輸出セラルルノテアル。

(3) 甘草 鄭家屯ハ滿蒙ニ於ケル甘草ノ主要集散市場テ大正十年中甘草産出高ハ約百五十萬斤テ前年ニ比シ稍減少ノ氣味テアル。前年活動セル米商美和公司ノ如キモ、本年ハ全然手ヲ下サス單ニ邦商日光洋行及支商公興厚兩者ノ約百萬斤ト其他ノ約五十萬斤ノ買収ヲ見タノミテアル。

大正五年以降ノ産出高及價格ヲ掲クレハ下ノ如シ。

		産 出 額	平均價額(生モノ百斤)
		斤	
大	正 五 年	100,000	小洋元 5.0
同	六 年	600,000	7.5
同	七 年	1,000,000	10.5
同	八 年	1,550,000	13.5
同	九 年	1,800,000	10.0
同	十 年	1,500,000	12.0

尙大正十年ニ於ケル價格ト前年トノ比較セハ下ノ如シ

種 類	大 正 十 年	大 正 九 年
	百斤ニ付 小洋元	小洋元
太 根(干 燥)	22.0	17.0
同 (生)	13.0	11.0
細 根(干 燥)	12(3).0	14.0
同 (生 モ ノ)	9.0	8.5

六 滿洲ノ工業

滿洲ノ開拓カ極メテ新シイ關係上貿易品トシテハ殆ト農業原料ノ輸出ニ止リ從來何等見ルヘキ加工業カナカッタ唯ニ滿洲ノミナラス古キ歴史ヲ有スル支那本土ニ於テサヘ此ノ方面ハ極メテ幼稚ナル域ヲ脱シナカッタノテアルカ最近唯一ノ對手仕出國タル日本品ノ粗惡ニシテ高價ナル爲ニ産業上ニ大刺戟ヲ與ヘ支那ニ於テ盛ニ諸工業カ勃興スル機運ニ向ツタ此ノ趨勢ハ滿洲ニモ及ンテ豊富ナル原料ヲ擁シテ徒ラニ原料ノ輸出ニノミ止ルノ愚ヲ悟リ漸次加工的輸出ノ有利ニ赴キツツアルハ當然ノ事テアル將來モ此ノ傾向カ非常ニ濃厚ニナツテ行クヘキ狀況ニ

アル從ツテ今後ノ日支貿易カ幾何ノ期間從前ノ如ク日本商品ヲ支那ニ輸出シ得ルカハ見當カツカヌカ然シ之ニ代ツテ興ルヘキモノハ日本カラ資本ヲ持來リ支那及滿州所産ノ原料ニ依ツテ工業ヲ興シ支那市場ハ勿論進ンテ海外ニ供給スルト云フ事ニ努メネハナラス此産業革命ハ既ニ上海天津及青島等ニ於ケル紡績業ノ如キ既ニ現實サレテ居ル故ニ日本人自ラモ是等各地ニ於テハ此大勢ニ著目シ各種ノ工場ヲ興シ有勢ナル地位ヲ占メントシツツアルノテアル

我滿洲ニテモ漸時工業ノ黎明期ニ入ツタモノノ如ク大豆ヲ原料トスル工業柞蠶業製糖業燐寸製造業製粉業等已ニ著手サレ近ク紡績業ノ企畫カアル

元來滿洲ハ豊富ナル原料ヲ有シ作業ニ要スル石炭水及世界的ニ低廉ナル労働者ヲ利用シ得ルノ便アリテ工業必須條件ノ總テヲ完備シテ居ルノテアル

今左ニ滿洲ニ於ケル工業状態ニ付キ少シク述フレハ

1. 大豆加工業

滿蒙ニ於ケル大豆ノ年産額ハ前掲ノ如ク大約三百七十萬噸テアルカ其ノ内食料及家畜ノ飼料トシテ産地ニ消費サルルモノハ二割五分乃至三割見當テ其餘ハ大豆ノ儘又ハ豆油豆粕トナツテ他ニ輸出セラルルモノテ所謂滿洲ノ生命ヲ握ル三品ハ即チ之レテアル

我南滿洲ヨリ最近五箇年間ニ輸出サレタル總數ヲ見ルニ下ノ如シ

南滿四港三品輸出表

	十年	九年	八年	七年	六年
大豆	10,081,590	9,830,903	10,465,498	5,987,901	4,093,922
	34,074,381	28,305,271	29,508,001	15,193,765	9,757,117
其他豆	1,034,738	564,997	1,272,221	1,008,365	685,903
	3,052,476	1,713,166	3,335,790	2,413,029	1,728,389
豆粕	23,559,121	22,408,082	22,030,361	19,651,022	18,154,763
	53,679,505	49,158,831	48,146,570	36,471,470	29,293,014
豆油	1,954,990	2,081,894	2,266,011	2,308,869	1,889,557
	16,001,920	17,847,556	20,212,214	25,611,788	18,342,091
計	106,808,342	97,024,824	101,202,575	79,690,052	59,120,611

以上三品ノ大正十年輸出額ヲ見ルニ全輸出額ノ五割五分ヲ占メ全質

易額ノ二割八分ニ當ルノテアル而シテ仕向國ヲ見ルニ豆粕ハ日本ヲ主トシ豆油ハ米國及歐洲ニ向ケラレ歐米ニ於ケル豆油ノ研究著々トシテ進ミ其使途ノ開拓ト共ニ需要益々多クナツタノテアル

今滿洲ニ於ケル豆油豆粕ノ産額ヲ知ル前ニ大豆其ノモノニ何程ノ油分ヲ含有シ居ルヤニ對シテハ外國五〇乃至六〇%ヲ抽出シ得ルト言フモ大連ニ於ケル壓搾式抽油法ヲ用ユル日清油房ニテハ大豆百斤ニ對シ平均豆油九四斤豆粕四六斤ノモノニ枚弱ヲ生産シ鈴木商店ノ「ベンチン」抽出法ニヨレハ大豆百斤ノ原料ヨリ豆油一三斤撒粕約八〇斤ヲ得ルトノ事テアル而シテ滿洲ニ於ケル加工業ノ主體タル豆油及豆粕カ如何程出來ルカニ付テハ相場ノ關係其他需要地ニ於ケル需要狀況ノ如何ニヨリ年々不同テアルカー箇年一億枚ノ豆粕ハ優ニ生産シ得ルノテアル今各地油房ノ最近一日ノ豆粕製造能力ヲ列舉シテ其大勢ヲ察知スル事トスル

地名	一日ノ豆粕製造能力(枚)	地名	一日ノ豆粕製造能力(枚)
大連	126,400	金州	25
三十里堡	265	普蘭店	580
瓦房店	2,530	得利寺	660
松樹	2,040	萬家嶺	15
許家屯	60	九寨	45
熊岳城	540	蘆家屯	50
蓋平	340	大石橋(小)	240
營口	28,800	海城(小)	400
(小)	2,400		700
南臺(小)	220	千山	50
立山	400	北沙河	160
遼陽	6,150	煙臺	500
沙河	250	撫順	1,310
奉天	407	新臺子	575
鐵嶺	3,328	開原	17,450
昌圖	1,320	雙廟子	5,700

四平街	800	梨樹 (小)	780
八面城 (小)	1,200	鄭家屯	840
公主嶺 (小)	1,000 120	范家屯 (小)	600
長春	7,880	本溪湖	580
安東	46,014	哈爾濱	45,450
吉林	1,740	新民屯	5,700
計	310,354 (小) 3,830		

備考 一.(小)トアルハ豆粕ノ小形ナルモノテ其他ハ大形ノモノテアル
 二.大形豆粕ハ四十六斤以上テ小形豆粕ハ二十六斤乃至二十九斤テアル

上表ニヨレハ大連ノ豆粕製造力ノ嶄然トシテ頭角ヲ現シ居ルヲ見ル之レ取引機關ノ整備金融ノ利便竝ニ港灣設備ノ完全ナルニ原因スルモノテアル
 次ニ是等生産品ノ大正十年南滿洲ヨリ輸出セラレタル其仕向國別ヲ示セハ下ノ如シ

	豆油	豆粕
日本	51,078	20,293,109
朝鮮	5,053	245,341
香港	6,009	—
英吉利	139,241	—
獨逸	31,559	—
和蘭	342,020	—
其他歐羅巴	91,299	—
北米合衆國	116,300	114,968
加奈陀	7,500	—
土耳其、波斯、埃及	298,675	1,693
支那	866,252	2,904,010
計	1,954,986	23,559,121

豆油ハ歐米ニ於ケル亞麻仁油及綿實油代用品トシテ其用途益開拓サレ石鹼塗料[ソーライト][タンタルス][ベント][ワニス][リノリウム]堅護膜

代用品機械油人造牛酪[サラダ]油漬鯧油[グリセリン][ラード]代用品ノ原料トシテ消費サルルノテアル尙最近ニ佛國[ツールーズ]大學ノ[メーユ]教授ノ植物性油ヨリ人造石油ノ發見アリ大連テモ滿鐵中央試驗所佐原技師豆油ヨリ石油製造ノ新研究ニ成功サレタ兎ニ角大豆カ世界的商品トシテ認メラルルニ至ツタ歴史的ノ發達カ新シキ爲ニ未タ他ノ油類程ニ研究サレテ居ナイノハ遺憾テアル然シ今日ハ滿洲及日本ニ於テ大豆及大豆油ノ加工ニ對シテ一層積極的ニ研究及實行ノ立場ニ逢著シテ居ルノテアル

前場ノ表ニヨリ大豆油ヲ最モ多量ニ輸入シツツアル米國テ同國ニ於ケル大豆油ノ用途ヲ略述スレハ

(イ)大豆油ノ用途

一.石鹼原料トシテノ用途 米國テハ石鹼原料トシテ棉實油[コーン]油[ココアナツト]油ヲ主ニ使用シ就中棉實油ヲ最モ多量ニ使用シテ居タカ近來食用油トシテノ需要激增シタノト市價一般ニ高キタメ其ノ代用品トシテ大豆油ヲ使用スル傾向ニナツタ故ニ大豆油ハ石鹼原料トシテ他ノ油トノ市價ノ釣合範圍ニ於テ其需要ノ増減アルモノト思ハレル

大豆油ノ石鹼化ハ稍困難ニシテ其不完全ナ場合ハ精製シタ石鹼ハ容易ニ變敗シ不快ナ臭氣ヲ發シ黃色ノ班點ヲ生スル缺點カアル然レトモ適量ノ牛脂椰子油松脂ノ混和ニヨリ此缺點ヲ補フコトカ出來ル即チ大豆油ノミテ原料トシテ製造シタ石鹼ハ暗黃色ヲ帶ヒ柔軟ニ過キル傾キカアル然シ之ニ椰子油或ハ牛脂ヲ約三割位混用スレハ黃色又ハ[クリーム]色ノ品質ノ緻密ナ良好ナルモノカ製造出來ルト言フ事テアル但シ長年月ヲ經レハ多少變色ヲ呈フォル様テアル而シ練合ノ工程ヲ經タモノハ美麗ナ光澤ヲ有シテ居ル又之ニ適量ノ水碍子ヲ混用シテ硬度ヲ高メ得可ク澱粉ヲ混スレハ光澤ヲ増ス事カ出來ル然シ今日迄ノ研究ノ結果大豆油ヲ以テ純白色ノ石鹼ヲ製出スル事カ困難タト言ハレテ居ル大豆油石鹼ハ泡沫ヲ發生ヒシムル事自由テ硬水ニ對スル效力強ク淡水ノミナラス海水中ニ於テモ使用セラル特徴カアル此

特性ハ椰子油石鹼ノ他ニ例ノナイモノテアル

二、塗料トシテノ用途 大豆油ハ半乾性油ナル故塗料製造ニ適用スル事カ發見サレタ米國ニ於ケル「ペイント」製造會社ハ其原料トシテ今日迄專ラ亞麻仁油ヲ使用シテ居タカ同油ハ當國及南米「アルゼンチン」ニ於ケル亞麻仁作ノ豊凶ニ依リ市價ニ激變アルヲ以テ亞麻仁油ノ高價ナ場合ニハ大豆油ヲ代用品トシテ使用スルノテアル

乍然「ペイント」製造原料トシテ亞麻仁油ヲ全部大豆油ニ代用セシムル事ハ不可能テ其一部分ヲ補フニ過キナイ即亞麻仁油七五%大豆油二五%ノ比テ混和スレハ其品質ハ決シテ劣下シナイト言ハレテ居ル又適當ナ乾燥法ヲ以テスレハ此目的ニ使用スル豆油ノ量ヲ一層擴張スルコトカ困難テナイ尙滿洲テハ全部大豆油ヲ原料トスル「タンタルス」「ソーライト」等ノ特許塗料カ日本人ニヨリテ發明サレテ居ル其他「ワニス」「リノリウム」等ノ製造ニモ使用サレテ居ル

三、食料トシテノ用途 米國テハ從來食用植物油トシテハ「ココアナツト」油「オレーフ」油精製棉實油等ヲ使用シテ居タカ是等ノ油ハ供給不充分テ市價貴キカ故ニ近來大豆油ヲ精製シテ食用ニ供スル者カ次第ニ増加シテ來タ大豆油ハ支那人ニハ古來ヨリ食用トシテ使用サレテ居ルカ日本人及歐米人等ハ一種ノ臭氣アルヲ嫌ツテ餘リ食膳ニ上セナカッタカ種々ノ脱臭法ヲ施シ之ヲ精製シテ漸次一般ニ食用ニ供スル様ニナツテ來タ外國ノ報告書ニ最近英國テ大豆油特有ノ臭氣ヲ完全ニ脱出セシムル方法カ發明サレテ特許ヲ受ケタ事ヲ記載シテアツタ目下米國テハ大豆油ヲ料理用ノ「サラダ」油ニ使用スルノミナラス大豆油ヲ以テ魚類ヲ油煮シ之ヲ罐詰ニシテ市場ニ販賣シテ居ルト云フ事テアル大豆油ヨリ精製シタル「サラダ」油ハ現ニ日清油房ニテモ作ツテ居ル

人造「バタ」先ツ大豆油ヲ精製シテ雜分ヲ除キ白色透明トナシタルモノヲ水素ニテ凝結セシメテ美麗ナル乳白色ノ固體ニ硬化セシメ之ヲ原料トシテ或他ノ植物性油ヲ投シ(製法ハ米國テモ祕密ニ屬シテ公開セス)「マーカリン」(Margarine)所謂人造「バタ」ヲ作り或ハ別ニ動物性脂肪ヲ

混シ「ラード」類似ノモノヲ製シテ料理用ニ供シ或ハ「ステアリン」即蠟燭ノ原料ヲ製スルモノテアル

人造「バタ」ハ戰前獨逸和蘭「スカンデナビヤ」等ニ於テ盛ニ製造サレ世界各地ニ輸出セラレタルモノナルカ戰爭ノ影響ニヨリ是等地方ノ製造著シク減少シ輸出不可能或ハ輸出不充分トナツタ爲メ頓ニ米國ノ人造「バタ」製造業ヲ刺戟發達セシムルニ至ツタモノテアル

人造「バタ」ノ缺點ハ酸ノ含有量多ク其ノ酸ノ分量カ時日ヲ經ルニ從ヒ増加スルヲ以テ動物性「バタ」ニ比シ解ケ易ク輸送上最モ不便ヲ感スルモ之トテ冷蔵裝置ヲ完全ニスレハ或程度迄ハ防止シ得ルシ且動物性「バタ」ニ比シ産額豊富ナルト味モ良ク現時米國中流以下ノ料理店ニテ用フル「バタ」ハ主トシテ此人造「バタ」テアル而シテ此人造「バタ」製造原料トシテ大豆油トノ競争品ハ落花生油及椰子油テアルカ産額及市價ノ點ニ於テ到底大豆油ノ敵テナイ從來低廉ナリト稱ヘタル棉實油ノ人造「バタ」テサヘ大豆油ノ其ニ驅逐サレツツアルノテアル

四、其他ノ用途 歐洲大戰中ハ火藥原料トシテ「グリセリン」ノ需要夥シク各國ハ其供給ニ腐心シテ居タカ當時米國テ大豆油カ此目的ノ爲ニ消費サレタ額ハ實ニ莫大ナモノテアツタ其後平和トナツテモ引續キ工業用原料トシテノ「グリセリン」ノ需要ハ多イカ主トシテ石鹼製造ノ副産物トシテ産出サレ戰時ノ如ク特ニ「グリセリン」ノミヲ目的トシテ製造シタ時ノ程テハ無イ「グリセリン」ハ一時戰時中米國ニ於テ一封度六三仙乃至六八仙ニ市價カ上騰シタ事カアルカ其ノ當時ハ大豆油ハ專ラ「グリセリン」製造ノ目的ニノミ消費サレタ状態テアツタ休戰期ニ入り相場下落シ一封度一五仙見當ニナツテ今日ハ更ニ下落シ從ツテ該業モ亦衰微シタル事ト想像セラル

又大豆油ニ水素ヲ吹き込ムト硬化スル故之ヲ「ステアリン」ト「グリセリン」ニ分解スル事カ出來ル此「ステアリン」ハ洋蠟製造ノ材料ニ使用サレ其他少量ニ他ノ油ノ偽和用及機械油ニ使用サレテ居ル機械油トシテハ米國ハ鑛油ノ産額豊富ナルモ植物油ヲ混用スレハ著シク凝固點ヲ低下スル故ニ該方面ニモ消費サルルモノト想像サル

上記ノ外大豆油アリ護謨代用品カ製造サルル即粗製護謨ニ硫黄ヲ添加シテ和硫ヲ行フ場合ノ如ク油ヲ原料トシテ之ニ硫黄ヲ吸收サセテ護謨代用品ヲ作ルノテアルカ之ハ「ファクテス」ナル名稱ヲ附セラレテ居ル佛國ニ於テ始テ工業的ニ實行サレタモノテ「ファクテス」製造用ノ原料トシテハ動物性ノ油脂ハ不適當テ最モ良好ナルハ菜種油亞麻仁油及蓖麻子油トサレテ居タ此目的ニ使用サルルニハ「オレイン」酸「リノール」酸「リチノール」酸等ノ不飽和脂肪酸ヲ或ル程度迄含存シテ居ルコトカ必要テ是等ノ點ヨリ見レハ大豆油モ其成分上斯種目的ニ使用セラレ得ルモノト考ヘラレ獨逸テハ既ニ「ダレーゼ」氏及「ザウエル」兩氏カ一九一〇年前後ニ大豆油ニ種々ノ化學的實驗ヲ施シテ上記ニ類似シタ護謨代用品ノ製造ニ成功シ獨逸ノ特許ヲ得テ居ル日本ニテモ同種ノ研究ヲ多少行ツテ居ルカ結果ハ思シクナイトノ事テアル

(ロ)大豆及大豆粕ノ工業的用途

豆粕ハ肥料及家畜ノ飼料トシテ今日東洋ニテ缺クヘカラサルモノタル事ハ勿論テアルカ大豆及豆粕中ノ蛋白ヲ利用スル化學工業ニ付テハ其研究ハ甚タ幼稚テ歐米先進國ニ於テモ極メテ最近ニ至ツテ此方面ノ研究カ進ンテ來タノテアル

從來一般製造工業界ニアリテハ寧ロ蛋白質ハ廢物トシテ思考サレ多クハ家畜ノ飼料トシテノミ用キラレタノテアル米國ニテ玉蜀黍ヨリ澱粉製造工業或ハ酒精製造工業ノ副産物トシテ生産スル莫大ノ蛋白質ハ何レモ其ノ處置ニ困却シ漸ク家畜ノ飼料トシテ使用スルニ過キナイ有様テアツタ之主トシテ從來蛋白質ニ關スル知識ニ乏シク研究ノ幼稚ナル爲テ殊ニ大豆ノ蛋白質ニ至リテハ僅ニ米國農事試驗所ニ於テ「オスボルン」博士カ大豆ヨリ四種ノ蛋白質ヲ分離セル以外ニ何等ノ研究モ無イ様テアル從ツテ其工業的利用ノ方面モ其他幼稚ナ状態テアツタノテアル歐洲ニ於テ一九〇八年ニ大豆ヲ輸入シテ以來銳意其利用ノ途ヲ攻究シ大豆油ノ如キハ石鹼用硬化油用ニ或ハ亞麻仁油代用トシテ塗料ニ供セラレ其他獨逸ニテハ人造「ゴム」代用品ノ製造ヲ發明シタル事ハ前述ノ如ク驚クヘキ進歩ヲ示シテ居ルカ大豆蛋白利

用ニ至ツテハ近時漸ク英、米、佛、獨等ニ各々工業的應用ノ發明ニ苦心サレ其利用ニ腐心シツツアル有様テアル

滿洲ニ於テハ此方面ノ研究カ甚タ貧弱テ唯一ノ滿鐵中央試驗所モ前年大縮少ノ結果更ニ不振ニ陥リ僅ニ先年同所ノ鈴木技師カ大豆又ハ大豆粕ヨリ「ソーライ」ト稱スル水性塗料ヲ發見シ特許ヲ得タノミテ之ハ大豆ノ蛋白質ト石灰トヲ結合セシメタモノテ濕氣ニ對シテ抵抗力カナイノカ大ナル缺點テ尙研究ノ餘地カ多イ

其他大豆蛋白質ヨリ可塑性物質ノ製造ニ就テ述フレハ

即大豆蛋白質ヲ石炭酸ニ溶解セシメ之ハ「アンモニア」等ノ接觸副ノ存在ニ於テ「フォルマリン」ヲ作用セシメ透明琥珀様ノ製品ヲ得ル事ニ成功シテ居ル之ハ以前歐洲ニテ動物性蛋白質ニヨリ成功セルモノヲ工學博士喜多源逸氏カ大豆蛋白質ニ應用シタモノタト傳ヘラレテ居ル次ニ一九一四年英國ニ於テ「ロバートドット」氏ハ大豆蛋白質ヨリ可塑性物質ノ製造ニ成功シ特許ヲ得タ

一九一三年佛國ニテハ「コンスタン」及「ペロー」兩氏カ大豆蛋白質ヨリ「セルロイド」類似品ヲ發明シ同國ノ特許ヲ得タ

一九一四年日本ニテハ工學博士佐藤定吉氏ノ大豆蛋白質ノ研究ノ結果「サトウライ」ヲ發見シテ特許ヲ得タ

如斯ク該工業ノ研究カ著々トシテ表現スル機運ニ向ヒツツアル

(ハ)食料品原料トシテノ大豆

古來ヨリ大豆ノ食料品原料トシテハ我國民ニハ極メテ重要ナモノテ植物性蛋白質ノ給源ノ主體ヲ爲スモノテ人口ノ稠密ヲ加フルト共ニ益々需要ヲ増シ到底國內産ノミヲ以テハ需要ヲ充ス事ハ出來ヌ故主トシテ滿洲朝鮮ヨリ輸入ヲ俟ツテ其不足ヲ補フテ居ル

歐米ニ於テモ近時肉食夥多ニ基因スル衛生上ノ缺陷ヲ見出シテヨリ植物性ノ蛋白質ハ大豆以上ニ好適ナルモノナク爲ニ食料品トシテノ價值カ大ニ認メラレ來リツツアル尙歐米人ハ舊慣ニ囚ハルル事ナクシテ進ンテ之カ研究ヲ爲シテ居ルノハ注意ニ値スル事テアル

一、豆乳(人造牛乳)大豆ヲ原料トスル食用品トシテ第一ニ擧クルハ牛乳

代用品トシテノ豆乳テ之ハ進歩セル近代ノ化學的知識ヲ加味シテ種々加工シタモノテアル近來牛乳ハ世界的ニ大不足ヲ來シ從ツテ價格ノ暴騰モ際限カナイ有様ナレハ豆乳ハ其代用品トシテ漸ク歐米人ノ注目ヲ惹クニ至ツタノテアル元來豆乳ハ其組成牛乳ニ酷似シ營養價モ敢テ牛乳ニ遜色ヲ見ナイ今一例ヲ舉ケ豆乳ト各種ノ動物乳トノ成分ヲ比較スレハ(アルツ氏生理學的化學ニヨル)

	豆乳	人乳	牛乳	山羊乳	羊乳	驢乳	馬乳	犬乳	豚乳
蛋白質	5.76	1.25	3.50	4.00	5.75	2.50	2.00	7.50	6.00
脂肪	2.46	2.50	4.00	4.50	7.25	1.50	1.50	8.00	7.00
炭水化物	1.40	6.00	5.25	4.00	5.50	6.25	6.00	3.00	4.15
灰分	0.84	0.25	0.75	0.50	1.00	0.50	0.50	1.00	1.00

(但シ豆乳ハ人工ニヨリ濃淡ヲ自由ニナシ得ル故上記ノモノハ多少濃厚ナルモノノ如シ)

豆乳中ノ蛋白脂肪ノ如キ營養價ハ全然牛乳ニ比敵シ得可ク唯其缺點トスル所ハ(一)糖分及灰分ニ於テ牛乳ニ劣リ(二)常ニ一種ノ豆臭ヲ伴ヒ不快ノ感ヲ催サシムル事(三)豆乳ヲ壘ニ貯フル場合固形分ノ粒子カ漸次沈降シテ上澄液ト分離シ且固形分ハ舌ニ不快ノ感ヲ催サシムル事歐洲ニ於ケル人造牛乳ノ一、二ノ製造方法ヲ見ルニ

一、大豆又ハ落花生砂糖水及牛乳中ニアル礦物成分ノ混合ニヨリ之ヲ製造スルモノテアル

二、細末トシタ大豆ノ粉末ヲ水及少量ノ磷酸[アルカリ]ト共ニ攪拌シ混合物ヲ暫時煮沸スルニ至ルマテ加熱シ冷却後壓搾シテ生セシ溶液ニ食用脂肪及食鹽又ハ硫酸曹達ヲ加フルノテアル

二、大豆珈琲ト大豆[チョコレート]

近年珈琲及[ココア]ノ需要激增シ其原料ニ不足ヲ來スニ至ツタノテ歐米諸國テハ各種ノ植物種實ヲ其代用トシテ使用スルノ研究カ盛ニ行ハレ續々ト好成績カ實現サレ大豆モ此方面ニ利用サルル事ニナツタ此二品ノ製法ハ種々ノ工程ヲ踏マネハナラヌカ要スルニ焙燒粉碎シテ製造スルモノテアル

(二)大豆粉ヲ原料トスル食料品

大豆粉ハ通常大豆生粉大豆熬粉脫脂大豆生粉ノ三種ニ區別セラル大

豆生粉ハ大豆ヲ其儘打豆トシ乾燥粉碎スルモノテ專ラ豆乳豆腐ノ製造ニ用ヒラレ大豆熬粉ハ俗ニ黃粉ト稱スルモノテ從來ヨリ廣ク用ヒラレテ居ル大豆生粉ハ是迄用途カ狭カッタカ漸次菓子麵麩其他ニ利用サルル事カ多クナツタカ本來脂肪ヲ含有シ之カ爲ニ種々ノ加工ニ不便ヲ來サシムルヲ以テ豫メ大豆ヨリ脂肪ヲ抽出シタル脫脂大豆生粉ヲ用フル事カ便テアル此點ニ於テ豆粕ニ加工ヲ施シ食品トナスハ極メテ有利ナ事テ且便利テアル殊ニ抽出法ニヨル撒粕ハ加工ヲ施ス事ニ一層簡單テアル而シテ是等ノ原料ハ食料トシテ小麥粉ト營養價ニ於テ何等ノ遜色ナキノミナラス價格亦低廉テアル前年大規模ニ該豆粕ヨリ麥粉代用品ノ製作ヲ企テタカ財界不況ノ爲メ實現シナカッタノハ遺憾テアル然ルニ此製品ニハ豆臭ヲ帶フル缺點アルモ之ヲ除去ハ研究ノ結果不可能ニアラサルコトヲ證明サレテ居ル

又豆粕ノ粉末ハ小麥粉米粉砂糖其他ヲ混用シテ製菓麵麩類ヲ製造スルニハ好適ナルモノテアル今其用途ヲ見ルニ

(イ)小麥粉、卵子[バター]其他ト混用シ菓子類[ビスケット]ヲ製ス

(ロ)[キヤベツ][トマト]、綠豆、馬鈴薯、蕪青、胡蘿蔔、果漿、肉漿等ト共ニ[スープ]材料ニ用フル

(ハ)小麥粉、大麥粉、米粉、其他炭水化物及礦物質ヲ含有スル物質ニ混用シ麵麩類ヲ製ス

(ニ)大豆ニ多量ノ蛋白質ノ含有セララルヲ利用シ種々ノ加工ヲ施シ營養強壯劑ヲ製ス

歐米ニ於ケル此方面ノ研究ハ著々成功シ既ニ實際ニ製造サルルモノ尠クナイ最近奧國[ウキンナ]ニ於テハ[ベルツエラー]博士カ斯種新食料品ノ最モ優良ナルモノノ製造ニ成功シ世人ノ稱讚ヲ博シツツアリト報セラレテ居ル我國ニ於ケル斯種研究ハ極メテ幼稚ナルモノテ先年滿鐵中央試驗所テ研究サレシ結果カ報告サレタノミテアル

如上大豆ハ一般食料品トシテ極メテ價值アルモノテ營養價ヨリ見テモ決シテ牛乳、小麥粉ニ劣ルコトナキハ多クノ分析ノ結果ニヨツテ示サレテアル乍然之ハ單ナル化學的研究カラ得タ蛋白質及熱量ノ含有

率等ノ表面ニ現ハレタ數字ノ比較ノミニヨツテ食物ノ價值ヲ評定スルコトハ甚タ當ヲ得テ居ナイカ近頃營養上八箇間敷イ[ビタミン]存在ノ如何等ノ問題ハ最モ考慮セネハナラス事ト思ハル兎ニ角大豆ハ化學的意味ニ於テ理想的ノ食物テアル其ハ四〇%ノ蛋白ト二〇%ノ脂肪ヲ含ムト同時ニ極メテ安價ニ得ラルル事テアル

現今歐米ニ於テ最モ需要ノ大ナルハ大豆其物テハナク大豆油及其ヲ原料トスル加工品テアル歐米ニハ最初滿洲ヨリ大豆カ其儘輸出サレ彼地テ搾油サレタモノテアツタカ滿洲油房ノ發展ニ從ツテ豆油ノ輸出カ増加シ却ツテ原料大豆ノ方ハ激減シ來タノテアル之ハ大豆加工ニ一進展ヲ爲シタモノト見得ヘキモ輸出豆油ヲ見ルニ何レモ粗惡テ歐米ニ於テ更ニ精製シテ使用スル状態ニアル故ニ今滿洲ノ各油房カ適當ノ精製方法ヲ講シ其設備ヲ完全ニシ精製豆油トシテ輸出スルナラハ價格ニ於テモ品質ニ於テモ一層聲價ヲ高ムル譯テアルノミナラズ之カ副産物タル豆粕モ更ニ優良ナルモノナルヘク一舉兩得ノ理ナルカ現今テハ品質ヲ顧慮スル者極メテ寥々ニテ從ツテ品質ノ不同亂雜ヲ免レス清澄セルモノアリ酸敗セルモノアリ新鮮ナルアリ濁濁ヤルモノアリ水分多キモノ遊離酸ノ多キモノ等種々雜多ノ油カ均シク普通品トシテ包括サレテ市場ニ上ルノテアルカ近來識者ニヨリテ品質ノ改良ヲ盛ニ高唱サレテ居ルシ且滿鐵會社豆油ノ混合保管ノ開始ト共ニ漸次品質ノ改良サルルモノト思ハル

2. 製粉業

滿洲ノ製粉業ハ滿洲ニ於ケル重要工業ノ一テ支那式ノ土法ト新式ノ機械ヲ使用スルモノトノ二種カアル
支那式即舊式ノ土法ハ所謂磨房ト稱スルモノテ數名ノ勞働者ト二三頭ノ驢トヲ使役シ一日原料小麥三四石ヲ粉磨シ千斤内外ノ麥粉ヲ製造スルモノテ滿洲ニ於ケル重要ナル地方工業ノ一トシテ到ル處ニ散在シテ居ル後者ハ火磨ト稱スルモノテ蒸汽力又ハ電氣力ヲ使用シテ新式ノ製粉機械ヲ運轉シ一晝夜一千乃至二千袋ノ製粉能力ヲ有スルモノテ現在滿洲ニ於ケル製粉工場ハ四十五箇所一箇年ノ製造能力一

千九百餘萬袋價格六千萬圓ニシテ其内本邦人ノ經營ニ屬スルモノ約四割ニ達スル
今滿洲ニ於ケル新式機械ニヨル工場ヲ南滿洲北滿洲ニ分ケ概述スレハ下ノ如シ

一、南滿洲 南滿洲ニ於ケル斯業ノ發達ハ北滿ニ比シ頗ル遅々タルモノテ從來ハ南滿ニ於ケル麥粉需要總額ノ約八割ハ米國及上海ヨリ供給ヲ仰キタルモノナルカー一九一三年ノ露支國境自由貿易區域ノ撤廢以來北滿ノ各製粉工場カ猛然一勢ニ南滿ニ其販路ヲ擴張スルノ策ヲ立テ南下品ト北上品トノ激烈ナル競争ヲ演出スルニ至ツタノテアルカ運賃及支那人ノ嗜好其他ノ關係上外國品バ到底北滿品ノ敵ニ非スシテ次第ニ壓迫サレ遂ニ外國品ハ大連營口安東等ニ僅ニ其殘影ヲ留ムルニ過キナイノテアル如斯克北滿製粉業ノ刺戟ハ南滿ニモ斯業ノ勃興ヲ見ル誘因トナツタノテアル南滿ニ於ケル主ナル製粉工場ヲ舉クレハ下ノ如シ

名	稱	國籍	所在地	一晝夜製粉能力袋
滿洲製粉會社	長春工場	日本	長春	4,800
同	鐵嶺工場	同	鐵嶺	2,000
同	奉天工場	同	奉天	1,400
中華製粉會社	長春工場	同	長春	4,000
同	大連工場	同	大連	1,600
亞細亞製粉會社		日支合辦	開原	2,000
裕昌源	火磨	支那	長春	2,000
恒茂	火磨	同	吉林	1,500
天興福	火磨	同	長春	2,000
同	源火磨	同	寬城子	400
亞洲	火磨	同	同	1,500
東信	火磨	同	同	350
護和機	火磨	同	長春	15,000

上記ノ中模範的會社ノ稱アル滿洲製粉會社ノ事業竝ニ其ノ成績ヲ看

ルニ本會社ハ資本金一百萬圓ヲ以テ明治三十九年十二月創立シ麥粉ノ製造販賣竝ニ之ニ附帶シタル事業ヲ營ムヲ以テ目的トシ尙雜穀其他ノ委託賣買ヲ爲ス事トシテ工場ヲ明治四十年鐵嶺ニ起工シ翌年五月諸般ノ設備完成シテ開業ノ運ヒニ至タノテアル本會社ハ南滿ニ於ケル邦人製粉工場ノ嚆矢テ最初ハ稍經營困難ナリシモ明治四十三年正金銀行特貸二十萬圓ヲ得テ以來事業漸次好況ニ向ヒ大正元年ニハ長春ニ分工場ヲ設ケ大正七年ニハ事業擴張ノ爲メ三百萬圓ニ増資シ更ニ哈爾濱及濟南ニ最新式ノ工場ヲ設立シ機械ハ總テ米國ヨリ輸入セルモノヲ据付ケテ作業ヲ開始シ超エテ大正九年北滿製粉ヲ併合シテ四百二十五萬圓ニ増資シ更ニ朝鮮製粉大陸製粉ヲ合併シテ五百七十五萬圓ニ増資シ事業益々隆盛ニ赴キ遂ニ全滿洲製粉界ノ覇者トナツタ次ニ同社ノ製造能力ヲ見ルニ鐵嶺工場ハ蒸汽力ヲ應用シ原動力二百二十馬力ノ米國「ウルフ」式ノ製粉機ヲ運轉シ一晝夜小麥挽碎力五百石テ原料ハ南滿產三割五分北滿產六割五分ノ割合ニ使用シテ居ル又長春工場モ同シク米國「ウルフ」式製粉機据附ケ原動力ハ二百五十馬力ノ電力ヲ使用シ一晝夜四千八百袋ノ製粉能力ヲ有シ濟南工場ノ機械モ同様テ之ハ一日三千八百袋(十四萬斤)ノ製粉力ヲ持ツテ居ル其他將來矚目スヘキモノニハ石本貫太郎氏ノ發起セル日支合辦亞細亞製粉會社ナルモノアルカ同社ハ大正八年十月創立サレ創立後日淺キ爲メ未タ特記ス可キモノカナ

二北滿洲 北滿ニ於ケル斯業ハ南滿ノ其ヨリモ發達カ遙ニ早イ之ハ原料ノ豊富ナル事ト地理的關係ニ基因スル事勿論テアル露國カ滿洲侵略當時北滿ニ駐屯シタ多數ノ露國軍隊及自國在留民ノ需要ニ應スル爲メ一九〇二年哈爾濱ニ三箇ノ製粉工場ヲ設立シタノカ滿洲ニ於ケル機械製粉工場ノ嚆矢テアル爾來幾多ノ變遷ヲ經テ漸次發達シテ十年後ノ一九一二年ニハ北滿ニ在ル露國製粉會社ノ生産額ハ哈爾濱露國商業會議所ノ調査ニヨレハ五百八十萬布度テ之ニ對スル原料小麥ノ消費額ハ七百八十萬布度ヲ要スルト報告サレテ居ル而シテ北滿ノ製粉業ハ元來主トシテ在滿露人ノ需要ニ應スルト極東露領ニ輸出

スルノカ目的テ起ツタモノテ一時悲境ニ陥ツタ事モアツタカ歐洲大戰ト共ニ再ヒ好況ニ向ヒ昨今ノ西伯利ノ政情不安ナルト經濟界不況トハ露貨留ノ下落ニ伴ヒ多大ノ打撃ヲ蒙リ沈衰状態ニアル

今北滿製粉工場ノ概要ヲ示セハ下ノ如シ

名 稱	國 籍	所在地	一晝夜製粉能力 ^袋
滿洲製粉會社八區工場	日 本	哈爾濱	3,500
同 第一舊哈工場	同	同	2,250
同 第二舊哈工場	同	同	3,500
スンガリー製粉會社	露 國	同	2,000
アラゴエ製粉會社	同	同	2,500
東 興 火 磨	支 那	同	2,000
廣 源 盛 火 磨	同	同	1,500
義 昌 泰 火 磨	同	同	1,250
成 發 祥 火 磨	同	同	1,000
成 泰 益 火 磨	同	同	1,000
雙 合 盛 火 磨	同	同	2,000
萬 福 廣 火 磨	露支合辦	同	1,250
東 亞 火 磨	支 那	同	500
東 盛 火 磨	同	同	400
カサツトキン製粉	露 國	同	1,500
安 祐 火 磨	支 那	同	1,000
廣 信 火 磨	同	同	6,000
厚 康 火 磨	同	同	500
福 田 組 (マルクス)	露 國	同	500
廣 大 火 磨	同	同	500
震 大 火 磨	支 那	同	1,500
東 興 恒 火 磨	同	同	1,000
天 興 福 火 磨	同	同	3,000
永 榮 火 磨	同	呼 蘭	350

永遠火磨	支那	阿什河	400
長寧火磨	同	寧古塔	250
裕順火磨	同	同	500
孫彥鄉火磨	同	海林	250
廣元吉火磨	同	萬拉爾吉	400
雙合盛火磨	同	雙城堡	500
中華火磨	同	巴彥	500
ウリーネス火磨	露國	安達	500

滿洲ニ於ケル製粉業ハ近年經營稍困難トナリ其製粉高ハ全部ヲ通シ
ア約三分ノ一ニ激減シ廢業又ハ合併サルルモノ續出シタ斯克製粉業
カ悲況ニ陥レルハ主トシテ其原料タル滿洲産小麥カ海外ニ輸出セラ
レ或ハ輸出シ得ルカ故ニ常ニ相場ヲ高價ナラシメ從ツテ原料及麥粉
ノ高價ナル爲メ外國品主トシテ米國麥粉ノ輸入ヲ旺盛ナラシメタル
ニ依ルノテアル

次ニ露人各製粉所ノ製品ニ係ル露人技師ノ分析ヲ見ルニ下ノ如シ

等級	水分	含窒素物	脂肪分	糖分	ゴム質アキ ストリン	澱分	灰分
一等	13.23	10.14	0.90	2.40	3.24	69.22	0.50
二年	13.40	10.08	1.30	2.25	3.17	68.87	0.40
三等	12.95	9.84	0.86	2.38	3.48	69.52	0.46
四等	12.60	11.05	1.28	1.78	4.02	66.63	0.95
五等	13.30	10.95	1.19	1.84	4.11	66.71	0.97

北滿ノ機械製粉業ハ主トシテ露人ニヨリテ經營セラレ資本及技術ノ
點ニ於テ到底支那人ノ對抗ヲ許サナカッタカ數年前ヨリ哈爾賓其他
ノ地ニ於テ續々大規模ノ支那人企業者現出シ今ヤ其勢力ハ侮ルヘカ
ラサルモノテアル抑モ今日ノ隆盛ヲ來セル裏面ニハ獨逸人ノ資本ノ
多大ニ潛入セルモノアルヤニ聞ク即哈爾賓ニ於ケル成發祥東亞成泰
義ノ三火磨ノ如キハ純然タル獨逸系テ營業主ハ山東人ナルヨリ推ス
モ獨逸ハ青島ヲ根據トシ支那人ヲ手先ニ自國商權ノ擴張ニ努力シツ
ツアルヲ見得ルノテアル

三、舊式製粉業 磨房ト稱スル支那製粉工場ハ小規模小資本テ何レモ

兼業若シクハ副業トシテ經營スルモノカ多イ農家ニアリテハ一二臺
ノ挽磨ヲ据附ケ農閑ノ時期ヲ利用シテ之ニ從事スル者多イ

磨房ハ從來滿洲ニ於ケル重要ナル家内工業テ其製品ハ滿洲ノ市場ヲ
獨占シテ尙多大ノ剩餘ヲ生シ遠ク露領ニ輸出シテ在住露人ノ需要ニ
應シタルモノテアルカ今ヤ各地ニ勃興セル機械製粉業ノ爲メ壓倒セ
ラレ漸次衰退ノ悲境ニアル然レトモ洋麵(機械製粉)ノ需要範圍ハ極メ
テ狭ク僅ニ大都市及鐵道沿線ノ外人及中流以上ノ支那人ヲ顧客トシ
テ一般ノ支那人ハ依然トシテ磨房ノ製品ヲ需要シ居ル状態ナレハ今
尙侮ルヘカラサル勢力ヲ持ツテ居ル

又磨房ノ製粉ハ機械製粉ニ比シ品質粗惡テ色澤純白ナラサルノミナ
ラス夾雜物ヲ混スル事多イカ粘著力ニ富ミ一種ノ風味アルヲ以テ支
那人ハ却ツテ之ヲ嗜好スル者カアル

次ニ東支鐵道會社ノ分析セル磨房製粉ノ成分ヲ示セハ下ノ如シ

號	水分	含窒素物	澱粉	脂肪	ゴム質アキ ストリン分	灰分
一號	11.74	11.95	66.74	1.45	4.12	0.98
二號	10.76	12.50	67.04	1.99	4.01	1.05
三號	12.53	10.96	67.32	1.26	3.90	0.98

而シテ是等ノ物ノ中ニハ多量ノ夾雜物ヲ含有シテル

3. 製糖業

滿洲ニ於ケル製糖業ハ極メテ最近ノ事テ現在僅ニ三箇所ニ過キナイ
何レモ甜菜糖ヲ原料トシ相場成績ヲ擧ケテ居ル最初甜菜カ滿洲ノ土
地ニ適スルヤ否ヤニ關シテハ當業者間ニ多少疑問トサレタノテアツ
タカ試作ノ結果愈々適スル事ヲ確メラレタノテアル而シテ今滿洲ニ
アル三大製糖會社ハ即北滿阿什河製糖廠哈爾賓附近ノ呼蘭製糖廠奉
天ノ南滿精糖會社テアル

一、阿什河製糖廠 東支鐵道阿什河驛附近ニアリテ明治四十二年露國
ノ資本ニヨツテ創立サレタノテル資本金ハ一百萬留發起人ハ波蘭人
テ其機械モ[ポーランド]ヨリ購入シタモノテ該工場ノ内容ヲ見ルニ

甜菜沈澱器 一組 甜菜切碎機 一具

滲出器十四箇	一組	炭酸氣飽充器	三具
亞硫酸發生器	一具	石灰蜜	一臺
濾過器	二箇	真空蒸發器	五箇
真空結晶罐	三箇(内一箇ハ角糖製造用)		
開放式結晶器	一具	遠心力分密器	三具

以上ノ機械テ日々多キハ一萬二千布度ノ甜菜ヲ消化スル事カ出來ル製糖量ハ年ニ依ツテ一定セヌカ通常甜菜量ノ百分ノ八内外ヲ得ルトノ事テアル毎年ノ作業期間ハ約二箇月半乃至三箇月テ陽曆十一月カラ次年一二月頃迄行ハルレテ居ル

甜菜ノ栽培地ハ同地附近ヨリ遠キハ十數里ノ雙城堡方面ニ互リ農民ニ特種ノ獎勵法ヲ設ケテ栽培サセテ居ル製糖ノ種類ハ露式角砂糖ト精白糖ノ二種テ角砂糖ハ露國黑龍州及西伯利一帶テ消費サレ精白糖ハ主トシテ哈爾賓阿什河附近テ消費サレテ居ル

二呼蘭製糖廠 哈爾賓ノ對岸馬家船口ニアリテ明治四十二年ノ創立テ前清候補道李席珍氏ノ發起ニ係ルモノテ合資組織ニナツテ居ル獨逸ヨリ機械ヲ購入シタカ其後幾多ノ曲折ヲ經テ民國元年東三省ヨリ經費不足ノ爲メ多額ノ官舎ヲ借入レ又會社ノ不動産擔保テ獨逸ヨリモ借款シタカ其後民國元年ニ至リ獨逸ヨリ借入金ハ東三省官憲ニ於テ分擔償還シテ全々官營ニ移シタルモ經營宜シキヲ得サル爲メ遂ニ民國八年一時工場ヲ閉鎖シタカ大正九年末ニ再ヒ開場シタノテアル

本工廠ノ機械ハ一九一〇年獨逸ニテ製造シタモノテ其規模モ大キク且設備モ新式ニテ一晝夜ニ甜菜三百五十噸ヲ消化シテ白糖ヲ製造シ得ルノテアル同廠設備ノ内容ヲ見ルニ下ノ如シ

甜菜沈滌器	一具	甜菜切碎器	一具
滲出器十四箇	一組	炭酸氣飽充器	十具
石灰蜜 <small>(二晝夜石灰十噸ヲ燒ク)</small>	一座	亞硫酸發生器	一具
壓濾器	十七箇	真空蒸發器	五箇
真空結晶罐橫臥式二箇		運動結果器	八箇

遠心力分密器	七具	鍋爐	六座
發動機兼吸氣機(一六〇馬力)	二具		
角糖製造機	一揃		

次ニ本廠ハ直營甜菜栽培場二井(一井ハ三十六方一方ハ四十五畝地一畝ハ凡我八反)ヲ有シ其内既墾地ハ三分ノ一テアル若力ヲ雇傭シテ自ラ栽培シテ居ル民有地テハ工場ヨリ種子ヲ支給シ且一畝小洋票十餘元ノ種付費ヲ前貸シ收穫後甜菜ノ價格ヨリ扣除スル事ニシテ居ル尙當廠經營上ノ缺點トシテハ(一)官營ナル爲メ兎角冗費ニ流レ易キ事(二)設立場所ノ當ヲ得サリシ事(三)經營者ノ無經驗ナル爲メ發展上大ニ阻碍サレテ居ル事等テアル

三南滿製糖會社 本社ハ奉天ニアリテ南滿ニ於ケル唯一ノ製糖會社テ設立モ比較的新シク大正五年十二月資本金一千萬圓日本ノ有力ナル實業家發起ノ下ニ成立シ原料タル甜菜ノ栽培ハ大正六年ヨリ支那農民ト契約シテ之ヲ耕作セシメ工場ハ同年十二月ヨリ運輸ヲ開始シタノテアル甜菜ノ栽培ニ關シテハ大正三年以降三箇年間專ラ滿鐵農事試驗所ニ於テ甜菜ノ試作ヲ爲シ其結果良好ナリシヲ以テ愈々事業ニ著手シタ譯テアル

工場敷地	55,000 ^坪	
建 物	製粉工場	969
	酒精工場	97
	事務所宿舍倉庫其他	3,500
	計	4,566
原 動 力	千二百馬力汽罐	1
	百五十馬力發電氣機	2
製 造 能 力	甜菜消費一日	500 ^噸
	原料粗糖消費量一日	100

同社ノ甜菜成績ハ創立以來日尙淺ク耕作者タル小作人ノ經驗少ナキト時ニ早魃或ハ降雨過多等ノ天災ニ罹ツタ爲メ未タ十分發展ノ域ニ達セヌカ當初ヨリノ成績ヲ見ルニ下ノ通りテアル

年 度	植付反別 畝	甜菜收穫 擔	原料糖 出 來 高 據 一
大 正 六 年	40,000	100,000	
大 正 七 年	42,000	170,000	20,400
大 正 八 年	20,000	300,000	30,000
大 正 九 年	45,000	450,000	50,000

備考 一、一畝ハ凡我百八十坪テアル

二本數字ハ會社ノ祕密事項ナル爲メ適確ナ期シ難ク大體ノ見當ヲ示スニ足ルモノテアル

上記ノ如ク初年度ニ比スレハ年々進歩ノ跡歴然タルモノアルカ其最大收穫タル九年度四十五萬擔ヲ以テシテモ甜菜作業能力ノ半ニ達シナイ其精製能力ニ比較スレハ自作ノ原料糖ハ到底所要ノ額ヲ充ス事カ出來ヌ故其補給ヲ他ニ仰クニ至リ初年度以來年々十餘萬擔ノ原料糖ヲ瓜哇及臺灣方面ヨリ買付ケテ精製作業ヲ繼續シテ居ルカ製品ノ市場ニ出タノハ下ノ通りテアル

大 正 七 年	約	160,000 ^擔
大 正 八 年	同	140,000
大 正 九 年	同	50,000

大正九年度ノ激減ハ財界不況ノ爲メ賣行不振テアツ爲テアル同社ノ製品ニハ改良ヲ要スル點アルモ新ニ機械ヲ買入レ能力ノ擴張ト同時ニ品質改良ノ研究中テアルカラ漸次向上發展スルモノト觀測サル而シテ滿洲ニ於ケル砂糖ノ消費量ハ到底前記ノ諸工場ノ生産品ノミニテ自足シ難キハ勿論テアルカ然ラハ幾何ノ量ヲ猶他ニ仰カネハナラヌカト言フニ今最近數年ニ互ル純輸入數量即チ輸入量ヨリ再輸出量ヲ引去ツタモノカ消費量トナルモノテアルカ滿洲ヨリノ輸出ハ殆ト附近ノ分布ニ止リ輸入其ノモノカ大部分其消費量ト見得ラルルノテアル

今過去五箇年間ノ滿洲輸入砂糖ノ數量及價格ヲ舉クレハ下ノ如シ

年 次	數 量 擔	價 格 海關兩
大 正 六 年	793,424	5,133,224
同 七 年	1,126,427	7,620,431

同 八 年	740,133	4,890,816
同 九 年	385,721	4,143,098
同 十 年	808,261	6,974,937

而シテ仕出國ハ香港及日本ニテ十分ノ八ヲ占メ香港ト日本トハ四ト三ノ割合ヲ占メテ居ル又上記ノ數量ヲ見ルニ將來滿洲ニ於ケル該業開拓ノ餘地充分アル事カ明テアル

4. 燐寸製造業

燐寸ハ滿洲ニ於ケル重要輸入品ノ一テ今日ハ殆ト日本品ノ獨占スル所トナツテ居ルカ最近支那品ノ輸入モ増加シテ來タ過去數年ニ互ル南滿洲四港ヨリノ燐寸輸入高ヲ見ルニ

年 次	プ ロ ス	海 關 兩
大 正 五 年	3,069,142	995,848
同 六 年	1,729,327	517,820
同 七 年	1,503,777	452,553
同 八 年	5,070,327	1,397,712
同 九 年	1,382,535	337,211
同 十 年	1,648,481	386,408

上記ノ如ク大正八年ニ突如トシテ増加シタ外ハ漸次減退ノ状態テアル之ハ戰後日本ノ物貨騰貴ノ結果生産費徒ラニ多額ヲ要シ從テ單價ノ高騰ヲ來タシ滿洲ニ於ケル該業ノ發達ヲ促進セシメ滿洲品ノ生産ヲ増加シタ爲テアル而シテ滿洲ニ需要サルル燐寸ノ種類ハ其大部ハ黃燐燐寸テ安全燐寸ノ需要ハ極メテ少イ黃燐燐寸ハ人體ニ有害ナルモ衛生思想ニ乏シク且生活程度低キ滿洲ノ住民ハ單ニ價格低廉ナル爲メ該品ノミ需要スルノテアル

然ニ一昨年[ワシントン]ニ開カレタル労働會議ノ結果黃燐燐寸ハ衛生上頗有害ナルモノト認メラレ大正十一年七月一日以降日本ニ於テハコレカ製造ヲ禁止サルル事トナツタ依リテ今後滿洲ニ於テ日本製品ハ他製品ニ對スル立場甚タ困難トナリ果シテ今日迄ノ状態ヲ持續シ得ルヤハ疑問テアル目下滿洲市場ニ於テ優勢ナル輸入品ノ商標ハ得寶、雙獅子、駿馬、跪馬、童子、牛童テ就中得寶、雙獅子、駿馬、跪馬ハ老牌ト稱セラレテ居ル

現今滿洲ニ於ケル燐寸製造工場ハ七工場テ内四工場ハ日本人ノ經營ニ係リ他ハ全部支那人ノ經營ニ係ルモノテアル以下各工場ニ付少シク述フレハ

一滿洲燐寸株式會社 大連小崗子ニアリテ資本金三十萬圓拂込七萬五千圓設立サレタルハ大正八年六月テアルカ事業不振ノ状態テアル

二大連燐寸株式會社 本社ヲ大連ニ工場ヲ小劉家屯ニ置キ大正八年八月ノ設立ナルモ事業開始ハ大正十年九月頃ヨリテ製造能力一日九十箱ト稱サレテ居ル

三關東火柴公司 東公司ハ營口ニ在リテ同地支那人ノ經營ニ係ルモノテ大正四年五月資本金五萬元ノ合資組織ヲ以テ設立サレタモノテアルカ其規模小サク工場設備ノ如キハ動力ヲ用ヒス總テ人力ニヨリ且製造原料ハ何レモ日本及朝鮮等ヨリ供給ヲ受ケ居テル而シテ同社製品ハ外國品ニ比シ運賃關稅ノ負擔ナク且ツ勞銀ノ低廉ナル爲メ廉價ニ賣出シ殊ニ歐洲戰前安價ニ購入シタル原料豊富ノ爲メ戰時中一般市場ノ趨勞ニ反シ格安ニ供給シ販路ノ擴張ヲ圖リ漸次基礎ヲ鞏固ニスルコトヲ得タノテアル工場ノ内容ヲミルニ軸列場外シ場花著場軸揃場乾燥室包裝室及倉庫ノ各部ニ分タレ各室ニ使用スル機械設備ハ次ノ如シ

軸列場 平鐵柳木棍 十四

外シ場及花著場 雷火床 一、輻油錫 一、燒板一、製軸 五、軸整頓器五、乾燥場 二室ニ分タレ各其中央ニ煖爐ヲ設ケ乾燥セシム

包裝室 軸木ヲ箱ニ填充シタル上燐寸箱ヲ十箇宛包裝シ又ハ之ヲ二百四十箇ノ箱結ニス

四燧豐火柴公司 東公司ハ營口ニ在リテ民國七年三月沈世欽等カ資本二萬元ヲ以テ經營セシモ連年失敗シ資本ヲ悉ク失フノ悲境ニ陥リ民國九年營業ヲ停止シタルヲアル

五三明火柴公司 所在地ハ營口資本金日貨十八萬圓機械ハ日本製動力(電力)八十馬力製造能力一日二百四十包入二百五十函商標ハ金瓜、寶燈、鐘鼎、

本公司ハ民國八年九月合資組織ニヨリテ設立セラレタカ日淺ク從ツテ事業ノ成績見ルヘキモノナク同社製品ノ販路ハ主トシテ山東省芝罘、龍口、登州府地方テアル然ルニ近時同公司ハ日本人ノ出資ニ依ルモノト風説流布セラレ排日的風潮ノ旺ナル同方面ニテハ其製品ヲ排斥シ販路ニ窮セル様テアル成績未タ關東火柴公司ノ如クハナキモ銳意事業ノ振作ニ努力シツツアルヲ以テ將來ヲ有望視サレテアル

六東亞燐寸株式會社 本會社ハ神戸ノ東亞燐寸會社ノ系統ニ屬シ本店ヲ天津ニ支店ヲ奉天ニ置ク大正六年十月ノ創立ニ係リ資本金三百萬圓拂込金七十五萬圓テ最近ニ於テハ評判宜シク賣行漸次増加ノ傾向カアル尙本會社奉天工場ノ生産能力ハ一日小箱七十箱一箇年作業日數ヲ三百日トシ小箱二萬一千箱テアル

七日清燐寸株式會社 本社ハ廣島ニアリテ支社ヲ長春ニ置キ資本金三十萬圓拂込金十八萬圓テアル工場設備ハ軸剝機三軸列機十六軸刻機三軸離機八箱斷機二、整列機三層遺機二、ヲ有シ製造能力ハ黃燐々寸一日小函百函ヲ生産スル事カ出來ル同社ハ兩度ノ罹災ト支配人ノ不正行爲ノ爲メ一時危殆ニ頻シタカ大正八年度ノ改革後順調ニ作業シ大正九年上半期ニハ六分ノ配當ヲナシタ商標ハ來福福壽群仙等テアル

八吉林燐寸株式會社 本社ハ大正三年四月ノ創立ニ係リ本工場ハ吉林ニ分工場ヲ吉林及長春ニ置キ資本金十八萬圓拂込金十萬八千圓テ今本支工場ノ内容ヲ見ルニ左ノ如シ

建 物 坪 數	吉林本工場 1,153	吉林分工場 462	長春分工場 476
汽罐多管式(七十馬力)	1	—	—
汽 機(筒 高 壓)	1	—	—
燐寸製造機(軸 剝 機)	3	—	—
同 (軸木配列器)	7	6	6
同 (外 シ 器)	4	5	4
同 (軸 選 器)	1	1	1
同 (軸 揃 器)	1	1	1
同 (頭 揃 器)	1	1	1
同 (小箱木地剝器)	9	—	—
同 (木 地 載 器)	3	—	—

製材器(豎鋸)	1	—	—
同(圓鋸)	6	—	—
製造能力(一日分)	100箱	8	8
實際製造高(一日分)	60	50	50
職員數(日本人)	17	5	5
職工	450	150	130

而シテ本會社ハ創立當時日支合辦會社ノ形式ヲ備ヘテ居タカ其後日本側ニ於テ支那側持株全部ヲ讓受ケ且其定款ヲ總テ日本法律ニ準據スヘキ旨變更シ今日ニ於テハ純然タル日本人組織トナツタ尙本會社ハ副業トシテ木材事業ヲモ經營シツツアル

5. 煙草製造業

滿洲ニ於ケル煙草製造業ハ最近著シク擡頭シテ來タ從來滿洲土民ハ土產原葉ヲ採ツテ常用喫煙料トシタモノテアルカ爰數年間ニ於テ滿洲一體ニ亘リテ煙草ノ品種カ非常ニ増加サレ且民度ノ向上ト共ニ其嗜好モ亦向上シタノテアル今大連商業會議所及滿鐵勸業課ノ調査ニ基キ滿洲ノ該事業ニ付キ述ヘンニ日露戰爭頃迄ハ滿洲ノ煙草會社ト云ヘハ英米トラスト即現在ノ英美煙公司ノミテアツタ同社ノ前身カ英米煙草兩會社ノ合同經營テアル事ハ勿論テアルカ逐次小會社ヲ併合シ現在八億圓ノ大資本ヲ擁シテ世界製煙界ノ覇者ヲ以テ任シテ居ル該戰爭前乃至戰後十年間ハ上海奉天ニ製造所ヲ置イテ支那製煙界ノ霸權ヲ握ツタノミナラス滿洲朝鮮ノ喫煙界ヲ悉ク其傘下ニ入レタ戰後明治三十九年日本產煙草ヲ朝鮮及支那ニ輸出スル目的テ設立サレタル東亞煙草會社カ大藏省專賣局ト朝鮮總督府ノ庇護ノ下ニ今日ノ販路ヲ得ルニ至ル迄ハ英米トラスト會社ハ龍虎對峙ノ状態テアツテ爾來今日滿洲市場ニ供給スル製煙會社ハ十數幾社ニ及ヒ其ノ製品八十數種ニ進スルカ現今最モ其名ヲ知ラレ且互ニ鼎立ノ形ニナツテ居ル會社ハ如述二社ト更ニ南洋兄弟煙草商會及聯合公司ノ二社テアル南洋兄弟煙草商會ハ廣東ニ本據ヲ置イテ南方支那土產煙草ヲ主ナル原料トシテ支那人ノ排外的感情ヲ利用シテ國貨ヲ標榜シ以テ販路ノ擴張ニ努メテ居ル會社テアル嘗テ大正四年日支交渉問題ノ起ツタ

時ハ盛ニ滿洲ニ混入シテ來タカ其後何時シカ其手ヲ引キ大正九年又排日感情ノ澎湃シタノヲ利用シテ再ヒ市場ヲ攪亂シタ然ルニトラスト煙ハ高級品テ根底カ堅イノテ大シタ影響ハナイカ東亞煙ヤ其他ノ小製造會社ハ著シキ障害ヲ受ケタ

聯合煙公司ノ最初ノ創立發起者ハ曩ノ在支英國公使テアツテ發起當初ニハ英政府ノ援助ヲ受ケ佛露支三國ト共ニ四國資本家ノ共同投資ノ下ニ設立サレタモノテアル現在奉天ニ製煙工場ヲ置イテ盛ニ市場ニ供給ヲ爲シテ居ル其外小煙草會社トシテハ山東省濟南ニ本據ヲ有スル中華煙公司吉林省城內ニ在ル吉林省立工藝廠哈爾賓ニ於ケル「ロハート」商會大連ニ於ケル滿洲煙草會社等郡小會社ハ可ナリ各地ニ散在シテ居ル

東亞煙草會社カ朝鮮ノ煙草界ヲ殆ント獨占シテ以來逐次南滿地方ニ其ノ銳鋒ヲ顯ハシ爾來英米トラスト會社ト逐年其ノ霸權ヲ爭ツタカ同社營口分工場ハ内容ノ充實ト原料ノ精選ニ努メ更ニ工場ヲ奉天ニ擴張シタ結果英米トラスト會社ハ漸次北滿ニ退歩スル様ニナツタノテ南滿地方ハ殆ント東亞煙獨占場ノ如キ大勢トナツテ居ル乍然英米トラスト會社ノ製品ハ多ク高級品テ日本人ノ一部及外國人ノ需要アルニ過キス從ツテ一般ノ支那人向トシテハ甚タ小數テ嘗テ同社奉天工場カ大正六年失火シテ以來ハ事業ヲ縮少シテ東亞煙「ハネービー」ニ對抗スル爲メ「ケリケット」種ノ下等品ヲ製造シテ居ツダカ本年工場ヲ聯合煙公司ニ讓リ渡シタ其原因ハ煙草課稅問題ニ關シ東亞煙草會社ハ支那側ノ希望ヲ容レテ五分課稅ヲ承認シタレハ英米トラスト會社モ之ヲ支出セネハナラス破目ニ陥ツタカ若シ遡ツテ課稅サルル事トナレハ同社ハ非常ナ損失ヲ來タス譯テ前記ノ手段ニ出テタノデアル滿洲ニ於ケル製煙界ハ主トシテ兩切ヲ製造シテ居ルノテ口付ハ東亞煙草會社カ日本品ト同一性質ノモノヲ日本人向ニ製造シテ居ルノミテアル

今右四會社ノ製煙中最モ華客ノ嗜好ニ適シテ賣行キ良好ナルモノヲ舉ケレハ下ノ如シ

英美煙公司	東亞煙草會社	南洋兄弟商會	聯合煙公司
兩切	口付	兩切	兩切
スリキヤツスル	敷島	ゴート	雙魚
パイレット	朝日	スビーヤ	茶壺
		スター	
ルビクウイン	露西亞卷	プレシデント	
前門		ホウナ	

是等市場ノ需要狀態ヲ割合ヲ以テ示セハ東亞カ四、英米[トラスト]カ四、南洋兄弟商會聯合煙公司カ各一ト云フ實勢テアル

滿洲ノ吸煙界カ昔日ノ土產原葉ヨリ逐年製造煙草ニ提移シテ來タ事ハ文化交通ノ開發ト生活程度ノ更改ト云フ事ニ歸スルカ最モ主タル要因ハ嗜好性ノ向上セル事テアル今ヤ滿洲ノ吸煙界カ七割迄製造煙草ヲ殘余三割カ土產原葉ヲ吸ツテ居ル現勢ヲ既往ニ遡ツテ考フレハ隔世ノ感カアル

南滿四港ノ輸入煙草ノ過去數年ノ輸入額ヲ示セハ下ノ如シ

年次	海關兩	海關兩
大正五年	5,296,277	大正八年
同六年	6,741,407	同九年
同七年	6,238,795	同十年
		9,201,961

滿洲内ニ生産スル原葉ヲ以テ製造スル製煙モ年々其製造高カ多クナツテ事ハ勿論テアルカ斯ク年次其需要ヲ増加シツツアルハ滿洲煙草界ノ將來有望ナルヲ物語ルモノテアル次ニ一年間ノ吸煙量ヲ總人口ニ割當テ一人當リ幾何ノ金員ヲ煙草ニ支拂ツテラルカラミルニ日本内地テハ一人當リ三圓五十錢ナルニ比シ滿洲テハ一人當リ一年七十錢乃至八十錢テアル、如斯滿洲吸煙界カ一般ニ低廉ナル負擔シカ拂ツテ居ラナイト言フ事ハ土著民カ非常ニ安イ煙草ニ満足シテ居ル爲テ現在車夫以下苦力ニ至ル迄紙卷煙ヲ口ニスル迄普及サレテ居ルカ然モ價格ハ十本ノ代價三錢以下ノモノヲ吸煙シ以上十錢ハ中産階級ノ吸用テ其以上ハ知識階級乃至資本家階級ノ吸用ニ屬スルモノテアル滿洲土產原葉カ非常ニ辛イ特性ト一種ノ特臭ヲ有シ我々日本人及歐米人ノ嗜好ニ適シナイ事ハ一般ノ評判テアル此一種ノ特臭カアルカ爲メ却ツテ支那人ノ嗜好ニ適シテ居ツタト云フ事ハ昔日ノ黃菸常

煙當時ノ事テアツテ製煙普及ノ現時ニ於テハ主要原葉ハ他國葉ヲ使用スルノテアル東亞煙草會社ハ從來吉林原葉、東山原葉ニ日本及朝鮮產葉ヲ混用シテ普通品トシテ提供シテ居ツタカ上級品ハ米國產葉ヲ土產ト混用シテ製煙シテ居ル、即チ「ゴード」、「スビーヤ」ノ如キ之テアル英米[トラスト]會社ハ米國產葉ヲ輸入シテ土產原葉ト混用シ上級品ノ製選ヲヤツテ居ツタカ輸送運賃ノ費用莫大ナルト歐洲戰爭ノ結果原料補給難テ一時非産ニ困難ヲ來タシ窮余ノ一策トシテ米國產葉ノ移植ヲ山東省内ニ試験シテ好成績ヲ擧ケテ以來此山東省原葉ヲ使用シテ居ル而シテ此葉ハ支那米葉ト通稱サレテ居ル、現今滿洲ニハ約七百萬貫餘ノ原葉ノ產出カアルカ其中四五萬貫ハ市場品ト見テ差支ヘナイ若シ是等カ直ニ製煙原料トナリ得レハ問題ハナイノテアルカ事實ハ其ヲ許サヌ既述ノ如ク品質不良ナル爲メ僅ニ下等ノ兩切混合材料トシテノミ使用サレテ居ルノテアル

支那人嗜好性カ土產原葉ニ執著スルモノトセハ製煙界ノ前途モ多小悲觀サルルノテアルカ彼等ノ嗜好カ土產原葉ト離レテ逐次製煙ニ傾キ來リ原葉三製煙七ト云フ現勢ニナツテハ將來製煙ノ原料供給ニ付モ考慮セヌハナラヌ

英米[トラスト]會社カ米葉ヲ山東省内ニ移植シ東亞煙草會社カ滿洲得利寺ニ葉煙草試植實驗中テアルノモ土產原葉カ夫レ程一般ノ製煙原料トシテ不適當テアルカラテアル、然ラハ全然使用ニ堪ヘ得ナイカト云フニ極小量ニ割乃至三割ハ混合材料トシテ使用サレテ居ル若シモ滿洲製煙界カ今後益々活況ヲ呈シテ原料難ヲ告クル時カ來ルト豫期シタナラハ此七割乃至八割ノ主要原料ノ供給ヲ如何ニスヘキヤハ問題テアル

在來種ノ品種改良ハ土壤ノ關係、施肥ノ程度等ニ依ルモテ一朝一夕ニ改良スル事ハ困難テアルカ遠キ將來ハ別トシテ現在ノ採ルヘキ手段トシテハ結局優良種ノ栽培普及法ヲ採ルヨリ外ニ途カナイ滿鐵公主嶺農事試驗場ノ試驗及鳳凰城ノ試驗、近クハ得利寺播苗等モ皆之レテアル

糶テ滿鐵製煙界ニ於テハ原料ヲ滿洲内ニ求メス他所ヨリ之ヲ輸入シ若クハ他所ニ於テ製造シテ製品ヲ輸入スレハ如何ト言フニ之レ決シテ有利テハナイ英米[トラスト]會社ノ如ク上級品ハ米本國ヨリ輸入シテモ尙純ヲ得ル事カ出來ルカ中級品乃至下級品ノ如キハ假令時間ト空間トヲ縮少シ得ル交通機關ノ發達カ出來テ居ツテモ關稅其他ノ費用ハ當然製品原價ニ賦課サレ販賣上ノ不利益トナルハ當然テアル加之輓近支那國民性ノ變化ニ基ク愛國貨運動及利權回收熱勃興シ今後益々外國貨物ヲ驅逐セントル際ナレハ原料ヲ滿洲ニ求メ滿洲ニテ製煙スル事トナレハ所謂國貨ヲ標榜スル事トナリ販路開拓ノ上ニモ甚タ利スル所カアルノテアル然ラハ滿洲ニ於テ外國原葉試植ノ結果ハ如何ト言フニ大正四年以降同七年ニ至ル滿鐵農事試驗場ノ栽培成績ハ下ノ如シ

公主嶺農事試驗場

		(單位ハ貫)			
		大正四年	同 五年	同 六年	同 七年
米 國 種	シンマース	—	—	—	—
	スベニシユ	—	67,780	54,000	35,640
日 本 種	水 府	37,760	50,240	47,739	45,120
	達 摩	55,200	58,420	58,714	61,890
朝 鮮 種	成 川	33,920	35,200	33,085	30,970
支那在來種	南 潮 頭	—	12,440	17,829	26,380

鳳凰城煙草試作場成績 (大正七年)

米 國 種		反當支量	一貫目價格		
			實 價	円	
アライトエロ	火力	70,650	3,917	276,720	
エローオロノフ	同	60,400	4,014	244,860	
エローブリアル	同	70,550	3,542	249,880	
ホワイトバレル	天日	45,000	2,054	92,400	
日 本 種	秦 野	天日 (幹干)	65,000	2,877	187,000
	中 達	摩 同	66,000	3,423	205,400
	國 分	同	46,400	2,562	118,880
	指 宿	同	45,600	2,856	130,240
	杉 川	同	43,400	2,590	112,420
	水 府	同	58,000	2,855	165,600
支 那 種	柳 葉	尖 天日 (聯子)	23,400	1,600	37,440
	南 湖	頭 同	21,600	1,500	32,400

以上ノ數字ニヨリ米國種黃色葉煙草ノ如何ニ滿洲ノ地ニ適スルカ又日本種カ支那在來種ニ比シ如何ニ經濟的有利テアルカヲ知ル事カ出來ル而シテ米國種黃色煙ノ成績カ日本及朝鮮ニ於テ行ハレタル試驗ノ結果ヨリ遙ニ良好ナ成績ヲ示シテ居ルカ其原因ニ就テハ不明テアル上述ノ如ク假リニ半分ノ收量トシテモ支那種ニ比シテ數倍ノ價格ニ達スルノテ其有利ナル事ヲ知ツタ鳳凰城附近ノ農家ハ最近黃色煙ノ栽培ヲ爲スモ漸次増加シテ既ニ四五十町歩ノ作付ヲ爲シテ居ルト言フ事テアル

該述ノ如ク滿洲ノ煙草製造事業ノ將來ハ益々有望テ若シ相當ノ努力ト犠牲ヲ拂フナラハ土產原葉ヲ米國種又ハ日本種ニ變更シ原料ヲ滿洲内ニ求ムル事カ出來ルノテアル故ニ滿洲ノ未開地ヲ利用シテ宜シク原料優秀ナル他國產葉ヲ培養シ獨リ滿洲ノ自給ニ止メス更ニ進ンテ支那全體ニ互リ年々五六千萬圓ノ輸入ヲ阻止シ得ルニ至レハ實ニ之レ日支共榮ノ主義ニモ適スルモノテアル

(六)石炭ヲ原料トスル工業

南滿洲ニ於ケル石炭ノ產出額ハ精細ナル數字ヲ缺クモ撫順炭坑ノミニテモ年產額大約三百二十萬噸其他諸坑ノ產額ヲ加ヘテ約三百五六十萬噸乃至四百萬噸ト云ハレテ居ル[先年ノ好況時代ニハ諸工業ノ勃興及ヒ海運界活躍ニ伴ヒ一般需要量モ異常ナル數量ニ上リ出產高ハ不足ヲ告ケ且輸送機關タル貨車ノ缺亡トニヨリ需要者側ニ於テハ尠ナカラヌ困窮ヲ來タシタノテアル然ルニ一朝不景氣風カ吹キ初メテ以來需要更ニ何レノ炭坑主モ產出炭ノ處置ニ苦シミ昨年來愈々其ノ極ニ達シタ譯テ山元及ヒ輸出港ニハ何レモ石炭堆積山ノ如キ有様ニテ之ニ伴フ危險即チ自然發火及風化ヲ恐レ又一方ニハ徒ラニ資金硬化セシムルノミニテ非常ナル困窮ニ陷ツタノテアル茲ニ於イテ海外ヘノ投賣ヲ行フト共ニ石炭ヲ原料トスル化學工業ハ世人ノ注目ヲ惹クニ至ツタ石炭ヨリ硫酸安母尼亞(肥料)染料防腐藥材[サツカリン]等ノ工業ハ已ニ實施サレツツアルノテアルカ今年更ニ撫順炭ノ低溫乾餾ノ副產物利用法カ研究サレテ歲末ニ際シ稍々成功シ漸次採算的ノ事

業トシテ進ミ來レルハ滿洲經濟界ノ爲ニモ非常ニ祝福スヘキコトヲアル

石炭ノ低温乾餾ハ今日學界ノ研究問題トシテ重要視サレ最近ニ撫順炭坑ニテ試験的ニ爲シタノテアル此方法ニヨリ石炭ヨリ重油ヲ採取スル時ハ副産物トシテ約七五%ノ「コーライト」ヲ産出スル之ハ石炭又ハ「コークス」木炭ノ代用品トシテ有效ナル燃料テ石炭ニ比スレハ油煙モ少ク室内暖爐用ニ適シ又家庭ノ炊事用トシテ「コークス」若クハ木炭ノ代用トナリ「コークス」ノ如ク高熱ヲ以テ乾餾シタル物ニアラサル故幾分揮發分ヲ含ミ點火容易ニ燐寸一本ニテモ赤クナル程度ノ物ナレハ若シ之レカ廣ク利用サルルニ至ラハ燃料トシテ頗ル有望テ現ニ撫順ニテ産出シタル同品ヲ滿鐵奉天車輛係ニ送り機關車ノ燃料トシテ試験シタルニ其結果頗ル良好ナリシト言ハレテ居ル

學說ニヨレハ普通石炭一噸ヲ乾餾シテ「アルコール」ニ乃至三「ガロン」「アンモニア」水二〇乃至二六「ポント」瓦斯五千乃至六千立方尺油一八乃至二二「ガロン」「コーライト」千六百乃至千八百「ホン」ヲ得ル事トナルカ撫順炭ニテ試験シタ結果ハ殆ント此學說通りノ成績ヲ示シタノテアル故ニ家庭燃料トシテ生ノ石炭ヲ用フル事ハ公衆保健ノ上ヨリモ甚タ缺陷多ク歐米先進國ノ如キ衆團生活ノ都市ニテハ無烟炭ノ使用ヲ強制シ有烟炭ノ使用ヲ禁止シテ居ル次第ナレハ日本内地及滿洲ニテモ一般家庭用トシテハ有烟炭ノ如キ原始的燃料ノ使用ヲ止メ「コーライト」ノ如キ煤烟少ナキモノヲ使用スル事トスレハ「コーライト」ノ需要ヲ喚起シ從ツテ現今世間ニ喧シキ重油問題ヲモ解決シ得ル事ト想像サルルノテアル

七 滿洲ニ於ケル綿絲布

滿洲ニ於ケル綿絲布ノ輸入ハ輸出貿易ノ大宗テアル大豆及其加工品ト共ニ滿洲貿易界ノ雙壁テアル今歐洲戰前大正二年以降大正十年ニ至ル九箇年間ノ南滿洲諸港ヲ經由シテ輸移入サレタル綿絲布ノ價額ヲ列舉スレハ下ノ如シ

年次	綿絲布輸移入額 萬海關兩	輸移入總額ニ對スル割合
大正二年	2,730	35%
同三年	2,850	34
同四年	2,890	33
同五年	2,800	28
同六年	3,700	26
同七年	4,440	29
同八年	6,820	34
同九年	6,370	36
同十年	6,350	34

上記ノ如ク逐年輸入額ノ増加ヲ來タシ輸入總額ニ對スル割合ノ如キ歐戰中多少遞減セル傾向ハアルカ休戰ト同時ニ回復シ其需要ハ益々旺盛トナツタ次ニ最近五箇年間ノ南滿洲諸港中牛莊大連安東ノ三港ニ就キ其輸移入額ヲ見ルニ下ノ如シ

綿絲布輸移入額

年次	牛莊 萬海關兩	大連 萬海關兩	安東 萬海關兩
大正六年	1,139 31%	1,022 27%	1,547 42%
同七年	1,396 31%	1,633 37%	1,410 32%
同八年	1,283 19%	3,455 51%	2,084 30%
同九年	2,070 32%	2,087 33%	2,222 35%
同十年	2,364 38%	1,803 28%	2,184 34%

如斯綿絲布輸入經路ハ牛莊及大連ハ時ニ輸入量ニ於テ盛衰アルモ大體ニ於テ前記三港共各年ヲ通スル時ハ其割合平分シテ居ル大正八年ノ輸入量牛莊ヲ除キタル他ノ二港ノ殊ニ著シキ増加ヲ來タシテ居ルハ休戰後第一年ニ於ケル財界好況ノ結果一般ニ購買力ノ増進シタ爲テ大連ハ日本綿布及支那綿絲ノ輸入激增シテ居ル然ルニ翌年世界の恐慌襲來ノ餘波ヲ受ケ消費額ノ減退ヲ來タシ大連ニ移入サレタル支那綿絲中其後荷捌ケ不如意ノ爲メ上海天津及青島等へ再移出サレタルモノ合計百萬海關兩以上ニ達シタ

尙外國品ノ支那品トノ輸移入ヲ明ラカニスル爲メ南滿三港ノ品種別輸移入額ヲ舉クレハ下ノ如シ

年次	牛 莊		大 連		安 東	
	外國品	支那品	外國品	支那品	外國品	支那品
大正六年	4,445,735	6,946,753	8,963,403	1,266,512	15,118,947	358,518
同 七年	4,213,737	9,754,162	15,073,022	1,263,185	13,436,686	667,356
同 八年	4,317,784	8,516,554	27,928,024	6,622,828	19,852,890	993,217
同 九年	7,043,679	13,656,461	18,466,209	2,404,381	21,152,368	1,073,188
同 十年	8,922,417	14,723,957	15,114,407	2,916,501	20,310,994	1,529,534

牛莊ハ滿洲内地市場ニ對シ永年ノ取引關係ヲ有シ殊ニ遼河水流ノ江口ヲ扼シテ通商貿易港トシテ樞要ノ地位ヲ占メ大連開港以前ハ南滿ノ吞吐港トシテ獨占的地位ニアツタカ其後次第ニ大連ニ其盛榮ヲ奪ハレ輸出入貿易上其下位ニ下ルノ已ムナキニ至ツタ然レトモ支那諸港トノ取引關係殊ニ深ク且奧地商人トノ取引甚タ密接ナルモノアリテ決算勘定ニハ永年過爐銀制度ヲ設ケ現金ヲ動カスカ如キ事甚タ勘ナク勢ヒ南支貿易ハ牛莊ヲ起點トスルモノ多ク從ツテ支那綿絲布ノ如キハ營口經由滿洲ニ分布セララルモノ年々最多額ヲ占メ大正十年南滿三港輸移入綿絲ノ輸移入率ニ於テ第一位ヲ占メテ居ル

大連ハ鐵道運輸ノ改善港灣設備ノ改良ニ伴ヒ年々輸出入貿易ノ増進ヲ來タシツツアルハ周知ノ事實テアルカ殊ニ綿絲布ノ輸入ニ關シテハ先物ノ取引所ヲ設ケ價格ノ統一ヲ計リツツアルノテ過去五箇年ノ南滿三港間ノ綿絲布輸移率ヲ見ルニ大連ハ時ニ其消長ノ甚タシキモノアレト平均スレハ滿洲輸移入額三割五分以上ニ達シテ外國製綿絲布ハ輸入ハ安東ニ亞ク優位置ヲ占メテ居ル

安東ハ大正二年滿鮮國境貿易ニ對スル支那側輸出入關稅三分ノ一減稅ノ特點及日鮮滿直通聯絡運賃ノ割引制度實施ニ基キ大連經由輸入綿絲布ニ大打撃ヲ與ヘ南滿三港輸移入綿絲布ノ輸移入額ニ於テ大正九年ハ第一位同十年ハ第二位ヲ占ムルノ現勢ニナツタノテアル

次ニ項ヲ分チ綿絲及綿布ヲ輸入港別並ニ生産地別ニ列擧スレハ下ノ如シ

(1.) 綿絲

滿洲ノ需要綿絲ハ綿織絲ト綿縫絲ノ二種ニ區分スル事カ出來ルカ其

大部分ハ綿織絲テアツテ今最近五箇年間ニ於ケル牛莊大連安東三港ノ綿織絲輸移入數量ヲ示セハ下ノ如クテアル

	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
牛 莊	76,385(36%)	72,014(42%)	56,399(22%)	101,463(44%)	146,898(44%)
大 連	38,552(18%)	45,492(27%)	145,473(57%)	93,913(40%)	84,489(25%)
安 東	95,245(46%)	53,436(31%)	55,524(21%)	37,232(16%)	102,803(31%)
合 計	210,182	170,942	257,396	232,608	334,190

綿絲ノ三港輸移入割合ヲ見ルニ牛莊ハ大正六年及同八年ニ第二位ニアル以外常ニ第一位ヲ占メ居ル殊ニ最近二箇年間ノ増加ハ主トシテ支那絲ノ移入増加ニ依ルモノテ大正八年大連ノ異常ナル増加モ亦支那絲ノ移入激テアル是等ノ事實ハ上海方面ニ於ケル支那紡績業ノ發展ヲ物語ルモノテアル

次ニ各港綿織絲生産地別ノ輸移入表ヲ示セハ下ノ如シ

牛莊輸移入綿絲(織絲)數量

	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
日 本 品	24,025	15,458	7,908	24,473	25,065
支 那 品	20,130	43,440	21,869	63,595	92,797
香 港 品	2,736	—	—	—	—
印 度 品	29,494	13,716	26,622	13,395	29,036
計	76,385	72,014	56,399	101,463	145,898

大連輸移入綿絲(織絲)數量

	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
日 本 品	35,436	35,673	45,098	67,094	61,982
支 那 品	1,280	6,582	97,914	25,341	22,387
香 港 品	15	288	120	—	—
印 度 品	1,731	2,949	2,341	1,478	120
英 國 品	90	—	—	—	—
計	38,552	45,492	145,473	93,913	84,489

安東輸移入綿絲(織絲)數量

	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
日 本 品	94,881	52,755	52,648	35,644	100,700
支 那 品	211	562	2,082	1,181	1,956
印 度 品	153	119	794	407	147
計	95,245	53,436	55,524	37,232	102,803

滿洲輸移入綿絲ノ大部分ハ十六番手及二十番手ノ大絲ニシテ滿洲内二三ノ綿織物工場アルモ主トシテ支那人ノ家内工業トシテノ織布ニ使用スルモノテ年々多額ノ綿織絲ノ輸移入アル點ヨリ觀察スレハ原綿ノ供給ニ關スル研究ヲナシ満足ナル成果ヲ得レハ滿洲ニ於ケル紡績事業ハ將來有望ナル企業タルハ多言ヲ要シナイ

(2) 綿布

滿洲輸移入綿織物ノ最近五箇年間ニ於ケル牛莊大連安東三港ノ輸移入額ヲ示セハ左ノ如シ

	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
牛莊	8,931,009(30%)	10,472,180(30%)	9,590,957(18%)	14,782,393(30%)	15,638,036(34%)
大連	8,724,497(30%)	13,685,716(38%)	27,096,535(50%)	16,204,001(32%)	13,911,355(30%)
安東	11,835,763(40%)	11,360,080(32%)	17,381,101(32%)	19,093,149(38%)	16,798,435(36%)
合計	29,491,269	35,517,976	54,067,693	50,079,543	46,347,826

綿布ノ三港輸移入割合ヲ見ルニ大正六年ニハ安東首位ヲ占メ牛莊大連ノ順位テアツタカ大正七八兩年ニハ大連首位ヲ占メ安東牛莊ノ順序トナリ大正九年ハ安東大連牛莊大正十年ハ安東牛莊大連ノ順位トナツテ居ル安東ノ常ニ一二位ヲ占メテ居ルノハ前記關稅及運賃關係ニ依ルモノテ大部分日本品ノ輸入テアル大連ノ輸入ハ日本品ヲ第一トシ牛莊ノ輸移入ハ支那品及歐米品ヲ主ナルモノトスル

次ニ各港主要綿布生産地別ノ輸移入表ヲ示セハ下ノ如シ

牛莊輸移入主要綿布數量

	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	
粗布	日本品	111,030	88,830	32,520	62,820	79,220
	英國品	4,100	—	200	2,280	945
	米國品	51,500	17,960	38,695	21,160	54,760
	支那品	138,842	190,920	62,770	268,961	415,202
生金巾	計	305,472	297,710	134,185	355,221	550,128
	日本品	34,795	31,640	43,851	74,097	104,750
	英國品	23,069	19,445	16,612	9,440	12,130
	米國品	800	120	1,280	2,088	920
晒全巾	支那品	4,250	4,200	550	5,400	1,749
	計	62,914	93,205	62,293	91,025	119,549
	日本品	2,523	2,490	760	1,050	—
	英國品	72,180	45,161	31,715	67,796	47,202
米國品	—	39	—	—	—	

	支那品	英國品	米國品	支那品	其他	
雲齊布	—	2,750	5,920	830	—	
	1,710	1,968	4,314	2,816	1,170	
	計	76,413	52,408	42,709	72,492	48,372
	日本品	74,052	63,310	45,400	54,549	77,207
	英國品	210	811	40	87	—
細綾木綿	2,290	60	9,455	8,375	9,160	
	53,265	77,620	11,620	51,877	61,595	
	350	80	—	—	—	
	計	130,167	141,881	66,515	114,881	147,962
	日本品	134,150	178,360	102,935	162,008	206,870
天竺布	63,038	30,895	49,926	73,308	77,117	
	—	1,360	—	240	600	
	—	—	—	400	—	
	2,760	—	—	—	—	
	計	199,948	210,615	152,861	235,956	284,587
大尺布	60	—	500	265	180	
	990	1,220	1,360	1,900	1,290	
	—	—	—	—	—	
	—	—	—	—	—	
	500	—	—	—	—	
大連輸移入主要綿布數量	計	1,550	1,220	1,860	2,165	1,470
	日本品	2,674,690	1,534,970	422,728	172,589	808,902
	支那品	13,329	11,274	12,131	16,651	124,047
	英國品	—	—	—	—	—
	米國品	—	—	—	—	—

大連輸移入主要綿布數量

	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	
粗布	日本品	172,039	296,942	442,141	547,617	196,014
	英國品	2,820	242	2,167	1,906	11,440
	米國品	7,623	6,175	4,316	2,920	4,965
	支那品	27,777	20,152	196,711	156,018	211,130
	其他	2,820	—	—	—	248
生金巾	計	213,079	323,511	645,335	208,461	423,797
	日本品	58,493	82,980	218,617	213,737	158,950
	英國品	12,247	11,291	9,046	7,170	37,178
	米國品	101	5	380	360	627
	支那品	5,353	13,300	11,352	3,160	10,589
晒金巾	其他	—	—	120	50	—
	計	76,194	107,696	239,445	224,427	207,344
	日本品	23,453	96,354	181,423	47,048	25,341
	英國品	177,055	107,439	152,937	94,053	267,986
	米國品	—	—	—	174	—
晒全巾	支那品	—	—	—	438	—
	其他	769	1,434	345	—	168
	計	177,724	108,873	345	612	168
	英國品	—	—	—	—	—
	米國品	—	—	—	—	—

雲齊布	日英支其	日本品	48,959	95,049	131,721	108,804	45,144
		英國品	1,700	610	238	60	1,103
		米國品	150	40	180	—	64
		支那品	5,905	7,851	7,686	3,420	7,417
細綾木綿	日英支其	其他	50	—	31	—	345
		計	56,764	103,550	139,856	111,284	54,073
		日本品	98,102	233,195	418,710	296,384	202,314
		英國品	18,125	16,300	12,505	12,052	19,664
天竺布	日英支其	米國品	200	1,080	104	960	602
		支那品	—	—	—	722	3,852
		其他	122	80	—	2	—
		計	116,549	250,655	431,319	310,120	225,890
大尺布	日英支其	日本品	29,759	33,472	72,812	33,853	11,117
		英國品	4,118	6,530	8,135	3,100	6,383
		米國品	—	—	—	—	—
		支那品	5,214	2,984	520	3	—
大尺布	日英支其	其他	39,091	42,986	81,477	33,956	17,500
		計	1,778,495	1,574,141	2,152,607	116,802	272,233
		日本品	9,908	5,950	12,404	8,928	19,998
		支那品	—	—	—	—	—

安東輪移入主要綿布數量

		大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	
		正	正	正	正	正	
粗布	日英支其	日本品	590,316	488,774	432,493	488,330	490,773
		英國品	1,810	590	1,918	612	18,254
		米國品	8,031	322	17,551	9,480	—
		支那品	28,828	44,610	62,026	65,396	130,774
生金巾	日英支其	計	628,985	534,196	511,988	563,818	639,801
		日本品	154,735	122,370	207,329	269,525	269,270
		英國品	7,137	2,820	3,165	6,415	24,499
		米國品	255	—	130	—	—
晒金巾	日英支其	支那品	—	—	60	280	3,960
		計	162,127	125,190	410,684	276,220	297,729
		日本品	66,828	79,882	99,044	101,863	18,149
		英國品	11,615	8,284	11,446	14,909	20,515
雲齊布	日英支其	其他	90	455	494	52	240
		計	79,135	89,371	112,706	116,824	38,904
		日本品	161,407	139,908	184,635	77,634	166,340
		英國品	155	—	30	60	—
細綾木綿	日英支其	米國品	1,280	—	3,385	1,480	3,795
		支那品	5,270	7,311	5,715	8,470	10,080
		計	168,112	147,219	193,765	87,644	180,215
		日本品	255,302	294,695	297,530	307,022	502,339
細綾木綿	日英支其	英國品	4,325	3,870	9,690	12,360	41,410
		米國品	320	—	700	200	—
		支那品	1,120	3,240	3,361	—	—
		其他	—	—	—	—	—

天竺木細	日英支其	其他	80	—	—	—	—
		計	251,147	301,805	311,281	319,582	543,749
		日本品	18,791	13,542	20,074	24,198	27,785
		英國品	250	1,649	360	100	150
大尺布	日英支其	其他	19,041	15,191	20,434	24,298	27,935
		計	66,403,740	46,252,207	43,371,793	55,191,424	42,221,392
		日本品	2,348	4,061	5,061	6,135	5,450
		支那品	—	—	—	—	—

安東港

(附大東溝港)

- 一 安東港貿易概況
- 二 輸入
- 三 輸出
- 四 出入船舶
- 五 商況
- 六 安東柞蠶業
- 七 鴨綠江材
- 八 鴨綠江ノ水運
- 九 多獅島築港問題
- 十 雜
- 十一 大東溝港

一 安東港貿易概況

大正十年安東港輸移出入品貿易價額ヲ見ルニ 65,294,469 海關兩テ前年ノ 63,206,049 海關兩ニ比較スレハ 2,088,420 海關兩ノ増加テアル今之ヲ輸出入別ニ見レハ輸移入ハ本年 36,029,926 海關兩テ前年ノ 37,052,068 海關兩ニ比シ 1,022,142 海關兩ノ減少テアルカ輸移出ハ本年 29,264,543 海關兩テ前年 26,153,981 ノ海關兩ニ比シ 3,110,562 海關兩ノ増加ヲ來シテ居ル故ニ結局前記ノ増加ヲ見ルニ至ツタノテアル輸移入ノ減少ハ當年銀價下落ニ基ク購買力ノ減少ニ依ルモノテ主トシテ日本ヨリノ輸入品カ減少シテ居ル反之輸移出ノ増加ハ主トシテ日本ヘノ柞蠶絲ノ輸出増加ニ依ルモノテ勿論當年柞蠶絲ノ價格騰貴セルハ輸出價額ノ上ニ非常ナル増額ヲ來タツタカ數量ニ於テモ亦十割以上増加シテ居ルノテアル
今當年ト前年トノ日本金貨對海關兩ノ平均相場ニ依ル金換算貿易額ヲ舉クレハ下ノ如シ

	輸移出入貿易額	内	
		輸移入額	輸移出額
大正九年	150,430,397	88,183,922	62,246,475
大正十年	102,512,316	56,566,984	45,945,332
前年トノ比較	47,918,081	31,616,938	16,301,143

此金換算ノ貿易額ヨリ見ルトキハ輸移出入總額ニ於テハ三割一分ノ減額ヲ輸移入額ハ三割六分輸移出額ハ二割六分共ニ減額ヲ來タシタ事ニ

ナルノテアル

安東ノ貿易經路ニ二ツアル一ハ鐵道ニ依ル陸路貿易他ハ汽船ニ依ル水路貿易テアル陸路貿易ハ對日本及朝鮮貿易ノ大部分ヲ占メ支那稅關輸出入關稅三分ノ一減稅ノ特點アルヲ以テ輕量高價品ハ全部本經路ニ依リ又鴨綠江結氷中ハ何品ニ拘ラス本經路ニ依ル外貨物ノ出入不能テアル故ニ陸路貿易ハ常ニ全貿易額ノ七八割ヲ占メテ居ル次ニ水路貿易ハ重量安價品及對支那諸港間ノ汽船ニ依ル經路テ昨今海運界不況ニ基ク汽船運賃ノ下落ハ牽ヒテ船舶ノ來港ヲ促シ本經路ニ依ル對日本貿易モ旺シニナツテ來タ

當年ノ安東對朝鮮鐵道ニ依ル陸路貿易價額ヲ見ルニ 45,335,278 海關兩テ前年ニ比較スレハ 2,884,094 海關兩ノ減少テアル今之ヲ輸移出入別ニ見レハ輸移入ハ本年 27,440,318 海關兩テ前年ニ比シ 2,931,534 海關兩ノ減少テ輸移出ハ本年 17,894,960 海關兩テ前年ニ比シ僅ニ 47,440 海關兩ノ増加テアル

如斯當年ノ陸路貿易カ前年ニ比較シ一般ニ不況ニ陥ツタノハ日本財界不況ノ結果テ之ヲ金換算貿易額ニ依リ見レハ一層其ノ不振ナリシ事カ明ラカテアル次ニ當年ト昨年トノ金貨貿易額ニ依ル陸路貿易ヲ對照スレハ下ノ如シ

	輸移出入貿易額	内	
		輸移入額	輸移出額
大正九年	114,762,105	72,285,008	42,477,097
大正十年	71,176,386	43,081,299	28,095,087
前年トノ比較	(減) 43,585,719	(減) 29,203,709	(減) 14,382,010

此金換算ノ貿易額ヨリ見ルトキハ輸移出入總額ニ於テハ三割七分ノ減額ヲ輸移入額ハ四割一分輸移出額ハ三割三分共ニ減額ヲ來タシタ事ニナルノテアル

今輸移入品ノ主ナルモノヲ順位ニ列舉スレハ下ノ如シ

綿織物	16,798,435	皮革毛骨角牙類	537,198
綿織絲	4,961,012	木材	529,079
機械器具	1,760,364	砂糖	497,956

麥粉	942,999	酒類及其他飲料	481,942
紙類	845,373	石油	438,050
米	833,361	水產物	391,803
衣服及附屬品	776,953	棉花	374,500
煙草	570,091	鐵及鋼	352,038

次ニ輸移出品ノ主ナルモノヲ順位ニ列舉スレハ下ノ如シ

柞蠶絲	10,942,680	繭	852,596
豆粕	5,420,517	麥粉	433,640
木材	4,582,869	層絹絲	426,265
石炭及「ゴークス」	2,347,846	玉蜀黍	424,640

最後ニ安東對國別貿易額ヲ舉クレハ下ノ如シ

對 手 國	總 額	内 譯	
		輸 移 入 額	輸 移 出 額
日 本	39,082,126	24,458,884	14,623,242
朝 鮮	12,494,618	4,767,481	7,727,137
支 那	13,717,725	6,803,561	6,914,164

上表ヲ見ルニ日本ハ首位ヲ占メ朝鮮支那ノ順位テアル

最近五箇年間安東港對日本輸出入品價額累年比較表ヲ示セハ下ノ如シ

安東港對日本輸出入品價額累年比較

單位 (海關兩)

		大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	前年トノ比較増減
貿 易 額	輸 入						
	日本ヨリ輸入額	25,203,138	18,612,004	27,129,888	27,218,192	24,458,884	(-)A 2,759,308
	其他諸國ヨリ輸入額	5,321,981	6,959,128	9,814,030	9,833,876	11,571,042	(+)B 1,737,166
	計	30,525,119	25,271,132	36,943,918	37,052,068	36,029,926	(-) 1,022,142
	輸 出						
	日本へ輸出額	5,106,254	4,804,707	9,172,102	6,446,484	14,365,725	(+)C 7,919,242
	其他諸國へ輸出額	7,646,126	10,821,151	16,264,334	18,672,082	13,903,811	(-)D 4,768,271
	計	12,752,380	15,625,858	25,436,436	25,118,566	28,269,537	(+) 3,150,971
	仲 繼 貿 易						
	日本へ再輸出額	115,403	213,993	285,027	476,898	257,516	(-) 219,382
	其他諸國へ再輸出額	294,780	523,859	722,701	558,517	737,490	(+) 178,973
	計	410,183	737,852	1,007,728	1,035,415	995,006	(-) 40,409
	總 額						
	對 日 本	39,424,705	23,630,704	36,587,017	34,141,574	39,082,126	(+) 4,940,552
	對 其 他 諸 國	13,262,887	18,004,138	26,801,065	29,064,475	20,212,343	(-) 2,852,132
	計	43,687,682	41,634,842	63,388,082	63,206,049	65,294,469	(+) 2,088,420
百 分 比	輸 入						
	對 日 本	82	73	73	73	67	—
	對 其 他 諸 國	18	27	27	27	33	—
	輸 出						
	對 日 本	39	31	36	26	49	—
	對 其 他 諸 國	61	69	64	74	51	—
	總 貿 易	69	56	57	53	59	—
	對 其 他 諸 國	31	44	43	47	41	—

- 備考 A. 日本ヨリ綿織物ノ輸入減少ニ據ル
 B. 朝鮮ヨリ機關車及米、上海其他支那諸港ヨリ歐米品及支那品ノ輸入増加ニ據ル
 C. 日本ノ柞蠶絲及豆粕ノ輸出増加ニ據ル
 D. 朝鮮へ粟及石炭ノ輸出減少ニ據ル

二 輸 入

大正十年ノ輸移入品總額ハ 36,029,926 海關兩テ前年ニ比較スレハ1,022,1442 海關兩減少シタ之レ支那品ノ移入増加シタルニ反シテ外國品ノ輸移入額カ1,562,712海關兩減退シタニ依ルモノテアル本年減少シタル主ナルモノハ棉織物、水產物、其他金屬(主トシテ銅塊及錠ノ激減)麻袋及其ノ他袋類其ノ他雜品等テ増加ヲ示シタモノハ綿織絲、麥粉、砂糖、石油(數量ハ減少)機械器具、紙類等カ主ナルモノテアル

今本年ノ主ナル輸移入品ヲ前年ト對照シテ見レハ下ノ如シ

綿織物本年ノ輸移入額ハ 16,792,435 海關兩テ本品ハ常ニ輸移入品中ノ首位ヲ占メテ居ルカ前年ト比ヘテ229萬餘海關兩ノ大減少テアル之レ日本ヨリノ大尺布類ノ輸入激減ニ依ルモノテ支那製綿織物ハ反之年々移入額増加ヲ示シテ居ル日本大尺布ノ輸入減ハ前年入荷品過剩ノ上ニ本年銀相場ノ暴落、綿絲ノ供給潤澤等ノ諸因ニ歸シ殊ニ上海物ノ粗布大尺布丈布ノ格安ニ移入サレシ爲メ同種ノ日本品ノ賣行ニ大ナル脅威ヲ與ヘタ今當地輸移入綿織物中ノ主ナルモノノ數量ヲ前年ト對照セハ下ノ如クテアル

		大正九年 ^匹	大正十年 ^匹
粗 布	日 本	449,162	490,690
	朝 鮮	39,168	43
	支 那	75,488	149,028
生 金 巾	日 本	265,245	268,170
	朝 鮮	12,780	1,100
	支 那	7,195	24,499
晒 金 巾	日 本	73,084	14,340
	朝 鮮	28,779	3,569
	支 那	14,961	20,755

雲齊布	{	日 本	77,634	166,336
		朝 鮮	—	4
		支 那	10,010	3,795
シ ー ン ス	{	日 本	299,141	502,157
		朝 鮮	11	182
		支 那	20,430	41,410
天竺布	{	日 本	23,091	25,077
		朝 鮮	1,107	—
		支 那	100	200
大 尺 布	{	日 本	54,961,964	42,206,992
		朝 鮮	229,460	14,400
		支 那	6,135	5,450

綿絲 本年綿絲輸移入額ハ綿縫絲81,081海關兩綿織絲4,961,012海關兩テ前年ニ比シテ前者ハ一萬餘海關兩減少シタカ後者ハ 1,921,441 海關兩ノ増加テアル之レ日本ヨリノ輸入前年ノ 34,773 擔ヨリ本年100,392擔ニ激增シタ爲テ年々増加ヲ示シテ居ル今綿織絲ノ輸移入數量ヲ前年ト比較セハ下ノ如クテアル

		大正九年 擔	大正十年 擔
日 本		34,773	100,392
朝 鮮		833	308
支 那(外國品)		445	147
同 (支 那 品)		1,181	1,956
計		37,232	102,808

衣服及附屬品 本年ノ輸移入額ハ 776,953 海關兩テ前年ト較ヘテ七萬餘海關兩ノ減少テアル其ノ仕出國別ヲ見ルニ下ノ如クテアル

		大正九年 海關兩	大正十年 海關兩
日 本		812,917	733,957
朝 鮮		28,123	24,126
支 那(外國品)		122	212
同 (支 那 品)		13,900	18,658
計		855,062	776,953

米 本年ノ輸移入額ハ 168,955 擔 833,361 海關兩テ前年ト比較シテ一萬六

千餘擔七萬餘海關兩ノ減少テアル之レ滿洲米收穫漸増ノ結果テ本年日本内地ハ米價下落シ從ツテ朝鮮米ノ滿洲輸入ヲ増シ支那米ノ移入減少ヲ來タシタ其ノ輸移入數量ヲ前年ト對照スレハ下ノ如クテアル

		大正九年 擔	大正十年 擔
日 本		60	309
朝 鮮		71,824	133,192
支 那		113,677	35,454
計		185,561	168,955

麥粉 本年ノ輸移入額ハ 203,554 擔 942,999 海關兩テ前年ニ比シテ 9 萬餘擔 44 萬餘海關兩ノ増加テアル之レ支那品(上海物)ノ移入増加ニ依ル爲メテ日本及朝鮮ヨリノ輸入ハ本年減少シタ即チ

		大正九年 擔	大正十年 擔
日 本		7,325	5,079
朝 鮮		1,467	459
支 那(支 那 品)		104,119	198,016
計		112,911	203,554

砂糖 本年ノ輸移入額ハ 50,620 擔 497,956 海關兩テ前年ト比較シテ 27 千餘擔 28 萬餘海關兩ノ増加ヲ示シタ輸入砂糖ノ大部分ハ外國品テ日本糖(臺灣糖)瓜哇糖カ主ナルモノテアル今砂糖ヲ品種別ニ掲ケテ前年ト對照シ仕出國別ニ示セハ下ノ如クテアル

		大正九年 擔	大正十年 擔
赤 砂 糖	{ 日 本	—	—
	{ 支 那	6,806	8,766
白 砂 糖	{ 日 本	3,599	4,283
	{ 支 那	4,670	16,268
精 製 糖	{ 日 本	2,633	4,040
	{ 支 那	3,820	13,419
氷 砂 糖	{ 日 本	747	1,941
	{ 朝 鮮	—	165
	{ 支 那	463	1,733

煙草 本年ノ輸移入額ハ 570,091 海關兩テ前年ニ比シテ 5 萬餘海關兩ノ減少テアル之レ朝鮮ヨリノ輸入減退ニ依ルカ上海ヲ通シテ輸入サルル歐米品ハ前年ヨリ増加ヲ示シテ居ル當港ニ輸移入サルル煙草ハ紙卷煙草

及葉煙草カ主ナルモノテ其數量ヲ示セハ下ノ如クテアル

		大正九年 千本	大正十年 千本
紙卷煙草	日本	30	12
	朝鮮	121,020	52,043
	支那	49,364	77,473
葉卷煙草	支那	37 擔	12 擔
	日本	—	327
葉煙草	日本	—	327
	朝鮮	5,170	1,716
	支那	1,760	2,785

石油 本年ノ輸入額ハ 956,900 米噸、438,050 海關兩テ前年ト比較シテ數量ハ 26 萬餘米噸減少シタカ價額ハ 10 萬餘海關兩ノ増加ヲ示シタ米國油スマトラ油ハ品質良好價格割安テ日本油ハ常ニ壓迫サレテ居ツタカ本年ハ前二者ノ輸入不振ニ反シテ日本油ハ活躍ヲ示シタ其輸入額ヲ前年ト對照スレハ下ノ如クテアル

		大正九年 米噸	大正十年 米噸
日本		504,150	756,900
朝鮮		500	—
英領海峽殖民地		336,920	—
支那		380,005	200,000
計		1,221,575	956,900

機械器具 本年ノ輸入額ハ 1,760,364 海關兩テ前年ノ 547,485 海關兩ニ比シテ 121 萬餘海關兩ノ激増テアル之レ本年朝鮮ヨリ機關車輸入ノ激増ニ依ル前年ト其輸入額ヲ對照スレハ下ノ如クテアル

		大正九年 海關兩	大正十年 海關兩
日本		396,794	292,930
朝鮮		139,610	1,454,708
支那		11,081	12,726
計		547,485	1,760,364

木材 本年ノ輸入額ハ 529,079 海關兩テ前年ニ比シ 5 萬餘海關兩ノ減少テアル本品ハ主トシテ朝鮮材ノ輸入テ前年ノ 58 萬海關兩カ本年ハ 52 萬海關兩ニ減少シタ

皮革毛骨角牙類 本年ノ輸入額ハ 537,198 海關兩テ前年ト比較シテ 3 萬餘海關兩ノ増加テアル主トシテ朝鮮ヨリノ皮革カ大部分ヲ占メテ居

ル

紙類 本年ノ輸入額ハ 845,373 海關兩テ前年ト較ヘテ 14 萬餘海關兩ノ増加テアル外國紙ノ逐年輸入減退スルニ反シテ支那紙ノ移入ハ益々進展ヲ示シテ居ル今外國紙ト支那紙トニ分チ輸入額ヲ掲クレハ下ノ如クテアル

		大正九年 海關兩	大正十年 海關兩
外國紙	日本	265,752	348,179
	朝鮮	124,150	83,768
	支那	6,197	10,943
支那紙	支那	308,095	402,483
計		704,194	845,373

次ニ輸入仕出國別ニ前年ト比較スレハ下ノ如クテアル

		輸移入額 海關兩	前年トノ増減額	減	增	海關兩
日本		24,458,884		減		2,759,308
朝鮮		4,767,481		增		374,605
支那(沿岸貿易)		6,803,561		增		1,430,297

日本ノ前年ニ比シテ 275 萬餘海關兩ノ減少ハ

綿織物	268 萬	其他金屬	133 萬	麻袋及其他袋類	29 萬	毛及毛織交織物	28 萬
機械器具	10 萬	衣服及附屬品	8 萬	野菜及果物	8 萬	雜品	22 萬

等カ主ナル減少テ反之本年増加シタルモノハ

綿織絲	197 萬	石油	17 萬	藥品及藥材	8 萬	紙類	2 萬
砂	6 萬	小包郵便物	11 萬				

等テ結局上記ノ減額トナル

朝鮮ノ本年増加セルモノハ

機械器具	131 萬	米	24 萬	鐵道材料	9 萬		
------	-------	---	------	------	-----	--	--

等テ減少セルモノハ下ノ如キモノテ大體上記ノ増額トナル

綿織物	61 萬	水產物	10 萬	煙草	8 萬	鐵及鋼	8 萬
木材	6 萬	綿織絲	5 萬	雜品	5 萬		

支那ノ増加セルモノハ

綿織物	100 萬	麥粉	45 萬	砂	21 萬		
-----	-------	----	------	---	------	--	--

等テ減少セルモノハ

米	32 萬	其他穀物及種子	15 萬	繭蠶絲及絹製品	13 萬	紙類	9 萬
鐵及鋼	6 萬	水產物	5 萬	雜品	6 萬		

等テ大體ニ於テ差引キ前記ノ増額トナル

三 輸 出

大正十年ノ輸移出品總額ハ 29,264,543 海關兩(再輸移出額ヲ含ム)テ前年ニ比較スレハ 3,110,562 海關兩ノ増加テアル、之レ支那品ノ外國及支那諸港ヘノ輸移出額増加ニ依ルモノニシテ外國ヘハ前年ヨリ 2,243,752 海關兩増加シテ本年 21,376,018 海關兩トナリ支那諸港ヘハ前年ヨリ 907,219 海關兩増加シテ本年ハ 6,893,519 海關兩トナツタ反之外國品ノ再輸移出額ハ本年 935,947 海關兩テ前年ヨリ 9,559 海關兩ノ減少テアル支那品ノ再輸移出額モ前年ヨリ 30,850 海關兩減少シテ本年ハ 59,059 海關兩トナツタ本年輸移出増加シタルモノハ豆粕、繭、柞蠶絲、木材等ヲ減少ヲ示シタ主ナルモノハ大豆、高粱、粟、煙草、石炭及「コークス」等テアル今當港ニ於ケル主ナル輸移出品ニ就キ前年ト比較對照スレハ下ノ如クテアル

粟 大正八年以來一百万擔以上ヲ輸移出シテ居ツタ本品ハ本年ハ僅ニ 124,623 擔、373,869 海關兩テ前年ノ 1,305,889 擔、4,347,137 海關兩ニ比シテ 118 萬餘擔 967 萬餘海關兩ノ大減少テアル主トシテ朝鮮ニ仕向ケラルルノテ前年ノ 1,205,077 擔カ本年ハ僅ニ 120,238 擔ニ過キナイ、之レ前年朝鮮地方ニ於ケル米作カ比較的豊作テアツタノト北支那饑饉地方ニ對シテ滿洲産粟カ多額ニ送ラレタニ依ルノテアル

豆粕 本年ノ輸移出額ハ 2,168,207 擔、5,420,517 海關兩テ前年ニ比較シテ 66 千餘擔 325 萬餘海關兩ノ増加テアル而シテ其過半ハ日本ニ仕向ケラルルノテアツテ前年ノ 875,904 擔カ本年ハ 1,302,514 擔ニ激増シタ之レ日本農家カ豆粕肥料ノ價值ヲ認ムルニ從ツテ需要旺盛トナリ其上大連ニ於ケル建値問題ノ影響ハ買注文急激ニ殺到シタル爲メ一時ハ當市場モ原料大豆ノ拂底ニ現物皆無トナツタ此外朝鮮ヘ 231,529 擔支那諸港(主トシテ汕頭、上海)ヘ 634,164 擔仕向ケラレタ

繭 本年輸移出額ハ 35,873 擔、852,596 海關兩テ前年ヨリ 2 萬餘擔 27 萬餘海關兩ノ増加ヲ示シタ而シテ日本ヘ 216 擔仕向ケラレタ殘額ハ支那諸港向テ芝罘カ大部分ヲ占メテアル從來芝罘ノ柞蠶業ハ安東ヨリ原料繭ノ供

給ヲ仰イテ居ツタ關係上今尙安東ハ原料繭ノ供給地テアルカ安東ノ柞蠶業ノ發達ト共ニ芝罘ノ柞蠶業ハ大打撃ヲ蒙ツテ居ル

柞蠶絲 本年ノ輸移出額ハ 20,760 擔、10,942,680 海關兩テ前年ニ比較シテ 8 千餘擔、701 萬餘海關兩ノ激増テアル之レ安東ニ於ケル斯業ノ異常ナル發展ヲ指示スルモノテ別項ニ記シタ如ク芝罘ノ販路ハ年々安東ニ奪ハレル有様テアル主トシテ日本(福井及岐阜縣)ニ仕向ケラレ其額前年ノ 9,442 擔ニ對シテ本年ハ 19,461 擔ニ増加シタ

木材 本年ノ輸移出額ハ 4,582,869 海關兩テ前年ニ比較シテ 163 萬餘海關兩ノ激増ニアリ逐年鴨綠江材販路ノ擴張ヲ示シテ居ル鴨綠江材ノ仕向先ハ天津、芝罘、青島等支那諸港ヲ主トシテ朝鮮ハ前年ヨリ十二割増加シテ 2 百萬海關兩ニ達セントシタ日本ハ前年ニ比シ幾分増加シタカ内地材及米國材ノ壓迫ニ依リ矢張り少額ニ過キナイ今前年ト比較シテ仕向先別ニ掲クレハ下ノ如クテアル

仕 向 國		大 正 九 年 海關兩	大 正 十 年 海關兩
日 本	本 國	10,115	104,552
朝 鮮	支 那 諸 港	865,006	1,935,712
支 那 諸 港	計	2,070,512	2,542,605
		2,945,633	4,582,869

本年ニ於ケル輸移出木材ヲ材種別ニ示セハ次ノ如クテアル(價額一海關兩)

材 種 別	數量單位	日 本 向		朝 鮮 向		支 那 諸 港 向		計		
		數 量	價 額	數 量	價 額	數 量	價 額	數 量	價 額	
梁硬材	八 尺 物	立方尺	11,208	5,604	18,576	9,288	12,325	53,207	19,359	68,099
同	十六尺物	"	14,618	7,309	37,678	18,839	11,566	96,163	16,579	122,311
同	二十四尺物	"	1,134	567	32,938	16,469	5,235	67,823	7,116	84,859
同	三十二尺物	"	—	—	1,798	899	577	10,287	644	11,186
同	四十尺物	"	—	—	188	94	—	—	188	94
板 硬 材	硬 材	"	184	111	117,808	70,684	40	23	143,113	70,818
柱 硬 材	硬 材	"	—	—	17	45	15	34	32	79
梁軟材	八 尺 物	平方尺	42,240	2,112	869,860	43,493	101,946	344,935	120,812	390,540
同	十六尺物	"	22,060	1,103	3,031,440	151,572	166,545	1,166,884	204,567	1,319,559
同	二十四尺物	"	24,540	1,227	5,685,540	284,277	51,705	575,221	103,702	860,725
同	三十二尺物	"	—	—	466,680	23,334	5,694	83,987	8,287	107,321
同	四十尺物	"	—	—	838,360	19,418	981	9,799	2,730	29,217
條 板 軟 材	軟 材	"	130,300	6,515	495,980	24,799	2,549,315	17,945	3,175,595	49,259
板 軟 材	軟 材	"	3,453,570	77,331	46,347,185	1,067,552	853,076	23,204	50,653,831	1,165,087
柱 軟 材	軟 材	"	1,878	2,470	82,503	139,026	23,981	40,152	108,362	181,648
其 他 材	材	"	—	8	—	4,203	—	1,159	—	5,370
合 計	計	"	—	104,357	—	1,873,992	—	2,487,823	—	4,466,172

備考 計ニ於ケル數量ハ日本向、朝鮮向ノ立方尺及平方尺ヲ本數ニテ計算シタルニ依リ
内容ノ計ト合ハス

次ニ輸移出仕向國別ニ前年ト比較スレハ下ノ如クテアル

日 本	海關兩 14,623,242	前年トノ増減額	增	7,699,860
朝 鮮	7,727,137	"	減	5,471,812
支 那(沿那貿易)	6,914,164	"	增	882,514

日本ノ本年増加セル主ナルモノヲ掲クレハ

柞 蠶 絲	海關兩 710萬	其 他 豆 類	海關兩 11萬
豆 粕	98同	木 材	92同

等テ反之減少シタルモノハ次ノ如クテアル

大 豆	海關兩 13萬	皮 革	海關兩 5萬
屑 絹 絲	13同	外 國 品 再 輸 出	20同

朝鮮ノ減少ハ

粟	海關兩 372萬	豆 粕	海關兩 31萬
石 炭 及「コークス」	115同	大 豆	15同
高 粱	73同	其 他 豆 類	15同
煙 草	34同	小 麥	14同
玉 蜀 黍	33同	其 他 穀 物	11同

等テ増加ヲ示シタルモノハ下ノ如クテアル

木 材	海關兩 107萬	薪 及 木 炭	海關兩 6萬
胡 麻	20同	麥 粉	5同
金 屬 及 金 物	7同	外 國 品 再 輸 出	20同

支那ノ増加セルモノハ

豆 粕	海關兩 50萬	繭 玉 蜀 黍	海關兩 26萬
木 材	47同		15同

等カ主ナルモノテ本年減少シタルモノハ下ノ如クテアル

粟	海關兩 20萬	屑 絹 絲	海關兩 9萬
大 豆	10同	石 炭 及「コークス」	6同
柞 蠶 絲	9同		

四 出入船舶

本年ノ一般航行章程ニ依ル出入船舶ハ合計1,354隻 697,617噸(登簿噸數)ニ

テ前年ニ比較シ248隻 276,805噸ノ増加テアル前年ノ一隻平均噸數380噸カ
本年ハ515噸ヲ示スハ安東貿易ノ逐年ノ進展ニ伴フノテアルカ歐戰後海
運界船舶過剩ノ結果ニ依ルモノテ其増加數ヲ國籍別ニ舉クレハ日本船
214隻、226,279噸、英吉利船14隻13,130噸、支那船30隻45,006噸テアル日本船カ
常ニ優位置ヲ占メ就中外國貿易ニ於テ殆ント獨占シテ居ルハ地理的關係
ニ依ルノテアル支那船ハ日本船ニ亞キ英吉利船ハ第三位テアル而シ
テ大正六年カラ見レハ英吉利船ハ隻數ニテ二倍シ噸數ニテ三倍シテ居
ル前年10隻7,610噸ヲ計上シタ諾威船ハ本年皆無トナツタ

内水航行章程ニ依ル汽船ノ出入ハ合計566隻 111,051噸テ前年ニ比シ隻數
テハ140隻激少シタカ噸數テハ8,818噸増加シタ之レ日本船58隻8,224噸減
少シ英吉利船隻數22隻増加シタカ噸數テハ592噸減少シ支那船ハ隻數104
隻減少ツタカ噸數テハ23,145噸増加シタ爲メテアル

今過去五箇年間ノ出入船舶ヲ一般航行章程ニ依ルモノト内水航行章程
ニ依ルモノトニ分チテ掲クレハ下ノ如クテアル

一般航行章程ニ依ル累年出入船舶

年 次	汽 船		西洋型帆船其他		合 計	
	隻 數	噸 數	隻 數	噸 數	隻 數	噸 數
大 正 六 年	302	186,290	896	26,616	1,198	212,906
同 七 年	402	208,692	632	21,388	1,034	230,080
同 八 年	674	388,554	722	22,546	1,396	411,100
同 九 年	586	408,836	520	11,976	1,106	420,812
同 十 年	884	686,811	470	10,806	1,354	697,617

内水航行章程ニ依ル累年出入船舶

年 次	英吉利船		日 本 船		支 那 船		合 計	
	隻 數	噸 數	隻 數	噸 數	隻 數	噸 數	隻 數	噸 數
大 正 六 年	—	—	326	54,986	62	19,010	388	73,996
同 七 年	—	—	172	40,478	260	41,170	432	81,648
同 八 年	—	—	180	45,692	142	27,048	322	72,740
同 九 年	256	8,632	68	16,264	382	77,337	706	102,233
同 十 年	278	8,040	10	2,529	278	100,482	566	111,051

五 商 況

一月。豆粕ハ米價ノ低落ノ影響ト神戸東京ニ於ケル豆粕相場カ滿洲相

場ヨリ割安テ尙先安ノ豫想ニテ買氣殆ント皆無テ安保合ノ儘越月シタ
木材モ一般財界不況金融梗塞ノ爲メ涉々シキ取引ナク僅ニ朝鮮官營工
事材料トシテ製材ノ買注文アリ原木モ之ニ伴ヒ月末迄ニ約二萬連ノ取
引ヲ見タ取引先ハ殆ト日本人テ而モ朝鮮方面ノミテ舊正月前トテ支那
側ノ需要少シモ起ラス又銀安ノ爲メ相場モ下押一方テ氣配ハ軟弱テア
ツタ柞蠶絲ノミハ稍好況テ繭モ舊正月前ノ事トテ賣急品現ハレ強含ミ
ナカラ格安モノヲ得ラレ各工場モ弗々ナカラ製絲ヲ開始スル事トナツ
タ其後漸次買氣現ハレ殊ニ日本機業地ハ從來品薄ニテ休止ノ状態ニア
ツタカ米國ヨリ爲替關係其他絹紬在庫品ノ減少等ニヨリ多少ノ買崩シ
アリ旁々日本機業地ヨリ當地ニ向ケ買注文殺到シ來リ一月中ニ於ケル
取引高ハ一千七百捆ノ多キニ達シタ前年來暴落一方テアツタ綿絲布界
ハ越年後ハ春高見越ニ多少好化スルト思ハレタカ銀塊米綿ノ續落ノ上
ニ金融梗塞シ舊正月ニ差迫ツタニモ不拘支那人ノ購買力乏シク取引皆
無ノ状態テ當地輸入商ハ前途暗膽タルト尙先安ヲ見越シ仕入ヲ控ヘ市
況ハ至極閑散極裡ニ越月シタ

二月。豆粕ハ内地相場ト不引合ノ關係上商談ナク製造業者トテモ既ニ
相場ハ底値ニテ換算上此上ノ安値ニテハ手放サレス且出廻リ大豆モ不
足勝故製造ヲ手控ヘタ木材モ未タ活況ヲ呈スルニ至ラス唯朝鮮向木材
相當ニ賣行アリ主トシテ群山大邱平壤湖南線釜山方面ニ仕向ケラレタ
柞蠶絲ハ内地生絲市況持直シト引續キ米國方面ヨリノ絹紬織物買氣旺
盛ナルト尙又爲替相場順次好調ニ向ヒタル等ノ爲メ近來稀ナル買煽ノ
商狀ヲ示シ現物ハ勿論手近カノ先物ニ至ル迄殆ト買盡サレルノ盛況テ
原料繭モ現物薄ニテ絲價ト共ニ漸次昇騰シタ綿絲布ハ不相變地方ヨリ
ノ買注文ナク舊正後ハ尙一層ノ閑散ニテ下旬ニ入リテハ銀相場ノ近年
ニナキ安値ヲ現シ且米綿安及對支爲替ノ不利等ノ爲メ相場ハ下押一方
テ支那買筋モ先安ヲ見越シ買控ヘ商談少シモナク依然不況裡ニ越月シ
タ

三月。豆粕ハ原料大豆例年ニ比シ拂底ニテ相場モ意外ニ高値ヲ唱ヘ到
底内地ノ買注文ニ應スル能ハサル事情アリ取引至極閑散ニテ解氷期ヲ

控ヘ尙需要期間近カニ迫ツタカ輸出不振テ二月ニ比シ僅ニ三割方ノ増
加ヲ示シ十一萬擔餘ノ輸出ヲ見タ而シテ其ノ内七萬二千擔ハ南清向ニ
テ朝鮮ヘハ三萬一千擔日本ヘハ僅ニ七八千擔ニ過キナカツタ久シク不
振裡ニアツタ木材界ハ解氷期ノ近ツクト共ニ多少見直シ滿洲奧地及朝
鮮方面ニ輸送サレルモノ多ク殊ニ朝鮮ヘノ汽車ニ依ル發送高ハ三月中
百二十二車テ原木 6695 連、板材 246 萬平方尺ニ達シ前月ニ比シ格段ノ
増加ヲ示シタ柞蠶絲ハ本月ニ入リテモ相當荷動アツタカ銀相場ノ瓦落
途ニ百二十圓臺ニ至リシ爲日本需要筋モ同先安ノ念ニ壓セラレ買注文
モ茲ニ一頓坐ヲ來タシ且銀相場下落ニ斯品相場モ本廠品優等約十兩方
ノ下落ヲ見テ日本相場モ漸次下押トナツタカ之レ爲替關係ニ依ル事テ
賣物ハ依然品薄テ原料繭ノ如キモ意外ニ氣強ク日本ヨリノ注文モ弗々
アリ下旬ニ入リテハ四五日渡先物注文サヘ入り來リ再ヒ活氣ヲ呈シ前
途尙強氣配ヲ思ハシメタ前月來引續キ不況ナリシ綿絲布ハ銀相場ノ暴
落爲替ノ昂騰綿絲ノ供給潤澤等惡材料嵩シ買氣阻喪セシムル事夥シク
相場ハ大正八年ノ最高値ノ三分ノ一以下ノ新安値ヲ現出シタカ尙人氣
ハ副ハナカツタ下旬トナリ日本相場ノ低落ハ採算接近ヲ促シ更ニ銀價
ノ反撥ニ伴ヒ爲替關係ヲ有利ニ道キ期節ノ關係上支那側ノ需要ノ復活
ヲ促進シ滿洲一圓ヨリノ注文旺トナリ相當纏リタル賣行アリ相場モ多
少持直シタカ大ナル變動モナク越月シタ

四月。豆粕ハ初旬ハ朝鮮向ノ移動少シ許リデアツタカ中旬ニ至ツテハ
需要季ニ入リシ事トテ日本ヨリノ注文弗々入り來リ次ニ日本米價高ニ
相場モ余程氣直リノ呈ニテ下旬ニ入リ大連ニ金建問題勃發シ其ノ影響
ヲ受ケ内地ヨリノ買注文ハ急激ニ殺到シ現物ハ一掃セラレルト共ニ先
物契約迄行ハレ市場ハ活況ヲ呈シ日本ヘノ輸出モ四日末頃迄ハ六十萬
枚位ノ出荷ヲ見テ昨年ニ比較スレハ二割方ノ増加ヲ益々氣配硬化ノ傾
ヲ示シタ從來至極閑散テアツタ木材モ本月ニ至リ實需要季節ニ入リタ
ル爲相場ハ兎モ角モ荷動キハ可成盛トナリ朝鮮方面ヘハ百二十七車ノ
輸出ヲ見タ原木ハ南支ヨリ注文一向ニ振ハサル爲荷動キ尠ク支那財界
ノ不振ト米國材ノ浸入等ニヨリ鴨綠江材ハ少カラス打擊ヲ受ケタ柞蠶

絲ハ不相變遂日ノ活況ニテ日本トノ取引盛テ相場モ從テ氣強ク現物ハ次第ニ拂底トナリ五月末迄ノ先物取引ハ行ハレタ、下旬ニ入り内地絹紬製産過剩ニテ相場ハ反落シタカ當地ハ原料繭ノ殘荷モ少ナク製品モ先物取引ヲ行ヒタル爲メ大ナル影響モナク最早原料薄ニ操業中止秋季繭ノ出廻リヲ待ツ有様テアツタ綿絲布モ内外需要次第ニ喚起セラレ解氷ト共ニ奧地從來買控手筋カ買進ミ又豆粕市場ノ取引盛シニ一般穀價上騰支那人ノ購買力モ多少恢復シ買氣ヲ刺激スルコトトナリ氣配好調取引比較的盛ニシテ月先尙強氣配ニテ越月シタ

五月。建値問題ニヨル大連取引所ノ立會休止ハ大連及其他ノ豆粕製造手控トナリ其結果日本相場ノ暴騰ヲ促シ勢ヒ註文ハ當地ニ殺到シ中旬迄ニ當地輸出額五十萬枚ニ達シ相場ハ新高値ヲ現シ當業者ハ賣惜ミ現物ノ品薄及銀高ト共ニ益々昂騰ヲ呼ンタカ下旬ニハ大連市場支那商側ノ軟化ニ不勢ヲ呈シ相場ハ亂調ニ陥ツタ木材ハ新義州營林廠ノ値下ニヨル材價ノ低落ト滿洲奧地ハ吉林材ニ壓セラレ商内更ニナカツタカ原木ハ本月ニ入り昨年流下不能ノモノ著筏中旬迄ニ一千臺ヲ突破シ其輸移出モ南支向ノモノ俄ニ激增シタ柞蠶絲ハ日本ノ滯貨ト共ニ取引不振ニテ唯上海方面ノ手合弗々アルモ大勢ハ依然軟弱テ下旬ニ入りテ益下押傾向トナツタ前月來好況ナル綿絲布ハ本月ニ入りテモ初旬ハ引續キ活躍ヲ呈シタカ中下旬ニ入り必需口ノ註文一段落ト共ニ銀相場ノ軟弱爲替ノ不利等ノ爲メ又モヤ一頓坐ヲ來シ取引不振トナツタ

六月。豆粕ハ日本ニ於ケル品不足ノ爲メ買註文弗々アリ從前ヨリノ註文ト相俟ツテ輸出頗ル盛テ本月中日本ヘノ輸出ハ七十萬枚ヲ超過シ南支ニモ荷物多ク當港トシテ未曾有ノ般賑ヲ見タカ中旬後ニ入りテ日本需要ハ一巡ノ模様テ先物註文ノ如キハ著シク減退シ相場ハ漸落步調ヲ辿ツタ木材ハ本年ハ鴨綠江水量豊富ノ爲メ採木公司ノ流筏順調ニ行ハレシモ財界不況ノ折柄トテ取引不振ヲ極ハメ天津朝鮮方面ニ對シ弗々荷動キアリタルノミ柞滯絲ハ品薄ニテ支那商ノ賣惜ミスル向モアリ相場ハ昂騰シタカ月末日本絲相場ノ惡化ニ連レ本品モ取引鈍狀ヲ呈シタ綿絲布ハ日本市價昂騰ノ爲メ一般買氣ヲ減殺セシメ輸入ハ前月ニ比シ

激減シ生金中ノ如キハ五月輸入高ノ七分ノ一ニモ足リナイ
七月。豆粕ハ月初以來大豆豆油市場ノ好調ニ連レ上向狀態ヲ呈シ殊ニ山東地方ヨリノ註文入り來リ支商側ノ買進ミ多キモ日本側ハ追肥期ニ不拘需要殆トナク相場モ下落ヲ見タカ支商側ノ買氣依然旺盛ニテ且下旬ニ入りテハ日本ヨリノ秋肥引合モ相當ニ行ハレ相場モ多少持直シ弱氣配ナカラ持合裡ニ越月シタ、木材ハ月初上流地方一時江水渴涸ノ爲メ流下材減少ヲ來シタカ夫ニモ不拘著筏ハ矢張順調ニテ中旬ノ雨季ニ入ルト共ニ益々多ク本年度ノ累計五千七百餘臺ニ達シ内三千二百餘臺ハ既ニ上海天津山東及日本鮮滿各地ニ輸移出セラレタ、當地木材商ハ唯管金利ノ補填、原木代金ノ償却ニ吸々トシ加フルニ鴨綠江材ノ日本ニ於ケル價值ハ價格ニ於テ米材ノ敵ニアラス奧地ニアリテハ質ニ於テ吉林材ニ及ハサルモノアリ前途俄カニ樂觀ヲ許サヌノテアル又柞蠶絲ハ絲商側ノ思惑買ニ海外ヨリノ需要添ハス且日本輸出絹紬ノ市價暴落ニ依リ市況著シク惡化シ一時取引絶無ノ狀態ニ陥ツタ品薄ニテ殘荷幾許モナキ爲メ相場ハ案外手堅ク中、下旬ニ入り上海方面ヨリノ買付ケモアリ品薄先高ヲ見越シノ買手續出シ益々相場ハ強氣配ヲ呈シタ綿絲布ハ月初滿鮮各地ヨリ買註文内地ニ發セラレルモノ多ク實需ノ大ニ動キ來リシ折柄米綿銀相場ノ昂騰ヲ見テ大阪市場ハ頗ル活氣ヲ呈シ而モ製品減少一方ナル爲メ相場ハ上騰シタカ中下旬ニ入りテハ夏枯期ト雨季ニヨル奧地ノ交通不便トハ大ニ需要ノ減退ヲ來タサシメ取引ハ又々閑散ニ陥リ市況鈍狀ノ儘越月シタ

八月。豆粕及木材モ目星シキ取引キナク流筏ハ本月二十三日ニハ八千臺ヲ突破シ當地開阜以來ノ記録ヲ作ツタ柞蠶絲ハ前月ニ於ケル取引盛況ノ後ヲ受ケテ在貨殆ント皆無ニ歸シ取引モ少ク相場ノミ高張リテ徒ニ睨合ノ姿ヲ呈シタ綿絲布引續キ前月ト同様ニ市場ノ氣配低迷ヲ呈シタカ下旬ニ至リ米綿ノ昂騰、雨季後ニ於ケル一般需要ノ喚起ニ市場モ餘程活氣付キ秋需ノ期待ニ俄然各地共買進ミノ模様ニテ氣配硬化ノ儘越月シタ當地方ニハ昨今上海物ノ粗布大尺布ノ輸入アリ其格安ナルハ同種日本品ノ賣行ニ大ナル脅威ヲ與ヘタ

九月。月初メニハ大シタ註文ナカッタ豆粕ハ中旬ニ入り米穀米綿高株式市況恢復等ニ伴ヒ内地ヨリノ註文續到シ輸出盛大ヲ極メ木材モ亦鮮内ノ需要ノ増加ニ連レ荷動キ漸ク多ク相場モ安定氣味テアリ柞蠶絲ハ品薄トテ現物取引ナク先物取引ノミハ内地絹紬界ノ活況ニ一二月迄ノモノ行ハレ氣配ノミハ益々硬化シタ綿絲布ハ米綿ノ不作其他諸般ノ事情ニ因リテ活況ヲ呈シ買人氣ハ著シク投機的氣分ヲモ見受ケ相場ハ昂騰ヲ示シ尙一般ニ高値期待ノ儘越月シタ

十月。豆粕ハ本月ニ入ルモ依然好勢テ内地ヨリノ註文モ伸々衰ヘス月末ニ期米ノ下落ト共ニ一服ノ姿ヲ呈シタカ結氷期ニ差迫リシ事トテ積出ハ依然盛テ商況多忙テアツタ木材モ日本朝鮮天津向ノ買氣ト銀高トニヨリ賣行好況ヲ呈シ一時悲觀サレタ滿洲與地ヨリノ需要サヘモ本月ニ入り一段ノ活氣ヲ呈シ荷捌ケ多ク本年當地持越材ハアマリ大ナラサル見込テアツタ柞蠶絲ハ先月來品薄銀高等ニ起因シテ氣配強調テアツタカ製品皆無ノ爲メ市況ハ至極閑散ニテ大シタ取引ナク綿絲布ハ月初メ前月來ノ強調ニ買氣ハ益々旺盛テ品物拂底ヲ告ケタカ中旬大阪市場ノ下落ニ下旬ニハ銀價下落米價ノ反落米綿實收増加等テ市況著シク惡化シ月末ニハ一段ノ不振裡ニ越月シタ

十一月。豆粕ハ月初メ取引至極閑散テ相場モ下押一方テアツタカ第二回米作發表ニヨリ意外ノ不作ヲ傳ヘラレ俄ニ買人氣起リ相場モ一躍ノ反騰ヲ示シ手持筋モ來春新高値ノ見越シ賣惜シミ中々氣配強硬テアツタ木材ハ相變ラス取引旺盛テ相場モ之ニ伴ヒ比較的好調テアツタ柞蠶絲ハ新繭出廻リ季トナツタカ山繭不作ニヨリ出廻リ以外ニ少ク絲價ハ依然高値ニテ取引ハ不振テアツタ、綿絲布モ同シク不況テ當用買ノ外思ハシキ商内ハナク唯月末ニ入り華商手持薄等ノ爲メ弗々ナカラ取引ヲ見タ

十二月。豆粕ハ原料大豆ノ出廻リ少キ爲メ油房ノ手持少ク取引拵々シカラサリシモ尙相場ハ底強キ氣配ヲ示シ尙朝鮮鐵道運賃改正ニ依ル高騰ニ加フルニ與地大豆ノ昂騰竝ニ銀高等ニテ輸出不引合ニテ市況頗ル閑散テ唯先約品ノ弗々荷動アリシノミテアツタ又木材ハ結氷期ノ爲メ

船便ニ由ル輸出不可能トナツタカ日本ノ需要依然旺盛ナル爲メ何レモ極力製材シ汽車ニテ積出シタカ寒氣ノ爲メ各製材工場トモ全能力ヲ發揮シ得サルノ觀カアツタ柞蠶絲ハ月初メ七百二十兩見當ノ相場テアツタカ品薄ニ加ヘ横濱生絲ノ暴騰ニヨリ期近物ハ一躍七百四十兩ニ飛上リ尙各店ハ品薄ト先高見込トニヨリ競テ買占メントシタ爲メ相場ハ引續キ上向步調ヲ示シ期末物ハ八百十兩ヲ唱ヘタ綿絲布ハ初旬與地ノ購買減退及氣溫高等ノ爲メ不相變不味テ閑散狀態ヲ呈シタカ月末ニ近キ銀價ノ好化來春ノ先高氣構ヘニ漸次市況恢復シ來春一二三月頃ノ先物取引旺盛トナリ氣配モ著シク硬調シ好勢裡ニ越年シタ

六 安東柞蠶業

柞蠶絲ハ支那重要輸出品テ大正九年其對外輸出額ハ七百萬海關兩ニ達シ其主タル產地ハ山東(芝罘)及滿洲(安東)テアル大正七年頃迄ハ芝罘ニ於ケル柞蠶製絲業ハ常ニ安東ノ製絲業ヲ壓迫シテ居ツタカ安東ハ水質製絲ニ適シ優秀ナル絲ヲ製造シ得ラルルト原料竝ニ消費地ニ接近セル爲メ遂ニ先進ノ芝罘ヲ凌クノ盛況ヲ呈シタ從來安東ハ繭ノ集散中心地ニシテ滿洲繭ノ四割ハ當地ニ集中サレ安東縣ハ勿論寬甸縣鳳凰城鴨綠江上流各地安奉線沿線地方ヲ其商業圈内ニ收メ同地方產繭ノ六割ハ繭ノ儘ニテ安東ニ送ラレ而シテ大需要地タル日本ヲ控ヘ居レハ安東柞蠶業ノ發達ハ自然ノ趨勢テアル今安東芝罘兩地ノ斯業ノ消長ヲ過去十五箇年間ニ互リ數字ニヨツテ示セハ下ノ如クテアル

安東芝罘ニ於ケル柞蠶絲輸出ノ消長

年次	安東		芝罘	
	數量	價額	數量	價額
明治四十年	3,500	641,762	7,648	2,492,294
同四十一年	9,148	1,550,549	11,816	2,749,630
同四十二年	6,507	1,361,347	14,034	5,480,839
同四十三年	3,773	733,882	12,508	4,251,421
同四十四年	5,040	1,101,314	12,193	3,408,487
大正元年	7,268	1,453,600	12,333	2,674,146

大正二年	5,837	1,109,030	13,076	3,546,901
同三年	3,793	567,124	8,344	2,044,677
同四年	14,990	1,349,924	18,159	4,359,038
同五年	4,314	658,645	10,310	3,640,753
同六年	5,008	1,429,078	9,095	3,442,912
同七年	9,057	2,344,660	12,494	4,122,053
同八年	17,477	5,098,948	11,583	4,188,324
同九年	11,922	3,925,195	6,249	2,612,571
同十年	20,760	10,942,680	11,301	6,762,004

上記ノ事情ニヨリ安東ニ於ケル柞蠶工場ハ大正三年以來逐年増設セラレ大正三年迄ハ工場數六(支那側)ヲ算スルノミテ其資本額モ五萬九千五百兩テアツタカ最盛時ノ大正九年ニハ工場數六十三資本額五十八萬五千餘兩ノ多キニ達シタ然ルニ世界的財界不況ニ最大需要地タル日本ハ生絲市價ノ暴落ニ連レ柞蠶絲ノ需要大減退ヲ來シ遂ニ九年末ニハ六十三工場中廢業セルモノ六工場全休セルモノ二十七工場操短セルモノ二十六工場全ク休業セルモノハ僅ニ四工場テ機臺數モ一萬三千五百四十餘臺中運轉セルモノハ四千七百餘臺テ總臺數ノ三分ノ一ニモ當タラヌ狀況テアツタ而シテ本年ニ入リテ新設サレタモノ三工場アリテ結局二十八工場トナツタ然シ機臺數ヨリ見ル時ハ前年末ノ一萬三千五百四十餘臺ニ對シテ本年ハ一萬四千一百二十餘臺ニ増加シテ居ル之レ安東ニ於ケル柞蠶業ノ雜多ナ大小工場ノ整理セラレテ基礎堅キ工場ノミ殘リタルヲ證スルモノテ安東斯業ノ爲メ慶賀スヘキテアル今安東ニ於ケル製絲工場(支那側)ノ發展ノ趨勢ヲ大正三年ヨリ掲クレハ下ノ如クテアル

年次	工場數	資本額	機臺數
大正三年	6	59,500	2,515
同四年	11	99,400	3,671
同五年	14	131,400	4,350
同六年	21	193,360	6,382
同七年	29	351,360	8,512

大正八年	46	479,660	21,540
同九年	63	585,160	13,542
同十年	28	—	14,124

次ニ安東ニ於ケル現今ノ工場ヲ資本額、創業年月、機臺數、商標ニ分テテ掲

クレハ下ノ如クテアル(大正十年十二月十五日現在)

工場名	資本額	創業年月	機臺數	商標
興東公司試驗絲廠	2,000,000	大正六年十一月	304	金星
同第一絲廠		同九年十二月	320	
德和祥絲廠	20,000	同七年九月	336	寶船
復益德絲廠	20,000	同五年十一月	610	山繭
益豐興絲廠	10,000	同九年十一月	560	得勝
義昌東絲廠	30,000	同七年十月	562	雙象
義孚泰絲廠	25,000	同六年九月	704	牡丹
東泰絲廠	10,000	同三年三月	580	八仙
泰記絲廠	10,000	同六年九月	526	牧牛
謙盛恒縲絲工廠	26,000	明治三十八年六月	526	蜻蛉
實業絲廠	15,000	大正四年五月	500	王冠
同順棧絲廠	10,000	同六年九月	336	採蓮
正記絲廠	20,000	同三年七月	1,200	金魁星
同南廠				
興記絲廠	15,000	同八年一月	520	荷蜂
盛記絲廠	15,000	同六年九月	260	菊花
義泰德	20,000	同九年十一月	592	賽馬會
德記絲廠	20,000	同九年二月	560	長壽
同昌絲廠	30,000	同八年十一月	470	金山水
升記絲廠	15,000	同九年十一月	528	元寶山
廣泰永絲廠	10,000	同十年十月	328	美人
文記絲廠	52,000	同七年十月	600	門牌
利源同絲廠	20,000	同十年十月	310	禾蝶

豐和絲廠	22,500	同	四年四月	560	財童
成和昌	40,000	同	七年九月	650	飛熊
元聚永	20,000	同	九年十一月	540	日塔
遠記絲廠	22,500	同	八年十月	1,056	梓樹
同東廠					
福昌和絲廠	20,000	同	八年八月	480	英旗日光
恒聚永絲廠	16,000	同	十年十一月	230	寶劍

計 14,748

今日安東ニ於ケル柞蠶業ハ殆ント支那人經營テ日本人經營ハ唯興東公司カアルノミテアル近年迄ハ興東公司ノ外ニ大生絲廠安東洋行ノ日本人經營ノ工場カアツタカ採算不引合ノ爲メ大生絲廠ハ新義州ニ移轉シ安東洋行ハ日華絹絲紡績株式會社ト改稱シ主トシテ屑絲ヲ以テ[シルク、ウール]ヲ造ツテアル[シルク、ウール]ハ襯衣[ショール]其他羊毛ノ代用トシテ利用サレルノテアル[シルク、ウール]ノ輸出ハ柞蠶絲ト異リ精製品ト看做シ日本ニテ課税サルルヲ以テ日本向輸出ハ不利ナル爲メ本年ハ少シモ輸出ヲ見ナカッタ而シテ會社ハ最近富士紡績株式會社ニ合併サレタ原料繭ノ出廻時期ハ地方ニヨリ多少ノ遲速ハアルカ一般ニ陽歷十月初旬ヨリ翌年四五月ノ交迄ニシテ十一月十二月ノ三箇月ヲ最盛時トスル故ニ製絲工場ノ繁閑モ之レニ隨フモノテアル而シテ最近安東ノ總機臺數一萬四千七百餘臺中運轉シ居ルハ三千餘臺程テアルカ早ヤ原料繭ノ不足ヲ嘆シテ居ル有様テ當業者ノ言ニ據レハ現在安東ニ來集スル山繭ヲ三倍スルモ目下ノ工場ニテ消化シ盡シ得ルトノ事テアル柞蠶絲ノ取引ニ現物先物ノ二種カアル先物ノ場合ハ品質受渡シ期日等取扱問屋ニテ全責任ヲ負ヒ現物ノ場合ハ先ツ見本ヲ示シテ買手ヲ物色シ商談纏レハ更ニ全荷ヲ検査シ賣買ヲ決スルノテアル其取引慣習ハ

取引單位	銘柄品ハ品質一等二等各五百斤宛一千斤 雜牌品ハ一等二等各百斤若クハ二百斤トス	大 梓 絲 一俵(百斤見當)
建 值	百斤ニ對スル安東兩建	十匁ニ對スル安東兩建
支拂方法	現金先物ノ場合モ成約ト同時ニ現金ヲ交付スルモノトス	同 上

問屋口錢 二分

荷造費 買主ノ負擔

風 袋 百斤(一箱)ニ付一斤トス 量引ナシ

柞蠶絲ノ相場ハ生絲ノ如ク鋭敏ニ一般經濟界ノ波動ヲ感受スルコト少キモ用途ヲ同ウスル性質上大體ニ於テ生絲ノ歩調ニ倣フモノテアル今本年ノ安東ニ於ケル小梓絲大梓絲ノ相場ヲ月別ニ示セハ下ノ如クテアル (百斤兩建)

月 別	小 梓 絲			大 梓 絲		摘 要	
	優等品	橫 絲	二等品	据 物	一等品		二等品
一 月	418	375	—	310	205	187	内地品籬ニ買証文殺到
二 月	470	429	—	330	233	210	内地生絲市況持直シ
三 月	503	463	440	305	253	243	{初旬銀價下落ニ一時相場下落シタカ 品薄ニ強氣配
四 月	555	503	503	347	247	230	現物拂底五月末迄先物行ハル
五 月	513	490	427	300	233	207	内地ノ滯貨ニ取引不振
六 月	530	512	443	350	249	216	{品薄ニテ支商ノ賣惜シニ相場昂騰シ タカ月末内地絲況ノ悪化ニ取引鈍状
七 月	553	527	507	363	300	260	{品薄ニテ殘荷幾許モナキ爲メ買手續 出シ相場益々強氣配
八 月	565	520	500	400	330	293	{在貨皆無ニ取引少ク相場ノミハ高張 リ
九 月	597	480	445	—	340	306	{品薄ニ現物取引ナク先物取引ノミハ 一、二月迄ノモノ行ハル
十 月	623	597	548	—	377	301	品薄銀高ニ強氣配
十一月	678	661	640	620	443	420	{新繭ノ出廻リ少キ爲メ絲價依然高直 取引不振
十二月	793	785	763	703	540	433	{品薄ト先高見込ニ買占メントスル モノ多ク相場ハ益々上向歩調
平 均	566	528	—	—	310	275	

七 鴨綠江材

鴨綠江流域ハ大森林地帯テ建築材船艦材土木材電柱用材橋梁用材鐵道枕木材燐寸軸木材經木材製紙材等有用ナ良材ニ富シテ居リ其森林面積ハ主流右岸一帶及渾江流域ヲ合セ大約六十六萬八千町歩材積三億四千八百萬石ト推定サレテ居ル從來鴨綠江材ノ市場ハ大東溝テアツテ龍岩浦及北下洞ヲ小市場トシタカ朝鮮總督府營林廠カ新義州ニ設ケラレ次テ鴨綠江採木公司カ安東ニ設置セラルルニ及シテ市場ハ安東及新義州ニ移ツタ而シテ年々ノ出材量ハ其年ノ木材相場水量ノ多寡等ニ因ツテ異ルカ支那側ト朝鮮側ト合シテ二百萬乃至二百五十萬石ト謂ハレル朝鮮側即營林廠ノ出材量ハ大

約採木公司ノ二割位ヲ採木公司ノ報告ニ據レハ一昨年好況時代ハ上流山元ニテ伐採流筏ノ準備ヲシタモノカ昨年ノ流下期ニ水量ノ不足ヲ告ケ流筏不能トナリ山元ニ停滯残留シタモノカ多數ニ達シタ本年ハ適度ノ水量ヲ保チ流筏順調ニ行ハレ本年度材ハ勿論一昨年來途中ニ残留シテ居ツタモノモ全部出材ヲ見ルニ至リ著筏總數實ニ一〇、二二九臺ト云フ過去十餘年間未曾有ノ最高記録ヲ示シタ之レヲ前年ト比較スレハ普通原木ニテ七割二分五厘電柱類ニテ十六割五分強ノ増加テアル今過去五箇年間ニ於ケル安東著流下木材數量ヲ掲クレハ下ノ如クテ本年度ニ於ケル當地木材流筏作業ノ如何ニ盛況テアツタカヲ想見スル事カ出來ル

年度別	筏數	材種別數量						概算價額
		角材	丸材	電柱	枕木	落丸	其他	
大正六年	4,989	1,125,458.5	564,743.5	12,869	10,840	—	1,690,202.0連 12,869本 10,840丁	3,508,452
同 七年	7,173	1,768,705.5	875,929.0	—	9,211	31,172	2,644,634.5連 32,172本 9,211丁	6,375,444
同 八年	6,205	1,663,533.5	738,068.5	18,774	—	—	2,401,602.0連 18,774本	7,000,233
同 九年	5,281	1,622,076.5	679,704.5	—	—	33,811	2,301,781.0連 33,811本	6,426,567
同 十年	10,229	2,758,129.5	1,209,712.5	89,703	—	—	3,967,842.0連 89,703本	11,222,740

流下木材ノ品種ニ就キテ見ルニ大部分ヲ占メルモノハ紅松、杉松、黄花松以外ノモノハ極メテ少額テアル次ニ本年度著安高ヲ品種別ニ掲クレハ下ノ如クテアル

材種別	紅松	杉松	黄花松	雜木	計
角材	1,282,720	1,032,892	79,185	363,332.5	2,758,129.5
丸材	192,264	755,266.5	64,221	196,218.5	1,207,970
電柱材	—	—	(本) 89,703	—	89,703*
合計	1,474,984	1,788,158.5	(本) 89,703	559,551	3,966,099.5連 89,703本

上記ノ如ク本年度ノ著筏數ハ異常ノ多額テアツタ上ニ其原木ノ需要モ極メテ旺盛テ殊ニ天津及山東地方ハ前年中饑饉其他ノ爲メ其購買力不振ナリシ因リ極度ニ買控ヘノ姿テアツタカ本年ハ之ニ反シ同地方ハ豊

作テ地方民ノ需要頓ニ増加シ其取引ハ殷賑ヲ極メタ

今安東ニ於ケル過去五箇年ノ木材輸出狀況ヲ見ルニ(單位海關兩)

年次	日本	朝鮮	支那	合計
大正六年	9,648	494,535	933,339	1,437,522
同 七年	18,448	745,050	1,326,573	2,090,071
同 八年	19,979	736,000	2,056,016	2,811,995
同 九年	10,115	865,006	2,070,512	2,945,633
同 十年	104,552	1,935,712	2,542,605	4,582,869

本年ハ朝鮮向激増シタカ支那諸港ニ仕向ケラルルモノハ尙過半數ヲ占メテ居リ其主ナルモノハ天津、山東諸港及上海方面テアル之等ハ主トシテ原木ノ儘輸送サレ朝鮮及日本向ハ製材トシテ多ク仕向ケラル鴨綠江材ノ日本ヘノ輸出ハ前年ニ較フレハ幾分増加シタカ尙活躍ノ餘地ハ充分アルテアル現今日本ニ於ケル木材需給ノ狀況ハ純内地材及北海材ノミテ以テシテハ到底其需要ニ應シ得ヘキモノニアラス從ツテ盛ニ米國材ノ輸入ヲ見殊ニ本年ノ如キハ二百萬石ニ及ンタト云フ材質ノ上ヨリ見テモ建築用其他ニ使用スルモ決シテ米松ニ遜色ナク或ハ却ツテ優良ノ點アリト云ハレ鴨綠江材ノ内地ニ浸入シ得サル理由ハナイノテアル

近年南滿洲各地ノ大發展ニ伴ヒ木材ノ需要ハ激増シ鴨綠江材内地材ノ供給不足ヲ告ケタ際吉林材急ニ擡頭シ未タ確トシタ地盤ヲ有スルニ至ラナイカ鴨綠江材ノ一大勁敵トナツタ今日テハ鴨綠江材ハ上流ノ江岸及附近ハ殆ント伐採シ盡シテ江岸ヲ離レタ地點ヨリ搬出スル爲メ其陸上運輸ノ不便尠ナカラス結局安東市場ニ於ケル價格ハ吉林材ノ鐵路大迂回ヲナスモノト比較シテ大差ナク加フルニ滿鐵線特定運賃實施(北滿州解説吉林材ノ集散狀況ヲ参照)ニ依リ兩者ノ値開キハ愈々僅少トナリ吉林材ノ南下スル量ハ多額ニ上ツタ採木公司モ北滿材ノ有望ナノヲ見テ大正八年ニ哈爾濱ニ出張所ヲ設ケ北滿森林ヲ買収シ鴨綠江材ノ不足ニ充テテ居ル

本年末結氷期ニ際シテ安東残留原木ハ同年中著筏數ノ多額ナリシ爲メ

其數量頗多ク一五九萬餘連ニ達シ之レ亦最高記録ヲ示シ六道溝以南
 一帶ノ江岸ハ原木ヲ以テ累々山積ノ姿テアツタ最近五箇年間ノ年末結
 氷期原木持越高ヲ掲記スレハ下ノ如クテアル(單位連)

大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
592,696	1,073,119	920,133	786,255	1,592,453

安東ニ於ケル製材業ノ勃興ハ最近ノ事テ歐洲戰亂中一般財界好況ノ餘
 波ヲ受ケ長足ノ發展ヲナシ大正八年下半年期ヨリ大正九年上半期ニ至ル
 間ハ其最高潮ニ達シ同年年末ニハ工場數三十ヲ算スルニ至ツタ今試ミ
 ニ大正六年以降五箇年間ニ於ケル其消長ヲ示セハ下ノ如クテアル

年次	工場數	資本金 円	動力		製材高 尺 連	製材販賣高 尺 連
			種類	馬力		
大正六年	15	627,500	—	—	938,279	258,850
同 七年	19	869,000	—	930	1,089,980	328,647
同 八年	23	8,262,000	蒸電 蒸電 蒸電 蒸電	1,030	805,140	588,121
同 九年	30	9,447,000		325	1,420,088	378,260
同 十年	28	8,429,000		1,590	499,165	426,000
				1,150		
				1,570		
				803		

即資本額ノ如キハ大正六年ト同九年トヲ比較スルニ約十二倍ノ増加ト
 ナリ動力ハ約三倍ニ達シタカ併シ財界ノ激變ニ會ヒ一時ハ恐慌状態ニ
 陥リ銀相場ノ下落ニ南支方面天津等ニ對スル移出モ杜絶シ操業短縮若
 クハ休止ヲナスモノ七八割ニ達シタ本年ニ入りテハ流筏高ノ激増ト山
 東地方及上海方面ヨリノ註文續到ニ幾分活氣ヲ呈シタカ年末結氷期ニ
 入ルト共ニ一段落ヲ告ケ事業ノ整理收縮ヲ必要トサレテ居ル
 安東ニ於ケル製材工場ノ現況ヲ表示スレハ下ノ如クテアル

工場名	設立年月	資本金 円	動力		製産高	
			種類	馬力	數量 尺 連	價格 円
鈴木製材所	大正八年七月	40,000	蒸氣	35.0	4,690	60,000
安東製材合名會社	同 七年十一月	20,000	電力	25.0	28,400	500,000
安東製材所	同 六年十月	10,000	同	13.0	6,000	30,000
共立製材所	同 八年六月	15,000	同	75.0	10,200	170,000
坂本製材所	同 十年三月	2,000	同	7.5	2,500	42,000
竹下製材所	同 六年五月	5,000	同	10.0	4,500	7,000
五通製材所	同 七年一月	5,000	蒸氣	45.0	5,000	85,600
鴨花商會	同 九年三月	15,000	電力	20.0	9,380	10,000
紀和商行	同 九年三月	500,000	同	8.0	8,900	150,000
北澤製材所	同 四年四月	5,000	同	—	17,500	20,600

森迫製材所	同 九年十二月	2,000	同	10.0	31,350	39,235
鴨綠江木材株式會社	同 九年二月	1,000,000	蒸氣	45.0	12,240	154,038
東亞木林興業株式會社	同 八年十月	500,000	同	195.0	23,333	268,595
遼東木材株式會社	同 九年六月	1,000,000	同	100.0	14,450	170,000
安東縣出張所	同 十年六月	500,000	同	75.0	16,800	235,200
滿鮮製材會社支店	同 六年一月	20,000	同	80.1	9,602	120,250
川崎製材所	同 九年七月	400,000	同	120.0	5,200	302,400
日滿木材株式會社	同 八年十二月	1,000,000	同	100.0	32,400	424,000
安東縣挽材株式會社	同 四年十月	1,000,000	蒸氣	545.0	95,415	1,270,179
鴨綠江製材有限公司	同 六年十一月	100,000	電力	147.0	15,000	216,085
大六製材所	同 七年五月	200,000	蒸氣	35.0	36,907	486,663
南滿洲製材公司	同 七年十月	2,000,000	電力	120.0	29,166	35,000
宮下木材株式會社	同 八年十一月	10,000	電力	75.0	21,320	245,513
安東縣出張所	同 八年九月	50,000	電力	75.0	6,666	75,000
山田製材所	同 十年二月	5,000	同	85.0	7,770	106,560
守永製材所	同 十年十月	5,000	同	85.0	600	8,400
豐松公司	同 十年一月	5,000	同	75.0	12,748	152,985
滿洲製材公司	同 七年五月	15,000	同	20.0	10,000	12,000
蛙子商會	同 七年五月	8,429,000	電力	803.0	499,165	5,460,303
丸幸製材所			蒸氣	15,700.0		
合計						

終リニ參考トシテ大正十年中ニ於ケル原木及製材相場ヲ月別ニ掲クレ
 ハ下ノ如クテアル

月別	製材			板材(五分板)			原木				
	單位 健值 才 金建	紅松 円	杉松 円	落葉松 円	單位 健值 才 金建	紅松 円	杉松 円	落葉松 円	單位 健值 才 金建	紅松 分	杉松 分
一月	同	170	120	150	同	5,400	3,300	同	3,500	3,000	3,300
二月	同	135	120	155	同	4,190	3,650	同	3,500	3,000	3,300
三月	同	120	115	140	同	4,200	3,500	同	3,200	2,500	3,200
四月	同	140	120	120	同	4,400	3,600	同	3,200	2,500	3,200
五月	同	120	110	160	同	4,400	3,650	同	3,500	3,000	4,000
六月	同	120	110	130	同	4,000	3,400	同	3,500	3,000	3,500
七月	同	137	132	120	同	4,000	3,200	同	3,500	3,000	3,500
八月	同	130	120	136	同	4,450	3,600	同	3,500	3,000	3,500
九月	同	135	125	140	同	4,850	3,500	同	3,500	3,000	3,500
十月	同	135	120	140	同	4,265	3,930	同	3,500	3,100	3,500
十一月	同	137	125	140	同	5,000	4,200	同	4,300	3,800	4,300
十二月	同	137	150	135	同	5,250	4,300	同	4,300	3,800	4,300
平均	同	134	122	139	同	4,485	3,652	同	3,583	3,058	3,591

八 鴨綠江ノ水運

鴨綠江ノ水路ハ便宜上五區ニ分ケル事カ來ル即(一)水源域(二)上流域(三)中
 流域(四)下流域(五)江口域ノ五區テアル

(一)水源域 白頭山水源ヨリ二十四道溝ニ至ル區間ニシテ此間二十邦里

水勢水量共ニ論スルニ足ラス二十四道溝ノ上流七邦里ノ所ヨリ木材ノ管流ヲナス

(二)上流域 二十四道溝ヨリ帽兒山ニ至ル區間テ水勢漸ク緩トナリ川ノ趣ヲ呈シ朝鮮側ヨリ普臺江五溪水長津江ノ諸流ヲ合セ支那側ヨリモ多數ノ細流ヲ合セテ幅ト深サヲ増シ一、二ノ難所ヲ除ク外危險少ク初メテ流筏ノ便カアル且帽兒山ヨリ上流三道溝迄ハ十石乃至十五石積ノ小形戎克カ通スル

(三)中流域 帽兒山ヨリ渾江口間トシ地形次第ニ低ク勾配漸ク減シテ水勢緩ク水量ヲ増シ流筏力ハ前區ヨリモ二倍ノ大サトナリ三十石積支那船子又ハ約三十五擔積高瀬船ノ航行容易ニシテ増水期ニハ百二十石積戎克ハ外察口ニ遡行シ得ル然シ尙諸所ニ難所カアリ水路危險ノ區域ヲ脱シナイ

(四)下流域 渾江口ヨリ安東ニ至ル間トシ鴨綠江ハ一大支流タル渾江ヲ合セテ舟楫ノ便大ニ開クルモ深度平均セス舟筏ノ流下ニ不便テアル然シ筏ハ惠山鎮附近ノ四倍トナリ平水ニ於テ渾江口長甸河口間ハ八十石積戎克ヲ長甸河口安東間ハ百石積戎克ノ往來ヲナシ得ル

(五)江口域 安東江口間トシ安東ヨリ下流ハ河幅三千尺ニ達シ潮ノ干満ノ差ハ平時七八尺ヲ出テ汽船戎克ノ往來頻繁ヲ極ム然シ流水ノ沖積作用其他ニヨリテ沙泥ヲ所々ニ堆積シ河床常ニ變動シ船舶ノ航行ニ多大ノ支障ヲ與ヘテ居ル即半潮以上ノ時ヲ利用シテ漸ク安東迄吃水十呎以下三道浪頭迄十二呎以下龍岩浦迄十三呎以下ノ船舶ノミ通航シ得ル有様テ大型汽船ハ多獅島ニ碇泊スルノ不止得現狀テ安東港トノ間ハ舢舨又ハ戎克等ニヨリ連絡ヲ取ラネハナラス

次ニ朝鮮總督府ノ調査ニ係ル新義州ヲ起點トシタ鴨綠江岸各地ニ至ル湮程ヲ掲クレハ下ノ如シ

朝鮮側	支那側	湮數	朝鮮側	支那側	湮數
多獅島		22.8	江界江口		157.0
龍岸浦		13.6	(江界)		225.5
	安東	1.2	高山鎮		165.6

北下洞		2.4	通溝		174.4
	馬芝臺	9.3	滿浦鎮		179.8
義州		11.8	慈城江口	大水滴臺	221.1
清城鎮	長甸河口	32.1	土城里		235.3
甲岩里	永甸河口	47.8	中江鎮		257.2
昌城		50.3		帽兒山	259.5
私倉里	浦石河口	63.7		樺皮甸子	285.2
大吉里	白菜地	70.8	竹田里		295.7
	大黃溝	78.9	富山洞	八道溝	306.6
碧潼		89.3	厚州古邑	古米洞	325.7
忠滿江口		112.6	松田里		334.1
	渾江口	122.8	新架坡鎮	十三道溝	344.7
雲海川	外察口	126.3	羅暖堡		354.8
楚山		130.2	惠山鎮	長白街	381.3
	榆樹林子口	133.0			

鴨綠江ヲ往來スル水運機關ハ筏獨木舟舢舨戎克高瀬舟及汽船トスル筏ハ二十四道溝ヨリ流下シ得ルカ素ヨリ小形テ五六符(一符ハ十一連一連ハ八尺物一本)ニ過キナイ新嘉坡鎮十三道溝ニテ十符内外ニ帽兒山ニテハ二十符乃至二十五符高山鎮道溝ヨリハ三十符乃至三十五符トシテ流下スル而シテ惠山鎮長白街ヨリ安東迄日本式筏ニテ十五日乃至二十日支那式筏ニテ六十日乃至八十日ヲ要スルト獨木舟ハ鮮人カ兩岸ノ往來若クハ近距離ノ交通ニ使用セラル小舟テアリ貨物ノ積載ニ用ヒラレ又舢舨ハ戎克ノ一種テ安東帽兒山ノ間ヲ往來シ通常四十擔ヨリ百二三十擔迄ノ積載力ヲ有シ安東ヨリ帽兒山ニ至ル上航ニハ普通四十日乃至五十五日ヲ要シ下航ハ十五日乃至二十日テアル安東ト上流各地ヲ往來スル舢舨ノ數ハ大約七百隻内外テアル高瀬船ハ營林廠カ我富士川及其他急流ノ河川ニ使用セラルト同形ノモノヲ明治四十年ニ試運シタニ始マリ高瀬船ノ出現ハ鴨綠江水運ニ一新ヲ來タシ從來ノ舢舨ノ航行ハ帽兒山下流ニ限ラレタカ高瀬船ハ能ク尙上流百二十湮ナル長白街惠山

鎮マテ廻行シ其ノ航行區域ヲ廣メタ其ノ積載力ハ二千斤乃至八千斤テアル鴨綠江運輸會社ハ高瀨船テ朝鮮總督府ノ命令航路ニ從事シ新義州、帽兒山ヲ往復シテ居ル戎克及汽船ノ航行ハ安東下流テアルカ別項出入船舶ノ所ニ記シタレハ省略スル

鴨綠江ヲ上航スル貨物ハ綿絲布、鹽、麥粉、石油、燐寸等カ主タルモノテ此外砂糖、茶紙、干鹽、魚、蠟燭、陶器、金物等テアル綿絲布ハ全部日本品テ安東ニ輸入サレタモノ積換ヘラレ仕送ラルルノテ上航貨物中價額ニ於テハ第一位テアル鹽ハ生活必需品トテ當流域ニテ消費サルル額巨額ニ達シ精確ナル數字ナキモ水運ニ依ルモノノミニテ三萬石ニ達スト產地ハ關東州沿岸又ハ復州附近テ戎克ニテ安東、新義州又ハ北下洞ニ來リ鹽船ト稱スル鹽積船ニ積換ヘ各地ニ送ラル鴨綠江沿岸ハ森林地帯テ農産物少キ爲メ麥粉ノ輸送モ多ク鐵嶺物、日本物、上海及香港物等テアル安東ノ支那商人ニ取扱ハルル石油ハ亞細亞油、米油等最モ多ク日本油ハ賣行惡ク總體ノ一割ニ達シナイ、燐寸ハ全部日本品テ占メテ居ル

下航スル貨物ハ木材ヲ第一トシ大豆、豆粕、雜穀、山繭ヲ主トシ此外燒酒、麻葉、煙草、鑛石等テアル木材ノ流下狀況ハ別項鴨綠江材ニ記述ノ如ク大豆及豆粕ハ沿岸各地方ヨリ輸出サルルカ重ナル地方ハ帽兒山、通溝、楚山、外察口、蒲石河口、昌城、長甸河口及渾江支流地方テアル、雜穀ハ包米、高粱、粟、蘇子、吉豆等テ其數量ハ比較的少ナク産出地ハ下流域テアル、山繭ハ寬甸産最モ多ク桓仁、輯安之ニ次キ長甸河口、蒲石河口、沙尖子、外察口、通溝ヨリ多ク積出サレ主トシテ安東ニテ製絲セラル

鴨綠江ハ峽流ノ性質ヲ有シ水流良好ナラス加フルニ冬季十二月ヨリ翌年三月ニ至ル四箇月ハ結氷シ夏季七八月ノ頃ハ洪水ノ恐レアリ秋季十一月ニハ減水ノ憂カアル即一年ノ過半ハ水運利用ノ途少ナク將來水路ノ整理、河床ノ改修、沿岸通路ノ修築ニヨリテ航行ノ安全、艫船ノ輕便ヲ計ル事ヲ得タナラハ水運ノ利用ノ程度ハ益々擴大サルルノテアル

九 多獅島築港問題

開江中テモ大型汽船ハ江ヲ遡航スルヲ得ス薪島及多獅島ニ碇泊スルヲ要セラレ安東及新義州トノ間ハ舢舨又ハ戎克等ニ依ルノテアル又鴨綠江ノ本流ハ年々其河底ヲ埋メ而モ其水路常ニ變轉極リナク五十噸級ノ舢舨スラ滿潮時ニアラサレハ其通航ヲ許サヌ有様テ舢舨ノ多獅島ト安東及新義州間ノ一往復ニ五日ヲ費ストハ驚ク可キ事テ其舢舨モ一噸金二圓ヲ要スルカ如キ其不利不便ナ點ニ於テ他ニ類例カ無イ殊ニ鴨綠江ハ毎年十一月末日ヨリ翌年三月末ニ至ル滿四箇月間ハ結氷シ全然水路ノ交通ヲ杜絶スルノテ斯カル水路聯絡ノ不完全ハ我カ對滿貿易上甚タシク圓滑ヲ缺クヲ以テ茲ニ多獅島築港問題カ提唱サルルニ至ツタノテアル

多獅島ノ位置ハ北緯三十九度四十七分東經百二十四度二十五分ニ位シ鴨綠江東水道ヲ距ル事約十哩平安北道ノ西北端ニ當ツテ居ル多獅島ノ錨地ヨリ十三哩ニシテ龍岩浦ニ二十四哩ニシテ新義州及安東ニ達スル多獅島ハ一名多沙島トモ稱シテ大小ノ二島ヨリ成リ大島ヲ通常多獅島ト稱スル面積五十町步程テ主トシテ岩石ヨリ成ル頂點ノ標高ハ干潮面上百四十五尺テアル小多獅島トハ千三百間ノ距離カアリ小多獅島ノ標高ハ九十四尺又北方約百二十間ニシテ龍川郡郭串嘴ニ達スル錨地ハ多獅島ノ西岸幅員三百間ノ大落筋テ水深ノ大部分ハ干潮面以下五六尋テ最モ淺イ處テ二尋四分ノ三テアル故ニ干潮時ト雖モ千五百噸級乃至二千噸級ノ汽船ノ出入碇泊ニハ差支ヘカナイ若シ少シ潮位ヲ利用シタナラハ三千噸級ノ汽船ノ出入ハ自由テアル最モ淺イ處ノ二尋四分ノ三ハ錨地ノ下流ニ在ルノテ碇繫上ニハ差支ヘカナイ多獅島錨地カ不凍港テアル事ハ曾テ日露戰爭當時我軍ノ陸揚地トシテ實驗サレ又風浪ニ對シテモ舢舨荷役差支ヘナイ事モ知ラレテ居ル朝鮮總督府ハ大正八年末ヨリ翌九年三月中旬迄ト九年末カラ三月初旬迄技師ヲ派遣シ岬ニ駐在セシメテ氣温、水溫及結氷流水ノ狀況調査ヲ行ハシメタ其報告ニ據レハ冬期三箇月間ノ最低氣温ハ平均零下一度八分結氷狀況ハ多獅島附近ハ水面凍結スル事ナク島嶼江畔ニ近キ地盤高キ干瀉地ハ厚サ一尺乃至三尺低キ部分ハ一寸乃至三寸程結氷スルカ滿潮時ニ流失シテ了フ唯多少危

險ヲ感スルモノハ三月頃ノ解氷期一週間位鴨綠江ヨリ來ル流水テアルカ其ノ大部分ハ西水道ニ流失シ多獅島方面ニ來タルモノハ少イノテ大體カラ觀察シテ不凍港トシテノ價值ヲ有シ多獅島ニ棧橋ヲ架シ同島ト岬トノ間ニ築港シテ鐵道ヲ敷設スレハ四時安全ニ貿易ヲ繼續スル事カ出來ル

多獅島築港ノ規模及竣成後幾許ノ物資カ吞吐サルルカハ大ニ研究スヘキ事テアル多獅島築港期成同盟會ノ趣意書ニ據レハ半島突端ト多獅島間ノ干瀉地ヲ埋築シ其西方岸壁ヲ浚渫シテ船舶ノ繫留ニ便ナラシム事トシ其經費三百萬圓トノ事テアル而シテ多獅島ヨリ鐵道聯絡線ヲ敷設スルヲ要スルカ其聯絡地點ニハ朝鮮線南市驛及新義州驛トノ二所カアル前者ハ約十四哩後者ハ約二十一哩アリテ七哩ノ差カアル鐵道敷設上前者ハ優ツテアルカ多獅島ハ北滿物資ノ吞吐ヲ以テ第一ノ目的トスル爲ニ陸運ノ最少距離ヲ計ル爲新義州ニ聯絡スルヲ得策トスル(南市驛迂廻ニ比シ約十五哩ノ短縮)今大阪ヨリ朝鮮線經由奉天及長春ニ至ル距離ト多獅島築港後ノ距離及大連經由ノ距離ヲ示セハ下ノ如クテアル

1、大阪ヨリ朝鮮縱貫鐵道ヲ經テ奉天及長春ニ至ル距離

イ大阪奉天間一海路百二十二哩鐵道九百五十五哩二

ロ大阪長春間一海路百二十二哩鐵道一千百四十四哩六

2、大阪ヨリ多獅島經由奉天及長春ニ至ル距離

イ大阪奉天間一海路八百七十六哩鐵道百九十九哩

ロ大阪長春間一海路八百七十六哩鐵道三百八十八哩四

3、大阪ヨリ大連經由奉天及長春ニ至ル距離

イ大阪奉天間一海路八百七十三哩鐵道二百四十六哩四

ロ大阪長春間一海路八百七十三哩鐵道四百三十五哩八

即多獅島經由ハ朝鮮縱貫鐵道經由ニ比シ大阪長春間ニ於テ鐵道七百五十六哩二分短縮シ海路七百五十四哩延長スル又大連經由ニ比シ海路ハ僅ニ三哩ノ差テアルカ鐵道ニテハ四十七哩四分短縮スル事トナル多獅島ノ使命ハ二ツアル一ハ北滿地方ノ物資ヲ吞吐スル國際的貿易港他ハ北鮮ノ地方的商港テアル修築後ハ幾許ノ物資カ吞吐サルルカト云

フニ大體ニ於テ北滿需給物資ハ大連營口鴨綠江及朝鮮縱貫鐵道ニ依ルノテアルカ大連港ハ將來其設備ノ完備スル事ハ到底多獅島ノ比テハナイ故ニ單ニ距離ノ關係ニヨリ遠ニ其經路ノ變化ヲ望ム事ハ難ク營口モ亦同様ト見ナクテハナラヌ唯鴨綠江及朝鮮縱貫鐵道經由ノ物資ヲ吞吐スルモノト推定スルヲ妥當トスル即現在鴨綠江ノ水路ニ依リ安東新義州龍岩浦經由物資ノ一部朝鮮縱貫鐵道通過貨物ノ一部及平安北道需給物資ノ大半ノ吞吐港テアル其金額ハ今茲ニ掲クル事ハ困難テアルカ五千四五百萬圓ト見ラレテ居ル而シテ國境通過貨物トシテ關稅三分ノ一減ノ特典竝ニ距離短縮ノ運賃遞減ノ結果逐次貿易額増加シテ大連及營口經由ノ物資ノ幾分ヲモ吸收スルニ難カラサル素質ハ有シテ居ル今參考トシテ多獅島築港期或同盟會ノ調査ニ係ル長春大阪間ノ運賃ヲ大連經由ト多獅島經由ト鐵道三線連絡トニ分チ掲クレハ下ノ如クテアル

1、日本へ輸入ノ場合(豆粕ハ千枚ニ付キ製材ハ噸當一噸三三〇オ)

區分	大連經由		三線連絡		多獅島經由(現在)		同上(築港後)	
	豆粕	製材	豆粕	製材	豆粕	製材	豆粕	製材
諸掛								
汽車賃(南滿線)	399.86	6.34	—	—	399.86	6.34	369.89	5.39
同上(三線連絡)	—	—	975.00	22.25	—	—	21.78	—
同上(新義州支線)	—	—	—	—	—	—	—	.73
埠頭作業料	15.15	70	—	—	7.58	35	7.58	35
船賃	—	—	—	—	43.00	1.99	—	—
汽船賃	59.80	3.30	—	—	90.00	6.35	76.50	4.95
輸出稅(支那)	33.65	3.60	22.40	2.40	33.00	3.60	22.40	2.40
輸入稅(日本)	—	—	—	—	—	—	—	—
爲替料及保險料	17.50	10	2.50	—	25.00	15	22.75	15
其他	—	—	—	25	28.00	35	—	—
合計	525.96	14.04	999.90	24.90	628.04	19.12	520.09	13.97

2、滿洲へ輸出ノ場合(綿絲ハ一捆ニ付キメリヤス類ハ米噸ニ付キ)

區分	大連經由		三線連絡		多獅島經由(現在)		同上(築港後)	
	綿絲	メリヤス	綿絲	メリヤス	綿絲	メリヤス	綿絲	メリヤス
諸掛								
汽船賃	60	3.00	—	—	1.20	20.60	90	20.60
船賃	—	—	—	—	38	7.91	—	—
埠頭作業料	15	15	—	—	07	1.44	15	1.44
汽車賃(南滿線)	5.31	23.81	—	—	5.31	23.81	4.51	23.81
同上(新義州支線)	—	—	—	—	—	—	32	1.84
同上(三線連絡)	—	—	5.79	27.65	—	—	—	—

輸出税(日本)	—	—	—	—	—	—	—
輸入税(支那)	6.00	134.31	4.00	89.51	6.00	134.31	4.00
爲替料及保険料	27	53	—	—	68	3.89	54
其他	—	—	05	—	—	—	—
合計	12.33	161.80	9.84	117.16	13.64	191.96	10.42

補記一多獅島ノ築港ハ距離ノ點ヨリモ關稅三分ノ一減ヲ主要ナル項目トシテアルカ支那政府ハ大正十一年四月一日ヨリ露支國境陸路貿易章程ヲ撤廢スル事トナリ(事實ハ實行サレテ居ラス延期トナル)ノ安東稅關ニ於ケル特定稅率即陸路貿易關稅三分ノ一減ノ特權モ當然消滅ニ歸スヘキ運命ニアルモノト支那側及我一部ニテモ解釋サレテ居ルカ其撤廢ハ多獅島ノ築港問題ニハ一噸坐ヲ與ヘルモノテアル又或一部ノ論者ハ減稅特典ノ廢棄ニ次テ三線連絡特定運賃制度ノ撤廢サル時ハ滿鐵ハ當然大連中心主義ノ海港特定運賃主義ヲモ撤廢シテ距離比例制度ニ依ル事トナリ奉天大連間ノ二百四十六哩ニ對シ奉天安東間百七十哩之ニ安東多獅島間ノ二十一哩ヲ加算スルモ五十五哩ノ短縮テアル故多獅島經由カ大連經由ニ比シテ有利テアルト論スルカ早計ニ斯ク斷定スル事ハ出來ヌ元來貨物ノ移動ハ距離ノミニ據ラス商取引ノ關係金融機關ノ完備等ニ負フ所カ多イ

十 雜

本年ノ金銀ノ出入ハ合計2,644,780海關兩テ前年ノ10,498,544海關兩ニ比シ7,853,764海關兩ノ激減テアル之レ主トシテ露金貨及金地金ノ日本輸出三割減少セルト朝鮮輸出ノ前年5,000,000海關兩以上ニ達セシニ拘ラス本年ハ僅ニ40,000海關兩ノ少額テアツタ爲テアル

十一 大東溝港

大正十年大東溝港ノ輸移出入貿易額ハ55,007海關兩テ前年ニ比較シ9,355海關兩ノ増加テアル今之ヲ輸移出入別ニ見ルトキハ輸移入ニ於テハ8,322海關兩減少シ輸移出ハ17,677海關兩増加シテ居ル而シテ輸移出入品ノ趨勢上何等特記ス可キ事項カナイ

大東溝ハ支那貿易上斯クモ不振ノ地位ニアルノテ最近支那側ニ於テ朝鮮多獅島築港ニ對坑シテ當港築港計畫ノ議擡頭シテ居ルカ多額ノ經費ヲ要スル事ナレハ到底實現ハ不可能タト信セラル當港支那稅關設置ノ價值トシテハ積極的ニ將來輸移出入貨物ノ増加ヲ來スト謂フ點ニ就テハ望ナキモ消極的ニ密輸出入ノ監視機關トシテハ多大ノ效力ヲ有スルモノテアル

大連港

- 一 大連港貿易概況
- 二 輸 入
- 三 輸 出
- 四 出入船舶
- 五 商 況
- 六 建値問題ノ經過
- 七 雜

一 大連港貿易概況

大正十年大連港輸移出入品貿易總額ハ 241,293,222海關兩テ前年ノ 239,608,748海關兩ニ比較スレハ 1,684,474海關兩即チ七厘ノ増加テアル。今之ヲ輸移出入別ニ見レハ輸移入ハ本年 101,628,622海關兩テ前年 94,875,280海關兩ニ比シ 6,753,342海關兩即チ七分一厘ノ増加テ輸移出ハ本年 139,664,600海關兩テ前年ノ 144,733,468海關兩ニ比シ 5,068,868海關兩即チ三分五厘ノ減少テアル。而シテ輸移入ノ増加ハ米砂糖石油鐵及鋼紙類麻袋及其他袋類等ノ増加ニ依リ輸移出ノ減少ハ小麥豆油胡麻其他種子類等ノ減少ニ依ルモノテアル。

次ニ當年ノ大連港出入噸量ニ依ル貿易ヲ見ルニ本年ノ輸移出入品總噸數ハ 4,610,000餘噸テ其内輸移入品ハ 820,000餘噸輸移出品ハ 3,790,000萬餘噸テアル。而シテ今之ヲ前年ト比較スレハ下ノ如シ。

	大正九年	大正十年	前年トノ比較
輸 移 入 品	1,051,589	820,817	(減) 230,781
輸 移 出 品	3,398,158	3,795,401	(増) 397,243
計	4,449,756	4,616,218	(増) 166,462

備考 戎克輸移出入品噸數及燃料炭ノ輸出量ヲ含ム

當年ノ大連貿易ハ上記噸量貿易ヨリ見ルトキハ輸移出入品總數ニ於テ四分ノ増加テ輸移入品ニ於テハ前年ニ比シ 250,781噸即チ二割二分減少シ輸移出品ニ於テハ 3,197,243噸即一割一分増加シテ居ル。

斯如價額ヨリ見レハ輸移入ハ前年ヨリ増大シ輸移出ハ減退セルニ反シ

噸量ヨリ見レハ輸移入ハ前年ヨリ減退シ輸移出ハ増進シテ居ル。此反對現象ヲ顯ハシテ居ル理由ハ之レ既述ノ如ク銀價暴落ノ結果輸入ニ於テハ輕量高價ナル外國品市價ノ騰貴ヲ來タシ輸移出ニ在リテハ比較的廉價ニシテ多量ナル豆粕大豆雜穀等ノ原料品ノ輸移出増大セルト石炭ノ外國向輸出前年ニ倍加セル等ニ基因スルノテアル。

今當年ト前年トノ日本金貨對海關兩ノ平均相場ニ依ル金換等貿易額ヲ對照表示スレハ下ノ如クテアル。

	輸移出入貿易額 円	内	
		輸 移 入 額 円	輸 移 出 額 円
大 正 九 年	570,268,820	225,803,166	344,465,654
同 十 年	378,830,359	159,556,937	219,273,422
前年トノ比較	(減) 191,438,461	(減) 66,246,229	(減) 125,192,232

此金換算ノ貿易額ヨリ見ルトキハ輸移出入品總額ニ於テハ三割三分ノ減額ヲ輸移入ハ三割三分輸移出ハ三割六分共ニ減少シテ居ル之レ當年ノ大連貿易カ前年四月以降一般經濟界ノ恐慌襲來ノ餘波ヲ受ケ未タ回復期ニ達セス商況不振ノ儘越年セルヲ物語ルモノテアル。最後ニ一百万海關兩以上ノ對手國別貿易ヲ示セハ下ノ如シ。

對 手 國	輸 移 出 入 總 額 海關兩	前年トノ比較増減 海關兩
日 本	112,608,020	(-) 11,275,649
支 那	66,741,709	(+) 16,993,003
北 米 合 衆 國	14,505,780	(-) 4,121,956
土耳其、波斯、埃及、其他	11,546,239	(-) 1,108,157
朝 鮮	6,901,082	(+) 246,076
英 吉 利	6,279,494	(-) 814,929
香 港	6,181,430	(+) 3,139,530
蘭 領 印 度	5,364,698	(+) 2,809,745
和 蘭	3,373,721	(-) 2,345,327
英 領 印 度	2,394,994	(+) 1,828,332
獨 逸	1,654,774	(+) 1,354,508

上表増減ノ原因ヲ略記スレハ日本ノ減少ハ輸入ニ於テ綿絲布石炭鐵及鋼其他金屬麻袋ノ減少支那ノ増加ハ移入ニ於テハ綿絲布麥粉移出ニ於

テハ大豆雜穀豆油石炭ノ増加北米合衆國ノ減少ハ輸出ニ於テ豆油ノ減少土耳其波斯埃及其他ノ減少ハ輸出ニ於テ埃及向小麥ノ減少英吉利ノ減少ハ輸出ニ於テ小麥ノ減少香港ノ増加ハ輸入ニ於テハ砂糖麻袋輸出ニ於テハ大豆小麥石炭ノ増加蘭領印度ノ増加ハ輸出ニ於テ大豆ノ増加和蘭ノ減少ハ輸出ニ於テ豆油ノ減少英領印度ノ増加ハ輸出ニ於テ麻袋ノ増加獨逸ノ増加ハ輸入ニ於テハ輸入各品種ニ互リ輸出ニ於テ大豆豆油ノ増加ニ因ルモノテアル。

最近五箇年間大連港對日本輸出入品價額累年比較表ヲ示セハ下ノ如シ

大連港對日本輸出入品價額累年比較

(單位 海關兩)

		大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	前年トノ比較増減	
貿	輸入							
	日本ヨリ輸入額	44,255,315	48,300,078	61,469,692	51,664,055	43,732,125	(-)A. 7,931,930	
	其他諸國ヨリ輸入額	39,141,029	49,135,543	68,698,325	43,211,225	57,896,497	(+)B. 14,685,272	
	計	83,396,344	97,435,621	130,168,017	94,875,280	101,628,622	(+) 6,753,342	
易	輸出							
	日本へ輸出額	28,940,069	46,380,733	70,786,590	67,847,883	65,929,038	(-)C. 1,918,845	
	其他諸國へ輸出額	38,063,881	45,768,997	36,179,144	62,165,145	61,984,671	(-) 180,474	
	計	67,003,950	92,149,730	106,965,734	130,013,028	127,913,709	(-) 2,099,319	
額	仲繼貿易							
	日本へ再輸出額	2,215,902	3,189,241	7,561,382	4,371,731	2,946,857	(-) 1,424,874	
	其他諸國へ再輸出額	7,403,850	12,813,526	14,545,152	10,348,709	8,804,034	(-) 1,544,675	
	計	9,619,752	16,002,767	22,106,534	14,720,440	11,750,891	(-)D. 2,969,549	
總	總額							
	對日本	75,411,286	97,870,052	139,817,664	123,883,669	112,608,020	(-) 11,275,649	
	對其他諸國	84,608,760	107,718,066	119,422,621	115,725,079	128,685,202	(+) 12,960,123	
	計	160,020,046	205,588,118	259,240,285	239,608,748	241,293,222	(+) 1,684,474	
百	輸入	對日本	53	49	47	54	43	—
		對其他諸國	47	51	53	46	57	—
分	輸出及再輸出	對日本	41	46	61	49	49	—
		對其他諸國	59	54	39	51	51	—
比	總貿易額	對日本	47	47	54	52	46	—
		對其他諸國	53	53	46	48	54	—

備考 A, 日本ヨリ綿絲布、石炭、鐵及鋼、其他金屬、麻袋ノ輸入減少ニ依ル
 B, 英國綿布、印度麻袋、米國石油、其他歐米雜貨及支那綿布ノ輸入增加ニ依ル
 C, 日本へ小麥及豆油ノ輸出減少ニ依ル
 D, 仲繼貿易ノ減少セル理由ハ南滿洲四港對日本輸出入品價額累年比較ノ摘要ト同シ

二 輸 入

大正十年ノ輸移入品總額ハ101,628,622海關兩テ前年ニ比シ6,753,342海關兩ノ増加テアル。之レ當年對外國直接輸入額ノ減退セルニ拘ラス上海經由外國品ノ輸入額竝ニ支那品ノ移入額増加セル爲結局前記ノ輸入増加ヲ來タシタノテアル。然ルニ對外國直接輸入額ノ減少セルハ主トシテ日本ヨリ輸入減少ニ依ルモノテ歐米其他諸國ヨリノ輸入額ハ二三箇國ヲ除キ何レモ増加シテ居ル。而シテ日本品輸入減退ノ原因ヲ尋ヌレハ(一)生産費ノ高價ナル爲從ツテ生品賣價ノ騰貴セル事(二)品質ニ於テ歐米品ニ劣ル事(三)價格モ亦歐米品ヨリ割高ナル事(四)體裁ニ至ツテモ到底歐米品ニ及ハサル事等ノ諸點ヲ擧ケネハナラス。斯ル次第ナレハ日本品ハ漸次歐米品及支那產代用品ニ驅逐サルル傾向ニアルノテアル。故ニ我貿易業者ハ將來滿洲貿易否對支貿易上特ニ此點ニ注意シテ其對策ヲ講セネハナラス。

本年輸移入額ノ減少シタル主ナルモノハ綿織物綿織絲機械器具衣服及附屬品木材等テ増加シタモノハ煙草鐵及鋼麻袋其他袋類砂糖石油米其他雜織物電氣材料麥粉酒類及其ノ他飲料紙類毛及毛綿交織物絹及絹綿交織物藥品及藥材等カ主ナルモノテアル。

今本年ノ主ナル輸移入品ヲ前年ト對照シテ見レハ下ノ如シ。

綿織物 本年ノ輸移入額ハ13,911,355海關兩テ本品ハ輸移入品中常ニ第一位ヲ占メテ居ルカ前年ノ16,204,001海關兩ニ比シ2,292,646海關兩ノ減少テアル。減少ノ主ナル原因ハ日本品ノ輸入減退ニ依ルモノテ英國品ハ各種綿布ニ互リ増加ヲ示シ米國品支那品共ニ前年ヨリ増加シテ居ル(二六九頁參照)然ルニ大連ニ輸移入セラルル綿織物ノ國別ニ依ル割合ヲ見レハ日本品ハ全數ニ對シ五割二分英國品ハ三割二分米國品其他支那品ヲ合算シテ一割六分ヲ占ムルノ状態テアツテ日本品ハ漸ク其半數ヲ占メテ居ルノテアル。

日本綿布ハ往年綿絲ト共ニ殆ント漸増的狀態ヲ辿ツテ順調ナル發達ヲ遂ケタノテアルカ、當年前記ノ減退ヲ示シタノハ前年初期ニ於ケル暴落

ニ其ノ因ヲ發シテ居ル。暴落當時輸入商ハ努メテ先約品ノ輸入ヲ阻止シタカ何等ノ效ヲ奏シナカッタ。故ニ大正九年ニ於ケル滯貨ハ非常ナル數ニ達シ大正十年ニ於テハ是等滯貨ノ整理ニ全力ヲ費シ新規手合セハ相場ノ高低甚タシキト銀價下落ニ伴フ實需ノ減退トニ依テ行ハレナカッタ。反之英米品等ノ増進ハ大正十年中特ニ活躍ヲ示シタカノ如ク見ユルカ。之ハ大正九年ノ暴落當時上海ニ輸入セラレテ殆ト荷動キヲ見ナカッタ。綿布ヲ當年投賣シタ爲前年ニ比シ多少ノ増加ヲ示シタノテアル。

煙草 本年ノ輸移入額ハ7,698,576海關兩テ前年ノ5,832,194海關兩ニ比シ1,866,382海關兩ノ増加テアル。之レ英米煙草其ノ他外國煙草ノ輸入増加ニ依ルモノテ當年ノ輸移入數量ヲ前年ト對照セハ下ノ如シ。

		大正九年	大正十年
外國製煙草			
紙卷煙草	千本	1,591,038	1,932,131
葉卷煙草	同	1,783	2,996
刻煙草	擔	538	4,738
葉煙草其他	同	16,740	4,738
支那製煙草			
紙卷煙草	千本	11,908	14,126
葉卷煙草	同	1,178	110
刻煙草	擔	2,531	1,193
葉煙草其他	同	57,793	35,667

上記ノ如ク原料ナル葉煙草其他ニ於テハ非常ナル減退ヲ見ルモノ紙卷煙草ニ於テハ外國製煙草支那製煙草共ニ二割ノ増進ヲナシタ。

鐵及鋼 本年ノ輸移入額ハ995,112擔6,848,021海關兩テ前年ノ885,535擔6,361,763海關兩ニ比シ數量ニ於テ109,577擔價額ニ於テ486,238海關兩ノ増加テアル。之レ當年滿鐵使用ノ軌條ノ輸入増加セルニ因ルモノテアル。

麻袋其他袋類 本年ノ輸移入額ハ43,791,044枚6,527,423海關兩テ前年ノ29,022,601枚5,157,905海關兩ニ比シ數量ニ於テ14,768,443枚價額ニ於テ1,369,518海關兩ノ増加テアル。麻袋ハ主トシテ特產物輸送包裝用ニ使用セララルモノテアルカ。大連株式商品取引所開設後同市場ニ上場セララルニ至ツタノテ本品取扱輸入商遽カニ増加シ產地[カルカッタ]ヨリ直輸入

激增シタ結果數量ニ於テ三割以上増加ヲ來タシタノテアル。

機械器具 本年ノ輸移入額ハ6,275,545海關兩テ前年ノ6,291,898海關兩ニ比シ僅ニ16,353海關兩ノ減少テアル。滿洲ニ於ケル諸種工業ノ發達スルニ伴ヒ諸機械類ノ輸入旺盛ナルハ當然テハアルカ前年經濟界ノ打撃カ尙深ク推進シツツアリシニ拘ラス當年ノ輸入額カ前年ニ比シ大差ナカッタノハ滿洲起業界ノ爲喜ハシキ事テアル。

砂糖 本年ノ輸移入額ハ197,803擔2,297,248海關兩テ前年ノ436,458擔3,942,125海關兩ニ比シ數量ニ於テ238,655擔價額ニ於テ1,644,877海關兩ノ増加テアル。之レ日本糖輸入激增セル爲メテ前年ハ財界ノ恐慌銀價暴落ニ依ル購買力ノ激減ト前々年ノ[ストック]ニヨリ輸入業者カ輸入ノ手控ヘラシテ居ツタカ當年ハ西伯利方面向若干ノ輸送アリシト相場モ大正九年ニ比シ三割方低下セル爲メ需要モ從ツテ増加シ豫想以上ノ増進ヲ見タノテアル。

今當年ノ輸移入額ヲ前年ト對照セハ下ノ如シ。

		大正九年	大正十年
外國糖			
赤砂糖	擔	24,488	75,195
白砂糖	同	111,118	153,699
精製糖	同	53,601	178,866
氷砂糖	同	6,145	23,062
角砂糖	同	2,011	3,404
	計	197,363	434,226
支那糖			
赤砂糖	擔	242	551
白砂糖	同	175	1,528
氷砂糖	同	19	153
	計	436	2,232

上記外國糖ノ輸入中日本品ハ五割以上ヲ占メテ居ル。

綿織絲 本年ノ輸移入額ハ84,489擔3,801,386海關兩テ前年ノ93,913擔4,432,208海關兩ニ比シ數量ニ於テ9,424擔價額ニ於テ630,822海關兩ノ減少テアル。本品ハ當年安東經由ノ日本品牛莊經由ノ支那品ノ輸移入非常ニ増加セル結果大連陸上ケ綿絲ノ減少ヲ見ルニ至ツタノテアル。

石油 本年ノ輸入額ハ 9,555,885 米噸 3,437,912海關兩テ前年ノ 8,551,555 米噸 2,523,707海關兩ニ比シ數量ニ於テ 1,004,330米噸價額ニ於テ 914,205 海關兩ノ増加テアル。本品ハ支那人ノ燈火用ノミナラス近來各種工業用トシテノ需要モ増加シ、當年ハ前年ニ比シ一割二分ノ増進ヲ示シタ。然ルニ當年輸入品ノ大部分ハ米油テ同品ハ品質ノ良好ナルト價格ノ低廉ナルトノ爲メ殆ント獨舞臺ノ觀カアル。日本油ノ輸入ハ僅ニ 3,865 米噸テアル。

米 本年ノ輸移入額ハ 549,425 擔 2,876,324 海關兩テ前年ノ 522,684 擔 2,426,988 海關兩ニ比シ數量ニ於テ 26,741 擔價額ニ於テ 449,336 海關兩ノ増加テアル。滿洲水田ノ勃興ト共ニ年ヲ遂フテ輸入減退ノ傾向ニアル。米ノ如斯輸入増加ヲ見タルハ日本内地米價下落ノ結果、朝鮮米及香港ヨリ外米ノ輸入増加シタ爲テアル。

衣服及附屬品 本年ノ輸移入額ハ 2,836,358 海關兩テ前年ノ 2,936,118 海關兩ニ比シ 99,760 海關兩ノ減少テアル。

其他雜織物 本年ノ輸移入額ハ 2,266,005 海關兩テ前年ノ 1,792,704 海關兩ニ比シ 473,301 海關兩ノ増加テアル。之レ主トシテ支那麻布ノ移入増加ニ依ルモノテアル。

電氣材料 本年ノ輸移入額ハ 2,164,016 海關兩テ前年ノ 1,902,217 海關兩ニ比シ 261,799 海關兩ノ増加テアル。之レ鐵道沿線ニ於ケル滿鐵會社ノ電氣事擴張ニ伴ヒ輸入増加ヲ見ルニ至ツタノテアル。本品ハ歐米品ノ輸入漸増シツツアルモ大部分ハ日本品ノ輸入テアル。

麥粉 本年ノ輸移入額ハ 454,151 擔 2,263,058 海關兩テ前年ノ 279,193 擔 1,410,918 海關兩ニ比シ數量ニ於テ 174,958 擔價額ニ於テ 852,140 海關兩ノ増加テアル。之レ當年滿洲小麥ノ減收ノ結果麥粉ノ價格騰貴シタルニ反シ米國ニ於ケル小麥大豐作ノ爲同國製粉界ノ活躍トナツテ米國製麥粉ノ輸入増加ヲ見タルト、南方支那ニ於ケル製粉業ノ活躍目醒シク上海麥粉ノ移入六割以上増加シタ爲テアル。

酒類及其他飲料 本年ノ輸移入額ハ 2,030,671 海關兩テ前年ノ 1,901,162 海關兩ニ比スレハ 129,509 海關兩ノ増加テアルカ輸入噸數ヨリ見ル時ハ當年麥酒及酒類ノ輸移入一萬四千六百餘噸テ前年ノ一萬七千餘噸ニ比シ一

割四分ノ減退テアル。之レ當年銀價下落ニ基ク稅關統計單價騰貴ノ結果價額ニ於テハ増加ヲ示スモ實際ノ輸移入量ニ於テハ減少シテ居ルノテアル。

紙類 本年ノ輸移入額ハ 1,969,396 海關兩テ前年ノ 1,369,951 海關兩ニ比シ 599,445 海關兩ノ増加テアル。之レ日本ヨリノ輸入増加ニ依ルモノテアル。毛及毛綿交織物 本年ノ輸入額ハ 1,833,427 海關兩テ前年ノ 1,588,691 海關兩ニ比シ 244,736 海關兩ノ増加テアル。本品ハ全部外國品テ當年ノ輸入ハ歐米品七割日本品三割ノ割合テアル。日本品ノ輸入前年ヨリ減退セルモ歐米品ノ輸入増加ノ爲前記ノ増加トナツタノテアル。

木材 本年ノ輸移入額ハ 1,566,364 海關兩テ前年ノ 2,976,149 海關兩ニ比シ 1,406,785 海關兩ノ減少テアル。之レ本品ハ大正八年ノ戰後中間景氣時代ヨリ大正九年ニ互リ日本及米國ヨリノ木材ノ輸入旺盛ニシテ大正九年ノ財界不況以來荷問ヘヲ生シ當年ハ多額ノ木材ノ再輸出ヲ見タル次第ニテ從ツテ輸入材ノ減少ヲ來タスニ至ツタノテアル。

絹及絹綿交織物 本年ノ輸移入額ハ 1,564,146 海關兩テ前年ノ 1,060,718 海關兩ニ比シ 503,428 海關兩ノ増加テアル。本品ハ輸移入額中其ノ九割ハ支那品ノ移入テ當年増加セルハ上海及芝罘ヨリ絹織物ノ移入増加ニ依ルモノテアル。

藥品及藥材 本年ノ輸移入額ハ 1,550,170 海關兩テ前年ノ 1,452,959 海關兩ニ比シ 97,211 海關兩ノ増加テアルカ輸入噸數ヨリ見ル時ハ當年藥品ノ輸移入 6,285 噸テ前年ノ 9,742 ニ比シ三割五分ノ減退テアル。之レ前記酒類及其ノ他飲料ノ部ニ説明セルト同一理由ニ依ルモノテアル。

次ニ輸移入仕出國別ニ前年ト比較スレハ下ノ如シ。

		輸移入額 海關兩	前年トノ増減額 海關兩
日	本	43,732,125	(減) 7,931,930
支	那	33,966,532	(増) 10,160,022
北	米 合 衆 國	11,918,041	(同) 338,270
香	港	3,369,694	(同) 1,485,672
英	領 印 度	2,358,694	(同) 1,792,032
英	吉 利	1,932,510	(同) 102,957

朝鮮	1,683,285	(同)	183,298
蘭領印度	1,158,603	(同)	495,231
其他	1,509,138	(同)	127,790
計	101,628,622	(増)	6,753,342

上記國別輸移入貿易ヲ見ルニ當年ハ日本ヨリノ輸入減少セルノミニシテ其他各國共増加ル來タシテ居ルノテアル。

日本ノ前年ニ比シテ793萬海關兩ノ減少ハ

	萬海關兩		萬海關兩
綿織物	547	卷煙草製造材料	12
石炭及「コークス」	168	機械油	11
鐵及鋼	146	硝子板及硝子器	10
麻袋及其他袋類	101	毛及毛綿交織物	8
綿織絲	40	燐寸	7
木材	34	麥粉	6
其他金屬	23	鐵道材料	6
其他雜織物	19	金物	5
其他油脂	16	棉花	3
水產物	15	煙草	3
皮革及毛骨角牙類	14		

等カ主ナル減少テ反之本年増加シタルモノハ

	萬海關兩		萬海關兩
砂糖	89	衣服及附屬品	10
酒類及其他飲料	50	石鹼	8
紙類	49	美術及化粧用品	8
機械器具	47	圖書及文具	8
家具	19	蠟燭製造材料	6
セメント	19	陶磁器及土器	6
米	16	建築材料	5
藥品及藥材	15	繭蠶絲及絹製品	4
野菜及果物	14	絹及絹綿交織物	3
其他絲綢及材料	10	其他雜品	25

等テ結局上記ノ減額トナル。

支那ノ前年ニ比シテ1,016萬海關兩ノ増加ハ

	萬海關兩		萬海關兩
綿織物	336	金物	12
煙草	273	紙類	10
麥粉	73	綿織絲	9

其他雜織物	61	燐寸	9
絹及絹綿交織物	49	其他食料品	8
鐵及鋼	40	其他絲綢材料	7
毛及毛綿交織物	39	卷煙草製造材料	7
革皮毛骨角牙類	35	藥品及藥材	7
棉花	33	美術及化粧用品	7
家具	28	衣服及附屬品	6
電氣材料	23	石鹼	6
染料及塗料	20	建築材料	6
砂糖	18	機械油	5
野菜及果物	14	圖書及文具	5
機械器具	14	硝子板及硝子器	5
繭蠶絲及絹製品	13	鐵道材料	3
茶	13	其他雜品	27

等カ主ナル増加テ反之本年減少シタルモノハ

	萬海關兩		萬海關兩
米	98	其他油脂	10
石炭及「コークス」	32	水產物	3
綿織絲	23	木材	3
其他穀物及種子	22	陶磁器及土器	3
其他金屬	13	麻袋及其他袋類	3

等テ是等ノモノヲ差引ケハ結局上記ノ増額トナル。

北米合衆國ノ前年ニ比シ増加セルハ當年機械器具及木材ノ輸入ハ減退シタルモ石油及鐵及鋼ノ輸入増加ニ基クモノテアル。

香港ノ前年ニ比シ増加セルハ米、砂糖及麻袋ノ輸入増加ニ依ルモノテアル。

英領印度ノ前年ニ比シ増加セルハ主トシテ麻袋ノ印度ヨリ直接輸入セララルニ至ツタ爲テアル。

英吉利ノ前年ニ比シ増加セルハ當年綿織物及毛及毛綿交織物ノ直接輸入ハ減少シタルモ機械器具ノ輸入増加シタ爲テアル。

朝鮮ノ前年ニ比シ増加セルハ當年綿織物、水產物及煙草等ニ於テ減退セルモ米ノ輸入増加ニ依リ結局上記ノ増額ヲ見ルニ至ツタノテアル。

蘭領印度ノ前年ニ比シ増加セルハ砂糖ノ輸入増加ニ因ルノテアル。

三 輸 出

大正十年ノ輸移出品總額ハ139,664,600海關兩(再輸移出ヲ含ム)テ前年ニ比シ5,068,868海關兩ノ減少テアル。之レ當年支那品ノ支那諸港向移出額ハ増加セルモ外國ヘノ輸出額減少セル爲前記ノ減退ヲ見ルニ至ツタノテアル。對外國直接輸出額ノ減少セル主ナル原因ハ日本及歐米ニ向ヘル小麥、朝鮮ニ向ヘル高粱及粟ノ輸出減退ニ基クモノテ對支那諸港移出額ノ増加セルハ北支那饑饉地ニ向ヘル雜穀類、上海ニ向ヘル大豆、豆油ノ移出旺ンナリシニ依ルモノテアル。

本年輸移出額(再輸移出ヲ含マス)ノ減少シタル主ナルモノハ豆油、小麥、柞蠶絲、其他種子類、繭、粟等テ増加シタモノハ豆粕、大豆、高粱、石炭、金屬及金物、其他豆類、玉蜀黍等カ主ナルモノテアル。

今年ノ主ナル輸移出品ヲ前年ト對照シテ見レハ下ノ如シ。

豆粕 本年ノ輸移出額ハ17,944,773擔39,482,161海關兩テ前年ノ17,546,748擔38,712,231海關兩ニ比シ數量ニ於テ398,025擔價額ニ於テ769,930海關兩ノ増加テ當年ハ前年ニ比シ數量ニテ二分二厘ノ増加テアル。

本品ハ年初以來ノ銀價低落ト大連特産市場鈍調相場トノ爲前年同期ニ比シ價格二三割安テアツタ。依テ日本ヘノ輸出ハ年初以來四五月頃迄至極圓滑ニ殊ニ同時期日本市場ハ農家ノ米不賣同盟ノ爲各地縣農會カ發起トナツテ米價昂上策ヲ採リタレハ米價ノ前途ニ稍安定ヲ與ヘ先高見込ニテ一般農家カ極力施肥ノ買附ヲ爲ス等豆粕需要ノ旺盛ト相俟ツテ輸出ハ著シク増加シタノテアル。然ルニ五、六月ニ至リ日本肥料界ノ旺盛ニ連レテ硫安、硝石等ノ輸入額著シク増加シ破格ノ廉價ヲ以テ豆粕市價ヲ脅威シタ。加之建値問題ニ依ル大連市場ノ紛糾ハ現場ノ不足ヲ來タシ日本市場ノ其後ノ漸落市價ト步調ヲ異ニシテ輸出商談兎角思ハシクナク前期ノ輸出増加ニ依リ對日本輸出ハ前年ヨリ八分三厘ノ増加トナツタ。

其他朝鮮、支那及歐洲方面ハ何等特記スヘキ好材料ニ遭遇セス且對米輸出ハ非常關稅問題ニ崇ラレ商談容易ニ成立セス近年ニナキ輸出不振ヲ

極メタ故ニ當年ノ輸出増加ハ獨リ日本向輸出ノ増加ニ依ルモノテ支那諸港向ハ半減シ其他諸國向一齋ニ減退シタレハ結局總額ニ於テ前年ニ比シ僅ニ二分強ノ増加ニ止マツタノテアル。

大豆 本年ノ輸移出額ハ8,506,632擔29,425,440海關兩テ前年ノ8,451,782擔24,493,497海關兩ニ比シ數量ニ於テ54,850擔價額ニ於テ4,931,943海關兩ノ増加テ當年ハ前年ニ比シ數量ノ増加僅少ナルニ拘ラス價額ノ増加割合ニ多キハ當年輸出大豆單價ノ騰貴セル爲テ數量ヨリ見レハ僅ニ六厘強ノ増加テアル。

初春大豆相場カ無類ノ崩落ヲナシタ爲歐洲市場ノ買氣ヲ刺戟シ歐洲航路船ノ寄港ト相俟ツテ近年稀ナ大量ノ歐洲輸出ヲ見タ。然ルニ日本ハ米價下落ノ影響ヲ受ケ商談不味ニテ、加フルニ大連特産市場建値變更ノ爲メ一般海外需要地市價ヲ奔騰セシメ牽ヒテ大連市價ヲ引メ締メ取引ノ不圓滑ヲ來タシ對日本輸出ハ前年ニ比シ數量ニテ三割三分ノ減退ヲ見ルニ至ツタノテアル。

支那、蘭領印度、香港等ハ年初安値買慕ヒテ商談繼續シ前年ニ比シ倍額ノ輸出増加ヲ見タ。

豆油 本年ノ輸移出額ハ1,682,541擔14,301,685海關兩テ前年ノ1,858,143擔15,942,867海關兩ニ比シ數量ニ於テ175,602擔價額ニ於テ1,641,182海關兩ノ減少テ、即數量ニテ一割強ノ減退テアル。

當年豆油市價カ年初以來四五月頃ニ懸ケテ前年好況當時ノ三割四分乃至四割安價ナリシ爲メ上半期ノ輸出ハ稍前途ヲ期待シ得ラルル有様テ同時期ニ於テハ英米兩國ヲ初メ埃及和蘭獨逸方面ヘノ輸出繁忙ヲ極メタ。然ルニ建値問題ノ漸次險惡ヲ極ムルニ至リ油房業者ハ一面ニ於テ前途ノ杞憂ヲ懷キ、原料大豆高ノ爲メ操業ヲ短縮シタレハ豆油市價ノ漸騰ヲ促進シ輸出不引合トナリ、下半期ハ一體ニ不況裡ニ推移シタ。當年ハ上半期ト下半期トノ間ニ輸出ノ好況ト不況トヲ見ルカ一箇年ヲ通シテ見ル時ハ歐洲方面ヘノ輸出ハ前年ニ比シ多少増加シテ居ル又支那ヘノ移出ハ十六割ノ激増テアル。然ルニ對米國輸出ハ七割四分ノ減少テ、之レ非常關稅問題ノ影響ニ依ルト雖モ、一ツハ價格ノ騰貴ニアリテ紐育ノ如キ

ハ一時豆油市場立會中止ノ状態テアツタ日本ヘノ輸出モ亦八割二分ノ減少テアル。元來日本向輸出豆油ノ大部分ハ米國ヘノ積換荷物ナレハ米國行豆油ノ不振ナリシ結果ハ牽ヒテ日本向豆油ノ輸出減退ヲ來タシタノテアル。

小麥 本年ノ輸移出額ハ 3,447,635 擔 12,032,097 海關兩テ前年ノ 6,660,946 擔 22,247,560 海關兩ニ比シ數量ニ於テ 3,213,311 擔價額ニ於テ 10,215,463 海關兩ノ減少テ、即數量ニテ四割八分ノ減退テアル。之レ大正九年歐米ニ於テ食糧不足ノ爲メ大正八年滿洲小麥ノ增收ト兩々相俟ツテ歐米市場ノ需要ヲ喚起シ所謂滿洲小麥ノ世界的聲價ヲ擴メタノテアルカ、大正九年ノ收穫カ近年比類ナキ不作ナリシヲ以テ價格ノ騰貴ヲ促シ輸出トコロカ寧ロ輸入ヲ仰クニ至ツタノテアル故ニ一時支那政府ハ小麥類ノ輸出ヲ禁シタカ、日本政府ノ交渉ニヨリ大正九年十二月該防穀令ヲ解禁シタノテアル然ルニ價格ハ依然高値ヲ存續シ大正十年上半期間ニ於テ大正九年收穫增收國タル米國小麥ノ輸入増加シ輸出ハ實ニ慘憺タル不振ノ状態ニ陥リ、從ツテ當年ハ支那諸港及香港向輸移出ヲ増加セルノミテ其地各國向悉ク激減シタノテアル。

高粱 本年ノ輸移出額ハ 2,850,431 擔 5,888,590 海關兩テ前年ノ 1,991,083 擔 4,420,205 海關兩ニ比シ數量ニ於テ 859,348 擔價額ニ於テ 1,468,385 海關兩ノ増加テ即數量ニテ四割三分ノ増加テアル。之レ主トシテ支那諸港向移出ノ増加テ大正九年以來北支那六省ニ互ル大凶作ノ爲メ饑民救濟ノ目的ヲ以テ該地方ヘ高粱ノ大輸送ヲ開始シ引續キ當年モ同一ノ目的ニテ饑饉地方ヘ輸送サレタ爲メ前記ノ如キ移出ノ増加ヲ見ルニ至ツタノテアル。

石炭 本年ノ輸移出額ハ 891,008 英噸 5,306,487 海關兩テ前年ノ 348,876 英噸 3,235,991 海關兩ニ比シ數量ニ於テ 542,132 英噸價額ニ於テ 2,070,496 海關兩ノ増加テ、即數量ニテ十五割以上ノ増加テアル。當年ノ輸出高ハ撫順炭ノ海外ヘ販路ヲ求メテ以來ノ最高記録テアル。大正二年三井物産會社ヲシテ上海、香港、新嘉坡及南洋方面ニ積極的販路ヲ開拓セシ爲メ結果 77 萬噸以上(燃料炭ヲ含ム)ノ輸出ヲ見タノテアツタカ、歐洲大戰開始サレテ滿洲

ニ於テモ諸種ノ工業カ物興シタ結果、石炭ノ大需要カ喚起サレ一時石炭ノ饑饉トモ謂フ可キ状態ニナツテ開灤炭又ハ日本炭ヲ逆輸入シテ補給シタ位テアツタ。然ルニ大正九年上半期ニ於ケル財界ノ反動ハ工業ヲ閉鎖スルモノヲ生シ需要ハ激減スルニ至ツタ。反之輸入契約炭ハ續々ト到著シ貯炭ハ日々ニ増加シテ其處分ニ當惑スルト謂フ有様ニナツタノテ再ヒ海外ヘ販路ヲ需メル方針ヲ採ツタ結果、大正九年ニ比較シテ 540,000 萬噸ノ輸出増加トナリ大正二年ノ記録ヲ破ルニ至ツタノテアル。

日本向輸出炭ハ當年 430,000 萬餘噸テ前年ノ 160,000 萬餘噸ニ比シ十六割以上ノ増加テアル。之レ大正九年ノ恐慌後一般工業界ノ需要減ニ基ク炭礦業者ノ採炭制限ハ其後炭價ノ低落ヲ阻止セルノミナラス供給減ニ基ク需要ノ殺到ハ却ツテ意外ノ反撥ヲ促シ實需ノ買急キ等モアリテ輸入石炭ノ旺盛ヲ極メ比較的低廉ナル滿洲炭殊ニ撫順炭カ日本ヘ輸出サレ比類ナキ好況ヲ呈シタノテアル。

其他支那及南洋方面ヘノ輸出増加ハ日本ノ採炭制限ニ依リ日本炭輸出價格ノ引合不可能トナリ又前年財界不況後ニ於ケル英國、濠洲方面ニ起ツタ炭礦勞働問題ノ影響ヲ受ケ著シク輸入ノ減少ヲ來タシタレハ從ツテ撫順炭ノ輸出増加ヲ見ルニ至ツタノテアル。

金屬及金物 本年ノ輸移出額ハ 2,796,399 海關兩テ前年ノ 1,882,889 海關兩ニ比シ 913,510 海關兩ノ増加テアル。之レ主トシテ日本向銑鐵ノ前年 585,718 擔ヨリ當年 1,084,631 擔ニ輸出増加セルニ依ルモノテアル。

其他豆類 本年ノ輸移出額ハ 895,793 擔 2,606,975 海關兩テ前年ノ 416,917 擔 1,215,926 海關兩ニ比シ數量ニ於テ 478,876 擔價額ニ於テ 1,391,049 海關兩ノ増加テ數量ニテ十一割ノ増加テアル。之レ當年小豆及吉豆ノ輸移出増加ニ依ルノテ小豆ハ前年ノ 113,549 擔ヨリ當年ハ 203,316 擔ニ増加シ、吉豆ハ前年ノ 96,783 擔ヨリ當年ハ 256,307 擔ニ増加シタ。今其仕向先ヲ見ルニ小豆ハ其七八割ハ日本ヘノ輸出テ前年ノ 87,640 擔ニ比シ當年ハ 174,506 擔テ十割ノ増加テアル。又吉豆ハ其七八割ハ支那ヘノ移出テ前年ノ 76,188 擔ヨリ當年ハ 187,613 擔テ十四割ノ増加テアル。是等ハ皆當年ノ收穫增收ナリシト海運界不況ニ依ル船運賃安ノ爲メ商談順調ニ進ミ從ツテ輸移出ノ好

況ヲ見ルニ至ツタノテアル。

柞蠶絲 本年ノ輸移出額ハ5,814擔1,714,678海關兩テ前年ノ6,437擔1,827,176海關兩ニ比シ數量ニ於テ623擔價額ニ於テ112,498海關兩ノ減少テアル。之レ上海芝罘龍口等ノ支那諸港向移出減少セル爲テアル。

玉蜀黍 本年ノ輸移出額ハ746,769擔1,641,851海關兩テ前年ノ537,521擔1,365,304海關兩ニ比シ數量ニ於テ209,248擔價額ニ於テ276,547海關兩ノ増加テ數量ニテ三割八分以上ノ増加テアル。之レ當社外國向殊ニ米國行ノ玉蜀黍ハ皆無トナリタルモ、北支那饑民救濟ノ目的ヲ以テ天津向ケ移出ノ増加セル爲メ結果、前記ノ増額ヲ見ルニ至ツタノテアル。

其他種子類 本年ノ輸移出額ハ548,859擔1,489,463海關兩テ前年ノ671,516擔2,105,404海關兩ニ比シ數量ニ於テ122,657擔價額ニ於テ618,941海關兩ノ減少テアル。之レ當年其他種子類中麻子及蘇子ノ日本向輸出減少ノ結果テアル。今之ヲ仕向先別ニ表示スレハ下ノ如シ。

		大正九年	大正十年
麻子			
日	本	149,026	58,969
丁	抹	41,316	8,400
北米合衆	國	18,465	5,587
和	蘭	8,536	25,993
香	港	1,589	729
英	吉	834	25,383
佛	蘭	—	36,558
埃	及	—	16,863
白	耳	—	825
支	那	1,643	—
	計	221,409	179,307
蘇子			
日	本	394,775	248,498
朝	鮮	22	362
北米合衆	國	3	—
支	那	—	45
	計	394,800	248,905

繭 本年ノ輸移入額ハ64,896擔1,391,900海關兩テ前年ノ67,201擔1,505,933海

關兩ニ比シ數量ニ於テ2,306擔價額ニ於テ114,033海關兩ノ減少テアル。之レ當年柞蠶繭不作ノ結果同品ノ芝罘ヘノ移出減退ニ依ルモノテアル。

粟 本年ノ輸移出額ハ392,017擔1,116,701海關兩テ前年ノ649,215擔2,168,378海關兩ニ比シ數量ニ於テ257,198擔價額ニ於テ1,051,677海關兩ノ減少テ數量ニテ三割九分ノ減少テアル。之レ當年支那諸港向ノ粟ノ移出ハ北支那饑民救濟ノ爲メ増加セルモ朝鮮向粟ノ輸出減少ノ爲メ前記ノ減少ヲ見ルニ至ツタノテアル。

次ニ輸移出仕向國別ニ前年ト比較スレハ下ノ如シ。

		輸移出額 海關兩	前年ト増減額 海關兩
日	本	68,875,895	(減) 3,343,719
支	那	32,775,177	(増) 6,532,981
土耳其、波斯、埃及、其他		11,537,677	(減) 1,114,306
朝	鮮	5,217,797	(増) 92,778
英	吉	4,346,984	(減) 917,886
蘭	領	4,206,095	(増) 2,314,514
和	蘭	3,318,589	(減) 2,369,694
香	港	2,811,736	(増) 1,653,858
北米合衆	國	2,587,739	(減) 4,460,226
獨	逸	1,073,991	(増) 822,230
其	他	2,912,920	(減) 4,249,398
	計	139,664,600	(減) 5,086,868

日本ノ前年ニ比シ3,330,000萬海關ノ減少ハ

		萬海關兩	萬海關兩
大	豆	295	胡
小	麥	204	其
豆	油	193	他
其他種子		71	穀
其他飲食料品		37	物
落花生		25	小包
			郵便
			物
			外國
			品
			再
			輸
			出
			支
			那
			品
			再
			輸
			出

等ノ主ナル減少テ反之本年増加シタルモノハ

		萬海關兩	萬海關兩
豆	粕	334	木
石炭及「コークス」		106	材
其他豆類		82	粉
金屬及金物		74	煙
			草
			柞
			蠶
			絲

等ヲ結局上記ノ減額トナル。

支那ノ前年ニ比シ6,530,000萬海關兩ノ増加ハ

大豆	390	石炭及「コークス」	16
豆油	317	染料及塗料	14
高粱	241	煙草	12
玉蜀黍	56	落花生	7
其他豆類	39	小麥	5
粟	37	棉花	5
瓜子	16		

等カ主ナル増加テ反之本年減少シタルモノハ

豆粕	148	其他飲食料品	11
層絹絲	40	繭	11
胡麻	29	豚毛	6
柞蠶絲	24	支那品再移出	124
羊毛及其他毛	13	外國品再移出	96

等テ是等ノモノヲ差引ケハ結局上記ノ増額トナル。

土耳其波斯埃及其他ノ前年ニ比シ1,110,000萬海關兩ノ減少ハ對埃及輸出ノ減少テ減少セル

小麥	434	外國品再輸出	56
----	-----	--------	----

ヨリ本年増加セル

豆油	249	大豆	124
----	-----	----	-----

ヲ差引ケハ大體上記ノ減額トナル。

朝鮮ノ前年ニ比シ60,000萬海關兩ノ増加ハ當年小麥ヲ初メトシ各種輸出品ノ大部分ニ互リ減退ヲ來タセルモ支那品及外國品ノ再輸出増加セル爲メ前記少額ノ増加ヲ見ルニ至ツタノテアル。

英吉利ノ前年ニ比シ910,000萬海關兩ノ減少ハ

小麥	203	外國品再輸出	10
----	-----	--------	----

ヨリ本年増加セル

豆油	52	其他穀物	2
大豆	46	皮革	2
其他種子	5	支那品再輸出	11
麥粉	3		

等ヲ差引ケハ結局上記ノ減額トナル。

蘭領印度ノ前年ニ比シ2,310,000萬海關兩ノ増加ハ當年大豆及石炭ノ輸出増加ニ依ルモノテアル。

和蘭ノ前年ニ比シ2,360,000萬海關兩ノ減少ハ

豆油	238	外國品再輸出	7
胡麻	22		

等ノ本年減少額ヨリ増加セル

大豆	12	其他種子	3
其他穀物	9	支那品再輸出	5

等ヲ差引ケハ上記ノ減額トナル。

香港ノ前年ニ比シ1,650,000萬海關兩ノ増加ハ

大豆	42	其他豆類	20
小麥	32	胡麻	18
落花生	30	其他雜品	5
石炭及「コークス」	22		

等ノ増加セルモノヨリ當年減少セル支那品再輸出40,000萬海關兩ヲ差引ケハ結局上記ノ減額トナル。

北米合衆國ノ前年ニ比シ4,460,000萬海關兩ノ減少ハ

豆油	297	其他油脂	10
玉蜀黍	24	落花生	6
皮革	16	其他種子	6
豆粕	15	其他穀物	2
高粱	12	外國品再輸出	114
小麥	12		

等カ主ナル減少テ反之本年増加シタルモノハ

豚毛	8	金屬及金物	6
石炭及「コークス」	8	支那品再輸出	46

等テ結局上記ノ減額トナル。

獨逸ノ前年ニ比シ 820,000 萬海關兩ノ増加ハ大豆豆油外國品及支那品再輸出ノ増加ニ依ルモノテアル。

四 出入船舶

一般航行章程ニ依ル出入船舶ハ合計 4,592 隻 6,328,734 噸(登簿噸數)テ前年ニ比較シ隻數ニ於テ 608 隻減少シタルモ噸數ニ於テハ却ツテ 819,420 噸ノ増加ヲ示シテ居ル。前年ノ一雙平均噸數 1,059 噸カ本年 1,378 噸ヲ示スハ大型船ノ來港ヲ物語ルモノテ其國籍別ヲ見ル時ハ日本船第一位ヲ占メ支那船英吉利船北米合衆國船等ノ順位テアル。而シテ今前年トノ比較ヲ見レハ日本船ハ 537 隻減少シタルモ噸數ニテ 823,766 噸増加支那船ハ 14 隻減少シタルモ噸數ニテ 68,374 噸増加英吉利船ハ 48 隻 70,457 噸減少北米合衆國船ハ 24 隻 128,852 噸減少和蘭船ハ 10 隻 130,508 噸増加佛蘭西船ハ 6 隻 20,758 噸増加諾威船ハ 16 隻 11,422 噸増加丁抹船ハ隻數ハ同一ナルモ 2,684 噸増加伊太利船ハ 2 隻 7,898 噸増加瑞典船ハ 6 隻 17,970 噸減少露西亞船ハ 13 隻 28,711 噸減少シタ。

日本船ノ隻數甚タシク減少セルニ拘ラス噸數ノ増加著シキハ年初以來大阪商船東洋汽船等ノ歐米航路船ノ大連寄港ニ依ルモノテ其他船主側ニ於テモ近海航路ノ小型船ノ運航ヲ減シ之ニ代ウルニ大型船ヲ以テスルニ至ツタ爲テアル。

内水航行章程ニ依ル汽船ノ出入ハ合計 638 隻 218,659 噸テ前年ニ比シ 169 隻 61,521 噸即三割強ノ増進テアル。其國籍別ヲ見ルニ支那船第一位ヲ占メ日本船英吉利船ノ順位テアル。而シテ今前年トノ比較ヲ見レハ支那船ハ 240 隻 81,484 噸増加シ日本船ハ 58 隻 16,310 噸英吉利船ハ 13 隻 3,653 噸共ニ減少シテ居ル。之レ支那船ノ競争ノ爲本航運ヨリ脱退スルノ不得已ニ立チ至ツタノテアル。

今過去五箇年間ノ出入船舶ヲ一般航行章程ニ依ルモノト内水航行章程ニ依ルモノトニ分ケテ掲クレハ下ノ如クテアル。

一般航行章程ニ依ル累年出入船舶

年次	汽船		西洋型帆船其他		合計	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
大正六年	3,394	3,490,446	539	15,471	3,933	3,505,917
同七年	4,417	3,812,742	393	11,995	4,810	3,824,737
同八年	4,955	4,766,410	158	13,352	5,113	4,779,762
同九年	5,084	5,507,705	116	1,609	5,200	5,509,314
同十年	4,534	6,328,019	58	715	4,592	6,328,734

内水航行章程ニ依ル累年出入船舶

年次	英吉利船		日本船		支那船		合計	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
大正六年	—	—	469	134,488	29	10,586	498	145,074
同七年	—	—	393	116,448	33	10,282	426	126,730
同八年	12	3,372	300	90,931	141	39,009	453	132,412
同九年	15	4,215	197	71,861	257	81,062	469	157,138
同十年	2	562	139	55,551	497	162,546	638	218,659

次ニ過去五箇年間ノ戎克出入往來別ヲ示セハ下ノ如シ。

戎克出入累年比較

地方別	大正六年		大正七年		大正八年		大正九年		大正十年	
	隻數	擔數	隻數	擔數	隻數	擔數	隻數	擔數	隻數	擔數
關東州	9,243	551,707	9,216	737,280	8,493	407,491	7,144	385,537	6,606	404,383
安東	673	47,167	1,243	99,420	920	103,213	497	42,853	475	37,160
牛莊	12	2,975	29	2,321	144	14,995	121	12,457	12	2,900
奉天省	1,966	160,203	1,912	152,968	2,079	233,300	2,235	157,049	2,268	153,012
直隸省	207	35,545	328	26,240	281	40,437	421	58,833	404	50,970
天津	133	22,865	275	22,021	216	22,453	282	38,010	253	32,530
龍口	1	150	714	57,120	390	28,984	761	57,759	656	49,280
煙臺	1,042	134,854	1,090	87,208	581	78,651	707	85,507	459	74,880
威海衛	540	52,884	907	72,562	238	17,961	348	29,680	183	13,620
膠州	134	40,190	86	6,880	12	4,148	11	2,270	43	10,245
山東省	8,401	1,035,836	8,182	654,568	2,940	252,443	6,102	539,876	5,741	555,592
上海	129	36,535	110	33,000	94	24,895	99	24,160	125	54,780
朝鮮	166	9,199	334	10,085	338	26,107	148	9,475	218	13,295
江蘇省	266	88,750	237	78,210	188	48,554	209	55,245	420	101,070
甯波	38	37,400	28	28,960	32	12,750	24	12,700	28	22,150
福州	31	30,620	29	29,580	32	25,400	28	17,700	44	30,600
計	22,984	2,286,880	24,720	2,098,423	17,578	1,431,783	19,138	1,529,111	17,935	1,506,468

五 商 況

年初來内外金融ノ大勢ハ前年ニ比シ幾分緩和ノ曙光ヲ呈セルニ伴ヒ當地ノ財界モ亦久シキニ互レル沈滞期ヲ經過シ多少活動期ニ入レルモノアルヲ認ハシメタカ未タ以テ大勢ヲ挽回スルニハ至ラス殊ニ建値問題ノ紛擾殆ント半歳ニ互リ滿洲奥地ハ一時金票牽制問題ノ混雜アリタルモ幸ヒニシテ輸出入方面ニ對スル影響ハ割合ニ少ク且問題解決以來市場舊ニ復シタ其間人心ノ萎縮ハ市況ヲ少ナカラス挫折シタノテアル。加之世界的財界悲觀ノ聲ハ貿易ノ逆調ニ伴フ爲替決濟資金ノ壓迫ト相俟ツテ晚秋來日本ノ金融界ハ著シク緊縮ニ傾キ當地モ亦歲末ノ接近ニ伴ヒ特産盛期ヲ迎フルニ至リ此方面資金ノ準備ニ急ナル爲メ漸次金融引締メ一般緊縮裡ニ越年シタ。要スルニ大正十年ノ經濟竝ニ金融界ハ前年變動ノ後ヲ承ケ時ニ反撥的現象ヲ呈セシモノモアルカ大勢ハ尙不安ノ域ヲ脱セス結局往時ノ好況時代ニ對スル整理ノ道程ヲ以テ終始シタ譯テアル。以下各月ニ互リ大要ヲ叙述スレハ左ノ如シ。

一月 季節柄出荷ハ漸増ノ步調ヲ示セルモ市況不振ノ爲メ輸出ノ之ニ伴ハサル觀カアツタ。輸入方面モ亦僅々綿絲布類ニ對スル舊正月見込買ノ増加セルニ止リ各方面トモ左シタル好材料ナク取引概ネ凡調ニ終ツタ。從ツテ金融界ハ特産資金ノ需要稍増加セル外特種的資金ノ如キハ些ノ喚起ヲ見スニ頗ル閑散裡ニ越月シタ。

二月 内地株界ノ活躍ハ又當地市場ニ幾分ノ刺戟ヲ與ヘ一方豆粕既約品ノ内地輸出一時旺盛ヲ見タルモ尙大勢ヲ動スニ至ラス。加之當月ハ舊正月中ノ事トテ一般寂寥ヲ持續シタ。今之ヲ手形交換高ニ徴スルニ前月ニ比シ金三千餘萬圓、銀二千餘萬圓共ニ激減シタルハ如何ニ資金ノ固定シ市況ノ不味ナリシカラ察スル事カ出來ル。

三月 久シク沈衰状態ヲ脱セサリシ當地ノ金融界モ偶々日本ノ情勢ニ連レ幾分緩和ノ曙光ヲ齎セルト共ニ市況モ亦日本ノ好況ヲ傳ヘテ多少擡頭機運ヲ現シ輸入方面共相當振作ヲ呈スルニ至ツタ。一般賣買高ノ増進ニ依ル受渡資金ノ新規需要増加シタ。斯クテ商況ハ漸次形勢ヲ轉換ス

ルカ如クニ觀測サレタ。

四月 内外金融ノ大勢漸次軟調ヲ示セルニ伴ヒ日本ハ勿論當地市場モ漸次活動ノ度ヲ加フルニ至ツタカ中旬特産取引所建値問題變更ノ發令ト共ニ反對派ノ結束トナリ、爲ニ特産及錢鈔市場ハ先物取引休止ノ状態ニ陥リ一時物情騒然タリシモ輸出方面ニハ何等ノ影響ナク輸入ト竝テ一層盛況ヲ呈シ金融界ハ此方面相當資金ノ需要ヲ見タノテアル。

五月 特産及錢鈔市場ハ引續キ先物取引杜絶ノ姿ナルモ現物相場活況ヲ告ケ油房業ノ如キハ内地筋ノ豆粕買進ミニ依リ前年同月ニ比スレハ二倍ノ製産高ヲ舉ゲタ其他輸出方面又益々順調ヲ告ケ加フルニ月央後株式市場ノ活躍目覺シキモノカアツタ。金融界ハ此方面可成資金ノ需要ヲ見タカ、目先夏枯期ヲ控ヘシコトトテ大勢尙閑散氣配ニ越月シタ。

六月 輸入ハ頗ル凡調ナルカ北滿特産物ノ出廻リ異常ノ盛況ヲ呈セル一方輸出ハ四五月ノ豆粕最盛期ヲ過キ且ツ建値問題ノ餘波尙去ラス特産及錢鈔市場ハ依然先物取引休止ノ姿ナルニ拘ラス埠頭ノ荷動キ活潑ナリシニ加ヘ株式市場ハ内地ノ金融緩和ニ刺戟サレ益々般盛ヲ告ケタノテアル。從ツテ金融界ハ例年ノ夏枯期ニ比シ意外ノ小繁趨勢ヲ迪ツタ形テアツタ。

七月 月央後歐洲筋農産不作ノ確報ヲ入レ此方面ニ對シ大豆及小麥ノ輸出ヲ啖リ一部大手筋ノ手配リニ依ル積取船引續キ入港セル爲メ比較的少量ノ荷動キアリ、一方株式市場ノ如キモ亦好況裡ニ推移セルヨリ此方面資金ノ需要小繁ヲ示シタルモ金融ハ大勢預金増加ニ反シテ貸出減少ヲ來シ金融概シテ緩漫テアツタ。

八月 株式市場ハ一部ノ悲觀說モ何等刺戟スル處ナク引續キ盛況ヲ保持シ又輸入ハ秋期需要ヲ控ヘテ支那人側ノ思惑買進ミヲ誘起シタルモ輸出貿易減退シテ特産ノ不況甚シク目先好況材料ヲ失シテ市場復活ヲ缺クノ觀カアツタ。當月組合銀行ハ遂ニ預金利下ケヲ發表スルニ至リ金融界ハ無味閑散裡ニ越月シタ。

九月 久シク中絶シ居タル特産先物取引開始サレ錢鈔モ亦亞イテ先物市場ノ復活アリ恰モ日本期米ノ好調ニ三品續騰シ一方銀價ノ昂騰ハ輸

入品ノ買氣ヲ煥起スル等市況頓ニ活氣ヲ示シ株式界モ亦益々繁盛ノ機運ニ在リ從ツテ金融界ハ一齊的繁忙ヲ極メ手形交換所交換高ノ如キ當月ハ金銀勘定ヲ通シテ巨額ノ増進ヲ來シタ。

十月 奧地金票牽制問題勃發ノ爲メ輸入品市場ハ多少ノ障害ヲ齎セルモノノ如ク錢鈔市場モ亦特産金建ノ影響ト銀價ノ無味ニ依リ商狀氣乘薄ノ觀アツタカ特産ノ出廻リハ前月ニ比シ六萬五千餘噸ノ激增ヲ告クルニ至リ殊ニ奧地ノ豐作ハ冬期ノ盛況ヲ豫想シテ人氣ヲ峻リ金融ノ情勢強調ヲ呈シ一般好況裡ニ越月シタ。

十一月 特産ノ廻著三十萬噸ヲ算スルノ趨勢テ著荷輸出一躍激增ヲ來シ金融界ハ之レニ伴フ資金ノ需要益々急ナル一方歲末決濟資金準備ノ必要ニ迫ラレ旁々日本金融ノ引締ニ伴ヒ著シク緊張傾向ヲ現シ一般金利強含ミノ情勢ヲ呈シタルカ晚春來好況ヲ持續セシ株式市場ハ當月ニ入り金融ノ現勢ト仕手關係ノ壞滅トニヨリ急轉的惡化ヲ演スルニ至ツタノハ注目スヘキ現象テアツタ。

十二月 特産廻著ノ追日的激增ハ輸出ニ多大ノ刺戟ヲ與ヘ奧地金票問題ノ解決ハ農作ノ豐收ト相俟ツテ輸入ノ振作ヲ促シ此方面頗ル般賑ヲ呈シタカ世界的財界不安ノ聲ハ金融ノ緊縮ト共ニ一般警戒氣分ニ傾キ株式初メ錢鈔市場ノ如キハ取引日ニ萎縮シ殊ニ支那側ニアリテハ中國交通兩銀行ノ兌換問題勃發以來人心動搖ノ兆アリテ一時悲觀說傳ヘラレシモ幸ヒ大事ニ至ラス越年スルヲ得タノテアル。

六 建値問題ノ經過

大連取引所ニ於ケル建値ハ支那人トノ關係上多年銀建ニテ本年四月突如トシテ公布サレタル銀建廢止金建實施ノ發令ハ經濟界ニ多大ノ反響ヲ齎シ是非ノ議論ノ沸騰シタルハ世間周知ノ事テアル。滿洲ニ於ケル支那官憲ノ勢力範圍内ニ於テハ之ニ對シ報復的行動ヲ取ルモノサヘ頻出スル有様テアツタ議論ノ是非ハ將來ノ實證ニ讓リ茲ニハ發令以來ノ經過ヲ舉ク。

四月十五日 當局ハ取引所關係方面ノ代表者ヲ取引所ニ召集シ取引建

値變更ノ旨内示サル。

四月十六日 關東廳告示第三十三號ヲ以テ大連取引所ニ於テ賣買取引ニ用ユル建値ハ大正十年十月十四日以降ノ取引ヨリ金建トストノ旨ヲ公示ス。

特産取引人組合ハ直ニ臨時總會ヲ開キテ銀建存續ノ期成ヲ決議シ日支各六名ノ特別委員ヲ選定シテ其實行方法ヲ委任ス。

四月十八日 支那人公議會特別委員會ノ決議ニ依リ大連取引所ニ於ケル特産錢鈔兩取引ヲ休止ス郭大連公議會長牛小崗子公議長等民政署長ヲ訪問シ山縣長官宛銀建存續ノ陳情書ノ進達方ヲ依頼ス。

大連取引信託會社ハ臨時重役會ヲ開キ金建尙早銀建存續期成ヲ決議ス朝鮮銀行ハ上海兩ノ金爲替相場ヲ公表ス

四月十九日 特産錢鈔兩取引人組合及ヒ支那人公議會等ヨリ成ル銀建存續實行聯合會陳情委員大舉關東廳ニ出頭シ銀建存續ヲ陳情ス大連商業會議所役員會金建尙早ヲ決議シ實行委員ヲ選定スルト同時ニ當路各大臣大官ニ宛テ告示第三十三號ノ撤廢方ヲ電請ス。

四月二十一日 銀建存續陳情委員四十四名關東廳ニ山縣長官ヲ訪問ス

四月二十二日 金建反對ノ諸團體結束シ銀建存續期成同盟會ヲ組織シ事務所ヲ[ヤマトホテル]ニ設ケ七萬圓ノ運動費釀出ノ申合セヲナス。

四月二十五日 民政署長各團體有力者ヲ招待シ運動ノ惡化ヲ誠ム。

四月二十七日 警務課長支那人公議會代表者郭學純季子明等ヲ招キ不穩ノ行動ヲ誠メ市場開始ヲ一般ニ懲通スヘク警告ヲ與フ。

五月二日 大連取引所特産及錢鈔現物取引開始サル。

五月三日 商業會議所常議員會ヲ開キ銀建存續運動ニ對スル態度ヲ議シ同盟會ヨリ脫退ス。

五月五日 銀建存續同盟會委員政府ニ運動ノ爲メ上京ノ途ニ就ク特産先物取引開始サル但殆ント手仕舞ヒ商内ニ止マリ商況不振ヲ極ム。

五月七日 銀建存續期成同盟會支那側委員上京ス。

五月十六日 金建擁護會[ヤマトホテル]ニ事務所ヲ設ク。

五月十七日 東京商業會議所常議員會ノ結果全國商業會議所聯合會ノ

決議ニ基キ金建賛成ヲ聲明ス。

六月十五日 金建取引實行期ニ入ル但シ實際金建取引ナク商況不振。

六月二十二日 銀建存續期成同盟會支那側上京委員等歸連。

六月二十三日 株式商品取引人組合銀建存續期成同盟會ヨリ脱退。

六月三十日 金建擁護會解散。

七月一日 銀建存續期成同盟會解散。

七月六日 山縣長官建値問題ニ關シ主ナル日支人ヲ民政署ニ引見。

七月七日 支那人公議會總會開催上京委員運動ノ經過ヲ報告シ會員中金建賛成者現ル。

七月八日 奉天商總會ハ東三省各商總會其ノ他ニ對シ金票賣捌キ十三項ニ互ル決議事項ヲ祕密傳達ス。

七月十一日 金建實施ニ關スル善後策攻究ノ爲關係主腦者集合大勢漸ク金建反抗ノ時代ヲ脱シ順應準備ノ期ニ移レルヲ示ス。

九月五日 取引所長日支取引人ヲ召集シ金建取引ヲ勸告ス。

九月六日 金建ニ依ル大連取引所特產物先物開始サル。

九月十二日 錢鈔先物取引開始サル。

十二月一日 大連輸出商組合組織サレ關係當路ニ金銀兩建諸願書ヲ提出ス然レトモ取引開始以來市況順調ニテ一般ニ反響ナシ。

次ニ大連取引所特產物取組表ヲ示セハ下ノ如シ。

大連取引所特產物現物出來高比較

月次	大豆		高粱		豆		油	
	大正九年 車	大正十年 車	大正九年 車	大正十年 車	大正九年 枚	大正十年 枚	大正九年 斤	大正十年 斤
一月	1,619	2,515	—	6	972,000	2,589,000	10,817,550	10,211,525
二月	558	1,523	—	—	851,000	1,732,000	3,335,200	8,025,900
三月	1,111	2,220	1	60	831,000	3,137,500	8,164,500	9,077,140
四月	214	882	—	46	35,000	1,479,000	1,987,450	4,279,485
五月	495	595	3	—	2,375,650	2,798,000	7,088,100	14,366,933
六月	396	660	—	—	1,789,100	4,006,000	10,931,125	13,492,550
七月	469	340	11	—	851,000	3,141,000	4,274,150	12,401,750
八月	511	190	23	1	165,300	2,143,000	6,501,500	4,090,600
九月	629	98	12	—	647,000	1,541,000	10,038,900	5,689,550
十月	669	116	2	—	1,648,000	542,000	5,666,950	5,041,050
十一月	679	423	4	104	1,734,000	758,900	11,655,500	4,706,565
十二月	1,516	235	1	—	1,955,000	854,000	11,429,475	7,831,500
計	8,866	9,798	57	217	13,864,050	24,721,400	91,890,400	99,234,548

大連取引所特產物先物出來高比較

月次	大豆		高粱		豆		油	
	大正九年 車	大正十年 車	大正九年 車	大正十年 車	大正九年 千枚	大正十年 千枚	大正九年 百兩	大正十年 百兩
一月	26,768	7,867	1,929	2,265	34,583	9,903	6,954	3,993
二月	6,476	4,841	1,717	1,000	11,921	6,556	954	1,958
三月	20,179	10,684	5,041	1,496	22,183	11,500	3,177	5,275
四月	8,652	2,963	1,519	1,184	3,629	4,074	953	2,900
五月	7,558	2,257	3,743	387	3,655	2,975	1,778	2,160
六月	10,397	1,028	3,363	153	3,344	902	1,666	745
七月	7,094	57	5,001	—	3,976	27	1,327	188
八月	5,849	—	3,757	—	3,143	—	1,818	—
九月	4,880	5,375	3,564	—	5,489	7,428	1,765	2,320
十月	4,837	7,215	3,188	186	4,501	9,093	1,410	1,705
十一月	5,556	5,688	2,425	791	6,251	10,067	2,002	3,115
十二月	9,294	6,334	2,105	1,353	11,304	9,077	4,589	4,895
計	117,540	54,309	37,412	8,815	113,979	71,602	28,393	29,254

備考 豆油ノ單位一兩ハ五十六斤入テアル

七 雜

本年ノ金銀ノ出入ハ合計7,750,065海關兩テ前年ノ14,238,682海關兩ニ比シ6,488,617海關兩ノ激減テアル。之レ主トシテ露金貨ノ日本輸出皆無トナリルニ依ルノテアルカ本年上海向積出サレタル露金貨ハ前年ノ移出額ニハ達セサルモ百四十萬海關兩以上ニ及ンテ居ル。

牛 莊 港 (營口)

- 一 牛莊港貿易概況
- 二 輸入
- 三 輸出
- 四 出入船舶
- 五 商況
- 六 遼河ノ改修
- 七 雜

一 牛莊港貿易概況

大正十年牛莊港輸移出入品貿易價額ヲ見ルニ 69,907,185 海關兩テ前年ノ 59,934,152 海關兩ニ比較スレハ 9,973,033 海關兩ノ増加テアル今之ヲ輸出入別ニ見レハ輸移入ハ本年 44,810,173 海關兩テ前年ノ 41,894,538 海關兩ニ比シ 2,915,635 海關兩即六分九厘ノ増加輸移出ハ本年 25,097,012 海關兩テ前年ノ 18,039,614 海關兩ニ比シ 7,057,398 海關兩即三割九分ノ増加テアル輸移入ノ増加ハ主トシテ綿織物、綿織絲、砂糖等ノ増加ニ依リ輸移出ノ増加ハ大豆、穀類、豆粕等ノ増加ニ依ルモノテアル

今當年對手國別貿易ヲ示セハ下ノ如シ

對 手 國	輸移出入總額 海關兩	前年トノ比較増減 海關兩
支 那	54,700,211	(+) 5,097,181
日 本	9,638,076	(+) 3,986,172
香 港	4,253,913	(+) 1,279,201
北米合衆國	829,216	(+) 508,990
其 他	485,769	(-) 898,511
計	69,907,185	(+) 9,973,033

支那ノ増加ハ移入ニ於テハ綿織絲移出ニ於テハ大豆、高粱、粟、石炭等ノ増加、日本ノ増加ハ輸出ニ於テ豆粕、小麥、雜穀、銑鐵等ノ増加、香港ノ増加ハ輸入ニ於テハ砂糖及麻袋輸出ニ於テハ大豆ノ増加、北米合衆國ノ増加ハ輸入ニ於テハ木材輸出ニ於テハ豚毛、羊毛、皮革等ノ増加ニ依ルモノテアル最近五箇年間牛莊港對日本輸出入品價額累年比較表ヲ示セハ下ノ如シ

牛莊港對日本輸出入品價額累年比較

單位 (海關兩)

	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年	前年トノ比較増減
輸 入						
日本ヨリ輸入額	2,616,174	2,539,638	3,448,033	3,499,465	3,363,128	(-) 133,337
其他諸國ヨリ輸入額	22,457,675	26,899,070	28,518,508	38,395,073	41,447,045	(+) A3,051,972
計	25,073,849	29,438,708	31,966,541	41,894,538	44,810,173	(+) 2,915,635
輸 出						
日本へ輸出額	2,477,696	3,878,846	8,936,867	2,148,564	6,240,932	(+) B4,092,368
其他諸國へ輸出額	12,806,781	11,539,028	13,090,163	15,732,328	18,640,420	(+) C2,908,092
計	15,284,477	15,417,874	22,027,030	17,880,892	24,881,352	(+) 7,000,460
仲 繼 貿 易						
日本へ再輸出額	10,160	24,310	24,541	3,875	31,016	(+) 30,141
其他諸國へ再輸出額	205,712	276,520	334,400	154,847	181,644	(+) 26,797
計	215,872	300,830	359,001	158,722	215,660	(+) 56,938
總 額						
對 日 本	5,104,030	6,442,794	12,409,441	5,651,904	9,638,076	(+) 3,986,172
對 其 他 諸 國	35,470,168	38,714,618	41,943,131	54,282,248	60,269,109	(+) 5,986,861
計	40,574,198	45,157,412	54,352,572	59,934,152	69,907,185	(+) 9,973,033
百 分 比						
輸 入 } 對 日 本	10	9	11	8	7	
} 對 其 他 諸 國	90	91	89	92	93	
輸 出 及 再 輸 出 } 對 日 本	16	24	40	11	25	
} 對 其 他 諸 國	84	76	60	89	75	
總 貿 易 額 } 對 日 本	13	15	23	9	14	
} 對 其 他 諸 國	87	85	77	91	86	

備考 A 歐米品ノ輸入増加ニ依ル

B 日本向輸出豆粕ノ激増其他大豆、小麥、銑鐵等ノ増加ニ依ル

C 支那諸港向輸出高粱、粟、石炭等ノ増加ニ依ル

二 輸 入

大正十年ノ輸移入品總額ハ 44,810,173 海關兩テ前年ニ比シ 2,915,635 海關兩ノ増加テアル之レ當年支那品ハ汽船移入ニ於テ 470,000 海關兩ノ増加ヲ見タルモ戎克移入ニテ 1,390,000 海關兩減少シ結局 900,000 海關兩ノ減退ヲ來タシ日本品ノ輸入モ亦減少シタカ外國品殊ニ上海經由歐米品ノ輸入増加セル爲メ差引前記ノ増額ヲ見ルニ至ツタノテアル

本年輸移入額ノ増加シタル主ナルモノハ綿織物、綿織絲、砂糖、染料及塗料、其他食料品、煙草、陶磁器及土器、藥品及藥材、鐵及鋼、麻袋及其他袋類、水產物等テ減少シタモノハ紙類、茶、石油、絹及絹綿交織物、棉花、皮革、毛骨、角牙類、木材等カ主ナルモノテアル

今年ノ主ナル輸移入品ヲ前年ト對照シテ見レハ下ノ如シ

綿織物 本年ノ輸移入額ハ 15,638,036 海關兩テ前年ノ 14,782,393 海關兩ニ比シ 855,643 海關兩ノ増加テアル本品ハ南滿ノ他ノ諸港ト同様當港ニ於テモ輸移入品中常ニ第一位ヲ占メ當年外國品及支那品ノ輸移入割合ヲ見ルニ外國品四分支那品六分ノ割合テアル外國製輸入綿布ノ七割及支那產綿布ノ大部分ハ上海ヨリ移入サルルモノテ牛莊カ沿岸貿易港トシテ其商取引上如何ニ上海トノ關係ノ密接ナルカヲ知ル事カ出來ル(主要綿布ノ輸移入數量ニ就テハ二三〇頁參照)

綿織絲 本年ノ輸移入額ハ 146,898 擔 7,896,676 海關兩テ前年ノ 101,463 擔 5,894,192 海關兩ニ比シ數量ニ於テ 45,435 擔價額ニ於テ 2,002,484 海關兩ノ増加テアル而シテ本品ノ外國品及支那品ノ輸移入割合モ亦綿織物同様外國品四分支那品六分ノ割合テ近年支那紡績業發達ノ結果非常ナル勢力ヲ以テ支那絲ノ移入ヲ見ルニ至ツタノテアル(二二九頁參照)

砂糖 本年ノ輸移入額ハ 321,183 擔 2,534,856 海關兩テ前年ノ 165,138 擔 1,633,399 海關兩ニ比シ數量ニ於テ 156,045 擔價額ニ於テ 901,457 海關兩ノ増加テアル増加ノ理由ハ前節大連ノ部ニ於テ説明セルト同一理由ニ基クモノテアルカ輸移入糖ノ九割ハ香港糖テアル今當年ノ輸移入額ヲ前年ト對照セハ下ノ如シ

	大正九年	大正十年
外國糖		
赤砂糖	63,480	143,688
白砂糖	3,519	19,954
精製糖	91,386	129,302
氷砂糖	4,518	12,388
計	162,903	305,332

支那糖		
白砂糖	122	7,895
氷砂糖	390	61
計	512	7,956

染料及塗料 本年ノ輸移入額ハ 2,374,194 海關兩テ前年ノ 1,537,715 海關兩ニ比シ 836,479 海關兩ノ増加テアル之レ歐米染料ノ香港及上海ヨリノ輸入増加ニ依ルモノテ輸移入額ノ九割七分迄ハ歐米品テアル

紙類 本年ノ輸移入額ハ 2,031,721 海關兩テ前年ノ 2,238,206 海關兩ニ比シ 206,485 海關兩ノ減少テアル之レ支那紙ノ移入減退ニ基クモノテ當年支那紙ハ福州ヨリノ移入ハ多少増加セルモ上海、汕頭ヨリノ移入減少シタ

茶 本年ノ輸移入額ハ 45,504 擔 1,735,824 海關兩テ前年ノ 58,677 擔 2,491,605 海關兩ニ比シ數量ニ於テ 13,173 擔價額ニ於テ 755,781 海關兩ノ減少テアル本品ハ殆ント全部支那品ノ移入テ當年ノ移入減少ハ上海、福州ヨリノ移入茶ノ減退ニ基クモノテアル

石油 本年ノ輸入額ハ 3,882,675 米 1,235,120 海關兩テ前年ノ 7,219,512 米 2,036,664 海關兩ニ比シ數量ニ於テ 3,336,837 米價額ニ於テ 801,544 海關兩ノ減少テ數量ニテ四割六分ノ大減少テアル今當年品種別ニ依ル石油ノ輸入ヲ前年ト比較スレハ下ノ如シ

	大正九年	大正十年
米國油	3,040,306	3,667,083
[スマトラ]油	2,541,836	215,592
露國油	946,165	—
其他油	691,205	—
計	7,219,512	3,882,675

上表ヲ見ルニ當年米國油ノ輸入ハ前年ニ比シ二割以上ノ増加ヲ示シ年々其販路ノ擴張ヲ努メツツアルノテアルカ[スマトラ]油、露國油等ノ輸入減退ノ爲前記ノ如キ大減少ヲ見ルニ至ツタノテアル

其他食料品 本年ノ輸移入額ハ 1,019,766 海關兩テ前年ノ 844,887 海關兩ニ

其他雜織物 15 金物 6

等カ主ナル増加テ反之本年減少シタルモノハ

茶 76 紙類 21

其他穀物及種子 50 石油 15

絹及絹織物 45 米 11

石炭及「コークス」 27 其他金屬 8

棉花 23

等テ結局上記ノ増額トナル

香港ノ前年ニ比シテ1,030,000海關兩ノ増加ハ

砂糖 68 綿織物 14

麻袋及其他袋類 22 米 14

等カ主ナル増加テ當年減少セル皮革毛骨角牙類 140,000 海關兩ヲ差引ケ

ハ大體上記ノ増額トナル

日本ノ前年ニ比シテ 130,000 海關兩ノ減少ハ

木材 23 藥品及藥材 2

硝子板及硝子器 7 染料及塗料 2

燐寸製造材料 5 鐵及鋼 2

綿織絲 4 衣服及附屬品 1

石鹼 4 麥粉 1

酒類及其他飲料 3 美術及化粧用品 1

石炭及「コークス」 3 皮革毛骨角牙類 1

煙草 2 陶磁器及土器 1

等カ主ナル減少テ反之本年増加シタルモノハ

綿織物 35 紙類 3

家具 3 味噌及醬油 2

其他金屬 3 卷煙草製造材料 2

等テ結局上記ノ減額トナル(註綿織絲ハ價額ニテハ減少シ居ルモ數量ハ

却テ増加シテ居ル之レ支那絲トノ競争上單價ノ引下ケラレシモノト思

ハル)

北米合衆國ノ前年ニ比シテ 290,000 海關兩ノ増加ハ木材(枕木)及鐵道材料ノ輸入増加ニ依ル

英領印度ノ前年ニ比シテ 150,000 海關兩ノ増加ハ麻袋ノ輸入増加ニ依ル其他諸國ノ前年ニ比シテ 570,000 海關兩ノ減少ハ石油ノ輸入減少ニ依ルモノテアル

三 輸出

大正十年ノ輸移出品總額ハ 25,097,012 海關兩(再輸移出ヲ含ム)テ前年ニ比シ7,057,398海關兩ノ増加テアル之レ當年支那品ノ外國向輸出並支那諸港向移出ノ増加ニ依ルモノテアル

本年輸移出額(再輸移出ヲ含マス)ノ増加シタル主ナルモノハ豆粕大豆高粱粟玉蜀黍小麥金屬及金物人蔘(數量ハ減少)藥品及藥材支那酒石炭及「コークス」等テ減少シタモノハ豆油(數量ハ増加)炸蠶繭瓜子其他油脂屑絹絲(數量ハ増加)等カ主ナルモノテアル

今本年ノ主ナル輸移出品ヲ前年ト對照シテ見レハ下ノ如シ

豆粕 本年ノ輸移出額ハ 3,446,141 擔 8,776,887 海關兩テ前年ノ 3,059,084 擔 6,196,919海關兩ニ比シ數量ニ於テ 387,057 擔價額ニ於テ2,579,968海關兩ノ増加テ當年ハ前年ニ比シ數量ニテ一割二分ノ増加テアル本品ノ當年支那諸港ヘノ移出ハ前年ニ比シ二割九分減退シタカ外國向輸出十三割ノ激増ヲ來タシ結局前記ノ輸出増加ヲ見ルニ至ツタノテ外國向輸出ハ全部日本ヘ仕向ケラレタモノテアル如斯當年日本向輸出ノ激増セル原因ハ日本ニ於ケル需要ノ旺盛ナリシニ依ルモノテハアルカ前年十月ヨリ特產物取引所ノ開始セラレタルト本年四月大連ニ於ケル建値問題ノ勃發トハ特產物ノ取引ヲ刺戟シ加之前年下半期日本人經營ニ係ル油房ノ數多設立セラレルモノアリテ輸出商ト相提携シテ其輸出ニ全力ヲ盡シタ爲テアル

大豆 本年ノ輸移出額ハ 1,491,289 擔 4,397,288 海關兩テ前年ノ 1,128,182 擔 3,140,842海關兩ニ比シ數量ニ於テ363,116擔價額ニ於テ1,256,446海關兩ノ増加テ數量ニテ三割二分ノ増加テアル本品ノ當年支那諸港向移出ハ二

割八分外國向輸出ハ十二割ノ増加ヲ來タシテ居ルカ其ノ原因ハ前記豆粕ノ部ニ於テ記述シタル取引所ノ開設大連建値問題ノ影響ニ依ルモノテ日本向輸出ハ十八割香港向輸出ハ八割以上ノ増加テアル

高粱 本年ノ輸移出額ハ1,066,407擔2,355,555海關兩テ前年ノ280,823擔521,247海關兩ニ比シ數量ニ於テ785,584擔價額ニ於テ1,834,308海關兩ノ増加テ數量ニテ二十八割ノ増加テアル之レ主トシテ本品ノ北支那饑饉地向移出増加ニ依ルモノテ殊ニ天津經由ニテ同地方ニ分布セラレタルモノ多數ニ達シタ

豆油 本年ノ輸移出額ハ260,157擔1,620,363海關兩テ前年ノ219,242擔1,864,918海關兩ニ比シ數量ニ於テ40,915擔増加シタルモ價額ニ於テハ244,555海關兩減少シテ居ル數量ニテ一割八分増加セルニ拘ラス價額ニテ一割三分減少セルハ油房工場増設ノ結果價格ノ下落ニ基クモノテ今其仕向先ヲ見ルニ支那諸港向ハ一割八分ノ増加日本向ハ一割九分ノ増加テアル

粟 本年ノ輸移出額ハ321,913擔1,003,181海關兩テ前年ノ252,577擔786,523海關兩ニ比シ數量ニ於テ69,336擔價額ニ於テ216,658海關兩ノ増加テ數量ニテ二割七分以上ノ増加テアル本品ノ外國向輸出ノ大部分ヲ占ムル朝鮮ヘノ輸出ハ當年皆無トナリタルモ高粱ノ移出ト同一理由ノ下ニ支那諸港向粟ノ移出五倍ノ増加トナリ結局前記ノ増加ヲ來タシタノテアル

玉蜀黍 本年ノ輸移出額ハ301,899擔643,157海關兩テ前年ノ89,645擔179,288海關兩ニ比シ數量ニ於テ212,254擔價額ニ於テ463,869海關兩ノ増加テ數量ニテ二十三割ノ増加テアル之レ主トシテ支那諸港向移出ノ増加テ高粱ノ移出ト同一理由ニ因ルモノテアル

小麥 本年ノ輸移出額ハ170,334擔620,660海關兩テ前年ノ78,094擔261,464海關兩ニ比シ數量ニ於テ92,240擔價額ニ於テ359,196海關兩ノ増加テ數量ニテ十一割以上ノ増加テアル之レ主トシテ日本向輸出ノ増加ニ因ルモノテアル

金屬及金物 本年ノ輸移出額ハ590,197海關兩テ前年ノ81,985海關兩ニ比

シ508,212海關兩即六十二割以上ノ増加テアル本品目中ノ主要ナルモノハ銑鐵テ今同品ノ最近二箇年間ノ輸移出額ヲ示セハ下ノ如シ

銑鐵輸移出額

	大正九年		大正十年	
	數量	價額	數量	價額
日本	20,059	74,419	150,142	411,389
天津	597	2,252	63,186	149,502
龍口	—	—	771	20,787
上海	—	—	163	5,400
計	20,656	76,671	214,262	587,078

人蔘 本年ノ輸移出額ハ225,751斤504,699海關兩テ前年ノ240,087斤371,671海關兩ニ比シ數量ニ於テ14,336斤ノ減少シタルモ價額ニ於テハ133,028海關兩ノ増加テアル數量ニテ五割九分減退セルニ拘ラス價額ニテ三割五分増加セルハ價格ノ騰貴セル爲テアル今最近二箇年間ノ仕向地別ヲ對照スレハ下ノ如シ

	大正九年		大正十年	
	斤	價額	斤	價額
香港	45,625	116,773	45,234	194,465
支那	194,462	254,898	180,517	310,234
計	240,087	371,671	225,751	504,699

支那ノ移出ハ上海ヲ第一トシ汕頭廣東九江龍口等カ主ナル仕向港テアル

藥品及藥材 本年ノ輸移出額ハ492,199海關兩テ前年ノ392,810海關兩ニ比シ99,389海關兩ノ増加テアル外國ヘノ輸出ハ前年ト略ホ同額テアルカ支那諸港ヘノ移出前年ニ倍加セル爲前記ノ増額ヲ見ルニ至ツタノテアル

支那酒 本年ノ輸移出額ハ51,832擔490,672海關兩テ前年ノ38,742擔404,368海關兩ニ比シ數量ニ於テ13,090擔價額ニ於テ86,304海關兩ノ増加テ數量ニテ三割三分ノ増加テアル之レ主トシテ支那諸港向移出ノ増加ニ依ルモノテ其仕向地ハ上海ヲ第一トシ厦門其他南支那方面ニ及ヒ山東省ニテハ龍口カ主ナル需要地テアル

柞蠶絲 本年ノ移出額ハ1,370擔 419,957 海關兩テ前年ノ1,777擔 498,320 海關兩ニ比シ數量ニ於テ407擔價額ニ於テ78,363海關兩ノ減少テアル本品ノ當港ヨリノ積出ハ近年支那諸港ヘノ移出ノミテ上海龍口芝罘ヘ仕向ケラルルモノテアルカ當年移出ノ減少セルハ原繭ノ不作ト安東大連ヨリ外國向輸出ノ増加セル爲其影響ヲ蒙ルニ至ツタノテアル

石炭及「コークス」 本年ノ輸移出額ハ43,566英噸 380,166 海關兩テ前年ノ22,393英噸 207,208海關兩ニ比シ數量ニ於テ21,173英噸價額ニ於テ172,956海關兩ノ増加テ數量ニテ約十割ノ増加テアル之レ主トシテ支那諸港向殊ニ上海ヘノ移出ノ増加ニ依ルモノテアル

瓜子 本年ノ輸移出額ハ54,695擔 334,142 海關兩テ前年ノ65,539擔 519,833 海關兩ニ比シ數量ニ於テ10,844擔價額ニ於テ185,691海關兩ノ減少テ數量ニテ一割六分ノ減退テアル之レ主トシテ支那諸港向移出ノ減少ニ依ルモノテ殊ニ油頭向移出14,273擔テ前年ニ比シ9,214擔ノ減少ハ其主ナルモノテアル

其他油脂 本年ノ輸移出額ハ43,015擔275,317海關兩テ前年ノ51,667擔409,958海關兩ニ比シ數量ニ於テ8,652擔價額ニ於テ134,641海關兩ノ減少テ數量ニテ一割六分ノ減退テアル之レ主トシテ支那諸港向蓖麻子油ノ移出減少ニ因ルモノテアル

屑絹絲 本年ノ移出額ハ3,025擔 228,388 海關兩テ前年ノ2,864擔 318,677 海關兩ニ比シ數量ニ於テ161擔増加シタルモ價額ニ於テハ90,289海關兩減少シテ居ル之レ當年單價下落ニ依ル結果テ仕向先ハ上海及芝罘ノ二港テアル

次ニ輸移出仕向國別ニ前年ト比較スレハ下ノ如シ

輸移出額

仕向國	本年	前年	比較増減
支那	17,772,250	17,772,250	(増) 2,958,618
日本	6,274,948	6,274,948	(同) 4,122,509
香港	627,598	627,598	(同) 245,292
北米合衆國	234,914	234,914	(同) 211,075
朝鮮	115,236	115,236	(減) 544,886

其他 72,066 前年トノ比較増減 (増) 64,790
計 25,097,012 (同) 7,057,398

支那ノ前年ニ比シ2,950,000海關兩ノ増加ハ

品名	高海關兩	品名	高海關兩
高粱	179	金屬及金物	17
大豆	106	水産物	11
粟	85	支那酒	8
玉蜀黍	46	人蔘	6
石炭及「コークス」	20	其他穀物	5

其等カ主ナル増加テ反之本年減少シタルモノハ

品名	高海關兩	品名	高海關兩
豆油	56	其他豆類	7
豆油	25	小麥	7
瓜	16	煙草	4
豚毛	14	苧麻	3
胡椒	13	其他雜品	3
其他油脂	13	羊毛及其他毛	2
屑絹絲	9	其他雜品	9
柞蠶絲	8		

等テ是等ノモノヲ差引ケハ大體上記ノ増額トナル

日本ノ前年ニ比シ4,120,000海關兩ノ増加ハ

品名	高海關兩	品名	高海關兩
豆油	313	胡椒	5
小麥	40	高粱	4
金屬及金物	34	其他種子	1
大豆	11	木材	1
其他豆粕	6	再輸移出品	3

等テ減少セル粟50,000海關兩及石炭20,000海關兩ヲ差引ケハ結局上記ノ増額トナル

香港ノ前年ニ比シ240,000海關兩ノ増加ハ

品名	高海關兩	品名	高海關兩
藥品及藥材	10	大豆	8
人蔘	8		

等テ減少セル瓜子20,000海關兩ヲ差引ケハ結局上記ノ増額トナル

北米合衆國ノ前年ニ比シ210,000海關兩ノ増加ハ

豚毛	13	羊毛及其他毛	1
皮革	7		

等ノ増加ニ依ルモノテアル

朝鮮ノ前年ニ比シ540,000海關兩ノ減少ハ粟ノ減退ニ依ルモノテアル

四 出入船舶

一般航行章程ニ依ル出入船舶ハ合計958隻852,194噸(登簿噸數)テ前年ニ比較シ44隻74,662噸ノ増加テアル本年ノ一隻平均噸數ヲ見ルニ889噸テ前年ノ850噸ニ比スレハ39噸ノ増加テ安東及大連ノ本年一隻平均噸數増加ノ割合ヨリ見レハ非常ニ少額テアル之レ當港カ河川港テ門州水深ノ關係上出入船舶ノ噸數ニ一定ノ制限ヲ受クル爲テアル今出入船舶國籍別ヲ見ルニ船舶隻數及噸數テハ日本船第一位ヲ占メ前年ニ比シ36隻64,228噸ノ増加英吉利船ハ隻數ニ於テ14隻増加シタルニ拘ラス噸數ニ於テハ15,646噸減少支那船ハ26隻7,300噸減少諾威船ハ14隻7,136噸増加露西亞船ハ隻數ニテ同一ナルモ噸數ニテ2,710噸増加シ北米合衆國船新タニ6隻28,954噸ノ運航ヲ見ルニ至ツタ

内水航行章程ニ依ル汽船ノ出入ハ合計308隻106,604噸テ前年ニ比シ92隻42,748噸ノ減少シタ之レ日本船92隻30,336噸英吉利船10隻1,972噸共ニ減少シ支那船ハ隻數ニ於テ10隻増加セルモ噸數ニ於テ10,440噸減少シタ爲メテアル

今過去五箇年間ノ出入船舶ヲ一般航行章程ニ依ルモノト内水航行章程ニ依ルモノトニ分ケテ掲クレハ下ノ如クテアル

一般航行章程ニ依ル累年出入船舶

年次	汽船		西洋型帆船其他		合計	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
大正六年	516	490,192	2	256	518	490,448
同七年	535	425,438	2	256	537	425,694
同八年	960	830,446	10	1,280	970	831,726

同九年	914	777,532	—	—	914	777,532
同十年	954	850,286	4	1,908	958	852,194

内水航行章程ニ依ル累年出入船舶

年次	英吉利船		日本船		支那船		合計	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
大正六年	6	1,686	42	12,230	212	71,454	260	85,370
同七年	—	—	89	27,270	156	53,558	245	80,828
同八年	60	16,860	210	63,086	176	63,796	446	143,742
同九年	64	17,984	212	73,550	124	57,818	400	149,352
同十年	54	16,012	120	43,214	134	47,378	308	106,604

次ニ過去五箇年間ノ戎克出入往來別ヲ示セハ下ノ如シ

戎克出入累年比較

地方別	大正六年		大正七年		大正八年		大正九年		大正十年	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
錦州	239	78,759	535	172,473	861	233,079	731	193,815	845	229,620
蓋州	3,596	1,141,770	5,553	1,850,718	4,161	1,372,770	3,782	1,181,649	5,356	1,705,935
天津	1,762	1,097,484	1,430	1,067,799	847	491,787	834	491,850	1,255	777,186
山東諸港	1,109	827,928	1,365	885,405	786	475,647	828	450,000	777	460,755
上海	157	731,655	158	751,845	127	619,005	150	677,640	128	600,870
寧波	98	589,860	63	364,305	48	296,850	59	359,895	60	365,085
福州	82	521,610	113	709,185	88	563,565	96	571,500	104	664,905
計	7,043	4,989,066	9,217	5,801,730	6,918	4,052,703	6,480	3,926,349	8,525	4,804,356

五 商況

一月 客年以來銀相場ノ暴落ニ次キ支那側銀爐厚發號破綻以來市中ノ氣配昂ラス各地銀爐ノ貸出金殆ト回收不能ノ爲メニ舊曆十二月一日ノ卯期決算ヲ十五日ニ延期スル等所有手段ヲ廻ラシテ善後策ヲ講シタカ猶決濟不能ノ結果遂ニ二十日ヨリ三月ノ卯期ニ延期スルコトトナツタ一方厚發號ニ對シテハ獨リ其破綻カ營口市中ノミナラス全滿財界ニ大影響ヲ及スモノナレハ下旬ニ至ツテ營口道尹及商總會ハ朝鮮銀行ヨリ三十五萬圓ヲ融通シテ急場ヲ救ヒ又各銀爐約百萬兩ヲ以テ其負債ノ四割ヲ返濟シ外ニ商總會ノ奉天興業銀行ヨリ借入レタル

市場救済金ノ返済ヲ一箇年間延期シテ多少一時的補ヒハ出來タカ一般經濟金融界ハ依然トシテ銀落ト共ニ活氣カナカツタ

二月ニ入りテ前月末ノ不況ハ更ニ甚シク市中ノ活氣殆ト消火ノ如ク不振ノ極ニ達シ沈衰ニ沈衰ヲ重ネ殊ニ支那側舊正月ニ際會セルヲ以テ各商舖ハ大低休業シ銀ハ慘落ニ慘落ヲ續ケ大小商人ノ破綻停業セルモノ續出シ僅ニ豆粕五、六十萬枚大豆約百五十車ノ手合カアツタノミテ輸出物トシテハ例年ノ三分ノ一モナク河開キト共ニ滿鐵ノ石炭約二十萬噸ヲ上海朝鮮方面ニ輸出セルノミテ金融界ハ益々逼迫シ各金融業者ハ過度ノ恐慌ニ脅威サレテ一齊ニ大警戒シ愈々窮地ニ陥入りツツ越月シタ

三月一、二月中不振ノ經濟界モ幾分曙光ヲ見人氣ヲ煽ツタカ痲痺状態ヲ續ケタ財界ハ些少ノ景氣ニ容易ニ之カ恢復ヲ認ムヘクモナカツタ僅ニ輸出ニアツテハ南支那日本向豆粕ノ河開キト同時ニ五十萬枚ノ手合セト饑饉向高粱小豆約二千噸ノ輸出カアツタ殊ニ奧地買付ノ大豆來集多ク運賃下落ノ結果内地向ノ積出稍多ク特産輸出ハ多少ノ前途ヲ見タカ依然トシテ金融ハ緊縮ヲ持續シツツアツタ

四月ニ入り輸入綿絲布中旬頃ヨリ幾分ノ好況ヲ見前月ニ比シ稍々金融界モ活氣ヲ呈シ日本及南支那向豆粕三十四、五萬枚ノ輸出アリ又市中ニアツテモ先物現物合セテ六十萬枚ノ手合セアリテ景氣ヲ煽ツタカ一般金融界ハ尙依然トシテ警戒ヲ緩メス緊縮ヲ經續シ爲メニ各銀行ハ遂ニ金利二、三厘方引下ケタルモ差シタル效果モ見エナカツタ

五月ハ營口輸出ノ大宗タル豆粕カ上旬以來内地高値ノ爲ニ千二百萬枚ノ輸出ヲ見タカ下旬ニ至ツテ俄然下落シタ爲メ充分ノ輸出ヲ見ルニ至ラナカツタカ不況ニ不況ヲ重ネタ昨今ニハ稀ニ見ル盛況テアツタ殊ニ各銀行カ金利引下ケ以來金融界ハ一般ニ繁忙ヲ極メタ一方發字號破綻以來閉塞状態ニアツタ過爐銀ハ漸ク順調ニ復シ又鮮銀ノ市場救済資金ノ五月末返済ヲ十二月末日ニ延期スルナト金融界ハ幾分ノ好況ヲ見ルニ至ツタ又營口日支商人ハ營口商業ノ發達ヲ圖ル目的ニテ商業組合ナルモノヲ組織シ大イニ營口商業界ノ秩序革新ヲ圖ル

等所有方法ニ努力シ氣配ヲ昂ケタ結果従前ニナキ盛況ヲ呈シタ

六月ニ入り五月ノ好況ニ比シ輸出僅ニ豆粕ノ七十萬枚アツタノミテ輸入ニ至リテハ綿絲布ノ秋期物仕入準備時期トテ多少ノ活況ヲ豫想サレタルニ拘ハラズ事實ハ全然裏切ラレ依然トシテ夏枯ノ閑散ノ状態テアツタ殊ニ支那側ハ過爐銀ノ六月決滿期ナルニ依リ發行縮少サレ日支金融界ハ何レモ目星シキ資金ノ需要ナク閑散裡ニ越月シタ

七月ハ前月ニ引續キ夏枯ノ雨期季節トテ市況ハ一般ニ沈靜テアツタ輸出豆粕ハ内地トノ相場出合ハサルニ不拘反對ニ支那行キ九十萬枚ノ輸出ヲ見タカ近來ニナキ盛況テアツタ輸入ニアツテハ中旬奧地硬調ニテ多少ノ取引カアツタカ總シテ閑散テアツタ隨ツテ金融市場ハ目星シキ資金ノ需要ヲ喚起セス各銀行共貸借何レモ減少シ依然トシテ不振ノ状態テアツタ

八月ハ最近ニ於ケル營口企業界ノ曙光ヲ認メタ月テアル過去久シク衰退シタ油房業ノ新設俄カニ増加シタ殊ニ從來支那人獨營ノ状態テアツタ油房カ日本人ノ經營者ニ依リ七軒モ一時ニ新設セラレ營口油房界ノ將來ニ一新紀元ヲ畫シタ同時ニ兎角ノ風評アツタ營口豆粕ノ輸出検査ヲ嚴重ニ行フ内規ヲ作り大ニ營口輸出豆粕ノ品質改良ヲ企圖シ又一方滿鐵豆粕輸送特定運賃ノ制定セラレタ結果金融界ハ多少ノ好況ヲ認メ輸入市場ニアツテハ奧地豐作奉天票高ニ依リ綿絲布ノ荷動キ多ク金融市場ハ資金ノ需要アツテ小繁ヲ呈シタ

九月ハ前月ノ好況ニ引續キ綿絲布ハ益々活氣ヲ呈シ米棉及銀塊ハ堅實ナル步調ヲ以テ漸騰シ仲秋節前ニ至リ奉天票ノ暴騰ト過爐銀ハ決算ノ關係等ニテ奔騰ヲ續ケ其間綿絲布相場ハ一強一弛アリシモ概シテ後高氣配ニテ日本内地期米ノ豐作トニ依リ豆粕モ活氣ヲ呈シ金融界モ之ニ伴ヒ引續キ少繁忙ヲ來シタ

十月ハ依然トシテ前月ノ好況ヲ持續シ輸出ハ結氷間際トテ新穀ノ出廻リニ多少繁忙ヲ來シタカ綿絲布ハ日本内地三品ノ崩落銀價ノ軟調等ノ爲メ輸入需要期ニ入りタルニモ不拘氣配昂ラス不振ノ有様テアツタ然レトモ財界ハ何等危險ヲ認メス相當活氣ヲ呈シ市場ハ輸出資

金ノ需要アリテ順調ニ少繁ヲ極メツツアツタ

十一月 ハ愈々結氷間際トテ大豆ノ出廻多ク豆粕ノ輸出ハ前月ニ比シ幾分減少ノ氣味テアツタ殊ニ本年ハ例年ニ比シ氣候溫暖ノ爲メ汽船ノ終航モ順調ニ運ヒ金融界モ亦活氣ヲ呈シタカ輸入ハ依然トシテ不況ヲ來シ殊ニ各銀行ハ未タ警戒ノ緒ヲ緩メス其貸出ニ於テ前月ニ比シ約一割位ノ減少ヲ見不振ノ裡ニ越月シタ

十二月 愈々年末ニ入ツタカ財界ハ依然トシテ氣配昂ラス各特産商ハ何レモ回收ノ見込立タス悲觀ノ極ニ呻吟シ如何ニシテ年關ヲ切抜ケンカト思案投首ノ状態テアツタ然ルニ十二月一日ヨリ特定運貨輸送開始サレテヨリ多少氣配ノ昂進ヲ見ツツ越年シタノテアル

六 遼河の改修

遼河カ多年滿洲及蒙古ノ最モ重要ナル商業上ノ水路トシテ經濟的貢獻ノ頗ル大ナルニ拘ラス久シキ間全ク天然ノ儘ニ放任シテ一モ人工ヲ加ヘラレナカッタ而シテ具體的ニ治水改修ノ端緒ヲ開イタノハ極メテ最近ノコトテアル

遼河ハ毎年上流蒙古地方ヨリ流下スル泥砂ノ爲メ漸次河床ヲ高メ之ニ對シ何等治水ノ法ヲ講セサルヲ以テ所々ニ淺瀬ヲ生シテ舟楫ノ便ヲ阻害スルコト頗ル多ク殊ニ河口營口附近ニ於テハ潮流(干満ノ差ハ大潮時十二呎速力一時間七哩内外)ノ關係モ加ハリテ泥砂此處ニ堆積シ益々水深ヲ淺クスルノミテアツタ加之明治四十四年ノ大洪水ノ爲メ河口約二哩ニ互リテ水深七呎ノ門州ヲ生シ大正四年ニハ新民府地方汎濫ノ爲メ右ノ門州ハ五呎ニ變シ水路ノ幅員百八十呎内外テ大潮時ニ於テモ吃水十七呎以上ノ船舶ハ通航ニ困難ヲ感スルニ至ツタ又一方河北驛ノ北方鴨島ニ接セル地峽ハ年々流水ニ浸蝕セラレ之ヲ自然ノ儘ニ放任センカ幾年カノ後ニハ地峽ヲ缺壞シテ水流一直線ニ營口市街ニ殺倒シ來リ營口市街ハ之カ爲メ全滅ノ悲境ニ陥ルヤモ計ラレナイ状態ニ陥ツタ遼河改修問題ノ起リハ最初ニ顯ハレタモノハ明治三十九年遼陽ノ紳商金氏カ遼河航運保商輸船無限公司ヲ設立シテ河底ヲ浚渫セントスル計

畫テアツタ該計畫ハ北京政府認可ノ下ニ株式ノ募集ニ著手シタルモ中途ニシテ同人ハ其株金ヲ携帶シテ所在ヲ晦マシタノテ本事業ハ其儘行惱ミトナツタ次テ明治四十一年時ノ東三省總督徐世昌氏ハ遼河改修ヲ官營トナス事ニ決シ其傭聘技師「ダブルユー、アール、ヒューズ」氏ヲシテ實地踏査ヲナサシメタカ其結果通江口ヨリ營口ニ至ル改修箇所百六十二箇所其費用約五十萬兩ト見積ツタ就中雙臺子河合流點ナル冷家口ハ遼河口岸ヨリ低キカ爲メ遼河ノ水ハ之ニ向ツテ流ルルモノ次第ニ多ク水流ノ55%ハ同河口ニ落下スルトノ報告ヲ得タレハ總督ハ營口道臺周長齡ニ命シ遼河改修ヲ立案セシメ道臺ハ駐營各國領事ト協議ノ結果左ノ三件ヲ立案復命シタ

一、河口浚渫

二、鴨島護岸ノ築設

三、鴨島ヨリ通江口ニ至ル上流ノ浚渫

而シテ第一第二案ハ各國領事之ニ關與シ第三案ハ支那政府自ラ之ヲ遂行スル事ニ決シタノテアル

其後遼河河口改修工事實行機關トシテ遼河々口改修工程局カ出來改修工事ニ關スル指揮監督ヲ掌リ該工事カ竣工ヲ告ケ且ツ關係借款ノ償還ヲ完了スル迄存續スルモノトシ大正三年七月漸ク之カ協定ヲ見同年八月二十三日大總統令ヲ以テ發布セラレ附加稅ハ同日ヨリ實施サルルニ至ツタ而シテ該協定ノ下ニ實施セラルヘキ工事ノ概要ハ

一、鴨島護岸

護岸ト地峽間ノ水流ヲ中斷シ侵蝕ヲ防ク

二、西水道閉塞

兩岸ト同高ノ築堤約一哩

三、東水道ノ閉塞

本工事ノ目的ハ舊砲臺窩前ヨリ河口ニ向ツテ延長約五哩ニ互リ高サ干潮面八呎ノ導水堤ヲ築キ以テ河底幅員二百呎深サ二十六呎ヲ門州ニ於テ保タシメントスルモノ

其改修工事見積概算ハ

一、導水堤築造費	銀	264,000 ^元
二、鴨島護岸工事費	同	31,000
三、西水道閉塞工事費	同	25,000
四、東水道閉塞工事費	同	75,000
五、鴨島水流彎曲中斷工事費	同	50,000
六、豫備費 五%	同	22,000
七、經營費一〇%	同	44,000
八、河口門州浚渫(必要ノ場合)	同	89,000
計	同	600,000

テ右實施ニ就テハ大正三年十二月第一回實行委員會開カレ越エテ翌年三月工程局第一回會議ヲ催サレ豫算六十萬元ノ十分ノ七ノ借款カ香港上海銀行及露亞銀行ノ兩行ヨリ等分出資ノ事ニ約定サレタ

第一期工事

右ノ豫算ニヨリ工事ヲ實施セントスルニ當リ領事團及其他ノ委員同意ノ下ニ工事全部ヲ滿鐵ニ引受ケシムルノ議アリテ滿鐵モ亦之ヲ承諾シタルカ技師長[ヒューズ]氏大河ノ浚渫ハ吸揚式浚渫船ニアラサレハ其效乏シク滿鐵ニハ其設備ナシトテ之ニ反對シ遂ニ實現ニ至ラナカツタ其後[ヒューズ]氏ハ河口ノ浚渫事業ニ對スル諸大家ノ意見ハ浚渫作業ノミニ依ルヲ不可トシ導水堤築造ヲ可トスル意見ニ一致セリトテ前說ヲ取消シ其導水堤築設說ヲ新ニ提出シ其豫算ハ前述ノモノヲ其儘踏襲シ浚渫導水堤築設共ニ行フ事ニシ大正五年春季解氷期ヨリ著手シ大正七年迄ニ消費セシ費用ハ四二四四三五兩九錢五分ニ上リ第一期ノ工程ハ略完了シタ然ルニ本改修問題ノ最初ヨリノ關係者ニシテ且ツ設計者テアツタ技師長[ヒューズ]氏ハ同年一月十二日不幸客死シタ

第二期工事

斯ク初期ノ工程局ノ目的タル工事ハ既ニ完了セルヲ以テ本工程局ハ重ニ範圍ヲ擴張シ北京政府ト交渉ノ結果上流下流ノ第二期工事ヲ實行スル事トナリ大正八年六月該委員會ノ決議ニヨリ上流工事ハ日本技師下流(河口)工事ハ英國技師ヲ以テ管掌スルコトトシ地位及待遇契約等同様

タルヘキ事其ノ費用ハ上流ニ於テ百三十五萬兩下流ハ四十五萬兩ヲ概算シ實行方法トシテハ芝罘防波堤ニ於ケルト同様借款ニヨリテ之ニ當テ上流借款ノ返還ハ上流附加稅下流借款ハ下流附加稅ヲ以テ返還スル事ニ決シタ然ルニ英國側ノ技師[ビー、エス、フオーセツト]氏ハ[ヒューズ]氏ニ代リテ大正七年八月著任シ上流技師トシテ日本側工學博士岡崎氏ハ大正九年五月七日就任サレタ

工事現況

現在迄ノ工事進行模様ハ大正五年第一著ニ施行セラレタ西水道ノ閉塞ハ既ニ完成シ東水道ヲ通過スル水流ハ干潮時ニ在リテハ全ク杜絶セラレ泥土ノ堆積年ヲ重スルニ從ツテ層ヲ高メ滿潮時ニ於テサヘ辛フシテ小形戒克ノ通航ヲナシ得ル程度ニ達シ豫期ノ如ク滿潮ノ水流ハ東流ニ集注サレテ其水勢ヲ増大シタ

次キニ河口浚渫工事中ノ最大工程テ又目的ノ主要部タル東水道閉塞ヲ目的トセル導水堤ノ修築ハ大正七年ヨリ十年迄ニ豫定ノ三分ノ二ノ工程ヲ終ヘテ修築セル導水堤ノ延長ハ約三萬呎之ニ投セラレタル石塊七萬五千立方呎ニ達シタ本工事ノ進捗ニ連レ水流ノ方向變換竝ニ之ニ依ル門州ノ位置異動門州ノ浚渫等著シキ效果ヲ示シテ門州ハ漸次外海ニ移動シ堆積泥土ノ浚出シタルモノ尠クナイ而シテ現在水深ハ大正七年以降干潮水深六呎テアツタノカ七呎半ニ増加シ門州ノ延長一萬四千呎ナリシモノカ僅カニ三千呎ニ短縮サレタ其後詳細ノ測量ノ結果水勢ハ中央浮標ヨリ西折シタ現在航路ヲサケテ南西ニ奔流シ水流ノ自然作用テ該處ニ新水道ヲ開掘セントスル傾向カ顯著トナツタ又大正九年ハ降雨量僅少ナリシ爲メ上流ヨリ流下シタル泥土殆ト無カツタノテ門州ノ水深非常ニ増加ヲ示シタルモ其後上流地方ニ數回ノ豪雨アリ爲メニ門州一面ニ土砂ヲ流下シ來リ大部分ハ門州ニ沈澱堆積シタ併シ幸ニ是等堆積セル土砂泥土ハ東導水堤ニ沿フテ流下シ導水堤ニハ何等危害ヲ與ヘサリシモ水路ハ現航路ヲ避ケテ中央浮標ヨリ南西ニ向ツテ其勢ヲ強メ多量ノ泥土アルニ拘ハラズ益々海面ニ連行シ門州ヲ中斷シテ其等ノ泥土ヲ海面又ハ潮流ノ緩漫ナル方面ニ排泄シ以テ中央門州ヲ突破セン

トシツツアツテ之カ影響ハ現航路ニ及シ現航路西北側ニ存在スル淺瀬ハ漸次東南方ニ進出シ或一部ハ正ニ突出シテ航路ヲ遮ラントシテ居ル
 斯ノ如キ新傾向ハ遼河河口浚渫事業ニ一革命ヲ起サシメタモノテ從來ノ航路ヲ主眼トスル計畫ノ支持ヨリモ寧ロ自然ノ水勢ニ依ツテ開拓サ
 レントシツツアル新水道ヲ助長シテ現航路ニ於ケル浚渫速度以上ノ効果ヲ收得スルヲ以テ得策ナリト爲シ技師ノ提議ニヨル導水堤延長方面
 ヲ右新傾向ニ副ハシムル目的ヲ以テ既成地點ヨリ西ト南ニ延長スヘキ
 導水堤ヲ南西ニ變更スヘキ新提案ハ工程局委員會ヲ通過シ更ニ測量ヲ
 重ネテ確信ヲ得タル上ニ於テ實行スル筈テアル浚渫船ノ力ヲ借ラスシ
 テ自然力ニ依ル浚渫ノ効力カスノ如ク顯著ナルヲ得タルハ當港ノ爲メ
 ニ喜フヘキ現象テアル

尙上流工程ニ關シテハ從來營口ノ上流八十一哩ノ所ニアル唐家窩舖ニ於テ水流ハ雙臺子河ニ流入シ直接海ニ注イテ本流ニ流下セサルヲ以テ
 雙臺子河流入ノ水ヲ本流ニ取戻スコトニ苦心シ現在迄ハ單ニ唐家窩舖
 三叉河間ノ浚渫事業ノミニ過キナカッタカ上流技師岡崎博士ノ提案ニ
 係ル上流浚渫事業計畫ハ左ノ三案テアル

- 一 二道橋子ヨリ夾心子ニ至ル十三哩間掘割
- 二 三道溝ヨリ九臺子迄掘割九臺子ヨリ三叉河間浚渫
- 三 六臺子ヨリ九臺子間掘割九臺子ヨリ三叉河間浚渫

右ノ中委員會ニ於テ第一案ヲ採用スルコトニ決定シ實行方法トシテハ掘割ヲ機械力ニ依ルカ或ハ人力ニ據ルカハ調査ノ結果ニ俟ツ事トシ孰
 ニシテモ經濟的ナル方法ヲ執ル事ニ決シタ其掘割ノ内容ニ就テハ今爰ニ述フル限リテナイカ兩側ノ堤防ハ掘割リタル土ヲ以テ築造スル事ニ
 ナツテ居ル

牛莊港結氷期日等最近十年比較表

年次	流水初日	最月終	船日	結氷月日	結氷期間	最低氣溫	氷最大厚サ	解氷月日	流水終日	初入港船日	備考
大正元年	十一月十四日	十一月二十七日	十二月十九日	八十四日	一月二十五日 零下十五度	二月八日 三十六時	大正二年 三月二十日	同 四月五日	同 三月二十七日		
同 二年	十一月二十七日	十二月一日	大正三年 一月七日	八日	一月八日 零下九度半	一月十日 時	大正三年 一月十五日	同 四月五日	同 三月一日		
同 三年	十一月二十六日	十一月三十日	大正四年 一月九日	百十日	一月九日 零下二十度	二月二十日 二十三時四分	大正四年 三月三日	同 四月十日	同 三月二十九日		
同 四年	十二月六日	十一月三十日	—	—	一月五日 零下一度	—	—	大正五年 四月三日	同 三月二十日	本春ハ結氷セズ	
同 五年	十二月八日	十二月一日	十二月二十二日	八十九日	十二月二十四日 零下十七度	二月二十三日 二十三時四分	大正六年 三月二十一日	同 三月三十一日	同 三月二十九日		
同 六年	十一月二十七日	十二月三日	十二月二十五日	七十八日	十二月二十七日 零下三度	二月十六日 十七時八分	大正七年 三月十三日	同 三月二十三日	同 三月二十一日		
同 七年	十一月二十七日	十二月一日	十二月二十七日	七十日	一月三十日 零下八度	二月十一日 十二時四分	大正八年 三月六日	同 三月二十三日	同 三月十七日		
同 八年	十一月二十四日	十一月二十九日	十二月二十八日	八十一日	二月八日 零下二十度	二月廿六日 廿七時四分	大正九年 三月十七日	同 三月三十一日	同 三月二十六日		
同 九年	十二月六日	十一月二十九日	大正十年 一月五日	六十三日	一月三日 零下七度	二月二十四日 十六時	大正十年 三月九日	同 三月二十七日	同 三月十八日		
同 十年	十一月二十二日	十一月三十日	大正十一年 一月十一日	—	—	—	—	—	—		

七 雜

本年ノ金銀ノ出入ハ合計 302,874 海關兩テ前年ニ比シ 128,519 海關兩ノ増加テアル而シテ移入ニ於テハ上海ヨリノ金銀ノ移入皆無トナリタル爲メ約六割ノ減少テアルカ移出ニ於テハ銀ノ移出前年皆無ナリシ天津上海等へ本年 180,000 海關兩餘ノ移出アリタル爲メ結局前年ニ比シ増加ヲ見ルニ至ツタノテアル

北 滿 洲

- 一 北滿貿易大勢
- 二 對露貿易
- 三 北滿洲ノ商況(哈爾濱)
- 四 吉林材ノ集散狀況
- 五 松花江ノ水運
- 六 北滿ニ於ケル日本人ノ活動
- 七 北滿ニ於ケル阿片
- 八 浦潮港ノ現況

一 北滿貿易大勢

- 1. 愛理
- 2. 三姓
- 3. 滿州里
- 4. 哈爾濱
- 5. 綏芬河

西伯利一帶ノ政情未タ不安ノ域ヲ脱セサルモ支那官憲カ東支鐵道ノ實權ヲ掌握シテ以來銳意北滿ノ交通整備ヲ計レル結果稍秩序ヲ保チ得テ經濟的復活モ漸次其緒ニ著キ北滿貿易モ前年ニ比シ増額ヲ來タシタ之レ主トシテ特產物ノ出廻リ舊ニ復シツツアル爲テ加フルニ戰後ノ恢復ニ日モ惟レ足ラス歐米諸國ハ北滿ニ新活路ヲ開クヘク白熱的ノ努力ヲ拂ツテ居ル

北滿經濟界ノ中心地タル哈爾濱ハ從來通過貿易地テアリ又原料加工地ニ止マツタノテアルカ本年中頃ヨリ製造工業地トシテノ新シキ生命ヲ持ツニ至ツタ之レ歐露ヨリ哈爾濱ニ流レ來ル避難民中ニハ優秀ナル技師ヲ有スル職工多數アリテ彼等ハ口ヲ糊シ得ル僅少ナル勞銀ニ満足シテ其職ニ從事スレハ是等ノ職工ヲ利用シ低廉ナル材料ニヨリテ露國人向諸雜貨ノ製造ヲ試ミル傾向ヲ帶ヒテ來タ事テアル此新現象ハ見逃ス事ノ出來ヌ事柄テ從來歐米及日本ヨリ輸入セシ貨物ノ或種ノ物ハ哈爾濱ニテ製作スル事トナツタノテアル故ニ將來奧地即西伯利トノ通商カ自由ニナレハナル程其製造工業ハ長足ノ進歩發達ヲナシ奧地ノ需要ニ應シ得ル事ト思惟セラレ

輸入ノ方面ニ於テハ歐洲大戰中歐米品ニ代リテ北滿市場ニ於テ聲價ヲ博シ其販路ヲ獨占シタ日本品ノ現狀ヲ見ルニ撫然タラサルヲ得ナイノテアル大戰後ノ今日日本品カ外國市場ニ於テ戰時中ノ聲價ト販路トヲ永ク維持シ得ルモノトハ必スシモ想像シナカツタトハ言ヘ北滿市場ノ中心タル哈爾濱方面ニ於テハ地理的關係其他幾多ノ優越ナル地歩ヲ有スル點ヨリ其聲價ト販路トヲ維持スル事ハ必スシモ不可能ノ事テナイト信セラレタノテアルカ其豫想ハ悉ク裏切ラレテ哈爾濱ニ於テハ日本品ハ昔日ノ面影モナク一掃サレテ獨米品殊ニ獨逸品カ非常ナル勢ヲ以テ市場ヲ獨占セントスルノ觀カアル今北滿主トシテ哈爾濱市場ニ於ケル日英米佛獨商品ノ勢力ヲ見ルニ

日本人經營ノ商店會社數ハ約五百軒見當テ日本品ハ品質ト價格ニ於テ最早米佛英獨トノ競争ニ耐フル事カ出來ナイ狀態ニ陥リツツアル日本品唯一ノ強味ハ價格ノ低廉ナル事テアツタカ今ヤ其レスラ望カナイ

英國人經營ノ商店會社數十九軒テアル英國品ハ品質モ好ク値段モ高イ然シ英人ノ堅實ナ經營振ハ著々地歩ヲ占メテ來タ一體英國品ハ飛離レテ好イトハ言ヘナイカ頑強テ耐久カアル

米國商店ハ二十八軒アリテ外商中ノ首位ヲ占メテ居ル米國品ハ品質ハ好イトハ言ヘナイカ價格カ日本品ニ比シ割安ナレハ購買力ノ減退セル目下ノ露國人ハ米國品ヲ歡迎シ從ツテ賣行モ多イ様テアル

佛國商店ハ九軒テ佛國品ハ外觀ニ於テ又品質ニ於テ頗ル優良テアルカ價格高ク露國人ノ上流社會ニ賣行クノミテ一般ニハ普及サレテ居ラヌ獨逸商店ハ十四軒アリテ獨逸品ハ品質ニ於テ優良テアルノミナラス價格ニ於テ他國品ニ比シ飛離レテ安イ故ニ賣行ハ極メテ良好テアル

知名ナル日本商店ニ就テ實際ノ狀況ヲ目撃スルニ日本商店ニ於テハ日本品ノ販賣困難ニテ其勢力範圍ハ漸時縮少サレテ居ル要スルニ日本製品カ品質ニ於テ良好ナラス價格ニ於テ不廉ナル爲テ假令ハ「メリヤス」類其他日用雜貨類等悉ク外國品ニ比シテ其意匠其製造方法等需要者ノ嗜好ニ投シテ居ラヌノテアル所謂粗製濫造カ何處マテモ日本品ニ崇ツテ居ル現時ノ販賣勢力ヨリ見ルト日本品20%米國品25%獨逸品40%其他

外國品15%ト言フ比例テアルト言ハレテ居ル將來モ是狀態ヲ持續シテ獨逸製品ノ獨舞臺ノ如ク考察セラレ
輸出ノ方面ニ於テハ交通狀態ノ不安取除カレテ以來特產物ノ輸送著シク増加(北滿ノ出廻リ特產參照)シタルモ一般經濟界ハ依然トシテ不況ニテ浦鹽方面ヲ除キ其他方面ノ對露貿易ハ接壤地域ノ露人ノ購買力漸次衰へツツアルヲ以テ貿易ハ不活潑テアツタ而シテ西伯利住民ノ狀態ヲ見ルニ(イ)地方小賣機關ノ不備(ロ)軍隊及勞働者ノ橫暴ナル爲メ農夫及獵夫ハ收穫物ノ奪掠ヲ恐レ之ヲ隱シ必要ノ分丈小出シテ之ヲ賣却シ又必要丈ケ小口ノ買取ヲ爲スト言フ有様ナレハ購買力ノ衰ヘルノハ勿論ノ事テアル加之ニ運輸機關ノ不圓滑及運輸途中ノ危險等ニ依リ商品ノ運般ニ不安定ナルハ例ヘ購買力カアツテモ買ヘナイ事トナル又一般農民ハ農產物搬出ノ方法ナキ爲メ自家ニ必要ナル物以外ノ耕作ハ結局無駄働キトナレハ之ヲ避クル事トナリ結局之又購買力減少ノ一因ヲ爲スノテアル
今北滿ノ貿易要路ニ當ル各關ヲ通シテ最近五箇年間ノ貿易額ヲ比較セハ下ノ如シ

	貿易額 海關兩
大正六年	72,753,796
同 七年	47,603,139
同 八年	61,711,392
同 九年	65,222,231
同 十年	71,487,856

上表ヲ見ルニ本年ノ貿易額ハ前年ニ比シ約一割ノ増進テアル然ルニ是等各關ヲ通シタ貿易額ヲ以テ直チニ北滿全體ノ貿易ト見ル事ハ出來ナイ何故ナレハ大連營口安東等ノ南滿諸港ヲ通關シテ哈爾賓及其附近ニ入り更ニ其ヨリ地方ニ分布サルル貨物カ非常ニ多イノテアルカ是等ノ貨物ノ計數ハ前表ニ含マレテ居ナイ即哈爾賓ノ計數ハ松花江水運ニヨリテ江岸地方又ハ接壤地西伯利地方トノ輸移出入ノミテ鐵道其他ノ交通機關ニ依ル輸移出入ハ計上サレテナイノテアル

本年ノ北滿各關別ノ輸移出入及對露貿易ノ情勢ヲ見ルニ下ノ如シ

大正十年北滿各關貿易額

地名	總貿易額			對露額	
	輸移入 海關兩	輸移出 海關兩	合計 海關兩	輸入 海關兩	輸出 海關兩
愛 琿	5,665,087	3,289,548	8,954,635	67,975	1,872,986
三 姓	866,686	6,028,407	6,895,093	342,005	312,463
滿 州 里	1,631,406	5,118,440	6,749,846	1,563,699	4,946,504
哈 爾 濱 (松花江貿易)	19,372,651	8,237,535	27,610,186	110,663	987,330
綏 芬 河	5,237,571	16,040,525	21,278,096	5,237,571	16,040,525
合 計	32,773,401	38,714,455	71,487,856	7,321,913	24,159,808

1 愛琿(大黑河)

愛琿ハ西比利トノ仲繼貿易地テアルカ本年ニ於ケル貿易ヲ見ルニ總貿易額8,954,635海關兩テ前年ニ比シ3,379,202海關兩即二割七分ノ減少テ更ニ大正七八年ニ比スルモ尙減退ノ跡ヲ示シテ居ル今之ヲ輸移出入別ニ見レハ輸移入ハ本年5,665,087海關兩テ前年ニ比シ約二割減テ輸移出(再輸移出ヲ含ム)ハ本年3,289,548海關兩テ前年ニ比シ約三割八分ノ減額テアル之レ對岸[ブラゴエシチエンスク]ニ於テハ政情比較的安靜ナルモ商況不振テ物資ノ移動少ナク且ツ露領政府ノ買付モ無ク大部分ハ個人取引ナルカ通貨少キ爲メ殆ト物々交換ノ有様ニテ大黑河ニ於テモ同様商況振ハス目下現金取引不能ニテ銀行ノ貸出中止貸金回收嚴ニテ本夏仕入貨ノ代金未タニ決濟付カサル如ク市況徹頭徹尾不振テアル日本人ハ大黑河[ブラゴエシチエンスク]合セテ約六十名ナルカ内四十名ハ露支人ノ妻女テ其他主ナルモノハ特務機關員及商店二軒ノ從事員ノミテアル
對露領貿易ヲ見ルニ
輸入ハ本年67,975海關兩テ前年ノ51,456海關兩ニ比シ16,519海關兩即三割ノ増加テアルカ對岸露領ニハ物資乏シク燐寸水產物酒類鐵及金物類ノ少量輸入カ主ナルモノテアル
輸出(再輸出ヲ含ム)ハ本年1,872,986海關兩テ前年ノ3,769,590海關兩ニ比スレハ1,896,604海關兩即五割ノ減少テアル之レ一般露人年ヲ逐フテ購買力減

少シツツアル結果テ主ナル輸出品ハ麥粉家畜飲食料品薪炭等ノ生活必需品テ住民ハ萎靡シテ今ヤ奮起ノ氣力ナク耕作物モ僅々自己ノ口ヲ糊スル程度ニ止メ其以外ノ生産ヲ顧ミルモノナキ有様ニテ將來ヲ悲觀セサルヲ得ナイノテアル

終リニ當地方面トノ貿易業者ニ對シテ特ニ注意ヲ要スル點ハ近來支那稅關ノ貨物取扱方カ頗ル不利不便ニナツタ事テアル

従前哈爾濱方面ヨリ發送サルル商品ハ水運ノ便アル時ハ勿論水運ニ依ルモ松黑兩江結氷中ハ齊々哈爾ヲ經由シテ大黑河ニ到リ愛琿稅關(大黑河ニ在リ)ニテ直接検査ヲ受ケタルモノナルカ目下大黑河ヲ距ル約五里ノ地點梁家屯ニ稅關派出所ヲ設ケ此地ニテ検査課稅スル事トナツタ之カ爲メ荷主ハ梁家屯ニ貨物ヲ留メ置キ遠ク大黑河マテ出掛ケ行キ申請書ヲ稅關ニ提出シ其裏書ヲ得テ再ヒ元ノ梁家屯ニ歸リ検査ヲ受ケテ目的地タル大黑河ニ貨物ヲ送ラネハナラヌ故ニ此間約二日ノ日數ヲ空費スルノテアル而モ此場所ハ馬賊ノ出沒スル所テ荷主ニ對シテハ危險此上ナキ次第テアレハ將來何等カ之ニ對スル方法ヲ講スルノ必要カアルト思ハル

2. 三姓

本年ノ總貿易額ハ6,895,093海關兩テ前年ノ5,140,006海關兩ニ比シ1,755,087海關兩即三割以上ノ増加テ今之ヲ五年前ナル大正六年ノ2,172,912海關兩ニ比較スレハ三倍以上ノ異常ナル進展テアル今之ヲ輸移出入別ニ見レハ輸移入ハ本年866,686海關兩テ前年ニ比シ小額ノ減退テ輸移出(再輸移出ヲ含ム)ハ本年6,028,407海關兩テ前年ニ比シ四割ノ増額テアル斯クモ著シキ輸移出ノ増加ヲ見ルニ至ツタノハ近年三姓附近一帶ノ農作物耕作區域ノ擴張サレタル結果ヲ殊ニ哈爾濱ヘ移出セララル大豆小麥ハ前年來非常ニ増加シテ居ルノテアル

對露領貿易ヲ見ルニ

輸入ハ本年342,005海關兩テ前年ノ39,428海關兩ニ比シ302,577海關兩即七割六分ノ増加テアルカ輸入品ノ主ナルモノハ水産物皮革類鐵及金物食

料品等テアル之レ農産物ノ移出増加ニ伴フ地方住民ノ購買力増進ノ結果ト見得ラルルノテアル

輸出(再輸出ヲ含ム)ハ本年295,005海關兩テ前年ノ533,098海關兩ニ比スレハ138,093海關兩即二割五分ノ減少テアル之レ既述ノ如ク露領住民ノ調落甚タシク辛クモ生命ヲ保チツツアル状態ニテ最早何等購買力ナキニ至ツタ爲テ生活ノ必需品タル麥粉其他ノ食料品ノ輸出増加ヲ見タルノミテアル對哈爾濱移出貿易ノ漸次増大ニ赴クニ反シ對露貿易ノ年ヲ遂フテ衰退ニ向フハ西比利政情ノ然カラシムル所テ不已得次第テアル

3. 滿洲里

本年ノ總貿易額ハ6,749,846海關兩テ前年ノ16,406,770海關兩ニ比シ9,656,924海關兩即約六割ノ減少テアル今之ヲ輸移出入別ニ見レハ輸移入ハ本年1,631,406海關兩テ前年ニ比スレハ五割以上輸移出(再輸移出ヲ含ム)ハ本年5,118,440海關兩テ前年ニ比スレハ六割以上共ニ減少シテ居ル之レ屢々述ヘタル如ク西伯利政情ノ不安ニ基クモノテアル滿洲里ハ東支鐵道ノ終端驛テ西伯利殊ニ知多方面ニ對スル貿易ノ仲繼地テ且蒙古貿易上ノ要地テアルカ取引ノ不安ハ前月ヨリモ更ニ甚シク加之對露運輸機關ハ圓滑ヲ缺キ輸送上ノ危險ヲ伴ヒ商品ノ運搬自由ナラサル状態ニアリタレハ貿易ノ不振ヲ來タセルハ言ヲ俟タナイ

對露貿易ヲ見ルニ

輸入ハ本年1,563,699海關兩テ前年ノ3,348,691海關兩ニ比シ1,784,992海關兩即約六割ノ減少テ輸入品ノ主ナルモノハ毛皮ヲ第一トシ石炭木材等テ露人ハ政情不安ノ爲メ何等生産ニ努力シテ居ル跡カ見ヘナイノテアル輸出(再輸出ヲ含ム)ハ本年4,946,504海關兩テ前年ノ13,118,271海關兩ニ比シ8,171,767海關兩即六割以上ノ減少テ輸出品ノ主ナルモノハ露領住民ノ生活必需品ナル麥粉小麥煙草茶其他飲食料品雜穀獸脂等テアルカ茶及獸脂ノ前年ヨリ増加シ居ルノミニテ其他各品ニ互リテ何レモ減少シテ居ル

滿洲里ハ敍上ノ如ク不安ノ状態ニアレハ商取引ハ現金取引ヲ爲スカ又

ハ銀行ニ保證金ヲ積立テ取引ヲ爲スカノ二方法アルノミニテ昨今ノ金融界ハ極度ニ逼迫セル結果大口ノ取引ハ全然不可能ナル金融機關トシテハ露亞銀行支店、相互貯蓄銀行支店、及支那側銀行ノ三行テアルカ何レモ送金及代辦事務ヲ主トシテ手形割引ノ如キハ極度ノ緊縮方針ヲ採ツテ居ル殊ニ對露貿易上知多ヘノ送金事務ニ至リテハ全然之ヲ爲ササル現狀テアル而シテ通貨ハ大洋銀、日本貨、金貨留及銀貨哥ノ四種テ流通高ハ大洋銀第一位ヲ占メ日本貨、露貨之レニ次ク狀態テアル

4. 哈爾賓

本年ノ總貿易額ハ 27,610,186 海關兩テ前年ノ 21,012,907 海關兩ニ比シ 6.59 7,279 海關兩即三割ノ増加テアル今之ヲ輸移出入別ニ見レハ輸移入ハ本年 19,372,651 海關兩テ前年ニ比スレハ四割五分ノ増加テ輸移出(再輸移出ヲ含ム)ハ本年 8,237,535 海關兩テ前年ニ比スレハ僅ニ六分強ノ増加テアル如斯當年貿易増加ノ主因ハ輸移入額殊ニ移入支那品ノ増進ニ基クモノテアル而シテ移入支那品ノ大部分ハ松花江沿岸一帶ヨリ來ル農產物及林產物テアルカ今過去五箇年間ノ支那品ノ移入額ヲ示セハ下ノ如シ

	海關兩	海關兩	
大正六年	3,504,881	大正九年	12,696,967
同 七年	9,107,208	同 十年	18,751,173
同 八年	8,504,302		

尙最近五年間ノ主要支那品ノ松花江運ニ依リ哈爾賓ニ搬入サレタル純移入數量ヲ掲クレハ下ノ如シ

品名 (單位)	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
大豆 擔	1,096,980	2,871,281	2,164,006	1,625,313	3,683,242
小麥 同	744,092	1,701,491	1,217,833	4,263,449	1,602,356
雜穀 同	99,437	182,126	91,577	75,022	299,616
麥粉 同	15,139	14,153	35,035	24,261	21,486
豆 類 同	2,694	11,464	43,248	23,872	9,249
薪 材 同	1,004,193	877,673	1,651,385	2,003,192	2,303,581
樑 材 本	49,997	103,167	101,782	183,608	57,369,035 ^(平方尺)

板 材 平方尺	8,963,696	8,105,139	4,236,307	6,683,874	8,475,100
丸 太 本	17,296	54,564	92,550	35,928	39,588
鷄 卵 千個	3,726	6,081	11,000	3,464	909

輸移出額中大部分ヲ占ムルニ外國品及支那品ノ再輸移出額テ是等ハ何レモ南滿方面ヨリ鐵道ニ依リ哈爾賓ニ搬入サレ更ニ松花江運ニ依リ各地ニ分布サルル綿絲布其他雜貨類テアル

對露貿易ヲ見ルニ

輸入ハ本年 110,663 海關兩テ前年ノ 289,588 海關兩ニ比シ 178,925 海關兩即六割以上ノ減少テ輸入品ノ主ナルモノハ毛皮及金屬類テアル前年ニ比シ著シク減少セルハ水產物テ當年減額ノ大部分ヲ占メテ居ル

輸出(再輸出ヲ含ム)ハ本年 987,330 海關兩テ前年ノ 1,100,152 海關兩ニ比シ 2,822 海關兩即一割ノ減少テ輸出品ノ主ナルモノハ生活必需品カ大部分ヲ占メ麥粉ヲ第一トシ豆油粟其他飲食料品等テアル外國品ノ再輸出ハ前年ニ比シ半減シテ居ルカ再輸出品ノ主ナルモノハ綿織物テ其他ハ雜貨類テアル

哈爾賓ノ對外國輸出ハ松花江ニ依ル對露領輸出ノミ稅關統計ニ計上セラレタルモ本年ヨリ小包郵便ニ依ル毛皮其他雜品ノ諸外國行キ統計ヲ掲載スル事ニナツタ而シテ本年ノ輸出額ハ下ノ如シ

毛皮輸出

	海關兩	海關兩	
北米合衆國	388,988	英 吉 利	9,703
獨 逸	62,937	日 本	3,064

其他雜品

	海關兩	海關兩	
朝 鮮	2,308	北米合衆國	238
香 港	1,256	英領海峽殖民地	108
日 本	325	佛 蘭 西	97
獨 逸	273	英 吉 利	58

5. 綏芬河

本年ノ總貿易額ハ 21,278,096 海關兩テ前年ノ 10,328,711 海關兩ニ比シ 10.94

9,385海關兩即十割以上ノ増加テアル今之ヲ輸出入別ニ見レハ輸入ハ本年5,237,571海關兩テ前年ニ比スレハ一割七分以上輸出(再輸出ヲ含ム)ハ本年16,040,525海關兩テ前年ニ比スレハ十七割以上共ニ増加シテ居ル之レ東支鐵道ノ交通狀態復舊シ浦潮港ノ秩序多少整備シタル爲メ漸次戰前ノ貿易狀態ニ復活シツツアルノテアル殊ニ當年大豆豆粕小麥等ノ浦潮港行貨物ハ實ニ目覺シキモノテアツタ
綏芬河ノ貿易ハ對内關係即移入又ハ移出ト見ル可キ貿易ハ稅關統計ニ計上セラレス全部對外即對露貿易テアル
本年移入品中50,000海關兩以上ノモノヲ列舉シ前年トノ増減ヲ示セハ下ノ如シ

	海關兩	前年トノ比較増減	(増)	
鐵 及 鋼	1,276,183		281,244	
機 械 器 具	820,170	同	(同)	211,885
皮 革 類	562,143	同	(同)	202,681
衣服及附屬品	399,954	同	(同)	258,128
綿 織 物	220,130	同	(減)	292,635
茶	207,330	同	(増)	53,353
水 産 物	179,854	同	(減)	104,775
木 材	164,858	同	(増)	151,310
金 物	155,356	同	(同)	135,285
石炭及「ヨークス」	152,426	同	(同)	57,360
砂 糖	121,503	同	(同)	112,074
藥品及藥材	86,362	同	(同)	7,628
圖書及文具	79,974	同	(同)	55,711
機 械 油	71,799	同	(減)	278,391
野菜及果物	59,939	同	(同)	33,490
其他金屬	57,658	同	(同)	3,584

本年輸出品中100,000海關兩以上ノモノヲ列舉シ前年トノ増減ヲ示セハ下ノ如シ

	海關兩	前年トノ比較増減	(増)
大 豆	5,633,303		5,078,979

小 麥	3,615,404	同	(同)	2,083,161
豆 粕	2,730,630	同	(減)	2,669,187
麥 粉	821,294	同	(同)	305,048
其他飲食料品	798,198	同	(同)	651,581
家 畜	498,443	同	(増)	169,248
鷄 卵	333,334	同	(同)	184,729
豆 油	260,583	同	(同)	251,040
木 材	217,740	同	(同)	135,676
其他穀物	107,886	同	(同)	38,922
外國品再輸出	287,030	同	(同)	151,582

二 對露貿易

輸入

北滿各關ヲ通シテ本年ノ對露輸入總額ハ7,321,913海關兩ヲ衰退セリト言ハルル前年ノ8,187,852海關兩ニ比シ更ニ一層ノ減少テアル之レ西伯利ニ於ケル混沌タル政情ハ産業組織ヲ破碎シ土著民ヲシテ安シテ業務ニ勵ムノ氣力ヲ失ハセ唯其日暮シノ狀態ニテ最早自暴自棄ニ陥リ產額ノ減少ハ牽ヒテ購買力ノ減少トナリ輸入輸出共漸次凋落ニ陥リツツアル觀カアル浦潮ヘノ通路開カレタトハ言ヘ未タ露國內一般交通ノ不安ハ依然トシテ取除カレナカツタ北滿各稅關ヲ通シテ本年對露輸入額100,000海關兩以上ノ貿易品ヲ舉クレハ下ノ如シ

	海關兩	前年トノ比較増減	(増)	
皮 革 類	1,516,780		897,874	
鐵 及 鋼	1,384,730	同	(同)	348,709
機 械 類	882,461	同	(同)	198,563
衣服及附屬品	425,282	同	(減)	27,129
水 産 物	309,407	同	(同)	124,072
木 材	249,177	同	(増)	181,459
綿 織 物	242,147	同	(減)	345,121
石炭及「ヨークス」	240,083	同	(増)	10,957

茶	213,019	同	(減)	42,215
金物	179,565	同	(増)	143,882
藥品及藥材	122,385	同	(同)	14,366
砂糖	121,503	同	(同)	102,330

尙前年輸入品ノ第一位ヲ占メタ棉花ハ前年ノ1,659,150海關兩ヨリ本年ハ34,485海關兩ニ又第六位ニ在ツタ機械油ハ前年ノ469,022海關兩ヨリ本年ハ75,442海關兩ニ減少シタ

次ニ過去五箇年間ノ對露貿易輸入額ヲ各稅關別ニ掲クレハ下ノ如シ

	大正六年 海關兩	大正七年 海關兩	大正八年 海關兩	大正九年 海關兩	大正十年 海關兩
愛 琿	48,161	114,390	25,207	51,456	67,975
三 姓	12,610	21,200	16,968	39,428	342,005
滿 州 里	2,869,238	1,356,812	1,572,836	3,348,691	1,563,699
哈 爾 濱	93,422	129,138	53,106	289,588	110,663
綏 芬 河	5,814,002	3,738,193	11,391,547	4,458,689	5,237,571
計	8,837,453	5,359,733	13,059,664	8,187,852	7,321,913

輸出

北滿各關ヲ通シテ本年ノ對露輸出總額ハ24,159,808海關兩テ前年ノ34,361,133海關兩ニ比シ三割ノ減退テアル之レ對露輸出モ前述ノ如ク露國內産業ノ萎靡頽敗ニ基ク購買力ノ減少ハ到底一時ニ回復ヲ望ミ難ク輸出貿易ノ旺盛ナリシハ唯浦鹽方面行北滿特產物ノ輸出ノミテアツタ北滿各稅關ヲ通シテ本年對露輸出額100,000海關兩以上ノ貿易品ヲ擧クレハ下ノ如シ

	海關兩	前年トノ比較増減	(増)	海關兩
大 豆	5,654,925	(増)	5,091,590	
小 麥	4,055,619	同	(同)	1,444,673
豆 粕	2,757,535	同	(同)	2,672,412
麥 粉	2,137,719	同	(減)	228,898
其他 飲食料品	1,201,192	同	(同)	1,113,845
家 畜	731,259	同	(同)	417,517
煙 草	523,151	同	(同)	284,590

雜 穀	492,089	同	(減)	288,426
豆 油	411,654	同	(増)	294,904
鷄 卵	338,351	同	(同)	185,291
茶	273,708	同	(同)	106,175
木 材	217,812	同	(同)	134,968
獸 脂	119,228	同	(増)	22,373
薪	106,948	同	(同)	29,043
外國品再輸出	2,903,294	同	(減)	8,269,312

上記列舉品中特ニ附記ス可キハ小麥テ同品ハ本年價額ニ於テハ前年ニ比シ増加シテ居ルモ實際ノ輸出數量ハ前年ノ1,558,636擔ニ對シ本年ハ1,494,743擔ニ減退シテ居ル之レ當年麥作不作ニ基ク單價騰貴ノ爲メ輸出價額ノ増加ヲ見ルニ至ツタノテアル

次ニ過去五箇年間ノ對露貿易輸入額ヲ各稅關別ニ掲クレハ下ノ如シ

	大正六年 兩	大正七年 兩	大正八年 兩	大正九年 兩	大正十年 兩
愛 琿	1,651,077	2,765,147	1,420,247	3,769,590	1,872,986
三 姓	921,837	204,893	1,661,565	533,098	312,463
滿 州 里	20,291,587	3,050,715	13,197,490	13,118,271	4,946,504
哈 爾 濱	4,068,497	314,604	1,336,722	1,100,152	987,330
綏 芬 河	5,814,202	3,738,193	11,391,547	15,870,022	16,040,525
計	32,747,020	10,073,552	19,007,571	34,391,133	24,159,808

三 北滿洲の商況 (哈爾濱)

一、二月 前年來長期ノ不況ト一部破産者ノ續出ニ一層ノ手控ヘラシタ關係ニヨリ一月以來頗ル閑散ノ狀ヲ呈シ二月ニ入リテ支那側舊正月決濟期ニ臨ミ偶々日本内地財界ハ擡頭ノ氣配ヲ示シ小麥、豆粕ノ買註文アツタカ月末米棉安ノ氣配ニ崩レ註文杜絶セシモ小麥ハ却テ反撥シテ奧地輸送ノ不充分ノ爲メ入荷少ナキヲ嘆スル狀テアツタ豆粕小麥ノ販ヒニ綿絲布ノ荷動キモ生シ多少新小口取引ニ生氣ヲ與ヘタ又向暖ノ季トテ建築準備用材ノ南滿方面ヨリ著荷アリ旁々毛皮ノ輸出

モアリテ各銀行ハ稍新資ノ需要ヲ喚起シタ

三月 前月來小麥豆粕等ハ活況ヲ呈シタカ月半東支鐵道ハ大豆運賃二割五分ノ低減ヲ行ヒ戰前ノ運賃ニ復歸シ爲メニ漸ク各地トノ引合ヲ見ルニ至リ當地輸出市場生色アリ殊ニ豆粕ハ内地需要期ヲ眼前ニ控ヘ陸續買注文アツタ又支那人向綿布多少入荷アリテ旁々松花江解水期ニ近ツケル爲メ川筋地方當込ノ商談弗々成立シ輸送状態モ亦漸次良好トナリ東支鐵道ノ特産物浦港吸引策モ其色彩鮮明トナツタ

四月 先月中旬ノ東支線運賃値下實施以來漸次活況ヲ呈セル特産市場ハ本月ニ入り現物先物ノ賣買及浦潮向引換證券ノ賣買相當ニ顯ハレ加フルニ東支貨車配給順調ト相俟ツテ斯界ハ一層ノ段販ヲ呈スルニ至ツタ豆粕ハ内地ノ買氣旺盛ニシテ油房業者ハ銳意製品ノ精選ヲ計リ本月中ノ製造高約四十萬枚ニ達シタ松花江舟航ヲ當テ込ミ弗々雜貨ノ仕入ヲ見タルモ中旬「ペスト」尙終熄セス江水モ以外ニ減水セル爲メ郵船局、戊通公司等ノ各汽船ノ活動モ思ハシカラストノ豫想ニテ支那商ノ買進ミ少キ爲メ市況閑散テアツタ

五月 沿海州政變モ平和裡ニ進涉シテ一般交通上ニ何等支障ヲ來タスコトナク浦鹽行荷動キハ順調ニ行ハレ加フルニ滿鐵線モ運賃値下ヲナシ爲ニ浦鹽向大連向共ニ荷動増加シタ輸入テハ期待セシ滿洲里國境封鎖ノ解放モ後貝加爾方面ノ購買力萎縮ニ依リ何等ノ效果モナク這次ノ政變ニ依リ國境貿易ハ殆ト杜絶シ他面松花江筋ノ商況モ差シタル變化ナク平凡裡ニ越月シタ

六七月 六月中ハ特産物ノ出廻リモ少ク市況モ軟弱ニテ七月ニ入りテハ夏枯季トナリ漸次不況ヲ呈シ一方大豆其他特産界モ月末ニハ殆ト在荷拂底ノ模様ニテ出廻期迄ハ茲暫クハ取引休止ノ状態テ一時内地相場ニ押サレテ多少氣付イタ綿絲布モ在荷潤澤ナルト需要期ヲ控ヘ前值持合ノ折柄ナレハ取引全クナク麻袋モ又之ト略ホ同一歩調ヲ辿リツツアツタ

八月 例年當月ハ最閑散期テアルカ新穀出廻リ期モ迫リ尙又齊多政府ノ小麥大口注文ノ如キハ尙ホ引續キ現ハルルモノト豫想サレ當地穀

類市況ハ次第ニ活氣付キ時期物ノ綿絲布麻袋砂糖等モ多少ノ荷動キヲ見麻袋ノ如キハ小麥ノ高値ト新穀出廻リヲ控ヘテ強氣ヲ辿リ在庫薄ト相俟ツテ逐次上騰ヲ示シタ

九十月 大豆小麥等ノ出廻リ初メタルニ依リ相當取引多忙テアツタカ大シタ變動モナク平調裡ニ九月ヲ終リ十月ニハ初旬ヨリ中旬ニカケ大豆現物ノ荷薄ト内地穀類暴騰トニ伴レテ異常ノ騰貴ヲ示シタカ下旬新穀出廻リ潤澤ト共ニ下押トナツタ小麥及麥粉ハ過激派政府ノ買付モ止ミ氣勢大イニ挫ケテ漸落步調ヲ辿リ新穀ノ出廻リ旺盛ト相俟ツテ一段ノ不勢トナリ豆粕及豆油ハ依然油房業者休止状態ニテ取引モ極メテ少ク麻袋ハ月初銀高ト印度爲替ノ好調ニ依リ騰貴シタカ中旬ヨリ銀安ト品モタレトニ起因シテ少シク落チタ

十一月、十二月 本月大豆柞柄ハ平年作ニテ出廻リ順調南滿ニ於ケル大手筋ノ買進ミニ依リ人氣引立テ目先高ニテ豆粕ハ市況未價安ニアテラレ荷動キ面白カラス豆油モ依然取引少ク小麥ハ麥粉ト共ニ昨年ノ例ヲ受ケテ海外輸出アラン事ヲ豫想シ最初頗ル高値ヲ呼ンタカ新穀ノ出廻リ旺盛ナルニ奧地商談閑散ト海外輸出ナキト米國及濠洲ノ麥粉輸入ノ壓迫ヲ受ケテ商情頗ル振ハナカツタ年末ニ近付キ小麥禁輸說ノ煽リト銀高ニテ布度二等粉銀二圓九十錢ノ高價ヲ示シタ麻袋ハ先月來徹頭徹尾沈衰状態ヲ持續シ大豆小麥ノ出廻リ旺シナルト共ニ一時ハ品薄ニ強調ヲ示シタカ大豆小麥ノ荷動キ豫想程ニモナキ爲メ漸落步調トナリ越年シタ

四 吉林材ノ集散狀況

吉林省ハ支那全國中屈指ノ森林地帯テ全省ノ大半ハ森林地テアル殊ニ松花江流域ノ森林ヲハ(一)松花江左岸流域所謂湯河、花園、濛江、那兒轟ノ森林(二)頭道江最上流白頭北側一帶ノ森林(三)二道江上流ヨリ漂河上流新開嶺附近ニ至ル一帶ノ森林ヲ有望ナルモノトスル就中(一)ノ松花江上流左岸流域ノ森林ハ其面積頗ル廣大蓄積ノ豐富亦流域中第一ニ位スル樹木ノ種類ハ鴨綠江森林ニ存在スルモノト大差ナク其主ナルモノハ紅

松魚鱗松杉松黃花松崩松赤柏松等ノ針葉樹ト水曲柳柞木榆木樺木胡桃楸黃蘗楊木樺木色木槐木等ノ闊葉樹ヲ紅松ノ大木ノ多キ事胡桃楸槐木等ノ數量多キハ鴨綠江流域ニ比シ異ル所テアル今湯河花園濛江那兒轟及其他ノ五箇所ニ分テ其面積及材積ノ概算表ヲ示セハ下ノ如クテアル

地 域 別	散 生 地			擇 伐 跡 地			原 生 林			總 計	
	面積	平均材積	總材積	面積	平均材積	總材積	面積	平均材積	總材積	面積	材 積
湯 河	3,800	50	190,000	29,900	300	8,970,000	26,100	500	13,050,000	59,800	22,210,000
花 園	12,000	35	420,000	22,900	250	5,725,000	27,200	500	13,600,000	62,100	19,745,000
濛 江	8,700	40	348,000	13,600	350	4,760,000	61,000	600	36,600,000	83,300	41,708,000
那 兒 轟	29,400	40	1,176,000	35,900	350	12,565,000	39,200	700	28,440,000	104,500	42,181,000
其 他	31,600	35	1,106,000	17,400	350	6,090,000	—	—	—	49,000	7,196,000
計	85,500	—	3,240,000	119,700	—	38,110,000	153,500	—	91,690,000	358,700	133,040,000

上ノ數字ハ概算ニ過キヌカ然シ之ヲ以テ一般ノ狀況ヲ推察スル事カ出來ル即總面積358,700町步ニ對シ總材積133,040,000尺縮アリテ此内紅松杉松魚鱗松黃花松等ノ主要ナ針葉樹ノ總材積ハ約69,650,000尺縮ト言ハル吉林材ハ數年前迄ハ吉林省城ヨリ更ニ下流ノ伯都訥ニ流下サレ水陸西路ニ依ツテ太賚縣齊々哈爾洮南縣洮安縣開通縣肇州縣其他近傍ノ消費地ニ輸送サレタカ今日テハ伯都訥方面ニ流下サレルモノハ極少量ニテ殆ト大部分ハ吉林九站ニ陸揚ケサレ吉長鐵道ニ依ツテ長春ニ搬出サレ其過半數ハ滿鐵沿線ニ消費サレテ居ル本年ノ木材流下狀況ハ解氷後間モナク拉法河ノ支流筋ニ不時ノ出水アリ其後匪徒ノ騷擾ニヨリ多少流筏上ニ影響ヲ及ホシタカ昨年度ニ比シ水量極メテ順調ナリシ爲メ著筏數多數ニ上リ西關ノ江上ハ筏材ニ充タサレ頗ル盛況ヲ極メタ今本年ノ吉林材流下數量ヲ示セハ次ノ如クテアル

材 木 種 類	紅 松	杉 松
過 梁	27,138	18,145
二 呼 頭	24,620	13,449
長 條 子	37,841	19,485
大 方 子	26,318	62,352
八 尺 子	994	4,543

雜 材 25,885 35,825

右雜材ハ椽子桂子料子標子板子等ヲ混合計上シタモノテ其他ノ雜樹トシテハ

樹 種	本 數	樹 種	本 數
楊 木	24,254	榆 木	6,579
楸 木	2,266	椴 筋 木	2,025
色 木	56	水 曲 柳	3,068
黃 波 羅	371	黃 花 松	2,077
柞 木	40	楸 木	10,967
雜 木	9,339		

等テアリ尙特種材トシテハ下ノ如シ

種 類	本 數	種 類	本 數
枕 木	268,432	杭 木	94,378
電 柱	1,637	燒 材	400,759

長春ハ吉林材ノ集散市場テ以前ハ輸入材カ相當ニ市場ニ現レタカ最近吉林材及北滿材ノ出材多ク特殊材ノ外ハ殆ト輸入材ヲ驅逐シ南滿各地ノ大發展ニ連レ木材ノ需要激增シ南下スル量ハ多クナツタ茲ニ於テ鴨綠江材ト競争トナリ本年滿鐵ニ於テ夏季運輸貨物ノ閑散ト長春ニ於ケル木材推貨ノ一掃策トシテ五月二十三日ヨリ十月末迄ノ期間吉林木材ニ對シ吉長線吉林驛及九站驛發安東驛著運賃ノ二割引下ケヲ實施セル爲メ吉林材ハ鐵路大迂回ヲスルモ鴨綠江材ト値開キ僅少トナリ益々兩者ノ競争ハ激シクナツタ

吉林材ノ仕向地ハ大連ヲ主トシ奉天之ニ次キ四平街鐵嶺公主嶺開原等ノ順テ滿洲線一帶及朝鮮ニ仕向ケラルルカ日本ヘノ輸出ハ本年三十車大阪名古屋方面ニ輸送サレタノカ最初テアル過去三箇年ニ於ケル長春驛發送木材ヲ主ナル仕向地ニ分テ併セテ東支及吉長線ヨリノ聯絡數量ヲ示セハ次ノ如シ

仕 向 地	大正八年	大正九年	大正十年
大 連	30,290	31,963	51,966

營口	777	3,683	6,295
撫順	1,998	1,078	1,617
奉天	20,186	16,814	25,761
鐵嶺	3,570	2,348	3,302
開原	3,400	2,366	3,205
四平街	2,638	4,288	24,715
公主嶺	3,087	1,897	3,208
安東	130	200	12,045
其他	19,350	12,086	106,727
計	85,426	76,723	238,841
以上ノ内 吉長線發著 滿鐵支線發著	12,059	28,899	136,053
東支線發著	2,051	3,389	7,119

上ノ數字ノ過半ハ吉林材ト見ルヘキモノテ大正十年ニ於ケル發送數量ノ激增ハ前年來長春ニ滯貨サレタルモノ多ク財界不況ノ爲メ金融硬塞シ加フルニ長春驛構内改築ニ伴フテ木材集積場移轉ノ爲メ投賣リヲ爲シタニ依ルノテアル安東仕向ノ異常ナル増加ハ吉林材ノ下落ト既述シタ滿鐵ノ吉林材ニ對スル特定運賃ノ改正ニ歸因スルノテアル吉林ニ於ケル木材取扱者ハ大正四年頃迄ハ約三十ニ及ヒ松花江沿岸ニ店舗ヲ有シ旺シナル取引ヲナシツツアツタカ大正三年秋ノ出水及同四年ノ洪水ニ依リ木林ノ流失多ク資金ノ缺乏ヲ來タセルト改訂税金ノ昂騰ニヨリ本業ニ従事スルモノ大ニ減少シタカ大正五六年ニ至リ事業界ノ大活躍ニ乘シ本邦人ノ經營者起リ斯界ハ復活シ現今ノ主ナル木林取扱業者ハ豐材公司華森公司富寧公司吉林製材東亞興産三井三菱茂山公司松江林業公司等テアル

五 松花江の水運

1 總說

松花江ハ其ノ全延長六百里ヲ降ラス水量又潤澤ニシテ黑龍江ノ水勢カ松花江ヲ收容シテヨリ俄然其性質ヲ異ニシ航運上ノ利便多キヲ見

テモ如何ニ其ノ水量ノ潤澤ナルカヲ知ル事カ出來ル而シテ松花江ノ水量ハ一般ニ解氷期ニ於テ豊富テアルカ上流水源地方ニ於ケル冬期降雪ノ多寡ニヨリ其ノ増減カアル又氷雪ノ全ク融解シ終ル六月下旬乃至七月ニ至ルト上流地方ハ稍々水量不足ヲ感スルニ至リ八月ノ雨期ニ入レハ直ニ水量増加シテ平準ヲ越エ又次イテ天候回復スルト共ニ水量ハ日々減少シ九月末十月ノ終航期ニ於テハ減水最モ甚タシク航行困難ニ陥リ遂ニ結氷期ニ入ルノテアル哈爾濱ニ於ケル最近十數年間ノ解結水平平均日ヲ掲クレハ下ノ如クテアル

結氷期	解氷期	事實上ノ航行日數
十一月十日	四月十五日	一九五日

即約六箇月ヲ航行シ得ルノテ其他ノ六箇月ハ冬營ヲナスノ止ムナキニ至ルノテアル松花江ノ可航區域ハ吉林ヨリ黑龍江合流點迄1,254露里(831哩)テアルカ貨客ノ最モ輻湊シテ航運ノ殷賑ヲ極ムルハ哈爾濱ヨリ河口ニ至ル航路テアル蓋シ哈爾濱下流ノ松花江ニ在ツテハ同流域ニ未タ鐵道ノ敷設ナキ爲メ水運ノ便ニ富メル同江ハ自ラ夏季ニ於ケル交通機關トシテ最モ優良ナル地歩ヲ占メ沿江一帶ヨリ哈爾濱又ハ露領各地ニ出入スル百般ノ貨物ヲ獨占輸送シ得ルニ反シテ哈爾濱ヨリ吉林ニ至ル第二松花江ノ航路ハ南滿東支吉長線等ノ諸鐵道其ノ間ニ介在スレハ自然貨客ノ爭奪戰行ハレ船運ノ不振ヲ招イテ居ル松花江流域ノ埠頭ハ何レモ附近出貨地ト地理的關係ニ基キテ專ラ船舶ノ寄航停船ニ便ナル地點ヲ擇ヒテ設ケラレタル自然的埠頭テ護岸工事突堤又ハ棧橋等ノ陸上設備ハ殆トナク概ネ江流灣曲シテ水勢緩漫ナル深處ニ位置シ乘客ノ乗降ニハ短艇ヲ用ヒ貨物ノ積卸ニハ跳板ヲ渡シテ爲シテアル有様テアル

2 松花江航行權ノ由來

松花江ノ航行權ハ瓊瑯條約北京條約及露都條約ニヨリテ確認セラレタルモノト一般ニ知ラレテ居ルカ其ハ誤リテ瓊瑯條約中ノ松花江ナルモノハ現在ノ松花江ヲ指サス松黑合流點ヨリ河口ニ至ル黑龍江ノ一部ヲ云フ事ハ當時ノ文書ニ明カテアル實際松花江ノ航行權ヲ得タ

條約ハ一九一〇年ノ松花江航行條約テアル瓊瑯條約締結後極東總督(ムラビヨーフ)ハ條約ヲ曲解シテ合流點上流ノ松花江ノ航行ヲモ含ムト主張シタカ支那側ノ反對テ得ル所ナカッタ故ニ一面文字ニ捕ヘラレス實力ヲ以テセントシ同總督ハ自ラ汽船アムール號ヲ合流點ヨリ二十露里遡江シ更ニ商人二名ヲ三姓迄遡江セシメタ之カ即露人ノ松花江航行ノ最初テアツテ爾來條約上何等ノ特權ヲ有セス且ツ支那側ノ反對妨害アルニモ不拘松花江航行ノ行動ヲ繼續シテ來タカ偶々一九〇〇年義和團ノ亂テ支那ハ他ヲ顧ル違ナキニ乘シテ東支鐵道ハ材料輸送ヲ口實トシ同鐵道ニ船舶部ヲ設ケ哈爾濱ハバロフスク間ニ定期航路ヲ開始シタ爾來松花江上ノ露國船舶ハ増加シ獨占的態度ヲ現ハスニ至ツタノテ支那側モ對抗策ヲ講シ松花江官輪船局ヲ創設シ露國船舶ニ對抗シ航行權挽回策ニ出タカ結果ハ露國ノ瓊瑯條約ニ對スル見解ヲ是認シ内河航行ヲ默許スル事トナツタ故ニ支那政府ハ正式抗議ヲナシ得サルヲ以テ抵制ノ策ニ出テ一九〇九年哈爾濱三姓拉哈蘇々ニ稅關ヲ新設シ露國ノ獨占ニ歸シタ松花江ノ航行權ヲ各國ニ開放スルノ宣言ヲ爲シタ露國ハ瓊瑯條約ヲ無視シタルモノトシテ嚴重ナル抗議ヲナシ再三折衝ノ後一九一〇年八月八日松花江航行ニ關スル北京議定書ノ締結トナリ瓊瑯條約ノ精神ヲ敷衍シテ露支兩國ノ船舶ニ限リ松花江ノ航行及貿易權ヲ認メタ依ツテ支那ノ抵制策ハ反ツテ露國ノ乘スル所トナリ條約上不定ナル航行權ヲ確實ニ掌握セシムルニ至ツタノテアル

斯クノ如ク露國ハ長年月ト幾多ノ努力ニ依リテ占有セル松花江上ノ勢力モ一九一七年舊露西亞ノ崩壞過激派ノ猖獗トナリ露國船主ハ財產ノ安全ヲ期スルヲ得サル爲メ汽船ヲ支那人ニ賣却スルモノ續出シ遂ニ法律ニヨリ禁止セラレシ船舶賣却ヲモ許可スルノ止ムヲ得サルニ至ツタ支那ハ此ノ機ニ乘シ凡有手段ヲ以テ支那ニ於ケル露國ノ勢力ヲ驅逐シタ即一方東支鐵道管理權ノ回收ト共ニ黑龍江及松花江ニ於ケル露國ノ航行權ヲモ回收セント企テタ松花江航行權回收ニ對シ支那側ノ云フ處ニ據レハ「露國ニ對シ黑龍江ノ航行權ヲ附與シタノハ

一八五八年ノ瓊瑯條約ニ依ルノテアルカ松花江ニ關シテハ何等規定ナク露國ハ松花江ノ航行權ヲ有シテ居ナイ然ルニ露國ハ當時強大ナル威力ヲ以テ無理ニ航行シタノテ支那政府ハ露國ニ對シ抗議シタカ之ニ應セサルノミカ遂ニ強力ヲ以テ一九一〇年松花江航行ニ關スル議定書ノ調印ヲ迫ツタノテ當時内亂テ僥弊シテ居タカラ之ト爭フヲ得ス不得已之ヲ承認シタノテアル即強力ヲ以テ奪取サレタノテアルカラ今日支那政府カ強力ヲ以テ之ヲ回收スルモ理論上支障ハナイ云々」

3 松花江上ニ於ケル船舶

松花江上ニ浮ヘル船舶ハ之ヲ大別シテ帆船ト汽船ノ二ツニ分ツコトカ出來ル帆船ノ種類ハ改舢槽船牛船大頭船等テ其數ニ至ツテハ統計ノ依ルヘキモノナク確數ヲ得ルコトカ出來ヌカ上流カラ哈爾濱迄ニ約一千隻哈爾濱カラ下流及嫩江呼蘭河等ノ分ヲ全部合計スルト約二千隻ヲ上ルテアラウ而シテ其帆船ノ積載力ハ下ノ通りテアル

改舢	二萬乃至一〇萬斤	對子	一萬乃至二萬斤
槽船	二萬乃至一〇萬斤	大頭船	一萬乃至二萬斤
牛船	一萬乃至五萬斤		

汽船ヲ以テ松花江ヲ吉林迄遡行シタノハ一八九五年露國探見隊ノ一小汽船テ露國カ夙ニ吉林省松花江上流ノ富源ニ著目シ種々苦心ノ末同航路ヲ開キ得タモノテ當時ハ未タ吉長鐵道開通セス兩地ノ交通頗ル不便ナリシ爲メ本航路ヲ利用スルモノ意外ニ多ク豫想外ノ好成績ヲ擧ケタ

松花江ハ所々淺瀬又ハ難礁アル故ニ吃水深キ汽船ヲ通スル能ハス吃水淺キ所謂川蒸汽船ヲ通スルニ過キナイ而シテ普通汽船ノ吃水ハ空船ニテ一呎乃至三呎半滿船ニテ三呎半乃至六呎半位ニテ其レ以上ノ吃水ヲ有スル汽船ハ到底航行シ得ナイ

松黑兩江ヲ航運スル船舶數ハ逐年減少シツツアルカ其原因ハ露國革命ニ基ク西伯利ノ壞亂テアル一九一七年ノ調査ニ依ルト

汽船ノ部	露人船主	支人船主	計
------	------	------	---

隻	數	262	18	280
馬	力	49,612	818	50,430
積	載 量	1,315,230 ^{布度}	37,500 ^{布度}	1,352,730 ^{布度}
索	引 量	6,591,500	25,000	6,616,500

「ライター」ノ部

隻	數	289	積 載 量	7,118,295 ^{布度}
---	---	-----	-------	-------------------------

テアツタカー九二二年一月迄ノ四年間ニ燒失、沈沒、解體シタモノヲ船名ノ明カナルモノノミテ汽船三十一隻「ライター」五十隻ヲ減少シテ居ル即現在數ハ

汽 船 ノ 部	露人船主	支人船主	日人船主	計
隻 數	162	77	10	249
馬 力	24,992 ^{布度}	14,586 ^{布度}	3,465 ^{布度}	43,043 ^{布度}
積 載 量	552,930 ^{布度}	452,500 ^{布度}	113,500 ^{布度}	1,118,930 ^{布度}
索 引 量	3,386,500	1,695,500	493,000	5,576,500

「ライター」ノ部	露人船主	支人船主	日人船主	計
隻 數	190	45	4	239 ^{布度}
積 載 量	4,750,995	1,247,000	167,000	6,164,995

テアル右露人船主ノ中ニハ例ノ尼港燒打事件ノ際、其他「ブラゴエシチエンスク」、「ハバロフスク」、「ストレチエンスク」等テ過激派ノ爲メ撃沈爆沈サレタモノヲ含ムカ船名明確ニ調査シ得ヌノテ實際數ハ尙減少シテ居ル加フルニ其ノ大多數ハ近年修理セラレタルモノナク使ヒ放シノ有様テ勿論近年新造セラレタルモノハ一隻モナイ

右現在船舶ノ中テ日本人及支那人ヲ船主トスル全部ト露人所有ノモノテ船主船名ノ確實ナルモノニ就テ船主船名別ニ表示スレハ次ノ如クテアル

松黑兩江船舶明細表

國 籍	船 主	船 名	船 質	實馬力	積載量 ^{布度}	索引量 ^{布度}
日	極東運輸組合	{ワ、アレキ セーフ	鋼客貨	550	25,500	—
同	同	シビル	鋼客貨	400	12,000	68,000

國籍	極東運輸組合	シルカ	鋼客貨	曳	210	15,000	30,000
同	同	ウオストク	木客貨	曳	210	21,000	—
同	同	ソール	同	曳	135	8,000	—
同	同	ムコモル	鋼客鋼	曳	220	4,000	20,000
同	同	アムグニ	同	曳	500	—	125,000
同	同	ネロノフ	同	同	600	—	125,000
同	同	プノスト	同	ライター	—	—	—
同	同	ジョセフ	同	同	—	45,000	—
同	北滿運輸	ウラシミル モノマフ	木客貨	曳	400	24,000	65,000
同	同	アムル	鋼客鋼	曳	240	5,000	60,000
同	同	ゼーヤ	ライター	同	—	50,000	—
同	同	シルカ	同	同	—	40,000	—
米	エクスホルト マイ公司	エリヤ	木客貨	曳	39	2,000	1,000
同	同	ニーナ	木客貨	曳	—	2,500	—
同	同	(浚 渫 船)	鐵	曳	—	—	—
支	松黑兩江郵船公司	慶 滿	鐵客貨	曳	210	15,000	—
同	同	江 亮	同	曳	36	—	5,000
同	同	江 鷗	同	同	36	—	5,000
同	同	江 鷹	同	同	36	—	5,000
同	同	公 濟	木客貨	客	70	1,500	—
同	同	松 花	同	同	70	3,000	—
同	同	江 鷗	鐵	ライター	—	5,000	—
同	同	嫩 江	同	同	—	—	—
同	吉林軍務局	吉 宏	鐵客貨	曳	180	8,000	25,000
同	同	吉 大	鐵客貨	曳	—	20,000	—
同	廣信公司	廣 濟	鋼客貨	曳	400	12,000	65,000
同	同	廣 利	同	同	210	15,000	25,000
同	同	濟 波	鐵	ライター	—	45,000	—
同	同	利 波	同	同	—	35,000	—
同	東亞火磨公司	南 京	木客貨	曳	250	24,000	30,000
同	同	北 京	鋼客鐵	曳	120	—	20,000
同	同	辛 酉	同貨	曳	120	1,500	15,000
同	同	ドブルイ	汽 艇	曳	75	—	15,000

支	東亞火磨公司	遼東	木ライター	—	7,000	—
同	同	濟東	鐵ライター	—	15,000	—
同	同	西京	木客貨	240	21,000	25,000
同	同	カザケウツチ	鋼	400	—	100,000
同	同	ロシヤ	鐵ライター	—	25,000	—
同	同	ナリム(安東)	同	—	30,000	—
同	同	パフラン	同	—	75,000	—
同	通源森林公司	新原	同	400	80,000	—
同	同	通原	同貨	160	3,600	20,000
同	同	立通	同	180	—	25,000
同	同	通昌	木ライター	—	35,000	—
同	同	通裕	同	—	35,000	—
同	鏡波輪船森林公司	鏡波	鐵	90	17,000	—
同	同	伏波	同客	80	—	25,000
同	同	利光	木ライター	—	30,000	—
同	同	正元	同	—	30,000	—
同	先登輪船公司	光裕	木客	46	4,000	—
同	同	裕華	同	126	2,500	15,000
同	兩濱公司	大平	木客	82	5,000	—
同	德元輪船公司	德元	同	120	4,000	—
同	同	德亨	同	75	5,000	—
同	天利採木公司	天利	鐵	90	—	15,000
同	同	哈埠	木ライター	—	20,000	—
同	同	天定	同	—	30,000	—
同	萬福慶	慶遠	鐵客	225	2,000	20,000
同	同	附屬	同	—	25,000	—
同	同	新城	同	45	8,000	—
同	振興航業公司	龍江	木客	105	6,000	—
同	同	記三	同	105	6,000	—
同	同	芝陽	同	105	6,000	—
同	同	伯和	鐵客	120	3,500	10,000
同	同	普和	木	—	7,000	—
同	同	中洪	木客	240	17,000	30,000

支	方比藩	鎮江	同	240	18,000	22,000
同	福山公司	福安	木客	100	6,000	—
同	福安公司	福安	同	60	3,500	—
同	華泰公司	華泰	同	120	8,000	80,000
同	江防司令部	江安	鐵	100	3,000	—
同	同	仁平	鋼客	400	5,000	80,000
同	同	江通	同	400	—	—
同	同	海城	同	650	12,000	100,000
同	戊通航業股公司	銅山	同	400	8,000	60,000
同	同	杭州	同	200	6,000	35,000
同	同	嘉定	同	400	—	80,000
同	同	陽湖	同	300	4,000	50,000
同	同	遂陽	同	400	6,000	80,000
同	同	武進	鐵	500	—	100,000
同	同	三水	同	450	—	100,000
同	同	香興	同	500	—	100,000
同	同	南翔	鐵客	400	—	75,000
同	同	常州	鐵	300	3,000	63,700
同	同	萊州	同	225	—	40,000
同	同	名山	同	110	3,000	8,000
同	同	紹興	木客	250	25,000	—
同	同	上海	同	240	26,000	—
同	同	大興	同	240	18,000	—
同	同	宜興	同	330	27,000	—
同	同	暨陽	木客	240	15,000	35,000
同	同	蘇州	同	240	18,000	35,000
同	同	富錦	同	180	15,000	10,000
同	同	廣州	同	135	7,000	8,000
同	同	瀋陽	同	150	6,000	12,000
同	同	瓊環	同	210	15,000	—
同	同	文珠	鋼	—	75,000	—
同	同	舍利	同	—	70,000	—
同	同	大明	同	—	75,000	—

支	同	妙音	同	—	60,000	—
同	同	梵音	同	—	27,000	—
同	同	名聞	鐵ライター	—	50,000	—
同	同	日生	同	—	50,000	—
同	同	寶相	同	—	60,000	—
同	同	觀音	同	—	20,000	—
同	同	名光	同	—	30,000	—
同	同	華蓋	同	—	27,000	—
同	同	大光	同	—	35,000	—
同	同	寶華	同	—	35,000	—
同	同	普賢	同	—	15,000	—
同	同	綱明	同	—	20,000	—
同	同	須彌	同	—	25,002	—
同	同	華嚴	同	—	27,000	—
同	同	彌陀	同	—	25,000	—
同	同	韋陀	同	—	6,000	—
同	同	金剛	同	—	11,000	—
同	同	達摩	木ライター	—	30,000	—
同	同	無量	同	—	18,000	—
同	同	如來	鐵ライター	—	80,000	—
同	利春水	鴻泰	鐵曳	200	—	12,000
同	同	順泰	同	120	—	14,000
同	同	祥泰	同	180	—	19,000
同	同	民利	鐵客貨曳	48	1,000	12,000
同	同	瑞太	木客貨	60	2,000	—
同	同	賓州	汽艇	36	1,500	—
同	同	新安	木客貨	80	7,000	—
同	同	同興	同	90	7,500	—
同	黑河商人	ミハイル	鋼客貨曳	100	—	25,000
同	同	ウセルトマイ	鐵曳	206	—	25,000
同	同	ウエストニツク	木客貨	36	2,000	—
同	哈市商人	ウオストーク	鐵客貨曳	120	1,500	20,000
同	同	オロツオンカ	木ライター	—	6,000	—

支	黑河商人	モスクバ	木貨曳	240	20,000	25,000
同	同	ツルゼニツク	木客鐵	30	3,000	—
同	不明	長江	鐵曳	100	—	20,000
同	同	盛江	同	110	—	15,000
同	東支鐵道船舶部	自第一號至第十二號	鋼曳	(各)400	—	(各)80,000
同	同	{自第十八號至第十九號	鋼客貨曳	(各)100	(各)1,500	(各)20,000
同	同	自第四號至第三十八號	鐵ライター	—	(各)30,000	—
同	同	自第四十一號至第四十二號	鋼ライター	—	(各)30,000	—
同	黑龍商船	アトミニクルボシエタ	鋼曳	200	—	25,500
同	同	アムルチツク	同	100	—	15,000
同	同	アフロラ	同ライター	—	23,000	—
同	同	カールガ	鐵同	—	25,000	—
同	同	カムチヤツカ	鋼ライター	—	27,000	—
同	同	ビシヘヤ	鐵同	—	2,000	—
同	同	シルカ	同	—	50,000	—
同	同	ツラ	同	—	25,000	—
同	同	チカゴ	同	—	25,000	—
同	マルクユ商會	エキミチヤン	木貨客	100	8,000	—
同	同	バエツ	鋼曳	300	—	40,000
同	同	バルシ	木ライター	—	—	25,000
同	同	アドミナルネウエルスコイ	鋼曳	800	—	200,000
同	同	セミヨン	同	500	—	125,000
同	同	デジニョク	鐵ライター	—	50,000	—
同	同	チグル	同	—	30,000	—
同	同	ボドルカ	同	—	30,000	—
同	同	ソコゴル	同	—	30,000	—
同	同	ベグモード	同	—	60,000	—
同	同	リヨフ	同	—	50,000	—
同	同	バセリニヤ	同	—	30,000	—
同	同	メドウエン	同	—	50,000	—
同	同	チビス	同	—	30,000	—
同	シユフキン商會	フロベソ	鐵貨曳	150	8,000	15,000
同	同	ジフチナ	鐵ライター	—	25,000	—
同	ウ、ア、ゴスチン	アリヤツカ	同	—	17,000	—

露	セシヨシ	スラウメイ	汽艇	50	—	8,000
同	スレダコフ	オリドイ	木客貨曳	120	6,000	6,000
同	セロイモフ	タリスマン	汽艇	40	—	5,000
同	ゲユドルコフ	ウグレコフ	同	40	—	15,000
同	ミロウエツチ	レフレジ、 エラトル	鐵ライター	—	3,500	(魚類冷蔵)
同	不明	セレンガ	鋼曳	200	—	25,000

而シテ松黒兩江ノ船舶ヲ航行可能區域ニ配船スルトキハ一九一七年迄ハ汽船一隻二十四露里[ライター]一隻二十三露里テ船腹過剩ノ感カアツタカ各船主共ニ相應ノ利益ヲ擧ケタ露國政府ノ經濟制度ノ根本的破壊ニヨリ黒龍江本流方面ハ物資ノ移動ナク船舶業者ハ悲境裡ニ落入ツタ又過激派ノ沒收ヨリ逃レテ安全ナル松花江方面ニ避難シ來タリシ船舶甚タ多ク爲メニ松花江モ亦船腹過多トナリ加フルニ減水ノ爲メ本年ノ如キハ十數年來始メテノ不況ヲ呈スルニ至ツタ即本年松花江(哈爾賓[ラハス]間)ヲ航行シタル船舶ハ汽船九十七隻 [ライター]八十九隻(共ニ延數ニアラス)ノ多キニ達シ之ヲ航行區域六七五露里ニ配船スレハ汽船ライター共ニ一隻七露里ニナル之レテハ到底營業ノ償ハサルハ明カテアル

4 松花江水運ニヨル物貨

最近五箇年松花江水運ニ依リ哈爾賓ヲ出入シタ貨物ノ價額ヲ示セハ下ノ如クテアル(單位海關兩)

年 度	輸移入額	輸移出額	再輸移出額	合 計
大 正 六 年	3,852,483	2,243,478	7,243,710	13,339,671
同 七 年	9,350,898	1,969,017	5,507,233	16,827,148
同 八 年	8,622,756	895,984	5,919,571	15,435,311
同 九 年	13,279,933	663,515	7,069,459	21,012,907
同 十 年	19,372,651	1,752,356	6,485,179	27,610,186

備考 輸移入額ヨリ再輸移出額ノ多キハ鐵道ニ依リ來集シタル貨物再輸移出サルルニ依ル

而シテ其主ナル品名ニ就イテ擧クレハ下ノ如クテアル

A 松花江ニ依リ哈爾賓ニ輸移入サレタル主ナル物貨

品 名	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
大豆	1,124,301	2,880,243	2,268,510	1,624,328	3,720,914
小麥	744,092	1,757,286	1,290,077	4,266,896	1,602,356
雜穀	168,955	231,725	109,318	89,739	301,334
麥粉	15,139	14,153	35,035	24,396	21,486
豆 粕	2,694	11,464	43,248	23,872	9,249
薪 材	1,004,193	877,673	1,651,385	2,003,192	2,303,581
木 材	231,899	799,548	564,056	902,182	2,102,760

B 松花江ニ依リ哈爾賓ヨリ輸移出(再輸移出ヲ含ム)サレタル主ナル支那品

品 名	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
綿 製 品	281,747	316,713	189,298	631,495	722,997
雜 穀	363,229	243,013	244,892	23,191	58,191
麥 粉	194,324	247,203	92,148	37,562	73,336
鷄 卵	8,973,965	2,550,433	999,865	52,000	451,000
靴 (足)	142,462	114,950	80,128	83,606	186,340

C 松花江ニ依リ哈爾賓ヨリ再輸移出サレタル主ナル外國品

品 名	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年	大正十年
綿 製 品	1,987,778	1,839,796	2,571,649	1,584,103	1,088,008
石 油	482,003	289,593	196,125	679,400	411,905
燃 寸	117,500	20,467	75,961	12,309	22,144
砂 糖	42,109	23,224	23,724	2,012	25,153
卷 煙 草	119,777	59,113	82,309	60,344	69,700
麻袋及其他袋類	1,838,022	2,403,161	2,252,849	2,139,989	2,574,791

六 北滿ニ於ケル日本人ノ活動

日本カ大ナル時日ト努力ヲ以テ滿蒙西伯利ノ開發ヲ計リツツアル根本ハ一面先進國トシテ未開地ニ文化ヲ普及セシムルト言フ高遠ナル理想ニ基ツクモノテアルカ他ノ一面ニハ我邦人ノ海外發展ヲ期シ移民ニ依

リテ焦眉ノ急テアル人口問題食料問題ヲ緩和スルニアルハ明カテ或ハ之レカ根本義ヲナスト言フモ過言テハアルマイ

日本ハ其經濟的生存ノ必要上現在テハ滿蒙ニ對シ或程度ノ特權及利權ヲ得テ滿蒙ノ開發ニ資スルト共ニ日本自ラノ經濟的壓迫ヲ輕減セシメテ居ル南滿ニ於テハ滿鐵カ中軸トナツテ日本ノ發展ヲ助長シ今ヤ或程度迄確固タル基礎ヲ有スルニ至ツタカ此ノ南滿ノ既得權ノミヲ保持シテ以テ足レリトスヘキカ南滿ノ開發ハ農業ハ行キツマリノ有様テ今日以上日本人ヲ南滿ニ移住スルニハ工業ノ發達ヲ俟タネハナラス假令將來工業ノ發達ヲ期シ得可シトスルモ今後年々七十萬人増加スル日本ノ過剩人口ヲ如何ニ處分スヘキカ到底南滿ノミテ之ヲ處分スルコトハ不可能テアルサスレハ當然比較的強固タル南滿ヲ地盤トシテ其隣接セル内蒙北滿西伯利ニ進出シナケレハナラス歐洲大戰前北滿西伯利ハ露國ノ勢力ノ下ニアリシ爲メ日本ノ北進ハ阻止サレテ居タカ現在ハ北滿モ西伯利モ(又内蒙古モ)列強ニ開放セラレ世界各國ノ角逐舞臺トナツタノテアル

發展ニハ種々アル即利權ノ獲得國貨ノ販路開拓事業ノ創設等總シテ發展ト云ハルルモノテアル併シ發層ノ程度ヲ數字テ最モ能ク現ハシ得ルモノハ移住民ノ多寡テ即來住者ノ増加ハ直ニ發展トハ速斷サレヌカ發展ノ基礎ト見ル事カ出來ル今試ミニ北滿ノ主ナル地ニ於ケル日本人ノ分布狀態(鮮人ヲ含マス)ヲ示セハ下ノ如クテアル

地	外	人口	地	名	人口
吉林	林	1,079	牡丹江		4
長春	春	8,367	推河		2
農安	安	25	穆稜站		21
哈爾濱	濱	3,759	細鱗河		2
雙城堡	堡	101	小綏芬河		3
陶賴昭	昭	15	綏芬河		72
老燒溝	溝	2	三姓		38
密門	門	69	安達		18

石頭河子	4	齊々哈爾	106
一面坡	90	布哈圖、海拉爾	55
橫道河子	69	滿洲里	74
海林	89	黑河	37
寧古塔	35	計	14,136

(大正十年五月調)

北滿ニ於ケル日本人ノ發展ハ長春ヲ除イテハ主トシテ哈爾濱ニ於ケル日本人ノ消長ヲ意味スルモノテアル明治四十年以來十五箇年間ノ日本人ノ在住數ヲ見ルニ下ノ如クテアル

年次	戶數	人口	年次	戶數	人口
明治四十年	109	629	大正四年	308	1,516
同四十一年	129	590	同五年	434	2,008
同四十二年	139	714	同六年	479	2,287
同四十三年	173	787	同七年	711	2,768
同四十四年	196	936	同八年	848	4,114
大正元年	195	1,086	同九年	935	3,607
同二年	248	1,217	同十年	1,164	3,759
同三年	272	1,457			

即大戰以來日本人ノ數ハ逐年激増ヲ示シ今日テハ約三倍ニ膨脹シタ其原因ハ種々アルカ大體歐洲戰ノ賜テアル戰時中日本ノ獲得シタ利權ハ左程大シタモノハナイカ其主ナルモノハ(一)北滿電氣株式會社ノ設立ニヨル電燈事業(二)海林公司ノ設立ニ依ル森林伐採事業(三)松花江航行權ヲ正式ニ獲得シタノハナイカ日本人ノ資本及監督ノ下ニアル汽船ノ航行等テ之ニ投資サレタ總額約八百萬圓テアル以下事業別ニ北滿ニ於ケル主ナル日本人關係會社工場其他ニ就テ記ス事トスル

1. 製粉業

名稱	所在地	設立年	一日製產能力	商標
滿洲製粉會社 哈爾濱工場	哈爾濱八區	大正八年	7,000布度	孔雀印
同 舊哈爾濱工場	舊哈爾濱	大正元年	8,000布度	象印汽車印

同長春工場	長春	明治三十九年	240,000封度	紅龍、黃龍、藍魚
日華製粉會社	同	不詳	15,000封度	
マルクス製粉(福田組製粉)	インテンスキ	大正元年	1,800布度	三國(日、露、支)ノ三牌(國旗ヲ交叉)

滿洲製粉ハ本店ヲ鐵嶺ニ置キ資本金五七五萬圓ニテ南北滿洲ヲ通シ古キ經驗ト地盤ト有スル關係上他ノ工場ハ大部分依然休業中ナルニモ拘ラス大正九年九月上旬ヨリ運轉ヲ開始シ全能力ニ對スル即七割強一晝夜一、〇〇〇布度ノ製産ヲナシ製品ハ全部南滿ニ輸送シツツアツタカ製品安ト原料高ニ哈爾賓ニ於ケルニ工場ハ本年三月ヨリ一時休止シタ舊哈爾賓工場ハ元三井系統ノ北滿製粉ヲ合併シタモノテアル日華製粉ハ資本金五百萬圓テ日支合辦マルクス製粉ハ露人經營テアツタノヲ大正九年ニ福田組カ買收シテ日露合併事業トシタノテアル此外ニ哈爾賓ニ日清製粉會社ノ出張所カアルカ之レハ原料小麥ノ買付ノミヲ爲シテ居ル

2. 大豆加工業

名稱	所在地	資本金	設立年	製産能力
東華油房	舊哈爾賓	300,000	大正九年三月	一日豆粕四千枚 豆油七百布度
日露油房	安達站	200,000	同九年十月	一日豆粕1,400布度 豆油 250布度
加藤醬油釀造公司	傅家甸	不詳	明治四十二年	一箇月百二十石

日本人ノ油房業經營ハ極メテ最近ノ事テ東華油房ハ敷地二千坪工場建坪八百坪壓搾器一二〇臺ヲ設備シ哈爾賓テノ第二ノ大油房テアルカ竣工以來特産界不振ノ爲メ操業ヲ見合シタカ先般來浦潮向運賃低減セラレ豆粕ノ輸出挽回サレタル結果本年四月頃ヨリ半數六〇臺ノ運轉ヲ開始シタ日露油房ハ日露合辦テ壓搾器四〇臺ヲ有スルカ矢張り操業ヲ短縮シテ居ル加藤醬油釀造公司ハ個人經營テ開業ノ當時ハ他ニ同業者支那人經營ノモノ一箇所アツタノミテ其後日本人經營ノモノ一箇所ハ爾賓ニ出來タカ不引合ノ爲メ閉鎖シ大正五年迄大ナル變化ハナカッタ同年ノ日貨排斥ニ支那醬油ノ需要激增シ支那經營者ノ利益莫大ナリシヨリ俄カニ同業者増加シ現今テハ大小約四十ヲ算スル

3. 林業及製材業

名稱	所在地	資本金	設立年	經營
豐材股份有限公司	長春	5,000,000	大正七年	日支合辦
滿洲木材會社	哈爾賓長春	500,000	大正七年一月	日本人經營
長春木材會社	長春	500,000	同七年七月	同
鴨綠江採木公司出張所	哈爾賓	大洋3,000,000	同八年三月	日支合辦
中東海林公司	海林	3,000,000	同八年三月	同
北滿林業公司	哈市埠頭區	不詳	同九年九月	日本人經營
シエフチエンコ商會	同	同	大正十年	日露合辦
東亞興産會社	長春	500,000	不詳	日本人經營
吉林製材公司	吉林	1,000,000	大正六年四月	日支合辦
華森製材公司	同	2,000,000		同
中東製林公司	橫道河子	5,000,000	大正十年	同
哈爾賓製材會社	傅家甸	100,000	大正十年	日本人經營

滿洲木材會社ハ主トシテ東支鐵道沿線寧古塔附近ニ於テ支那人ニ貸付ヲナシ伐木ヲ行ツタカ財界不況天候不順ニ資金固定シ困難ノ状態テアル鴨綠江採木公司ハ鴨綠江材ノ減少ニ連レ北滿材ノ有望ナルヲ看取シ大正九年三月吉林省同賓縣大黃泥河流域ニ約三萬町歩ノ林場ヲ買收シタ中東海林公司ハ親會社タル日本紙器ノ窮狀ニ伴ヒ益々困憊ニ陥リ今日テハ全休ノ姿ニテ東拓ニテ引受タルトノ噂カアルシエフチエンコ商會ハ露人經營ノ林地ニ共同出資シタモノテ設立日淺ク事業未タ見ルヘキモノハナイ(シエフチエンコ商會ハ最近日露支合辦資本金六百萬圓興安嶺札兔公司ト組織變更ス)

4. 木材工業

名稱	所在地	資本金	設立年	製産高
吉林燐寸會社	吉林、長春	180,000	(吉)大正三年四月 (長)同四年三月	黃燒 3,360小函 軸木 100,000把 製材 6,000尺縮
日清燐寸會社	長春	300,000	明治四十年	黃燐 100小函
吉林製紙公司	吉林	5,000,000	大正九年	一箇年所要原木 約 250,000尺縮
富寧造紙公司	同	5,000,000	不詳	
富士貿易會社	哈爾賓	2,000,000	同八年	

吉林燐寸會社ノ製品ハ軸木及發火良好ニシテ日清社製品及日本輸入

品ニ對シ常ニ高價ニ取引サレテヲル、而シテ燐寸製造販賣ノミナラス
木材ノ賣買ヲモスル日清燐寸會社ハ本店ハ廣島ニ在リ一時危殆ニ類
シタカ大正八年度改革後順調トナツタ吉林製紙公司ハ三井系テアリ
富寧造紙公司ハ大倉系テ日支合辦事業テアル富士貿易會社ハ本店大
阪ニテ當地支店ハ富士製紙會社ノ一手販賣ヲ爲シ一時西伯利方面ニ
洋紙ノ輸出ヲナシタカ動亂以來取引絶エ當今ハ休業同然テアル

5. 其他製造

名稱	所在地	資本金	設立年	業務
東華煙草公司	長春	100,000 ^円	不詳	煙草製造及販賣
東亞煙草會社	哈爾濱	7,000,000	同	同
吉長窯業會社	長春	100,000	同	煉瓦製造
大陸窯業會社	長春	1,000,000	大正八年四月	煉瓦
大陸「コンクリート」工場	哈爾濱	不詳	大正十年四月引繼	コンクリート階段製造
哈爾濱皮革會社	インテンダンスキー	2,000,000	大正九年九月	皮革製造
日本清涼社	哈市埠頭區	20,000	大正十年	清涼飲料製造

東亞煙草會社ハ本年七月ヨリ朝鮮ニ專賣制度施行サレタレハ益々滿
洲進出ニ勉メテ居ル而シテ從來滿洲ニ於ケル煙草ノ販路ハ英米「トラ
スト」品五分東亞煙草四分其他一分ノ割合テアル大陸「コンクリート」工
場ハ大陸窯業會社ノ事業不振ニ因リ其哈爾濱工場ヲ個人ニ賃貸セル
モノテ哈爾濱皮革會社ハ從來日露實業ノ經營セルモノヲ繼承シタモ
ノテアル皮革製品ハ財界ノ影響ヲ蒙リ市場在荷潤澤テ賣行不振テアル
日本清涼社ハ大正九年設立シタ北滿清涼合資會社ノ解散シタノヲ
引繼イタノテアル

6. 農業

名稱	所在地	資本金	設立年	狀況
極東農園班	舊哈爾濱	不詳	大正十年	野菜、栽培、除蟲菊其他ノ藥草耕作地區三萬坪
鈴木農園	哈市埠頭區	同	同	東支鐵道ヨリ十二町歩ヲ借入レ模範農場ヲ經營
東露公司	海林	100,000 ^円	同九年	一千町歩ノ地權ヲ有シ約三百町歩ノ水田試作中
中東產業公司	一面坡	不詳	同八年	水田、試作中成績良好

尙ホ東支線沿線一帶朝鮮人ニ依リテ水田ノ開墾サレツツアルモノ多

數テアル大正十年六月調査ニテ東支沿線ニ居住スル鮮人ノ數ハ六三
九四人其内農業ニ従事スル者ハ五五一人テ其居住地ハ横道河子、海
林、孫家堡、四通嶺子、小石頭河子、磨刀石、八面屯、小綏芬、三岔口ヲ主ナルモ
ノトスル

7. 運輸及倉庫業

名稱	所在地	資本金	設立年	業務
長春運輸會社	長春	500,000 ^円	同	運輸倉庫業
山口運輸會社支店	哈爾濱	1,000,000	大正八年一月	運輸業
滿洲運輸出張所	同	1,000,000	同年九月	同哈爾濱大連間ノ輸送
極東運輸組合	哈市埠頭區	(滿鐵關係)	同年	運輸業
北滿運輸組合	同	(東拓關係)	同	同
吉林倉庫金融會社	吉林、長春	200,000	不詳	一般倉庫業及附帶事業
哈爾濱倉庫會社	哈市埠頭區	500,000	大正五年	同
北滿倉庫會社	同	500,000	大正七年十一月	同

山口運輸及滿洲運輸ハ孰レモ不況ノ爲メ休業同然テアリ極東運輸組
合及北滿運輸組合ハ松花江ノ航行ニ従事シテ居ル、哈爾濱倉庫ハ恐慌
以來保管貨物ノ減少、金融梗塞ニ窮シタカ本年三月初頃ヨリ稍々順境
ニ持チ直シタ北滿倉庫モ略々同様テアル

8. 金融及土地建物信託業

名稱	所在地	資本金	設立年	業務
長春取引所信託會社	長春	500,000 ^円	大正五年三月	特産物、錢鈔取引、仲介
哈爾濱貯金信託會社	哈爾濱	500,000	大正九年五月	管理金ノ取扱、講會、有價證券其他ニ對スル貸付不動産及商品ノ賣買及仲介其他
哈爾濱信託會社	同	500,000	大正七年七月	特産物、貨幣、有價證券ノ取引仲介及之ニ對スル清算受渡シ
北滿興業會社	同	1,000,000	大正八年十二月	土地建物ノ建設賣買、貸借及仲介土地建物ノ擔保貸付
哈爾濱土地建物會社	同	2,000,000	大正九年五月	土地建物ノ經營、倉庫金融其他附帶事業

哈爾濱貯金信託ハ創業日淺キモ小口金融機關トテ重寶視サレ業績比
較的順調ニテ一割以上ノ配當ヲ持續シテ居ル反之哈爾濱信託ハ成績
一向ニ舉ラス前途樂觀ヲ許サヌ土地建物會社ハ好況時代ノ末期ニ高
價ノ土地材料ヲ得テ不況トナリ資金ノ運用不如意ニテ困窮ノ有様テ
アル其ノ他銀行トシテ朝鮮正金並ニ龍口ノ三行アリ何レモ哈爾濱金

融界ノ重鎮テ内外人ニ於ケル信用モ厚ク随ツテ其活動振リモ顯著ナモノカアル

9. 雜業

名稱	所在地	資本金	設立年	業務
北滿電氣會社	哈市埠頭區	1,200,000	大正七年	電力供給
哈爾濱印刷會社	同	500,000	大正七年十月	諸印刷、材料販賣
哈爾濱鐵工廠	同	不詳	大正七年四月	鐵工業

北滿電氣會社ハ元露人經營ノモノヲ買收シタモノテ哈爾濱印刷會社ハ露文印刷ヲ主トセル爲メ東露ノ混亂ニ依リ露文印刷ハ勿論商況不振ノ爲メ邦文ノ註文モ少ク營業著シク不振テアツタカ日本人經營ノ露字新聞發刊サレ其印刷受負ヲナシテ漸ク愁眉ヲ開イタ、哈爾濱鐵工廠モ露人ノ經營テアツタノヲ十二萬圓テ大正七年ニ買收シタノテアル

10. 貿易業者

名稱	所在地	資本金	設立年	業務
三井物產出張所	長春 哈爾濱	100,000,000	明治四十二年	一般輸出入業、建築材料販賣、各種保險代理業
鈴木商店出張所	同	50,000,000	大正五年四月	一般輸出入
日露實業會社支店	哈爾濱	10,000,000	大正七年九月	一般輸出入、露企業投資貿易業ニ對スル金融並ニ保證
日本綿花會社出張所	同	50,000,000	大正五年四月	綿布輸入
山本商店出張所	同	3,000,000	大正八年二月	特產物輸出、綿絲布輸入
協信洋行支店	同	1,000,000	大正七年	一般輸出入
八阪商事會社支店	同	1,000,000	大正八年十月	同
共益社支店	同	1,000,000	大正八年三月	同
福田組	同	1,000,000	大正九年二月	雜貨、輸出入、不動産賣買仲介、製粉業

今後日本人發展ノ條件トシテハ種々アルカ西伯利ノ沈靜東支鐵道ノ復舊、金融機關ノ活動ヲ其重ナルモノトスル、西伯利ノ政情ハ未タ安定ヲ得ヌカ次第ニ落付キヲ見ル可ク東支鐵道モ今日テハ平常ニ歸ツタ金融機關ノ活動トハ主トシテ東拓及正金朝鮮兩銀行ノ活動ニ俟ツノテアルカ東拓ノ投資ハ事業投資ニ係ルモノハ甚タ僅少テ大部分ハ不動産擔保貸付ニテ本末ヲ誤ツテアル有利ナ事業ト査定スレハ之レニ

投資シ以テ利權開發ニ盡スノカ本來ノ使命テアリ生命テアル次ニ正金銀行ハ本來爲替銀行テアルカ朝鮮銀行ハ其發生ノ由來ハ殖民銀行ノ性質ノモノテアルニ拘ラス今日テハ一般普通銀行ト金融ノ點ニテハ何等異同カナイ故ニ殖民的ニ發展セントスル滿洲ニ於テハ開發事業ヲ眼目トシ放資及金融ヲ極度ニナシ得ル殖民銀行ノ發生ヲ熱望スルノテアル

七 北滿ニ於ケル阿片

阿片栽培ノ經過 滿洲名物ハ阿片ト馬賊ト謂ハレ此兩者ハ離ル事ノ出來ヌ關係ヲ有シテ居ル滿洲ニ於ケル阿片ノ主產地ハ東部北滿即吉林省ノ東北地方國境ニ續ク東寧、穆林、寧安ノ三縣テアル其植付高及產額ノ明確ナ數字ハ到底之ヲ知ル事ハ出來ヌカ大體年植付高約五千畝地價格四百萬圓ヲ上下シ此地方ノ主產物タル小麥、木材、大豆ヲ遙ニ凌駕スル有様テ禁制品テ此金額ヲ產スルヲ見テモ如何ニ阿片カ此地方ニ重要ナ關係ヲ持ツテ居ルカカ首肯サルルテアラウ北滿及沿海州地方ニ阿片カ栽培セラレタ最初ハ何年以前テアルカ不明テアルカ約三十年前ニ支那人ニ依ツテ露領ニ栽培セラレタ事ハ明カテアル一九一〇年ニ東支鐵道ノ沿線地方カ開拓セラルルニ連レ露支兩國間ニ内密ニ協訂ヲ結ビ露領内テ阿片ノ栽培ヲシテ支那へ輸出スル事トシ其交換條件トシテ支那ノ領土内テ酒類ヲ釀造シ露領へ輸出スル事トシタ然ルニ利ニ敏捷ナ支那商人ハ邊防ノ監視不充分ナルヲ以テ多量ノ酒類ヲ密輸シテ莫大ノ利益ヲ得タ故ニ露國官憲ハ協訂違反ト自己ノ利益ノ爲メ露領内ニ阿片栽培ヲ無制限ニ許ス様ニナツタ然ルニ其價格高價テ收益ノ大ナルヲ目撃シタ支那官吏ハ垂涎禁スル能ハスシテ收賄シテ之レカ栽培ヲ自國領ニ暗々裡ニ許可シタ爲メ遽ニ支那領ニ阿片ノ栽培ハ流行シ年ト共ニ隆盛ヲ來タシタ

阿片栽培激增ノ原因 北滿洲阿片栽培激增ノ原因ハ其土地ノ地味カ阿片栽培ニ適當シ居ルノミナラス國境ニ位シ且山岳重疊シ居ル爲メ官憲ノ目ヲ逃レルニ好都合テ尙又吉林山中ニ根據ヲ有スル馬賊カ是等

阿片栽培者ヲ保護シ其報酬ニヨリ生計ヲ計ツテアル事カ其一大原因
 テアル即阿片栽培者ハ始メ官憲ノ許可ヲ得テ其保護ノ下ニ栽培ニ従
 事シタカ其威力乏シク保護徹底シナイノミナラス官吏ハ私腹ヲ肥ス
 事ニ急テ貪慾飽ク事ヲ知ラサル爲メ斯クノ如キ官憲ノ保護ヲ受クヨ
 リ馬賊ノ保護ニ依ル方栽培ニ安全有利ナリトシ馬賊ノ保護ノ下ニ栽
 培ヲ擴張シタ茲ニ於テ官吏ハ阿片ニ依ル收入意ノ如クナラサル爲メ
 國禁ヲ楯トシテ一面官憲ノ威力ヲ示シ一面自己收入ノ増進ヲ計ル手
 段トシテ取締リヲ嚴ニシタカ元來私慾ノ爲メニ取締リヲナスカ如キ有
 様テ禁令ハ一ノ空文ニ過キス阿片ノ産額ハ年々増加スルト共ニ馬賊
 モ亦漸次其數ヲ増シ益々官憲ノ威力ヲ壓倒シ官憲カ如何ニ栽培禁止
 馬賊剿討ニ東奔西走スルモ其效ナク馬賊養成資源タルノ感アル阿片
 栽培ハ年毎ニ擴張セラレツツアルハ阿片栽培地ニ好適地ナルヲ證明
 シテ尙餘リカアル

阿片耕作地及産額 阿片栽培ハ國境及鐵道沿線一帶到ル處好適テアル
 カ一般ニ繩張りトモ稱スヘキ不文律カアル固ヨリ所有權ノ確定シテ
 ヲラヌ地方ナレハ最初著手シタモノカ比較的強イ權力ヲ有シテ居ル
 奥地ノ肥沃地ハ馬賊ノ栽培地テ中間地帯ハ普通ノ栽培者沿線部落ニ
 近キ土地ハ官兵或ハ官兵ト妥協セル普通人ノ耕地テアル而シテ一般
 栽培者ノ最モ苦痛トスル處ハ馬賊ノ巢窟ニ近キ地點ハ馬賊ニ利得ノ
 一部ヲ提供シ沿線地帯ハ官兵ニ二分ナリ三分ヲ贈賄セネハナラヌ斯
 ク阿片耕作地ハ山谿森林等ノ間ニ點在シテ正確ナ數ハ得ラレナイカ
 大正九年ノ大體ノ見積表ヲ掲クレハ下ノ如クテアル

地方別	植付額 畝	收穫額 斤	市場單價 円	價格 千円
寧安縣下	1,700	17,000	75	1,275
東甯縣下	1,500	15,000	75	1,125
穆林縣下	1,000	10,000	75	750
附近各縣	800	8,000	75	600
計	5,000	50,000	75	3,750

備考 一响地ハ我六段七畝

即寧安縣東甯縣カ最モ多ク前者ハ沙蘭站地方殊ニ栽培多ク後者ハ東甯
 (三岔口)附近、[ボクラニータナヤ]方面テアル大正九年ハ五萬斤ノ巨額
 ナル産出カアツタカ大正十年ハ旱魃ニ依ル不作ノ爲メ前年ノ半數ニ
 過キスト言ハレテ居ル

阿片ノ製法 通常阿片栽培ト稱セラレルモ實ハ罌粟ノ栽培テ花ニ紅白
 ノ二種アルカ阿片採取目的ノモノハ白ノ方テアル陰曆四月播種シ雜
 草ノ艾除ヲナス事兩三回六月初旬開花後十二三日ニシテ實ヲ結フ其
 實ヨリ出ツル白汁ハ即阿片ノ原料テアル其製法ハ實ノ周圍ニ沿ヒ半
 面ツツ小刀ニテ外皮ヲ傷付ケ其刀傷ヨリ出ツル白汁ヲ篋ヲ以テ手桶
 ニ掬ヒ取り太陽ニ晒シナカラ搔キ混セ乾固スルヲ待チテ紙ニテ之ヲ
 包ミ豆油ヲ塗布スル天日テ乾カス方カ色モ紅ク最上テアルカ鍋中ニ
 テ煮ル方カ多ク行ハル斯クシテ全ク乾固シタモノハ即當地方ニ賣買
 セラレル阿片テ黒褐色餅狀ノモノテアル

阿片栽培ノ收益 阿片栽培者ハ先ツ場所ニヨリ各地方ニ割據スル馬賊
 軍隊又ハ炮手ト稱スル馬賊ト大差ノナイ地方ノ治安ニ任スル爲メニ
 編成サレタ特種ノ權力者ニ對シ植付カラ收穫迄ノ保護ト之ニ對スル
 報酬ヲ協定スル大低一組(一把刀ト言ヒ二人)二十兩乃至三十兩ヲ提供
 スル一町歩ノ收穫ハ十五斤乃至二十斤ニシテ價格ハ品質ニ依リ上下
 カアル當地ノ相場ハ一斤二十五元乃至三十元ナレハ一町歩ニ付十五
 斤ノ收穫ヲ得タトスレハ三百七十五元乃至四百五十元ヲ收得シ最上
 作ノ收穫二十五斤トスレハ六百二十五元乃至七百五十元ノ收入ヲ得
 ル事トナル此地方ハ未開墾地ニシテ積年ノ天然肥料ヲ含ムヲ以テ耕
 作スルニ肥料ヲ要セス唯從業者(一町歩ニ付六人)ノ費用諸税金(官憲默
 許稅馬賊ヘノ保護稅借地稅地方稅等)及阿片採取者ヘノ報酬等ヲ要ス
 ルノテアル今一町歩ニ對スル純益ヲ計算スレハ下ノ如クテアル

	小作ノ場合	最上作ノ場合
收穫	十五斤	二十五斤
諸稅	四斤	四斤
採取者ノ報酬	三斤	六斤
差引殘額	八斤	十五斤

地元價格(一斤二十元トシテ)	二〇〇元	三七五元
從業者六人ノ費用	九〇元	九〇元
純益	一一〇元	二八五元

栽培者ハ初墾地開拓ニハ可ナリノ苦心ト努力トヲ要スルカ二年度ヨリハ保護者トノ連絡モ容易テアリ他ニ土地ノ賣渡ト云フ事モ可能ナル栽培保護者ハ阿片ノ繁茂期間中ハ勢力範圍ノ維持擴張ニ懸命ナル

阿片期ノ盛況 栽培採取ニ従事スル者ハ主トシテ東支鐵道ニ依リ來ル山東地方ノ苦力ニシテ其數詳カナラサルモ約一萬餘人ニシテ之ニ次タハ浦潮ヲ經由シテ入り込ム鮮人約一千餘人テアル阿片期ニ入ルト都市村落ハ著シキ變化ヲ見一面坡海林穆林寧古塔テハ春期ニハ下級勞働者ノ多數ハ居ヲ閉テ一家ヲ擧ケテ植付ニ出カケル爲メ一時人口カ激減スル反對ニ「ボクラーニチナヤ」東京城沙蘭站三岔口等ノ栽培地接近地方ハ採取者當込ミノ商人入り込ミ人口一時ニ激増シ芝居飲食店雜貨屋等一般ニ活氣ヲ呈スル事恰モ我國ノ漁期ニ北海道ニ各地カラ出稼者カ集リ其レニ附隨シテ各種商買ノ繁昌スルト同一テアル

阿片ノ密輸出 北滿洲ニテ收穫サレタ阿片ノ大部ハ「ボクラーニチナヤ」及小綏芬河ニ其一部ハ「ニコリスク」及東支東部線各驛ニ搬出セララルノテアル即阿片年産額約五萬斤トシテ其中ノ三分ノ一ハ地方テ消費サレルモノトシ残り三分ノ二凡ソ三萬五千斤ト云フ大量ノ阿片ハ浦潮吉林哈爾濱長春等ヲ經テ奉天北京大連山東省地方上海等ニ密輸出サルルノテアル山地(栽培地)ヨリ沿線ニ搬出スルニモ各所ニ馬賊ノ監視哨配置セララルヲ以テ此等監視哨ニ若干ノ馬賊地帯ヨリノ輸出稅ヲ支拂ヒ其保護ニ依リ搬出スルノテアルカ鐵道ニ依リ各地方ニ輸出スル事ハ官憲ノ監視頗ル嚴重トナリ密輸出者ハ總テノ方法ヲ盡シテ搬出ニ腐心スル靴靴ノ二重底ハ最早其方法古ク時計ニ仕込ミ大工道具ニ仕掛ケヲシ單念ニ衣服ノ綿ノ間ニ縫込ミ甚タシキハ西瓜ニ入レ食糧品ニ混入スル然シ是等ハ主ニ歸國者カズル小仕掛ニ過キシテ大仕掛ノモノハ軍人驛員等ト聯絡シテ汽關車ノ石炭ヤ薪材中ニ隱シ

三萬斤ノ阿片カ地方ニ搬出サレル間ニハ幾多ノ苦心ト悲喜劇カ實現サルル

阿片ト官憲馬賊 支那官憲ノ阿片取締ハ中々嚴重ヲ極メテ解氷期ニ於テハ各所ニ督軍道尹訂匪司令ヤ知事ノ署名テ

- 一、阿片煙ノ密培ハ匪賊ヲ増ス犯スモノハ賊ヲ以テ律スル
- 二、阿片煙百兩以上ヲ賣買セル者ハ死罪トス
- 三、阿片ヲ吸フモノハ百元以上ノ罰金ヲ課ス

等ノ意味ノ告示ヲ出シ年ニ二三回ハ名義上沿線附近ノ山々ノ阿片狩カ行ハレルカ多クハ巡警ヤ砲手カ義務的ニヤルカ軍隊カ金儲ケ目的ノ討伐ト稱スル行軍ニ過キナイ是等官公吏カ數箇月多キハ十數箇月ニモ沙ル給料不渡リモ拘ラス依然トシテ窮スルカ如キ事ナク體面ヲ保持シ尙餘裕アルハ何レモ阿片ノ餘澤ヲ蒙ル爲メテアル故ニ阿片作柄ノ如何ハ直チニ彼等一般ニ影響ヲ及ホシ栽培搬出吸煙賣買等ノ間ニハ常ニ何物カヲ得ントスル目カ光ツテ居ル殊ニ各街道テハ兵士巡警等ハ鵜ノ目鷹ノ目テ阿片運搬ヲ調査スル而シテ之レカ禁止取締ハ警察官ノ任務ナルヲ以テ其責ハ軍人ニ及ハス獨リ警察官之ヲ負フフミテ軍人ノ行爲ハ如何ニ支那トハ云ヘ亞然タルヲ得ス一營長ハ數年ナラスシテ數十萬ノ富ヲ得團長昇進運動ニ阿片十六貫ヲ提供シタトノ話モアル又「ボクラーニチナヤ」ノ商會ハ阿片ヲ主ナル取引品トシテ居ル關係上軍警ニ贈賄シテ其援助ニ依リ阿片ノ賣買ト同時ニ栽培者ノ保護ヲナシ以テ同會役員等ハ巨額ノ利ヲ占メテ居ル之レヲ知レル馬賊ハ年々莫大ノ金品ヲ同會ニ向ケ強要シツツアル現狀テアル

阿片ノ栽培カ止マヌ限リ馬賊ノ跡ハ絶タヌカ場合ニ依ツテハ馬賊軍隊砲手巡警等ノ間ニ一栽培地ニ關シテ妥協カ成立スル事カアル此際ニハ二重三重ニ保護稅提出ヲ餘義ナクセラレ唯勞スルノミテ缺損トナル事カアル乍然概シテ馬賊ハ深山地帯砲手ハ村落附近ノ密培者ヲ相手トシ軍隊ハ時々ノ討伐ニ依ツテ利ヲ得巡警ハ都市街道ニ於テ運搬賣買違反者ヲ目的トスル

八 浦潮港]ノ現況

千九百四五年ノ日露戦争ニテ露西亞ハ南滿ニ於ケル勢力ヲ失ヒ極東ニ於ケル勢力ハ之ヲ浦潮ニ集中スルノ止ムナキニ至ツタノト又一方烏蘇里鐵道開通以來著シク浦潮ノ繁榮ヲ促進シ來タ爲メ港灣ハ擴張サレ海陸ノ設備ハ次第ニ完備シテ來タ而シテ這般ノ歐洲戰亂ニ歐露諸港ハ貿易停止シタル結果浦潮ハ一躍シテ露西亞最重要ノ商港トナツタ

現今ノ浦潮港ニ於ケル埠頭ハ管理者及所在地別ニ依リテ次ノ十區ニ分ケラル即(一)税關埠頭(商業埠頭トモ言フ) (二)義勇艦隊埠頭(三)東支鐵道商業部埠頭(附烏蘇里鐵道港) (四)十字海岸(五)官有海岸(六)市有海岸(七)「チュルキン」半島岸(八)黑龍灣岸帆船港(九)同上一番川埠頭(十)東「ボスフォル」水道「ウスリー」灣テアル

(一) 税關埠頭

税關ノ管理スル所テ商港ノ中央ニ位シ且市街ニ近ク陸上トノ交通至便テアル岸壁ノ延長二二〇「サーゼン」水深ハ東部ヨリ二十六呎二十七呎二十九呎西端三十呎テ四五千噸級ノ船舶四隻ヲ同時ニ繫留スル事ヲ得主トシテ外國航路定期船ノ使用ニ宛テラレテ居ル倉庫ハ六棟アリテ二階建煉瓦造ノ坪數一、〇六四平方「サーゼン」倉庫ヲ中央ニシテ北方ニ四棟南方ニ一棟ノ「トタン」張りノモノアリ總坪數ハ二、九八二平方「サーゼン」テアル煉瓦造ノ倉庫ハ素ト四箇ノ電氣起重機二箇ノ人力起重機及二箇ノ回轉電氣起重機カアツタカ今ハ何レモ破損シテ使用ニ堪エス貨物ノ運搬ハ主トシテ人肩ニヨツテ居ル野積場ハ最南端及各倉庫内ノ空地約二四、〇〇〇平方「サーゼン」アル

(二) 義勇艦隊埠頭

税關埠頭ノ南ニ隣接シ水線ノ延長一五〇「サーゼン」水深二十九呎テアル此岸壁ノ一部ニハ更ニ幅約四間ノ浮棧橋カアル義勇艦隊沿岸航路及上海敦賀間定期船ノ繫留場テ繫船二隻以上ニ及フトキハ第三船ハ第一船ノ外側ニ第四船ニ第二船ノ外側ニ連繼シテ繫留スル倉庫ハ其數合計十五棟一、七五八平方「サーゼン」テ附近ニ散在スル

(三) 官有海岸

義勇艦隊埠頭ノ南ニ連リ南方「エゲルセリド」埠頭トノ中間ニ位置シ延長三〇三「サーゼン」テ諸官省及要塞部ノ管轄ニ屬ス

(四) 東支鐵道「エゲルセリド」埠頭

「エゲルセリド」岬ヨリ官有海岸ニ至ル間テ東支鐵道ニ屬シ滿洲西比利産ノ輸出大豆豆粕木材及輸入鹽茶砂糖等ノ積卸ヲナス其延長約五八〇「サーゼン」テ其間ニ五〇「サーゼン」ノ「コンクリート」岸壁二箇長サ稍小ナル木製棧橋及船橋六箇合計八箇ノ繫船場ヲ有シ水深ハ二十三呎乃至三十呎テアル倉庫ハ合計四四棟一五、四五一平方「サーゼン」野積場ハ二箇所テ二三、〇〇〇平方「サーゼン」テアル一九一五年黑龍灣岸ニ一小港ヲ築造シテ此處ニ鐵道ヲ通シ倉庫ヲ設ケ烏蘇里鐵道灣又ハ鐵道灣ト言ヒ之モ東支鐵道ノ管理テ主トシテ輸入茶及一部分輸出大豆ヲ取扱フカ冬季ハ結氷スル上ニ灣内未タ浚渫不充分テ水深ハ淺ク港灣トシテ使用サレナイ

(五) 十字海岸

歐洲大戰ノ勃發ニ會ツテ急イテ築造セラレタモノテ背後ニ十字山カアリ地域狹ク不便テ目下ハ日本軍ノ使用ニ供セラレテ居ル其延長六〇〇「サーゼン」以上テ八箇ノ繫船壁カアリ水深ハ二十七呎ヨリ三十呎テアル

(六) 市有海岸

税關埠頭ニ北隣シ金角灣ニ沿フテ東ニ折レアドミラル埠頭ニ至ル迄ノ水陸一帯延長三〇二「サーゼン」ト「アドミラル」埠頭ヨリ海軍省用地境界ニ至ル延長三百八十「サーゼン」ノ水線ヨリ十七「サーゼン」間ノ陸岸地ヨリナル此間稍々東ニ當ツテ基部ノ幅百「サーゼン」長サ六十二「サーゼン」先頭ノ幅六十「サーゼン」水深二十八呎乃至三十呎ノ埠頭ヲ作り之ニ鐵道ヲ延キ倉庫二棟ヲ建ツ内一棟ハ大阪商船代理店ノ所有テ他ノ一棟ハ米國基督教青年會ノ租借スル處テアル

(七) 「チュルキン」半島岸

日露戦争後浦潮ノ商業ハ急激ニ發展シ到底從來ノ如キ設備ニテハ滿

足出來ス事トナリ、チユルキン半島岸ノ築造カ行ハレル事トナツタノ
テアルカ目下ハ秩序混亂セルト且財源枯渴物資缺乏ノ爲メ工事ノ進
捗甚タ緩漫ニシテ果シテ何レノ日ニ竣功ヲ見ルカ全ク不明テアル、此
ノ延長ハ一、一三〇[サーゼン]テアル

(八) 黒龍灣岸帆船碇泊港

本港ハ黒龍灣岸ノ市場地先キニ設ケラレ冬季ハ凍結シテ用ヲナサヌ
カ春季以後ハ近海ヨリ魚菜其他土産雜品ヲ積ンタ少型帆船輻輳シテ
般賑ヲ極メテアル

(九) 黒龍灣岸一番川埠頭

黒龍江岸一番川口ノ長サ八十[サーゼン]ヲ劃シテ其内ニ東亞石油會社
ノ木造棧橋及石油[タンク] (總容積七十四萬四千布度) 及石油罐詰工場
カアル水深ハ不明テアルカ此邊一帶遠淺テ千噸ノ汽船ヲ繫留スルハ
困難ノ様テアル

(十) 東[ボスフォル]水道[ウスリー]灣

長サ二十[サーゼン]幅六[サーゼン]水深二十呎ヲ有スル鐵棧橋ヲ設ケ幅
四[サーゼン]ノ鐵橋ヲ以テ陸地ト聯絡シ山東及朝鮮方面ヨリ輸入スル
生牛ノ陸揚場トスルノ計畫テアツタカ今日テハ中止ノ姿トナツテヲ

尙此外商港局ハ將來本灣内ニ船舶給水用ノ一大貯水地ヲ造リ且給水
棧橋ヲ設ケル案ヲ立テ多少工事ヲ始メタ筈テアルカ最近時局ノ影響
ニヨリ中絶シタ事ト思ハル

次ニ浦潮港ヲ中心トスル各航路ヲ掲クルニ先キ立テ浦潮港ヨリ各地
ニ至ル距離ヲ示セハ次ノ如シ

自浦潮 至	敦 賀	480	自浦潮 至	小 樽	422
至	新 潟	450	至	釜 山	684
至	門 司	590	至	元 山	330
至	函 館	440	至	上 海	1,120
至アレキサン ドロフスク			至ニコラエフスク		950

(一) 外國定期航路

(1) 浦潮敦賀線 大阪商船及義勇艦隊汽船各一隻ニテ每週二回往復
商船ハ四十時間、義勇船ハ三十六時間ヲ要ス、大正八年十一月ヨリ神戸
東和汽船モ一箇月三回ノ定期航路ヲ開始シタ

(2) 浦潮長崎線 一週一回義勇艦隊汽船カ航行スル

(3) 小樽浦潮線 大阪商船ノ經營ニシテ配船二隻年二十六回ノ航海
ヲナス小樽ヨリ浦潮へ直航スルモノト必要ニ應シ函館、青森、新潟、伏木
七尾ノ諸港ニ寄港スルモノトカアル

(4) 東鮮經由神戸、長崎線 本航路ハ從來日本郵船會社ノ獨占テ一箇
年十六回(一航約三週間)ノ定期航路ヲ行ツテ居タカ大正七年ヨリ朝鮮
郵船會社ハ新ニ長崎、釜山、元山、城津、清津、浦潮間及下ノ關、元山、城津、清津
浦潮間ノ二線ヲ開始シ千二百噸級ノ汽船二隻ヲ配シ每船三週間ヲ以
テ一航海トシテアル、尙又義勇艦隊モ浦潮、ボシエツト、清津、城津、元山線
ヲ開始シ二隻ノ汽船ヲ以テ每週二回浦潮ヲ發スル爲メ此方面ノ交通
ハ著シク頻繁トナツタ

(5) 大阪浦潮線 大正八年三月ヨリ東和汽船ノ新設シタモノテ一隻
毎月二回往復途中神戸門司ニ寄港スル

(6) 浦潮北支那線 浦潮、青島、芝罘、營口、秦皇島航路ハ元ト義勇艦隊ニ
屬シテ半不定期テアツタカ露國內亂ノ爲メ自然廢航トナツタ、大連汽
船會社モ大正八年四月ヨリ兩三回就航シタカ中絶シテ了ツタ

(7) 浦潮米國線 神戸、橫濱ヲ經テ[バンクーバー]ニ至ルモノテ義勇艦
隊ニ屬シ大正三年夏ヨリ開始シタカ僅、一二回ニテ中止シ後大正五年
ニ再ヒ試ミタカ都合ニヨリ廢止シタ

(8) 其他義勇艦隊ハ 浦鹽ヲ基點トシテ門司、橫濱、漢口及英國ニ半定
期若クハ毎年定例ノ航海ヲナス

(二) 内國航路

(1) 大沿岸航路 黒海ノ[オデッサ]港ヨリ地中海及東洋ノ諸港ヲ經テ
浦潮ニ至ル全長九八五〇哩ノ大航路ニテ東方線ト稱シ義勇艦隊ノ尤
モ力ヲ盡ス所テ九隻ノ汽船ヲ用ヒ年十八回ノ定期航海ヲナシ政府ハ
本航路ニ對シテ年額六十萬留ノ補助ヲシテ居タノテアルカ大戰中ハ

休止スルノ已ムナキニ至リ休戦後大正八年一月以降再ヒ開始シタカ
「オデツサ」ハ過激派ニ占領セラレ船ハ所在不明トナリ政府ノ補助モナ
クナリ自然中止トナツタ

(2) 小沿岸航路 就航船ハ何レモ義勇艦隊ニ屬シ不定期テアツタカ
經濟會議特別委員會ハ沿海州住民ニ對シテ物資ヲ供給スル爲メ下記
七航路ヲ指定シタ

A. 浦潮「ホシエツト」線	一隻	一週二回
B. 浦潮「スラウヤン」カ線	同	一週一回
C. 浦潮「カンガウス」線	同	一週一回
D. 浦潮「ナホード」カ線	同	二週一回
F. 浦潮「チユチユ」線	同	二週一回
E. 浦潮「アロソセウイチャ」線	同	三週一回
G. 浦潮「アレキサンドロフスク」線	同	三週一回

其他浦潮ニ「ゴラエフスク」線ヲ開設セシト傳ヘラレタカ義勇艦隊ノ所
屬船大イニ減少セル爲メ配船上多大ノ不便ヲ感シ特別委員會ハ六萬
五千圓ノ補助費ヲ可決シ運賃ヲ低減シテ旅客貨物ノ吸收ヲ慫慂シタ
カ果シテ充分ノ效果アリヤ否ヤハ疑問テアル

終リニ浦潮港貿易狀況ヲ概説スルニ浦潮税關報告ニ依レハ大正九年
總貿易數量ハ一、二、七、四、四、三、五、七布度テアツテ内輸入八、五、二、三、四、九一
布度輸出四、二、二、〇、八、六、六布度テアル大正八年ト比較スレハ輸入一、三、
九、五、三、六布度輸出三、五、〇、二、〇、六、四布度減少シタ

輸入品ノ主ナルモノハ茶、食鹽、石炭、石油、野菜及果物、米、鐵及鋼製品、機械
器具等テ茶ハ專ラ支那漢口ヨリ輸入サレ食鹽ハ支那青島及營口、日本
ヨリ石炭ハ全部日本九州炭及北海炭ヲ石油ハ英、米、日ヨリ米、野菜及果
物ハ日本、朝鮮及支那ヨリ鐵及鋼製品、機械器具ハ戰前ハ獨逸ヨリ大部
分ノ輸入アツタカ今日テハ米國カ之ニ代ツタ

輸出品ノ主ナルモノハ北滿産ノ大豆及穀類、豆粕、木材等テ常ニ輸出額
ノ八割以上ヲ占メテアル其仕向地ハ日本カ過半數ヲ占メ支那、米國、英
吉利之レニ次ク

最近五箇年間ノ浦潮港貿易額ヲ國別ニ掲クレハ下ノ如クテアル

最近五箇年間浦潮港輸入數量

國別	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年
日本	15,687,270	8,237,441	2,594,875	5,428,581	5,700,837
英國	2,290,966	2,606,919	67,625	263,415	236,022
米國	10,496,906	4,870,684	330,128	1,499,938	630,749
支那	2,531,215	970,914	1,128,221	1,221,141	1,694,642
佛國	136,141	103,951	95,212	135,708	16,537
朝鮮	—	—	—	32,409	50,481
瑞典	—	—	—	60,335	70,415
瑞西	—	—	—	2,145	—
其他	1,377,592	342,460	40,516	22,085	123,808
計	32,520,090	17,132,369	4,256,577	8,663,027	8,523,491
價格	140,936,905	446,924,051	238,913,974	1,046,473,000	833,775,535 (西伯利札) 52,532,019 (金留)

備考 一九二〇年度總價額ハ前半期(表中右)ハ西伯利紙幣後半期(表中左)ヨリ金貨建ト

最近五箇年間浦潮港國別輸出數量 (單位布度)

國別	大正五年	大正六年	大正七年	大正八年	大正九年
日本	—	2,607,177	5,335,963	6,545,050	2,040,468
英國	—	—	—	140,702	—
米國	—	793,153	224,827	400,188	786,270
支那	—	230,053	150,131	492,838	349,984
朝鮮	—	51,737	47,000	144,152	—
波蘭	—	—	—	—	13,225
トクエスト	—	—	—	—	870,548
其他	—	62,792	—	—	223,371
計	4,804,745	3,744,912	5,754,921	7,722,930	4,220,866
價額	14,570,720	17,627,787	24,029,345	624,598,750	2,266,854,542 (西伯利札) 10,512,292 (留金)

備考 一九二〇年度總價額ハ前半期(表中右)ハ西伯利紙幣後半期(表中左)ヨリ金貨建

トス一九一六年度輸出品ニ關スル國別數量不明

次ニ浦潮港出入船舶ヲ見ルニ日本船カ常ニ首位ヲ占メ露西亞船ハ第二位ナル最近三箇年ノ出入船舶ノ隻數及噸數ヲ示セハ下ノ如シテアル

國籍別	大正七年		大正八年		大正九年	
	隻數	噸數	隻數	噸數	隻數	噸數
露西亞船	348	387,331	374	406,146	131	136,382
日本船	480	361,548	708	610,313	473	460,884
支那船	4	3,922	13	11,587	33	35,127
英吉利船	2	5,608	48	150,460	36	161,354
北米合衆國船	5	13,863	19	68,944	53	194,515
丁抹船	—	—	7	31,977	5	24,153
瑞典船	—	—	2	4,962	—	—
波蘭船	—	—	—	—	4	1,728
葡萄牙船	—	—	—	—	2	11,708
佛蘭西船	—	—	—	—	4	17,528
チエツク船	—	—	—	—	2	7,120
計	839	772,272	1,171	1,284,389	743	1,050,499

大正十一年十月三十日發行
大正十一年十月二十五日印刷

編輯人

社長室調查課

南滿洲鐵道株式會社

印刷人

安井源吉

印刷所

株式會社 滿洲日日新聞社

大連市東公園町十七號地

大連市東公園町十七號地

